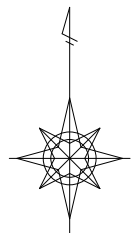
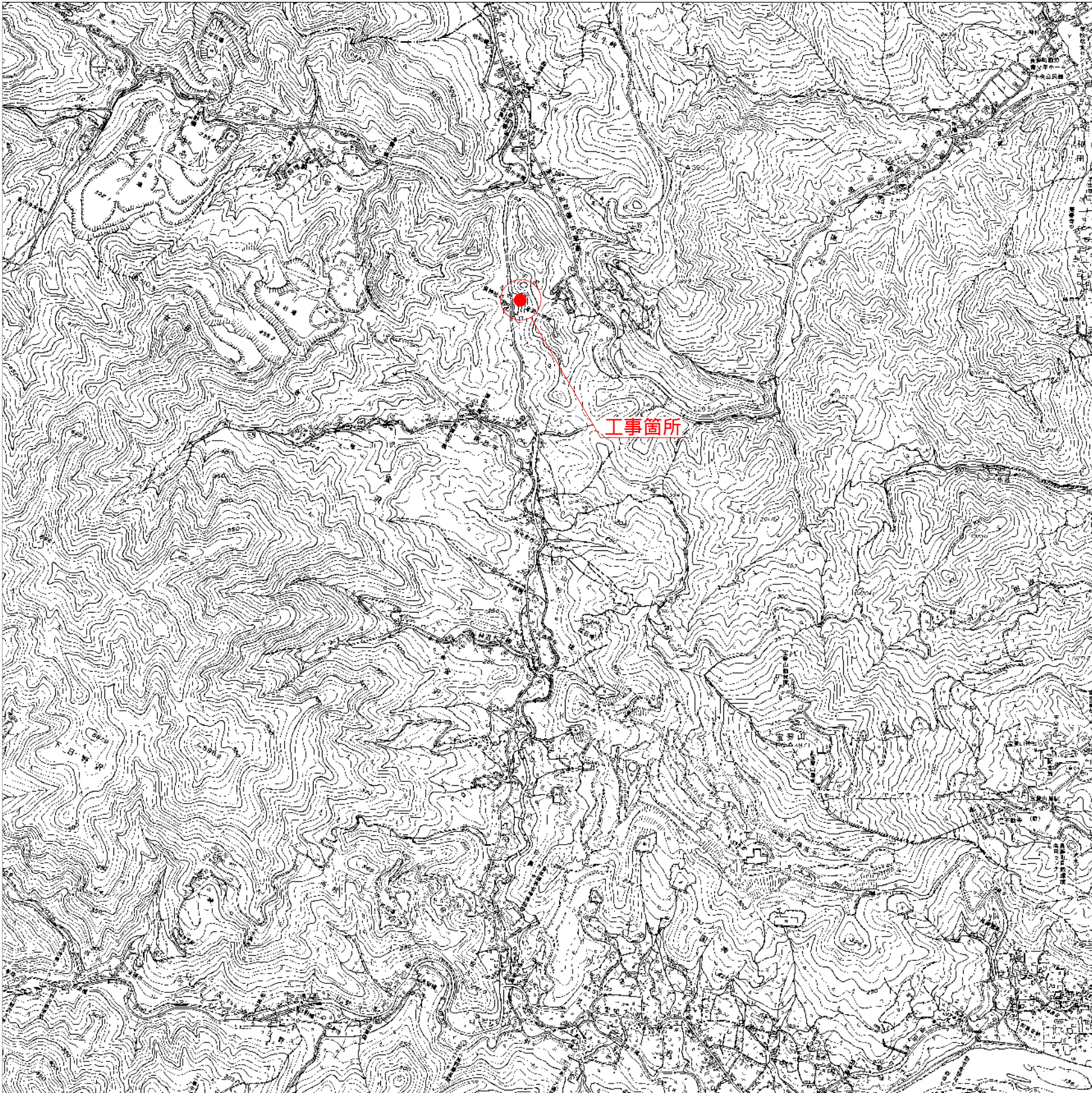


新金沢配水池築造工事(再1) 図面目録

図番	図 面 名 称	縮 尺	図番	図 面 名 称	縮 尺	図番	図 面 名 称	縮 尺
1	位置図	1/10, 000	31	管理棟 建築工事特記仕様(1)	Free	61	次亜注入設備フローシート	Free
2	配水池 一般構造図	1/20、1/10	32	管理棟 建築工事特記仕様(2)	Free	62	薬注設備配管図	1/30
3	配水池 配管詳細図(1)	1/20、1/10	33	管理棟 建築工事特記仕様(3)	Free	63	次亜注入設備制御盤詳細図	1/10
4	配水池 配管詳細図(2)	1/20、1/10	34	管理棟 建築工事特記仕様(4)	Free	64	管理棟電灯コンセント図	1/30
5	配水池 配管詳細図(3)	1/20	35	コマ基礎施工仕様	Free	※ 表示はA1版図面の縮尺である		
6	配水池 集水ピット詳細図	1/20、1/10、1/5	36	場内配置・整備図・縦横断図	1/200			
7	配水池 受台詳細図	1/40、1/10、1/5	37	場内整備図(撤去)	1/100、1/10			
8	配水池 底板詳細図	1/40、1/10、1/2	38	場内舗装求積図	1/10、Free			
9	配水池 歩廊詳細図	1/30、1/20、1/5	39	ネットフェンス詳細図	1/20			
10	配水池 手摺・ひさし詳細図	1/40、1/20、1/5	40	門柱・門扉詳細図	1/20、1/5			
11	配水池 付属品詳細図(1)	1/20、1/10、1/5	41	擁壁詳細図	1/100、1/20			
12	配水池 付属品詳細図(2)	1/20、1/10、1/5	42	排水詳細図、側溝詳細図	1/50、1/10			
13	配水池 内部補強立面図	1/40	43	集水桝詳細図	1/20			
14	配水池 基礎構造図(1)	1/40	44	Nb. 1集水桝配筋図	1/25			
15	配水池 基礎構造図(2)	1/40	45	Nb. 2集水桝配筋図	1/25			
16	配水池 基礎配筋図	1/40	46	全体配管平面図	1/200			
17	配水池 コマ基礎図	1/60	47	国神第2増圧ポンプ場配管図	1/500、1/200、1/100			
18	管理棟 配置図・付近見取り図	1/250	48	配管詳細図	Free			
19	管理棟 平面図	1/200、1/100、1/30	49	給水詳細図	1/20、Free			
20	管理棟 展開図	1/50	50	土工標準図	1/20			
21	管理棟 矩形図	1/30、1/20	51	場内電気配置平面図	1/100			
22	管理棟 基礎図	1/50、1/30	52	計装フローシート	Free			
23	管理棟 梁伏図・柱、梁、壁リスト、スラブ配筋詳細図	1/50、1/30	53	管理棟配置図	1/30			
24	管理棟 軸組図、ラーメン配筋詳細図	1/50、1/30	54	ポンプ室配管図	1/30			
25	管理棟 仕上げ表・建具表、天井伏図	1/100、1/50	55	場内配線図	1/60、1/30、1/20、Free			
26	管理棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	Free	56	管理棟配線図	1/30			
27	管理棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	Free	57	単線結線図・計装盤外形図	1/15、Free			
28	管理棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	Free	58	配管系統図	Free			
29	管理棟 構造設計特記仕様(1)	Free	59	非常用発電機設備図	1/30			
30	管理棟 構造設計特記仕様(2)	Free	60	給気換気扇盤詳細図	1/10			



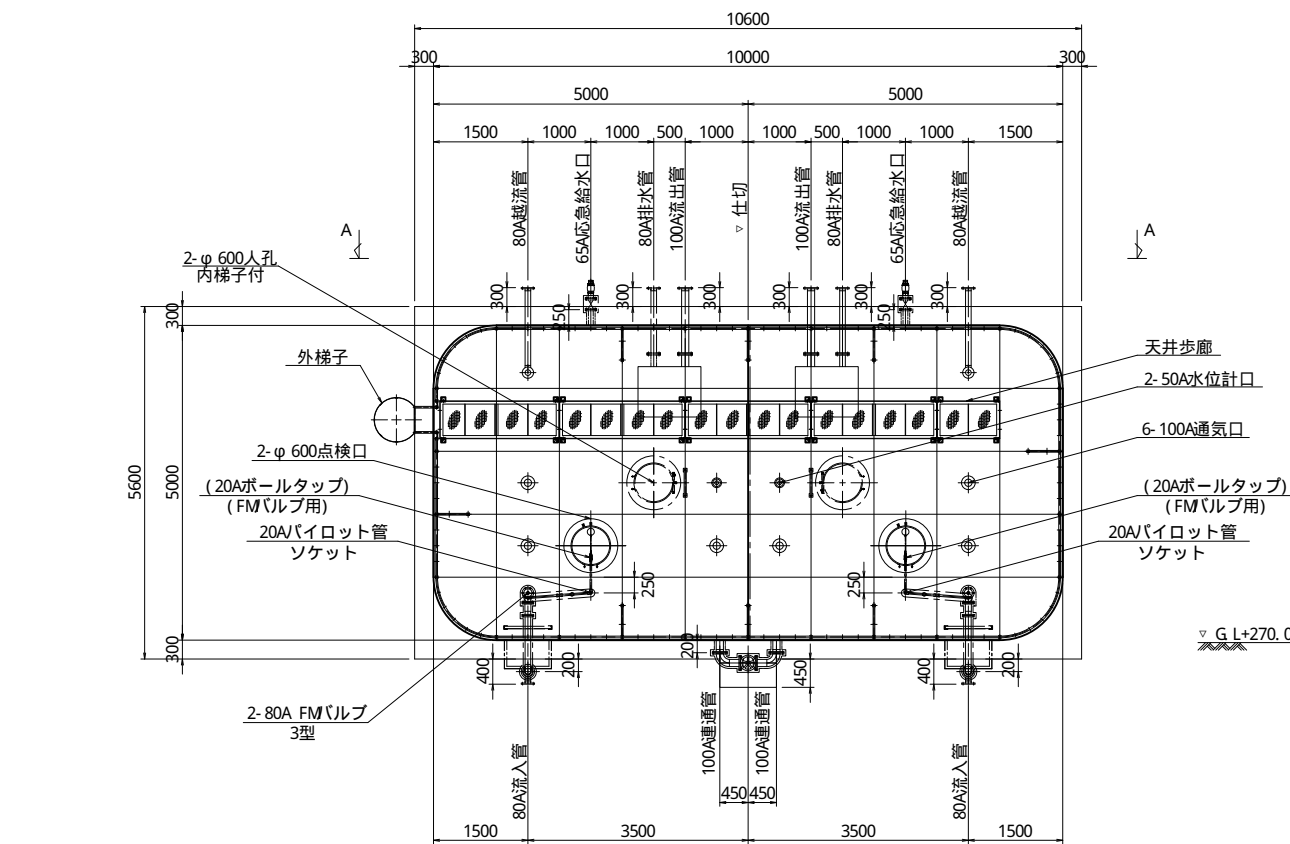
位置図 S=1/10,000



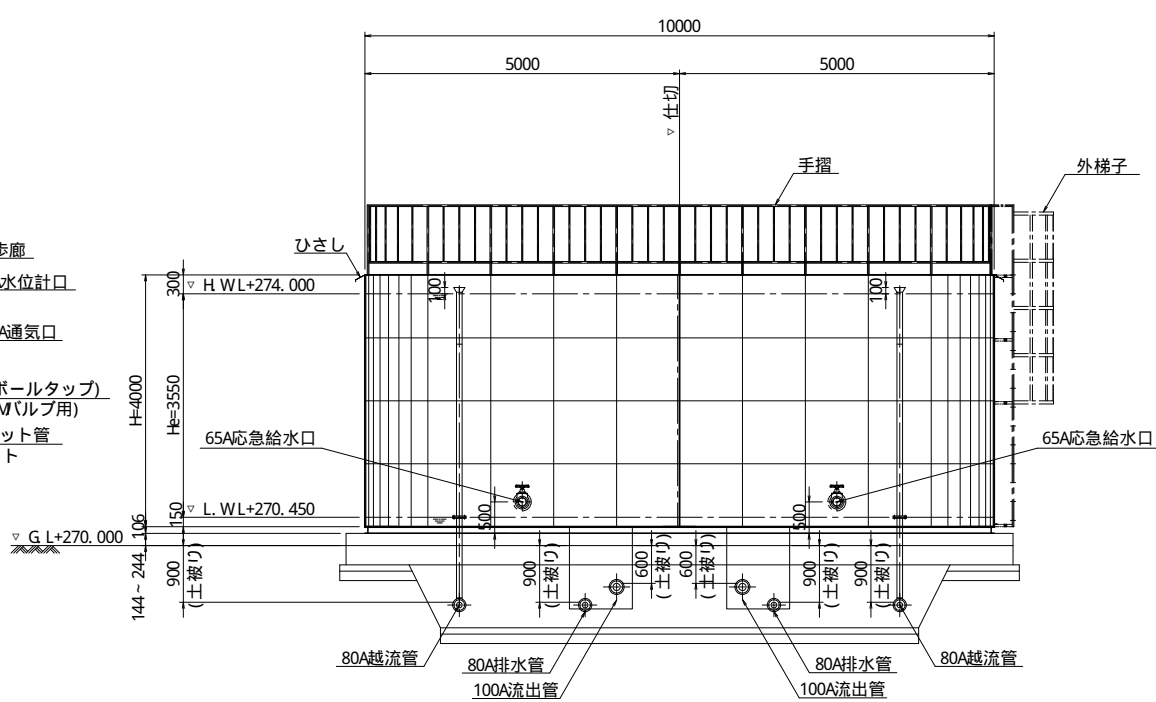
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	位置図		
縮 尺	1/10,000	図 面 番 号	1
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 一般構造図 S=1: 60

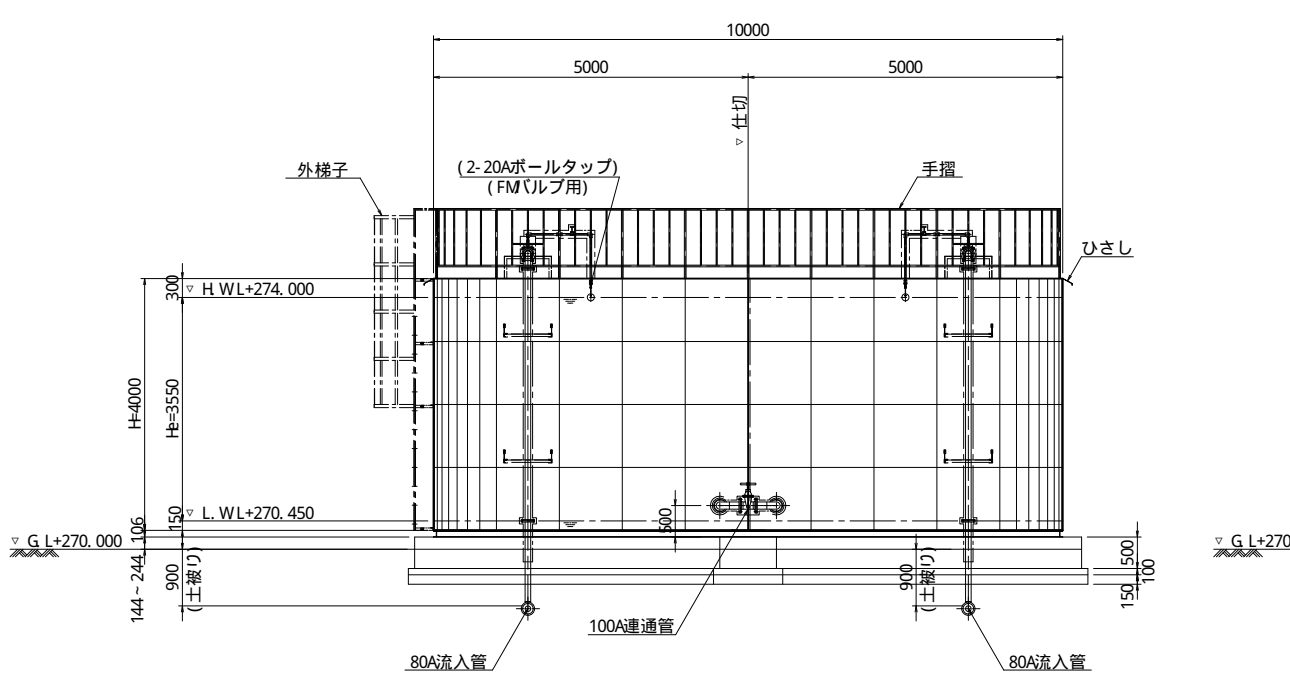
本体平面図



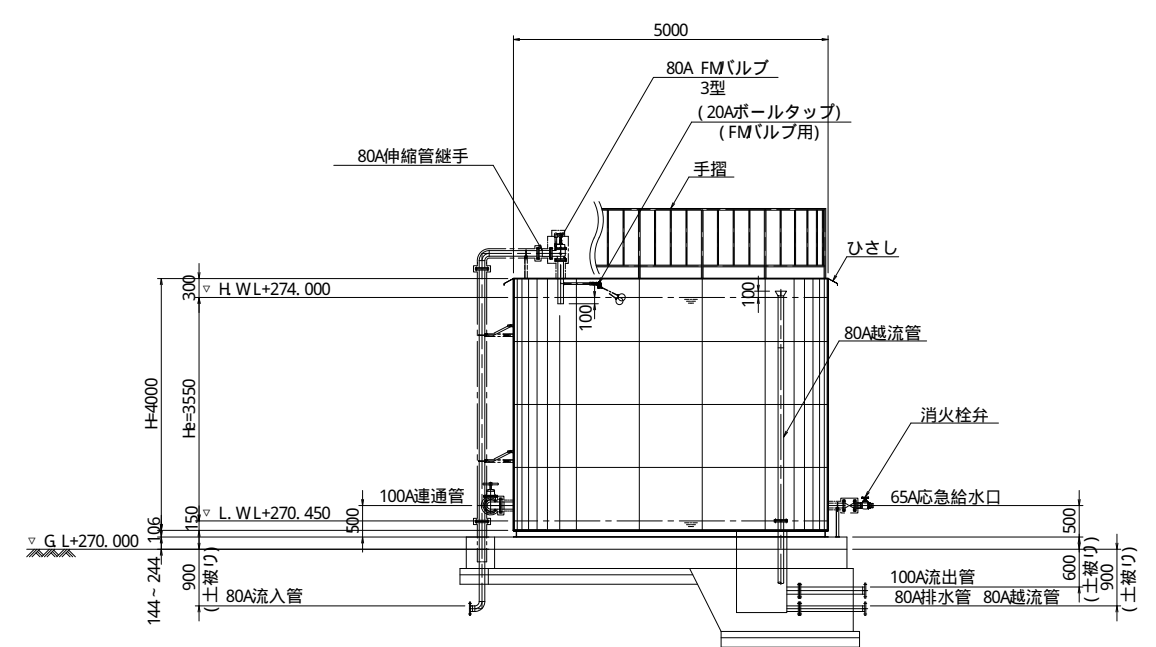
A - A 矢視図



本体立面図



本体側面図



ステンレス鋼板製配水池仕様

有効容量	174m ³ 2池式		
本体寸法	5000 × 10000 × 4000H		
本体材質	天井板	t1.5	SUS329J 4L
	側板4段目	t1.5	SUS329J 4L
	側板3段目	t2.0	SUS444
	側板2段目	t2.5	SUS444
	側板1段目	t2.5	SUS444
	仕切板4段目	t1.5	SUS329J 4L
	仕切板3段目	t2.0	SUS444
	仕切板2段目	t2.5	SUS444
受 台	仕切板1段目	t3.0	SUS444
	底板	t3.0	SUS444
	底板(アニュラ)	t6.0	SUS444
	受台	C-100×50×6	SUS304
設計水平震度	kh2 = 1.4 (レベル2 II種地盤)		
積 雪	0.45m ² × 2.0kN/m ² = 0.90kN/m ²		
特 記	本体溶接構造		
	内部構造はフレーム&パネル構造		
	池底はフラット構造		
	2mm補強レス構造		
質 量	受台：300 kg		
	本体：7460 kg		

名 称	材 質	寸 法	個数	備 考
流入管	SUS329J 4L SUS304	80A	2	10KF, 上水F, SUS304
流出管	SUS304	100A	2	上水F, SUS304
越流管	SUS329J 4L SUS316	80A	2	上水F, SUS316
排水管	SUS304	80A	2	上水F, SUS304
連通管	SUS304	100A	1	上水F, SUS304
パイロット管	SUS316	20A	2	ソケット

名 称	材 質	寸 法	個数	備 考
人 孔	SUS329J 4L	φ 600	2	旋錠式
点検口	SUS329J 4L	φ 600	2	旋錠式
通気口	SUS329J 4L	100A	6	防虫網付
内梯子	SUS444 SUS329J 4L	330× 300	2	
外梯子	SUS304	400× 300	1	20A, RB16
手 摺	SUS304	1100H	1	
ひさし	SUS444	W150	1	
天井歩廊	SUS304	W600	1	
水位計口	SUS329J 4L	50A	2	10KF, SUS304, 防波筒付
応急給水口	SUS304	65A	2	10KF, SUS304

※ 露出配管は配管保温施工とする。

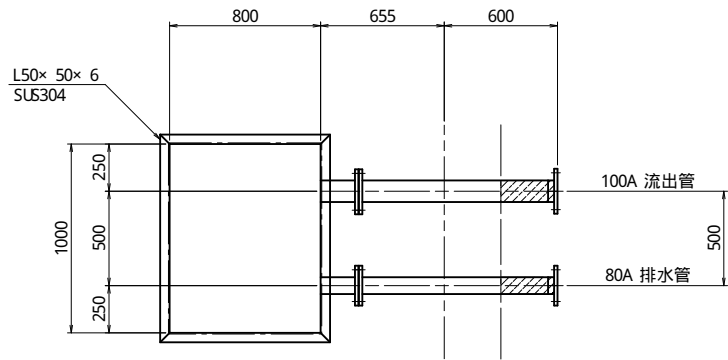
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 一般構造図		
縮 尺	1/60	図 面 番 号	2
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 配管詳細図(1) S=1: 20

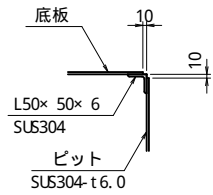
※ 記入なきフランジは、上水F SU5304とする。
※ 記入なき配管は、SU5304TP sch10Sとする。

集水ピット平面図

本図=1箇所
対称=1箇所

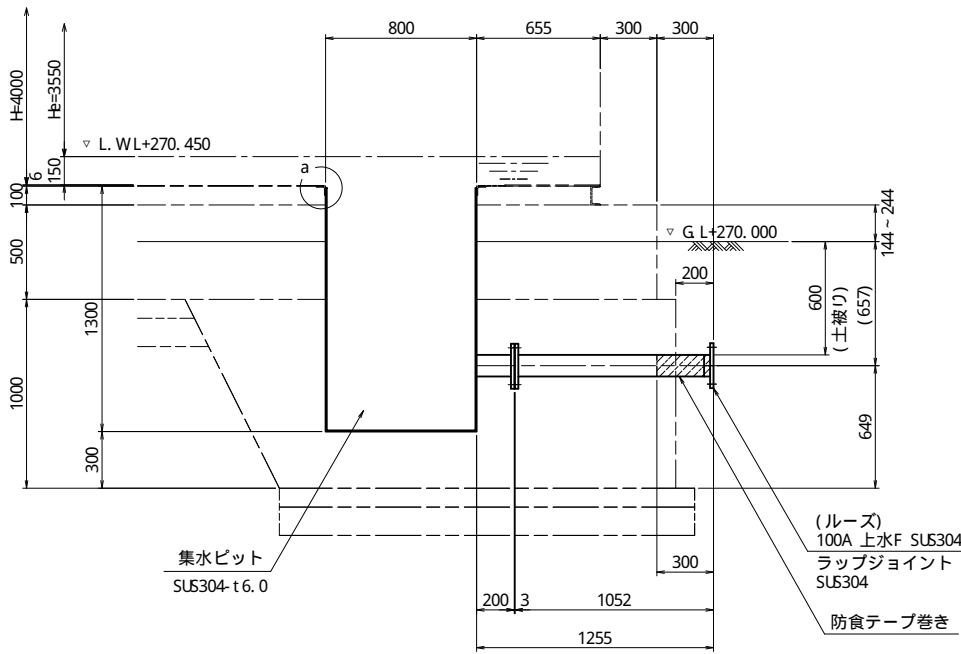


a部詳細図 S=1: 10



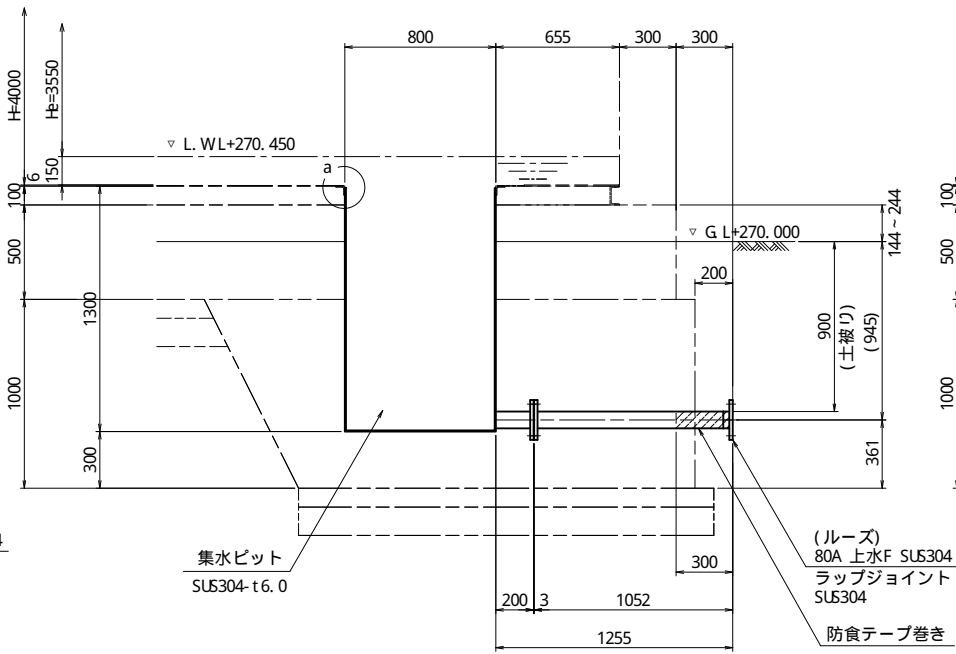
100A 流出管詳細図

N=2箇所



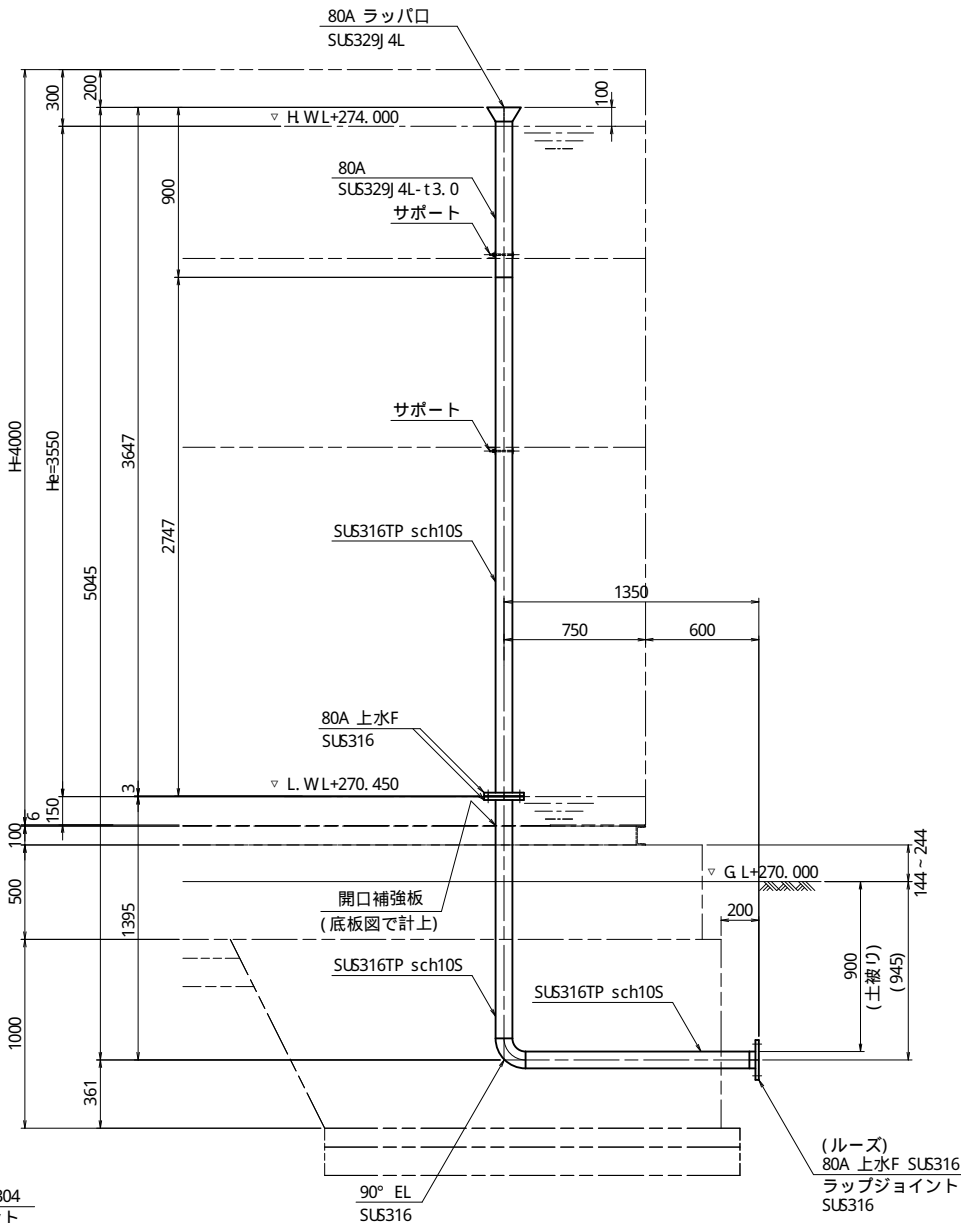
80A 排水管詳細図

N=2箇所



80A 越流管詳細図

N=2箇所

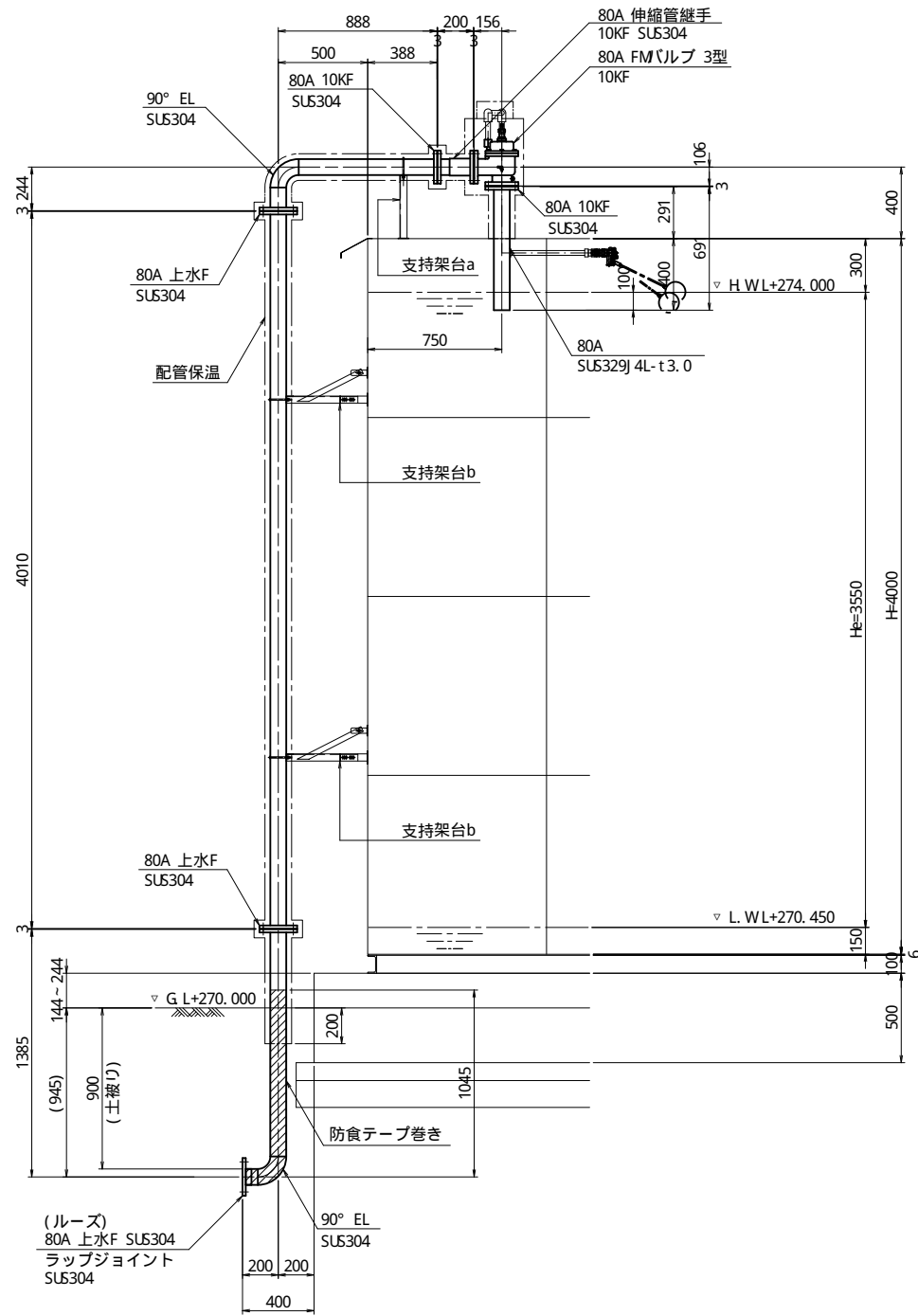


年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 配管詳細図(1)		
縮 尺	1/20, 1/10	図 番	3
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 配管詳細図(2) S=1: 20

80A 流入管詳細図

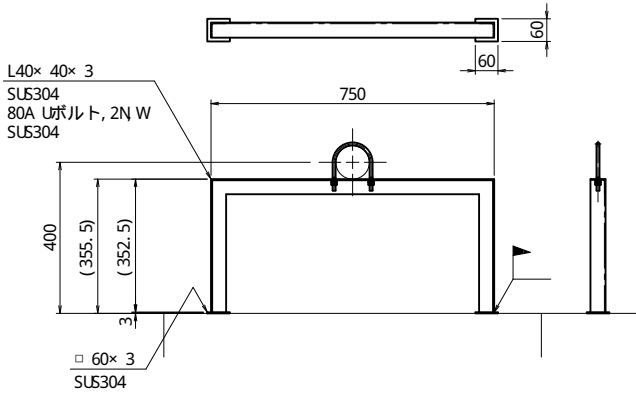
N=2箇所



流入管用

80A配管支持架台a詳細図 S=1: 10

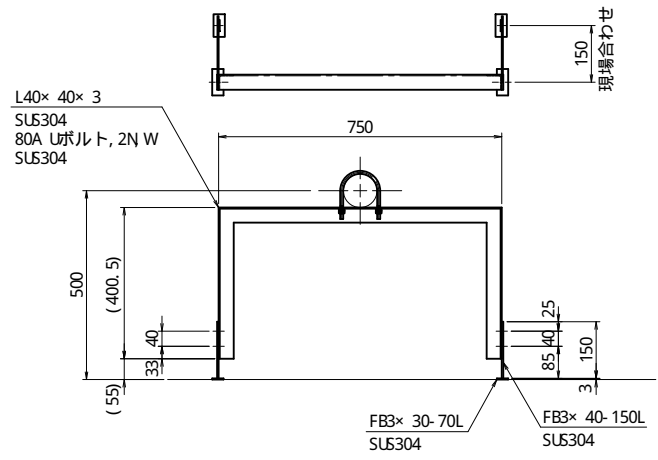
N=2箇所



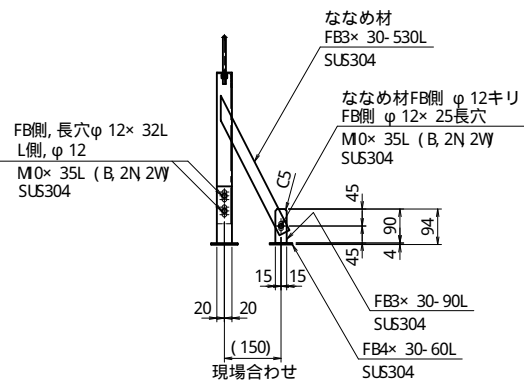
流入管用

80A配管支持架台b詳細図 S=1: 10

N=4箇所



- ※ 記入なき配管は、SU5304TP sch10Sとする。
- ※ 露出配管は配管保温施工とする。
保温仕様については、打合せにより決定のこと。
- <配管保温仕様>※ 参考
- 1. ポリスチレンフォーム 保温筒3号 30mm
- 2. 粘着テープ
- 3. ポリフィルム
- 4. ステンレス鋼板 SU5304 0.3mm

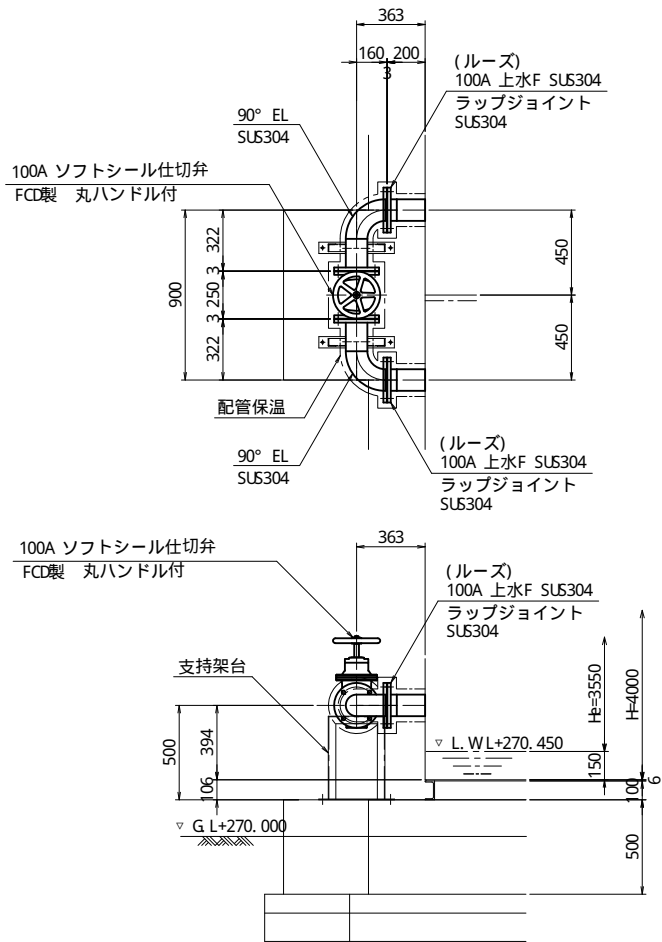


年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 配管詳細図(2)		
縮 尺	1/20, 1/10	図 番	4
秩父広域市町村圏組合水道局			

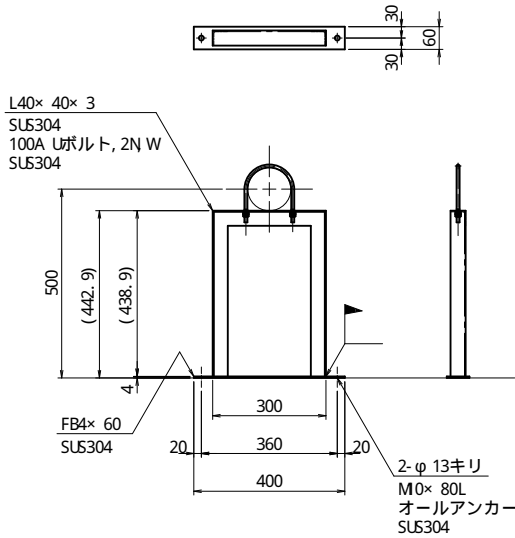
配水池 配管詳細図(3) S=1: 20

- ※ 記入なきフランジは、上水F SU5304とする。
- ※ 記入なき配管は、SU5304TP sch10Sとする。
- ※ 露出配管は配管保温施工とする。
保温仕様については、打合せにより決定のこと。
<配管保温仕様>※ 参考
- 1. ポリスチレンフォーム 保温筒3号 30mm(パイロット管 保温筒 50mm)
- 2. 粘着テープ
- 3. ポリフィルム
- 4. ステンレス鋼板 SU5304 0.3mm

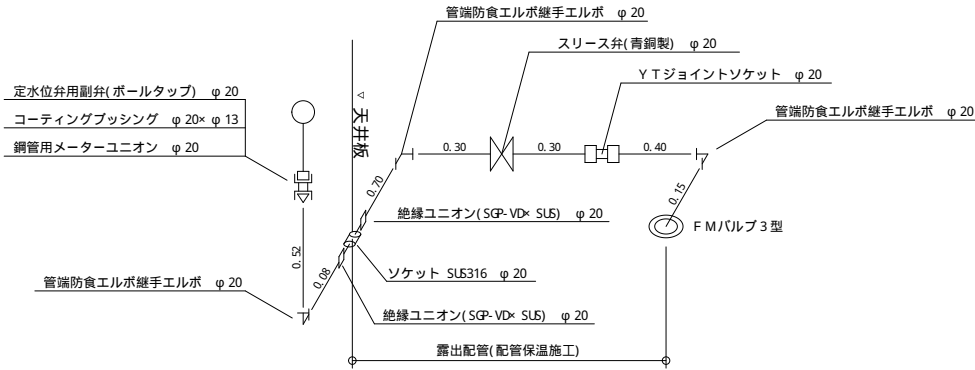
100A 連通管詳細図
N=1箇所



連通管用
100A配管支持架台詳細図 S=1: 10
N=2箇所



20A パイロット管詳細図
N=2箇所



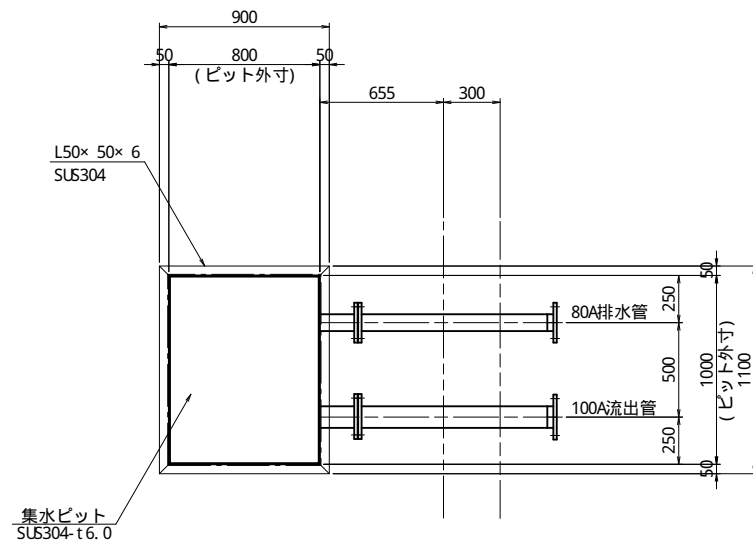
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 配管詳細図(3)		
縮 尺	1/20, 1/10	図 番	5
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 集水ピット詳細図 S=1 : 20

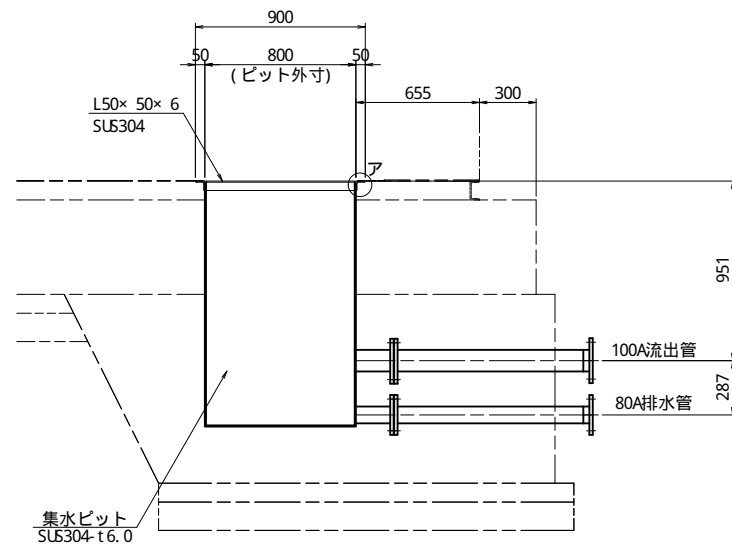
集水ピット詳細図

N=本図の物 1箇所
対称の物 1箇所

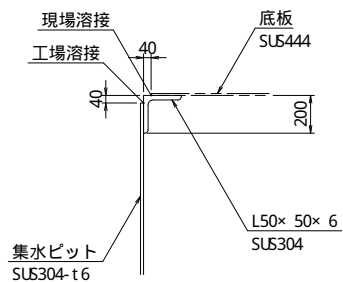
集水ピット平面図



集水ピット側面図

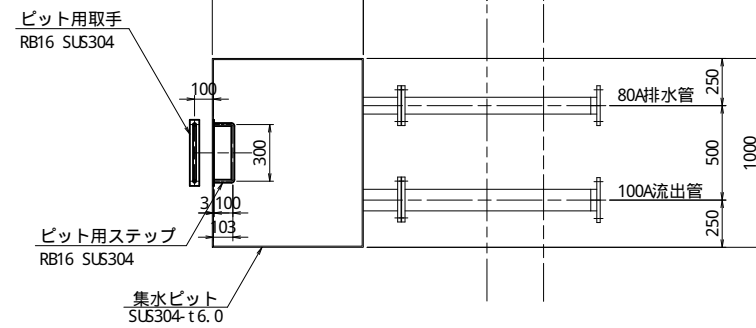


ア断面詳細図 S=1: 5

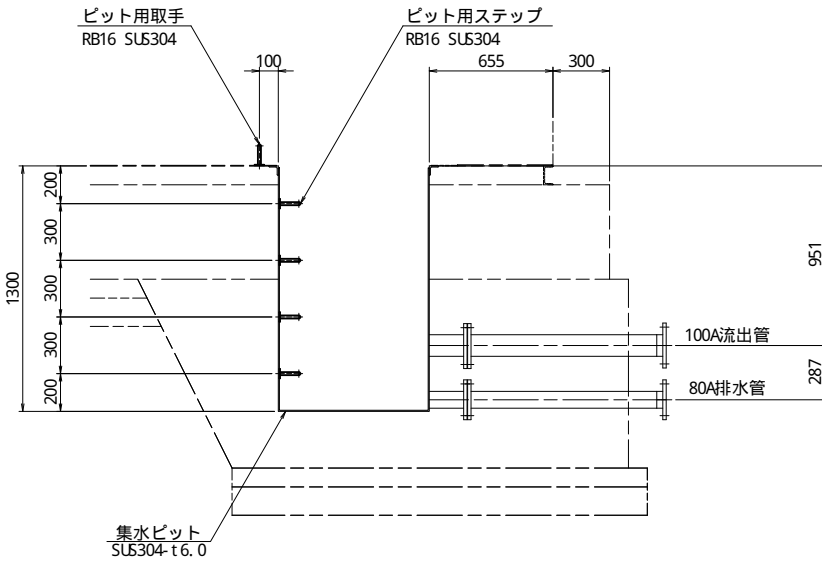


ピット用ステップ・取手詳細図

ピット用ステップ・取手平面図

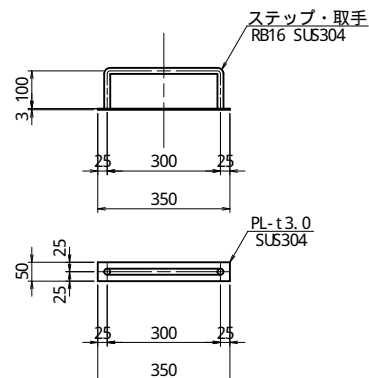


ピット用ステップ・取手側面図



ステップ・取手拡大図 S=1: 10

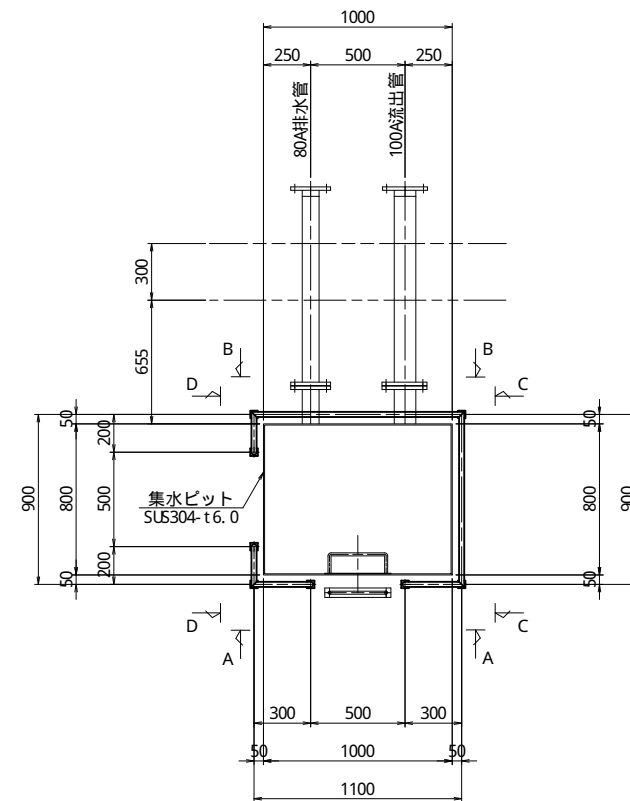
N=10箇所



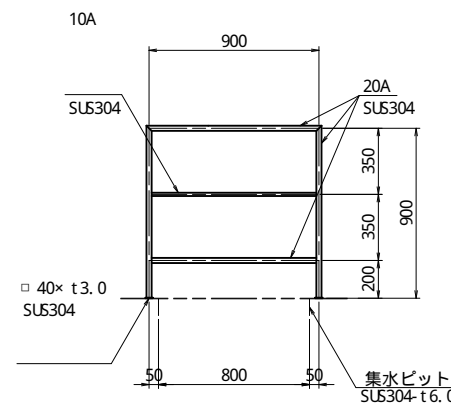
ピット用手摺詳細図

N=本図の物 1箇所
対称の物 1箇所

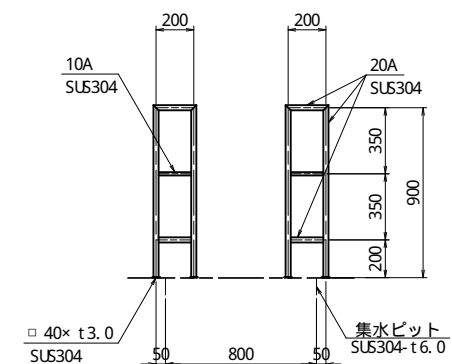
ピット用手摺平面図



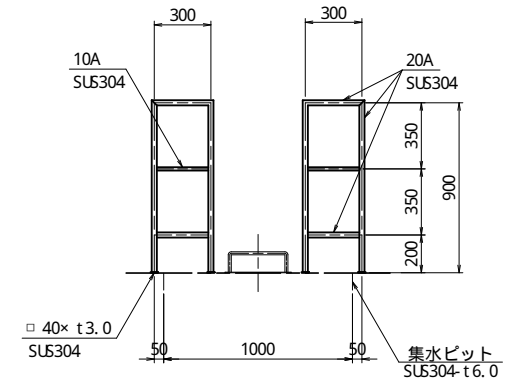
C - C 矢視図



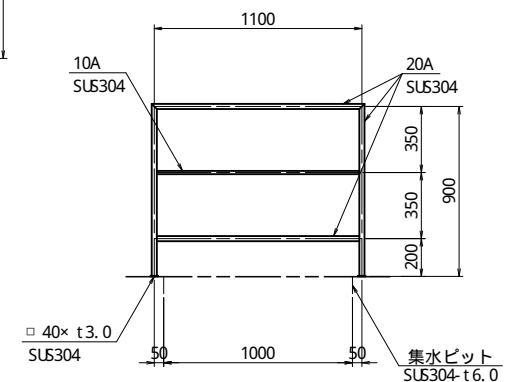
D - D 矢視図



A - A 矢視図



B - B 矢視図

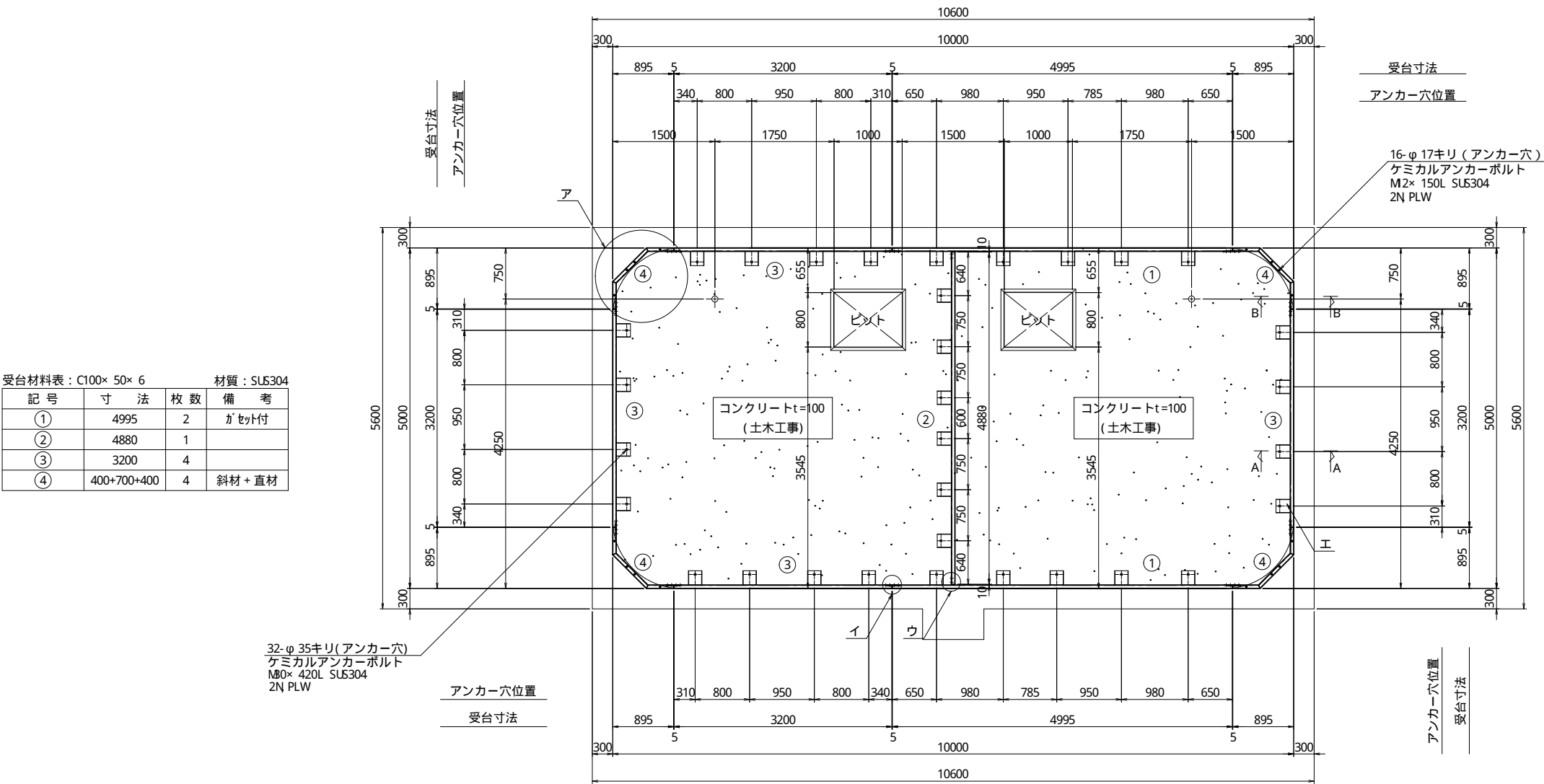


年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 集水ピット詳細図		
縮尺	1/20, 1/10, 1/5	図番	6
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 受台詳細図

S=1: 40

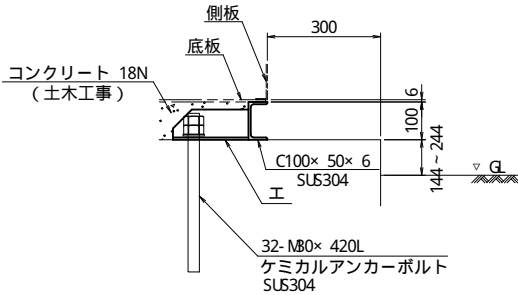
受台平面図
C100× 50× 6 - SL5304



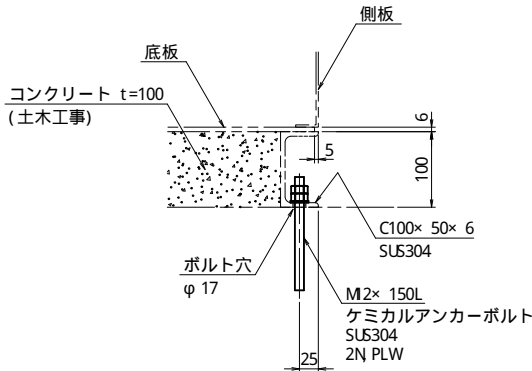
受台材料表: C100× 50× 6 材質: SL5304

記号	寸法	枚数	備考
①	4995	2	カセット付
②	4880	1	
③	3200	4	
④	400+700+400	4	斜材 + 直材

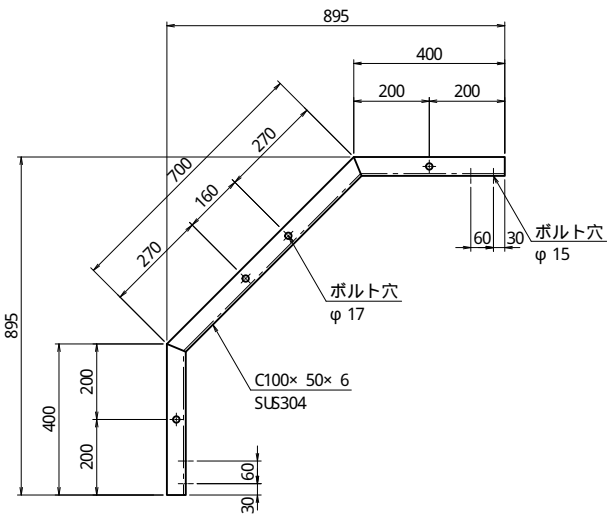
A - A 矢視図 S=1: 10



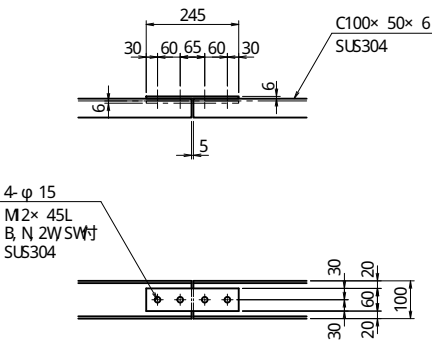
B - B 断面詳細図 S=1: 5



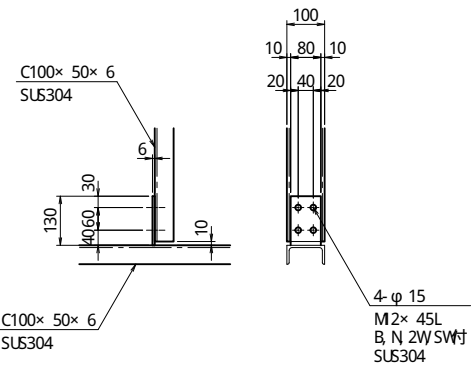
ア詳細図 S=1: 10



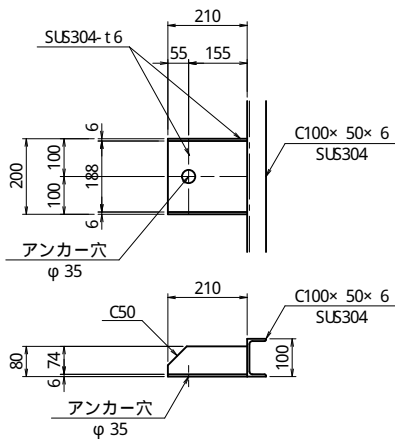
イ詳細図 S=1: 10



ウ詳細図 S=1: 10



エ詳細図 S=1: 10

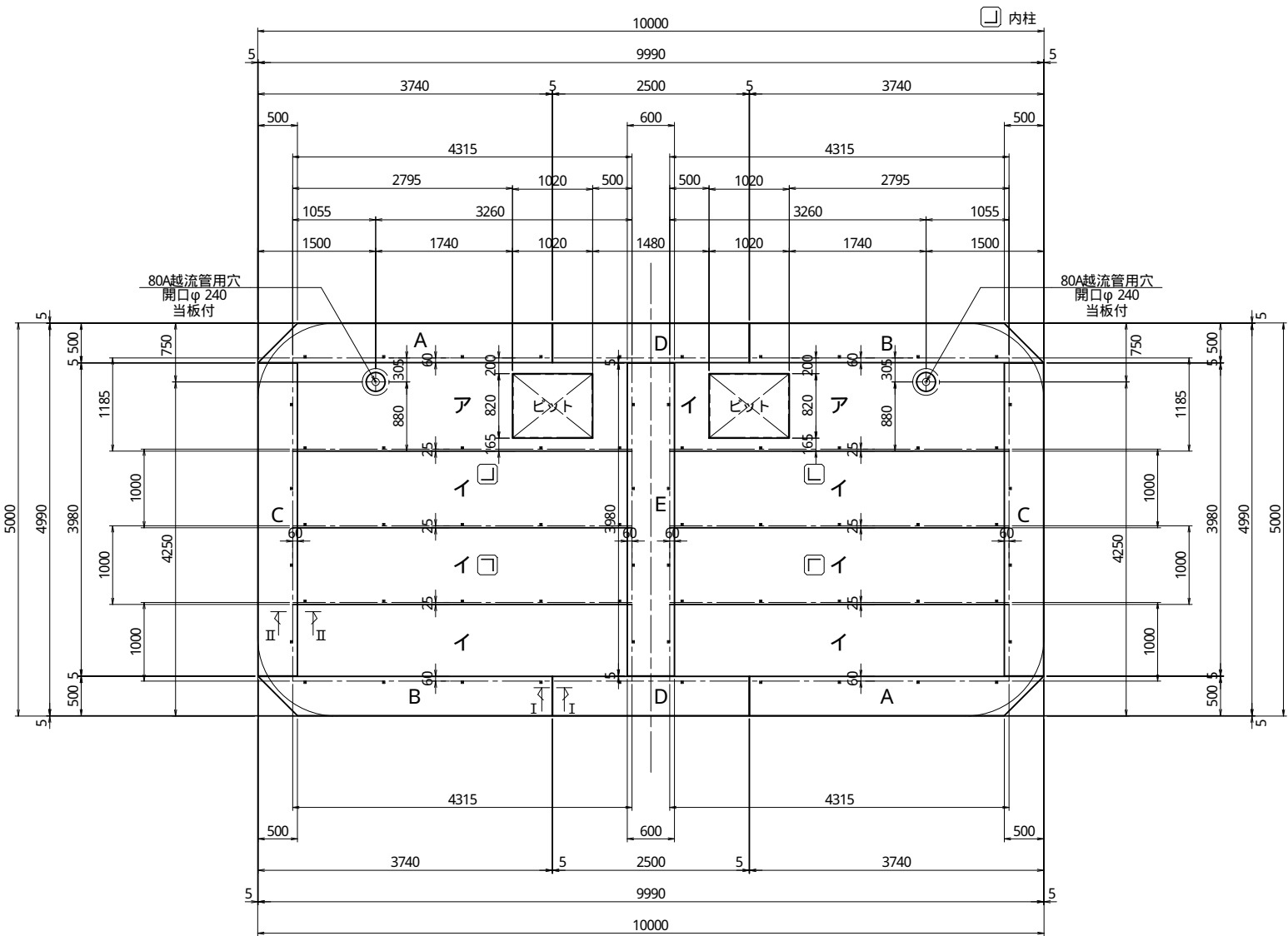


年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 受台詳細図		
縮尺	1/40, 1/10, 1/5	図番	7
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 底板詳細図

S=1: 40

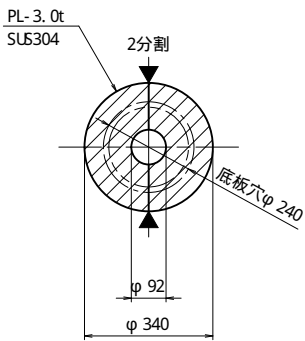
底板配置図



80A用開口補強板

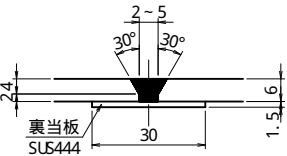
S=1: 10

N=2箇所



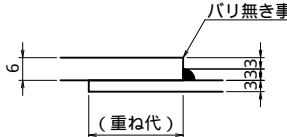
I - I 断面図

(6mm×6mm)



II - II 断面図

(6mm×3mm)



底板材料表 : t6.0 (アニュラ) 材質 : SUS444

記号	寸法	枚数	種類
A	500× 3740	2	平板: 一部切欠有
B	500× 3740	2	平板: 一部切欠有
C	500× 3980	2	平板
D	500× 2500	2	平板
E	600× 3980	1	平板

底板材料表 : t3.0 材質 : SUS444

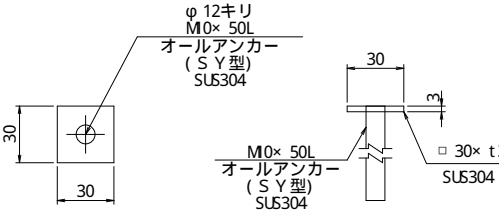
記号	寸法	枚数	種類
ア	1185× 4315	2	平板
イ	1000× 4315	6	平板

固定用ピース

S=1: 2

N=66箇所

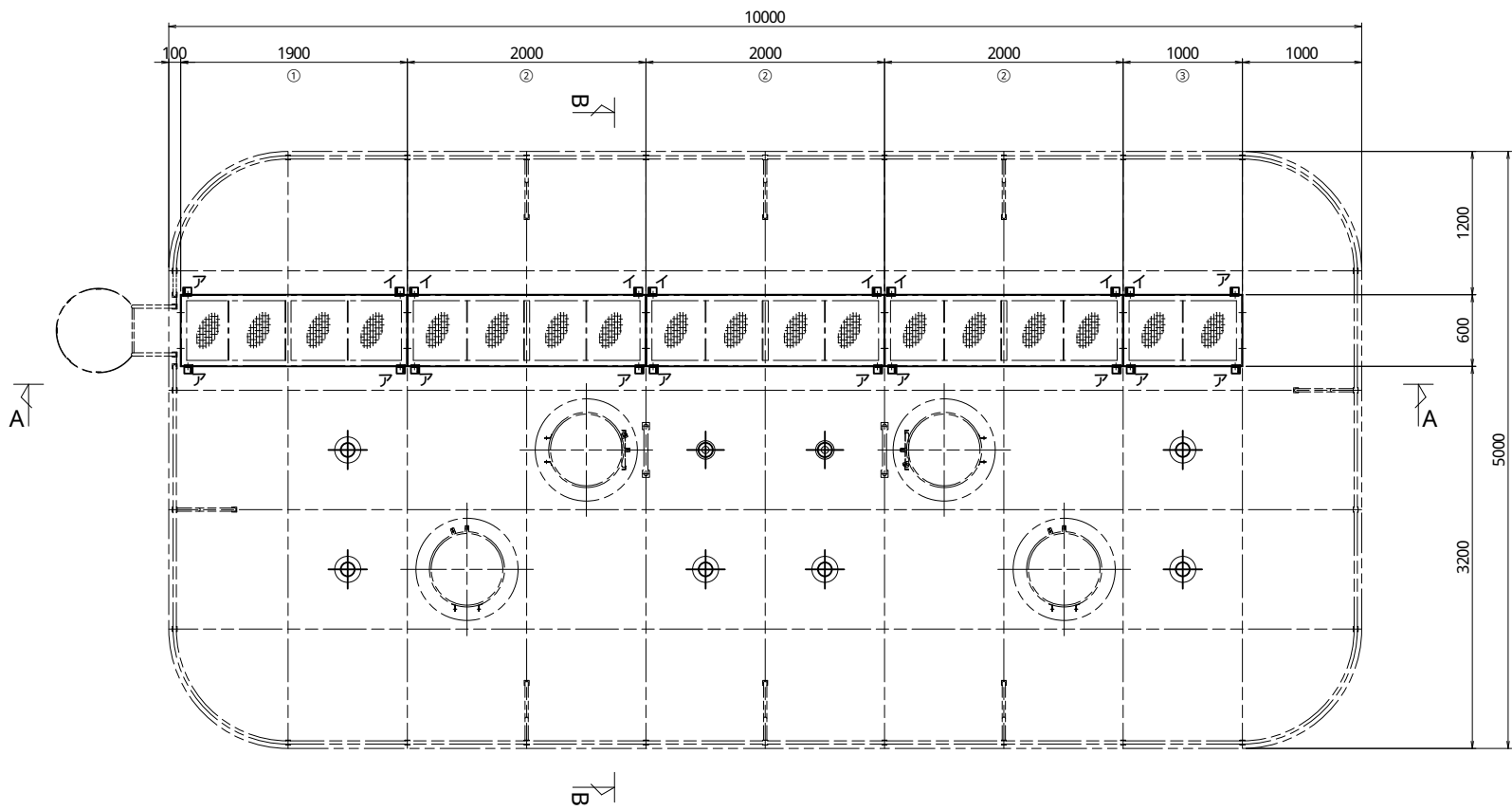
(現場にて、底板に溶接)



年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 底板詳細図		
縮尺	1/40, 1/10, 1/2	図面番号	8
秩父広域市町村圏組合水道局			

歩廊詳細図 S=1: 30

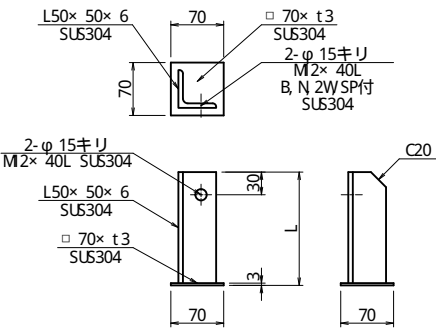
歩廊平面配置図



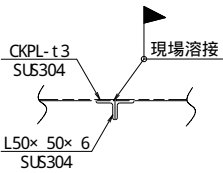
歩廊脚 数量表

記号	L寸法	数量
	(mm)	(組)
ア	150	12
イ	160	8

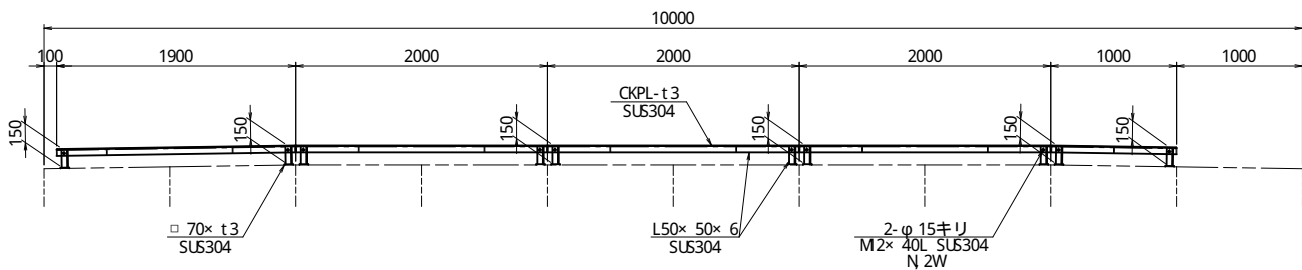
歩廊脚詳細図 S=1: 5



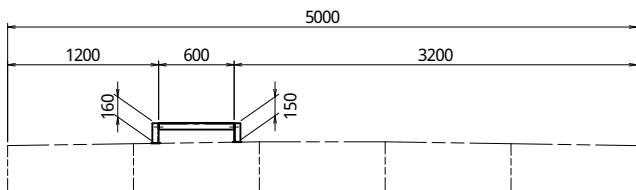
ジョイント部詳細図 S=1: 5



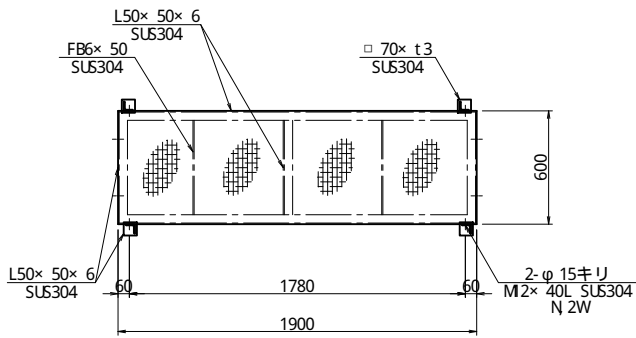
A - A 矢視図



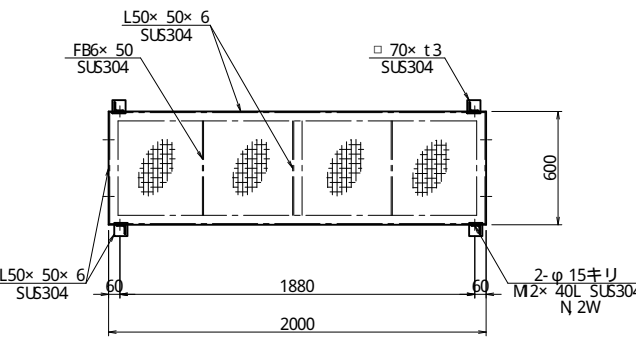
B - B 矢視図



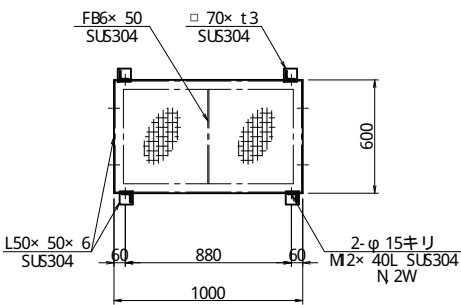
歩廊① 詳細図 S=1: 20
1ヶ所



歩廊② 詳細図 S=1: 20
3ヶ所



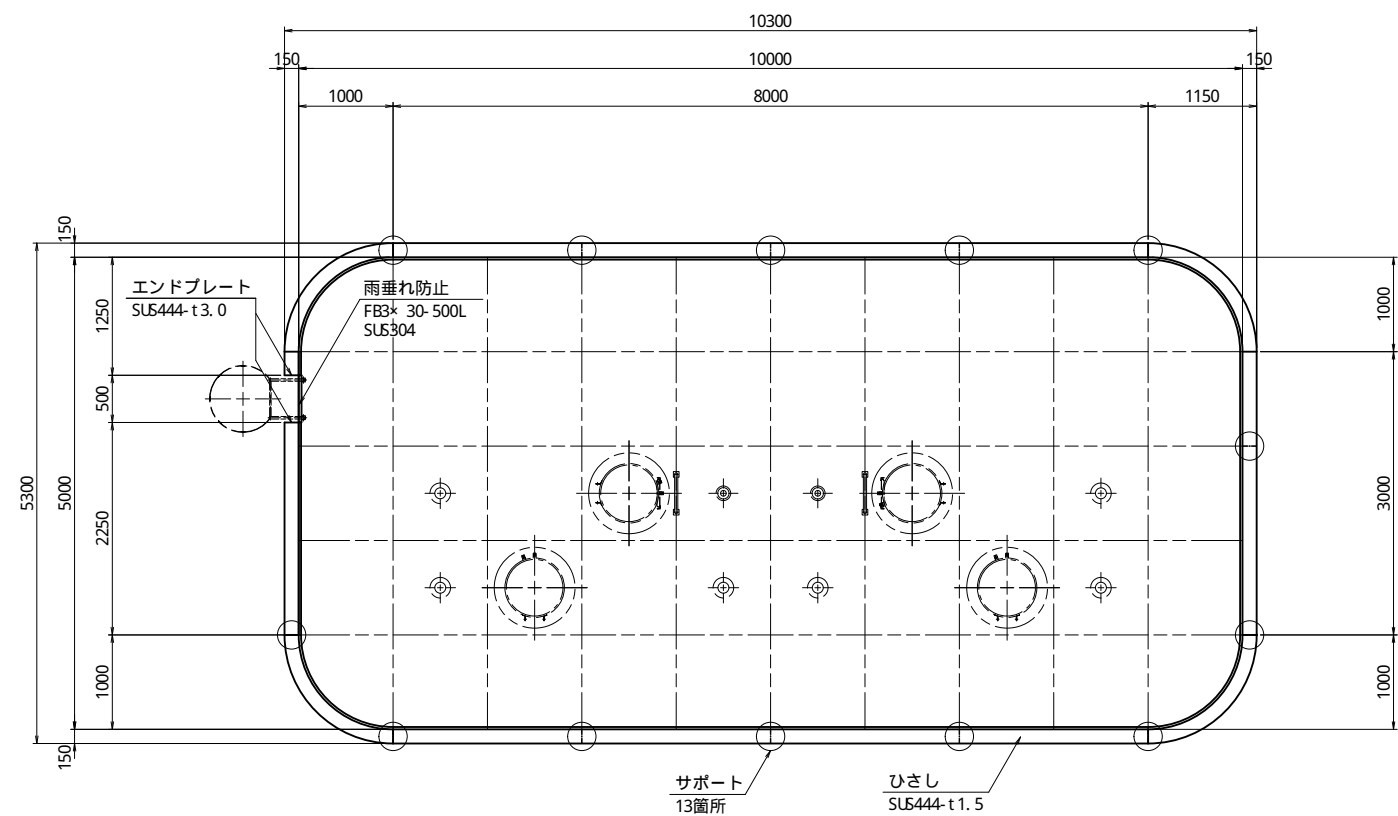
歩廊③ 詳細図 S=1: 20
1ヶ所



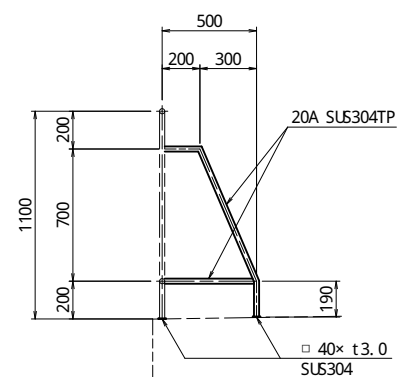
年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 歩廊詳細図		
縮尺	1/30, 1/20, 1/5	図番	9
秩父広域市町村圏組合水道局			

S=1: 40

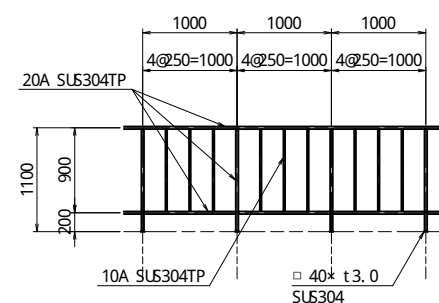
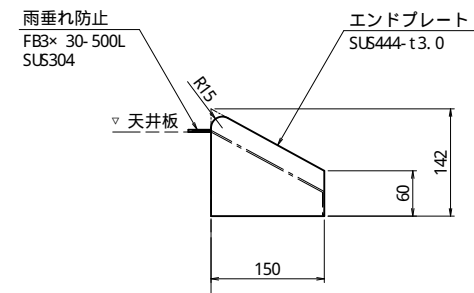
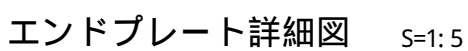
ひさし平面図



手摺サポート詳細図 S=1: 20



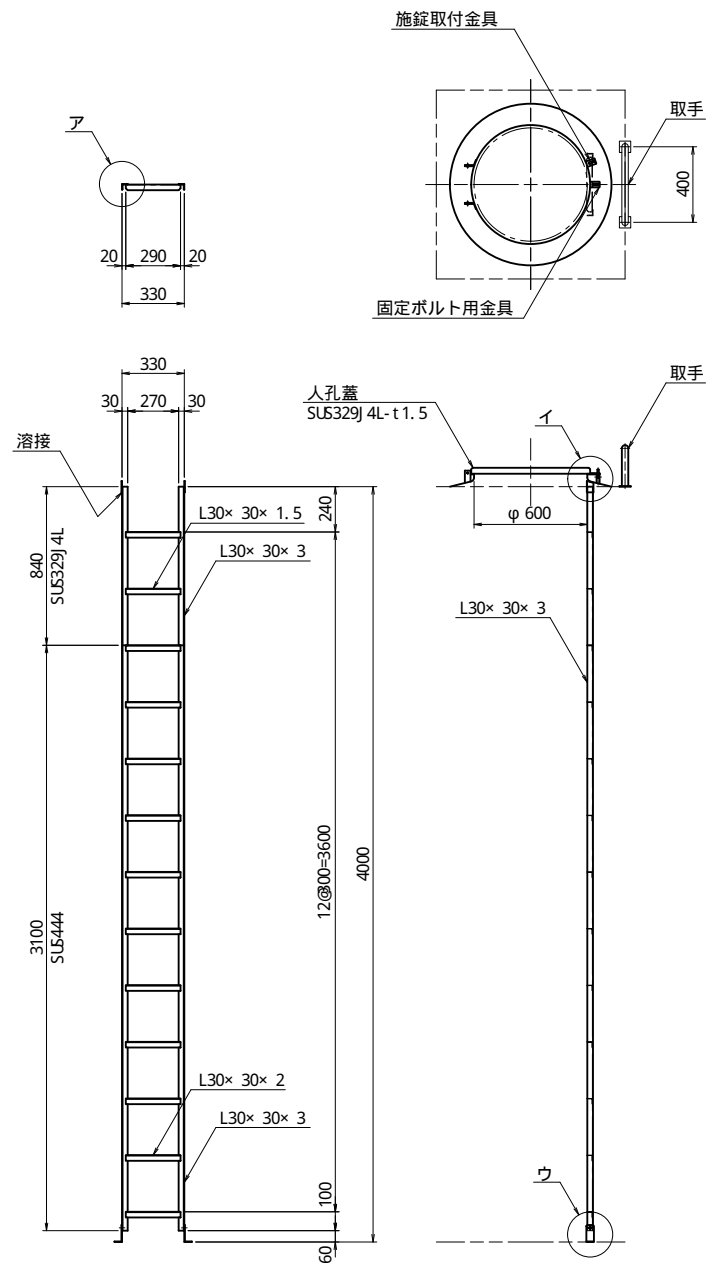
手摺標準図 S=1: 40



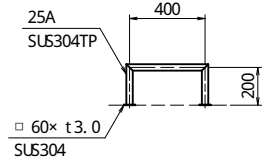
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 手摺・ひさし詳細図		
縮 尺	1/40、1/20、1/5	図 番 面 号	10
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 付属品詳細図(1) S=1: 20

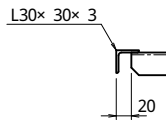
人孔・内梯子詳細図 S=1: 20
N=2箇所



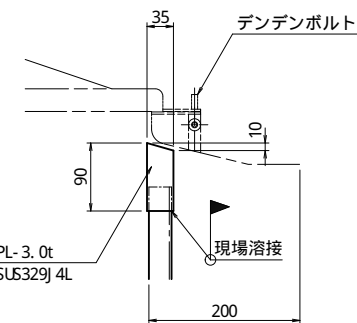
取手詳細図



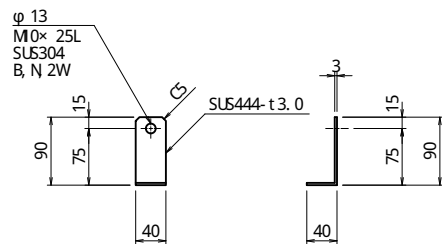
ア詳細図 S=1: 5



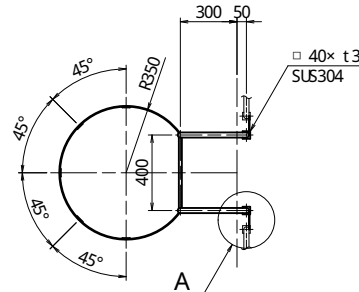
イ詳細図 S=1: 5



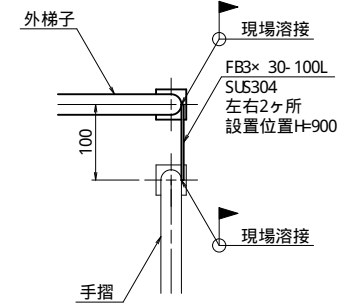
ウ詳細図 S=1: 5



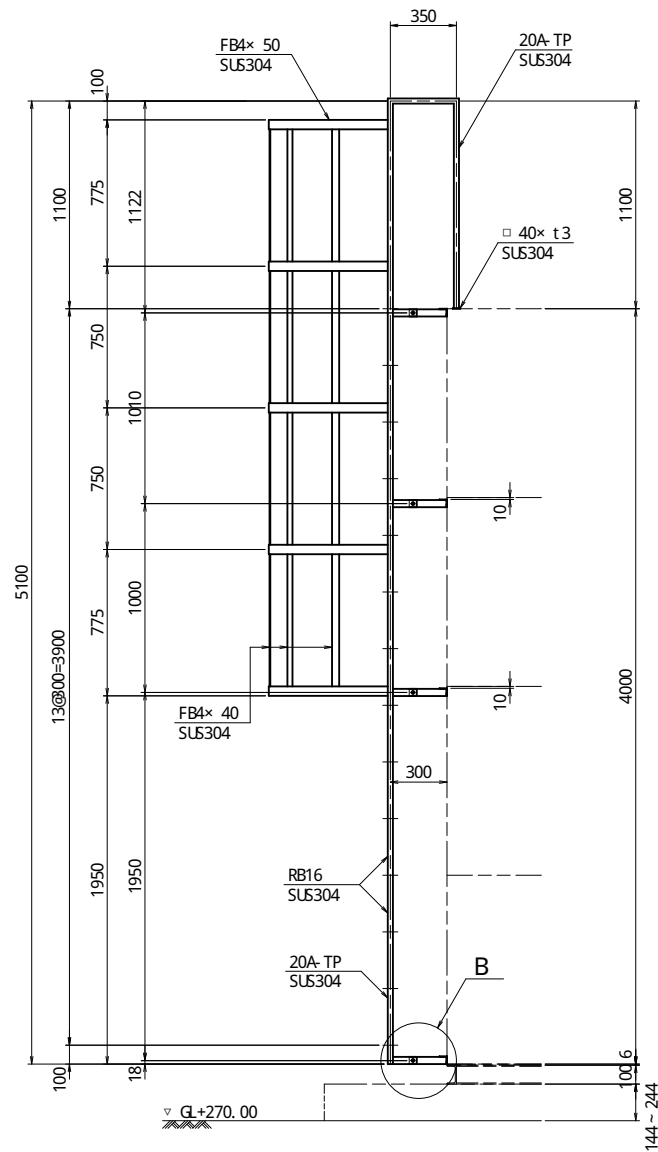
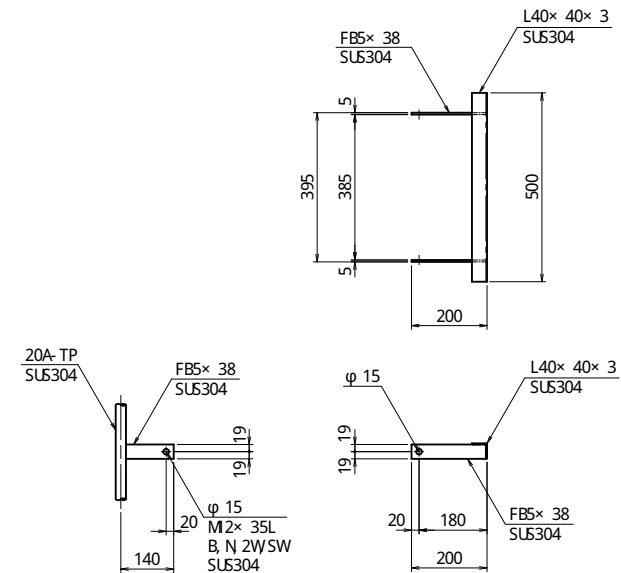
外梯子詳細図 S=1: 20
N=1箇所



A 詳細図 S=1: 5



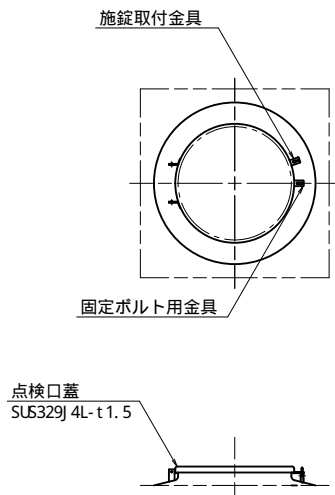
B 詳細図 S=1: 10



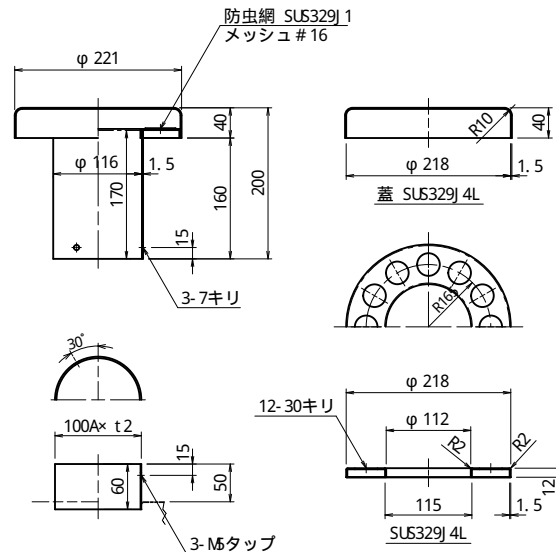
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 付属品詳細図(1)		
縮 尺	1/20, 1/10, 1/5	図 番 号	11
秩父広域市町村圏組合水道局			

配水池 付属品詳細図(2) S=1: 20

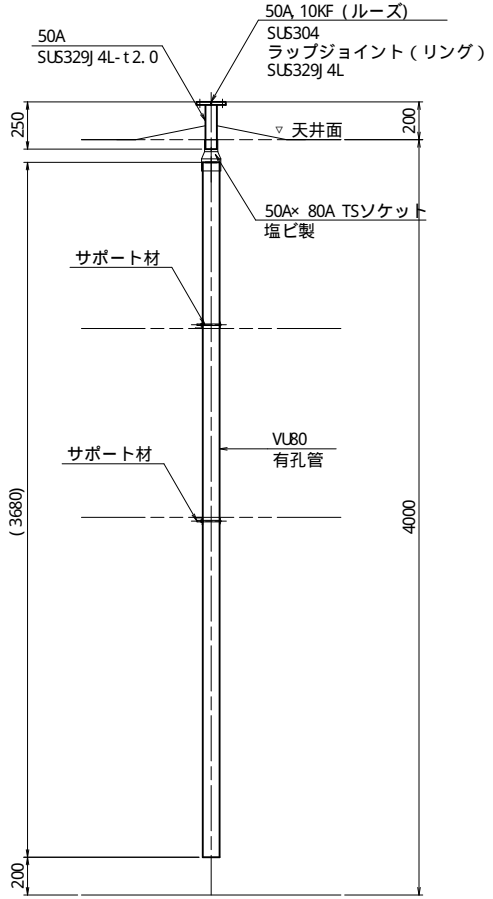
点検口詳細図 S=1: 20
N=2箇所



100A通気口詳細図 S=1: 5
N=6箇所

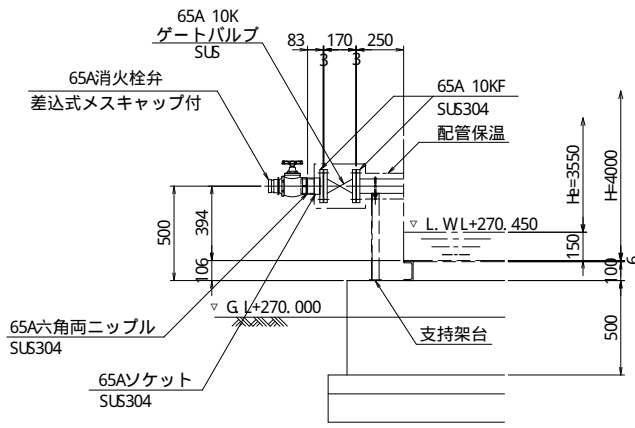


50A 水位計口詳細図 S=1: 20
N=2箇所

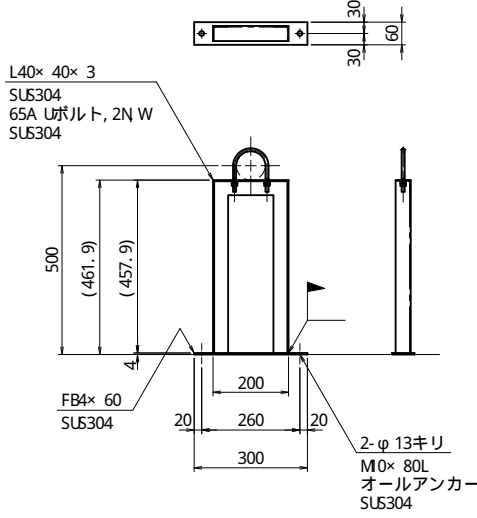


65A 応急給水口詳細図 S=1: 20
N=2箇所

保温仕様については、打合せにより決定のこと。
<配管保温仕様>* 参考
1. ポリスチレンフォーム 保温筒3号 30mm
2. 粘着テープ
3. ポリフィルム
4. ステンレス鋼板 SUS304 0.3mm



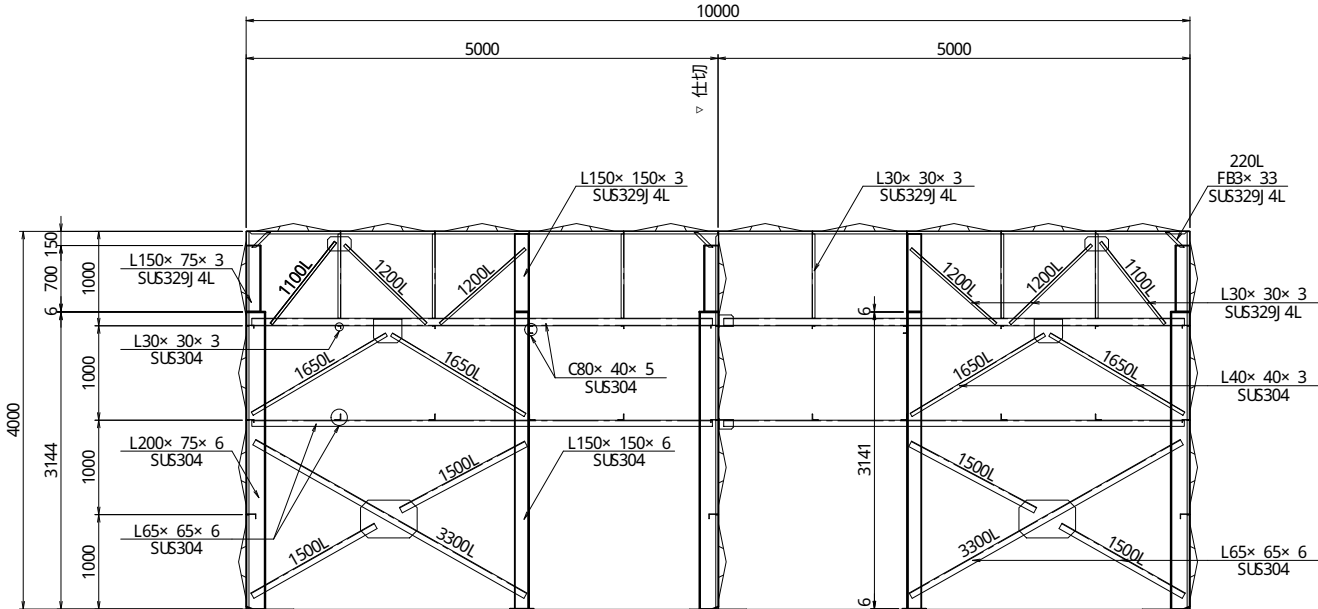
応急給水口用 65A配管支持架台詳細図 S=1: 10
N=2箇所



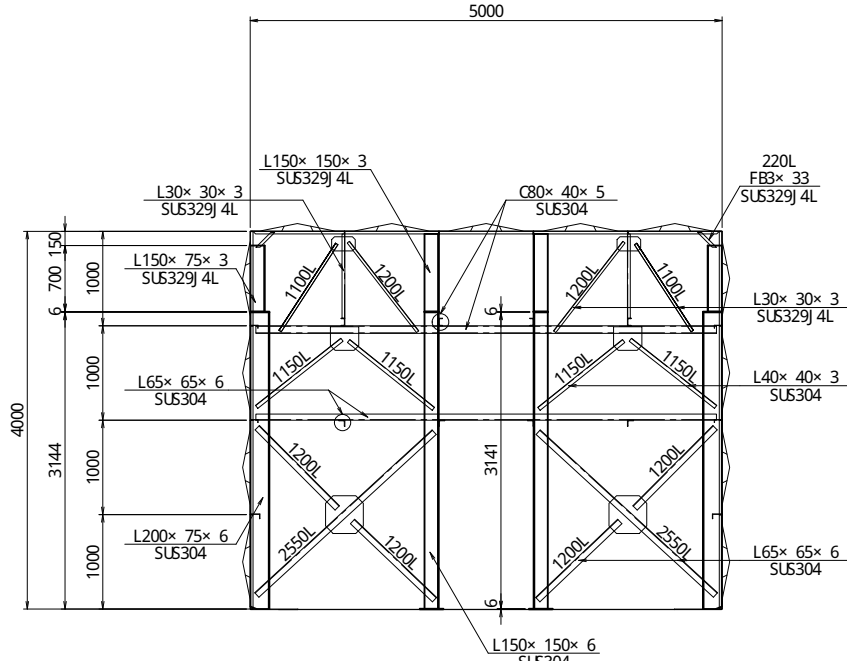
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 付属品詳細図(2)		
縮 尺	1/20, 1/10, 1/5	図 番 号	12
秩父広域市町村圏組合水道局			

S=1: 40

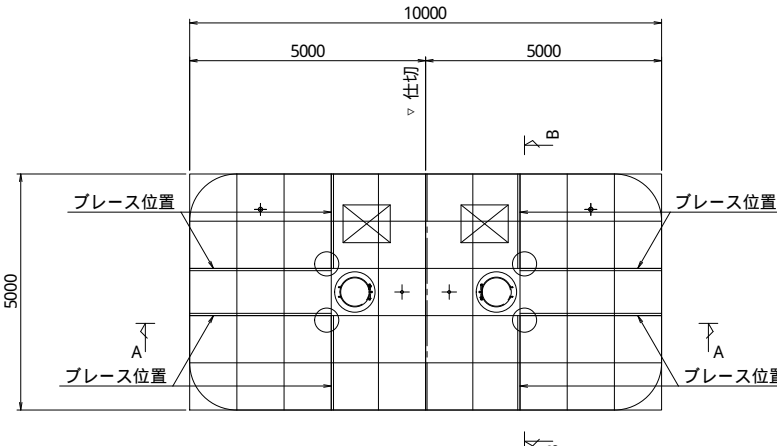
A - A 断面図



B - B 断面図



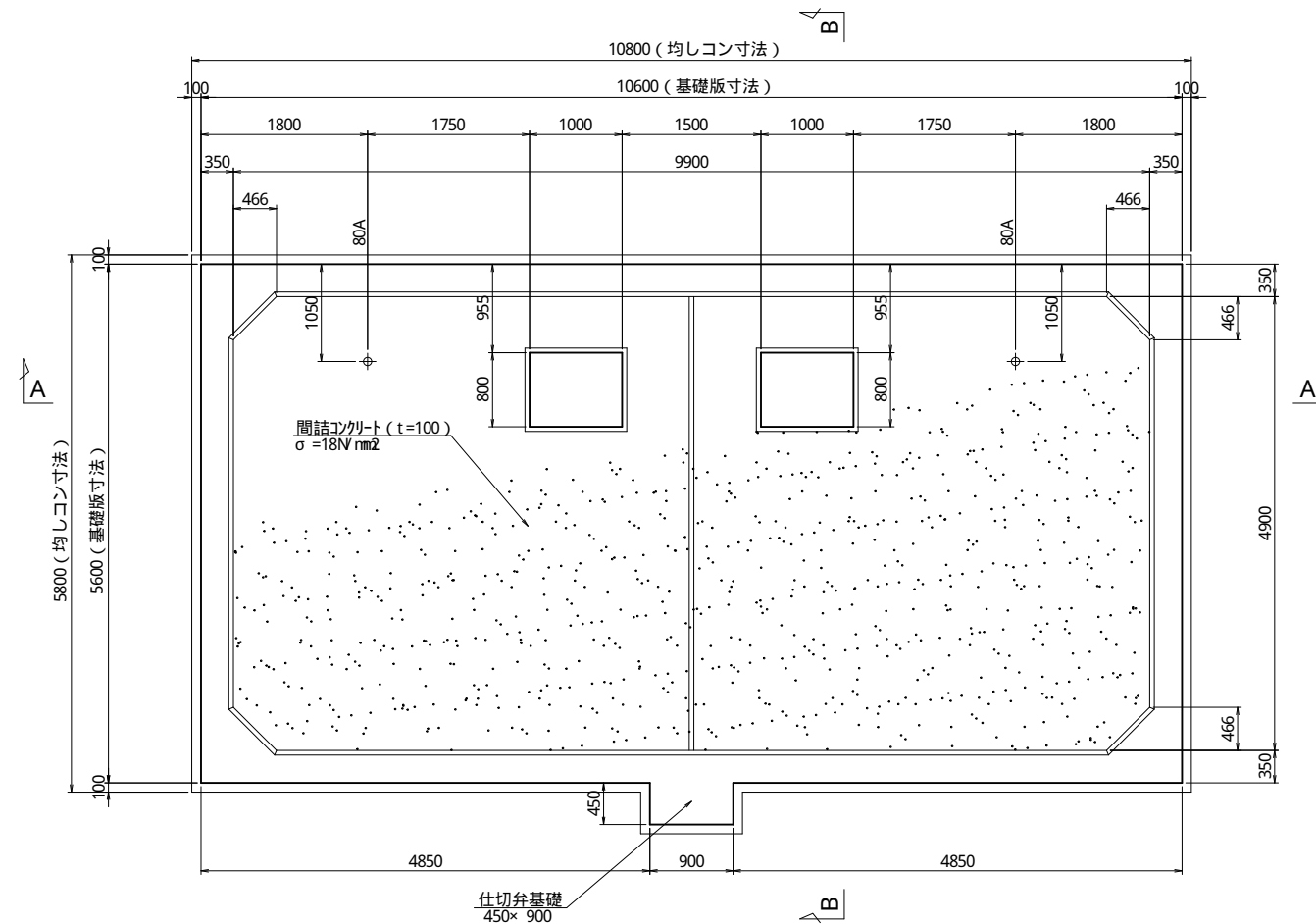
KEY PLAN



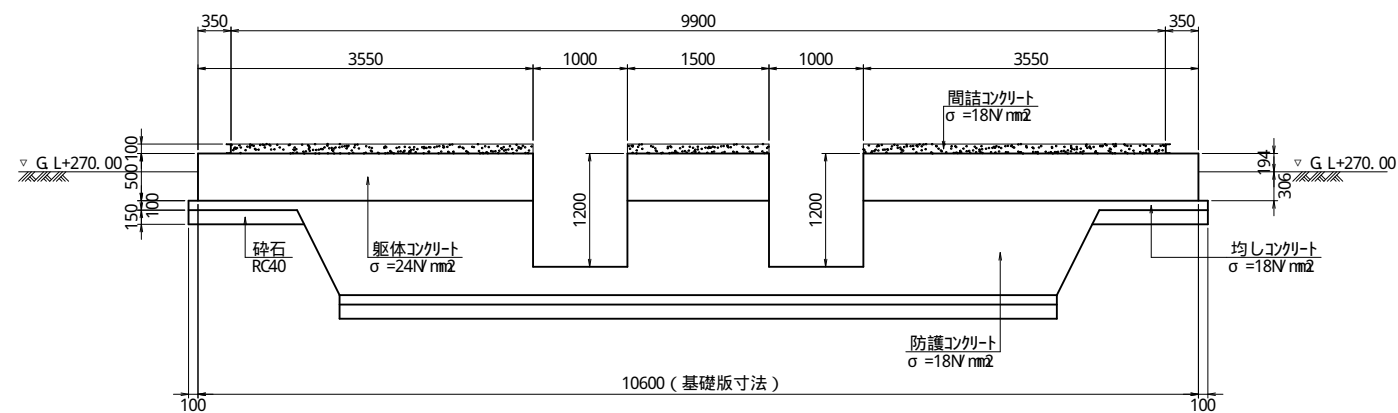
※一点鎖線○印は内柱を示す

年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 内部補強立面図		
縮 尺	1/40	図 番	13
秩父広域市町村圏組合水道局			

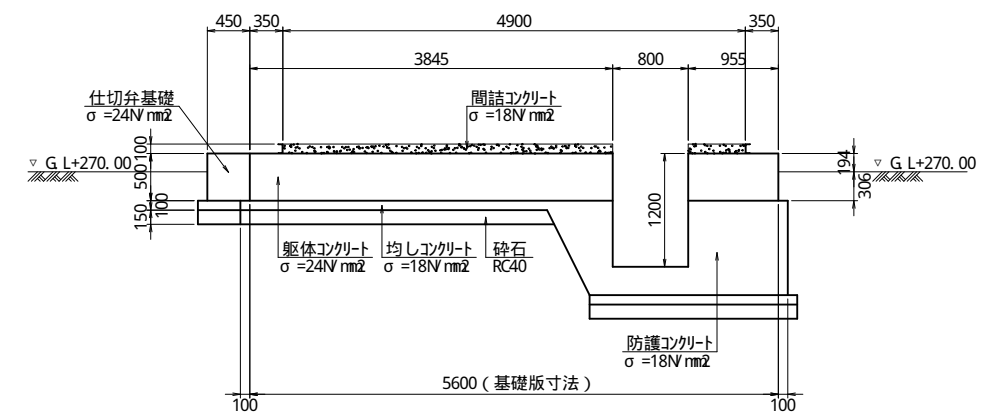
基礎構造図(1) S=1/40



基礎版平面図



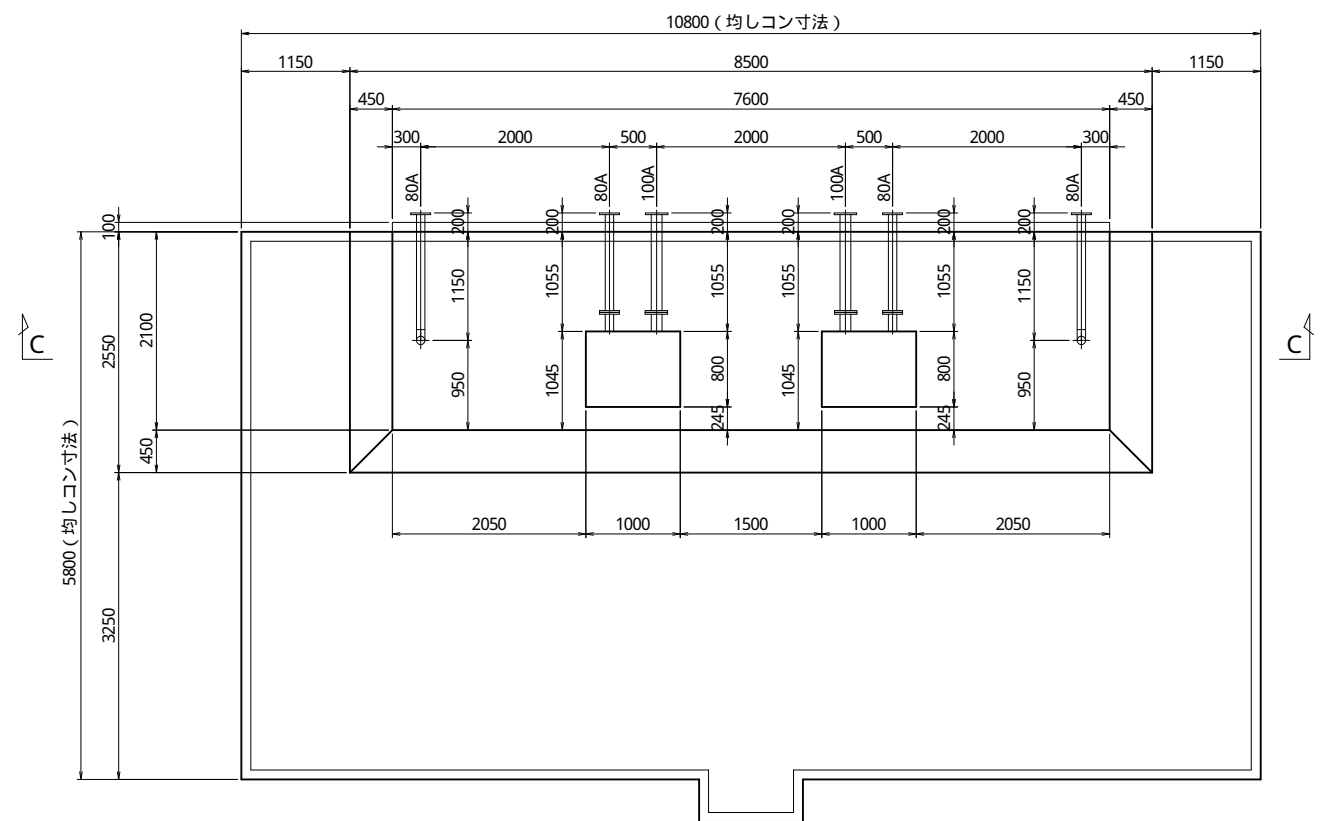
A - A 断面図



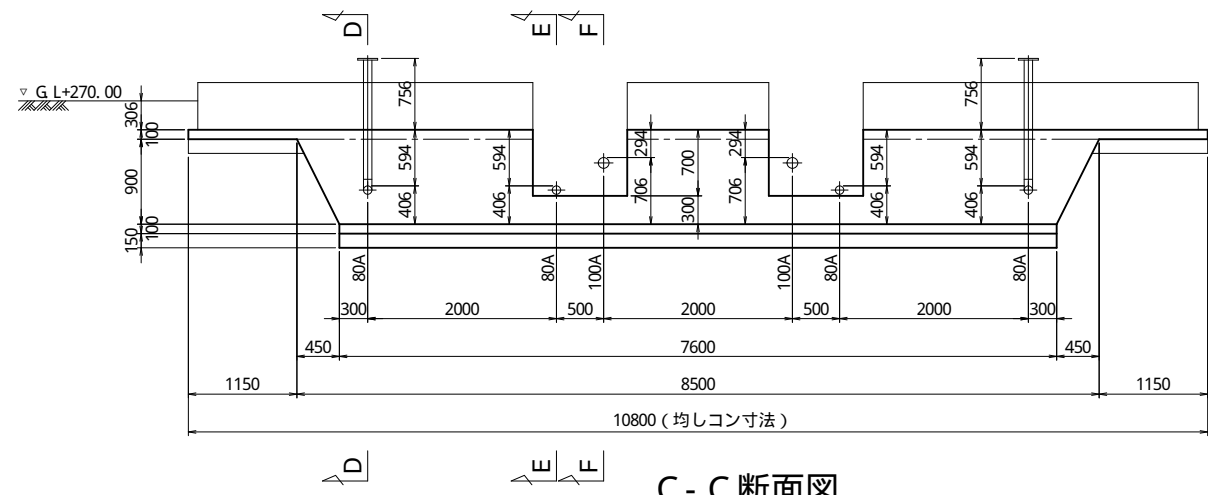
B - B 断面図

年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 基礎構造図(1)		
縮 尺	1/40	図 面 番 号	14
秋父広域市町村圏組合水道局			

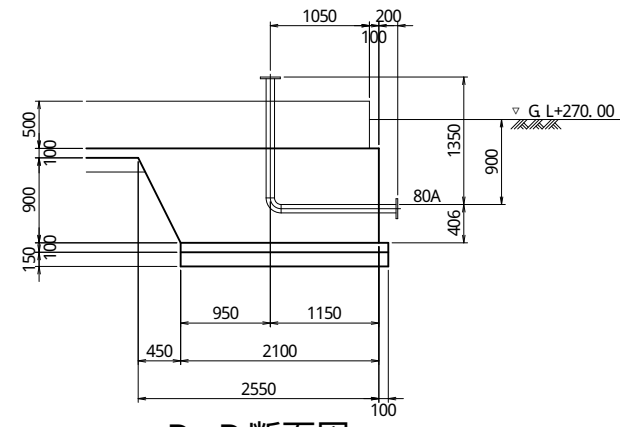
基礎構造図(2) S=1/40



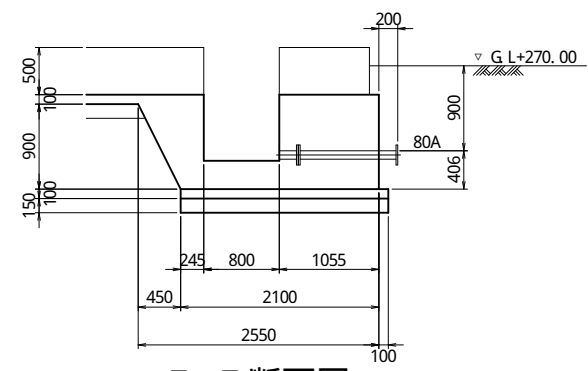
管防護部平面図



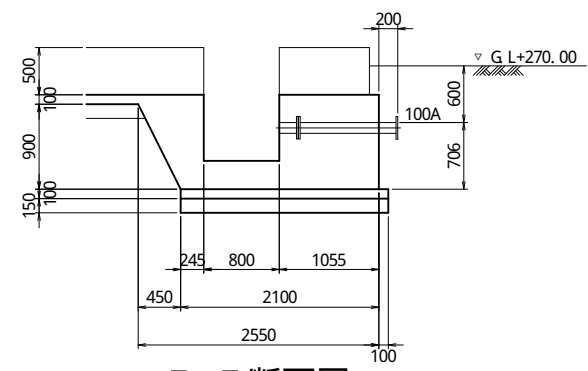
C - C 断面図



D - D 断面図



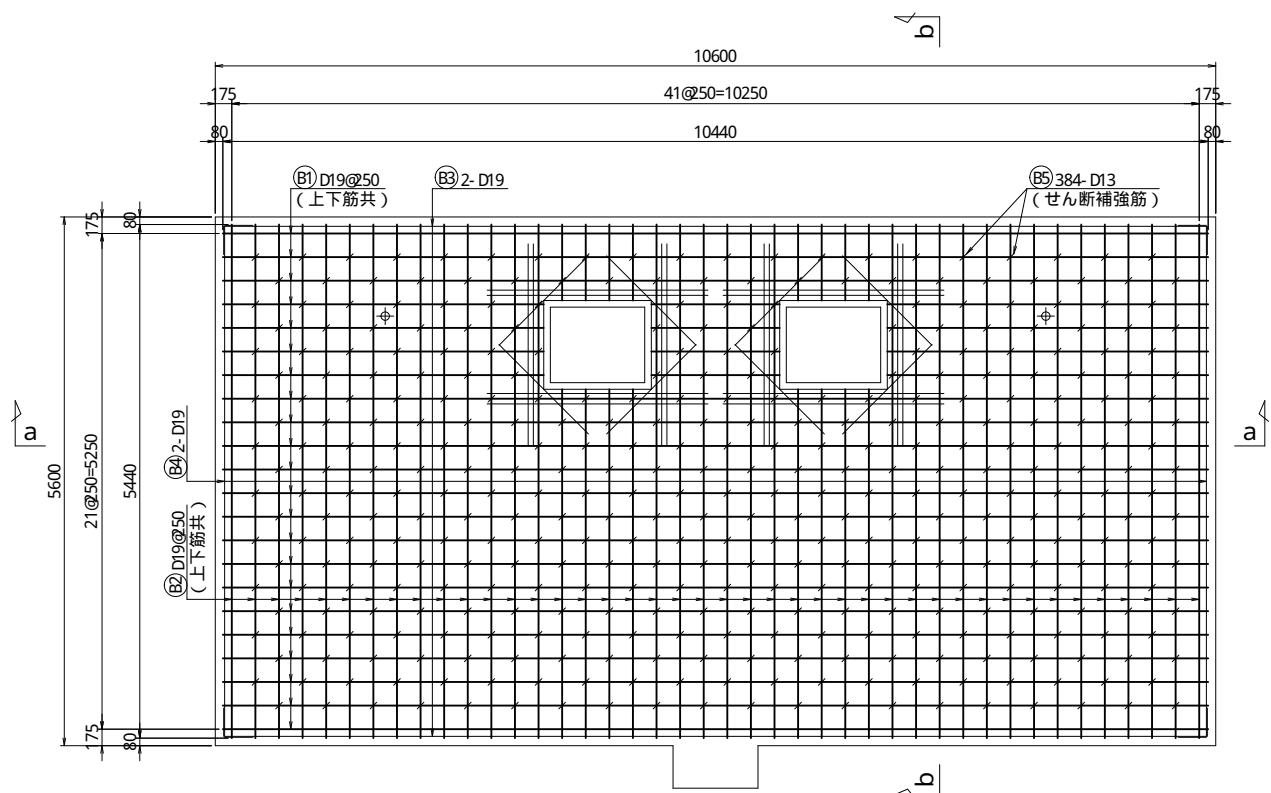
E - E 断面図



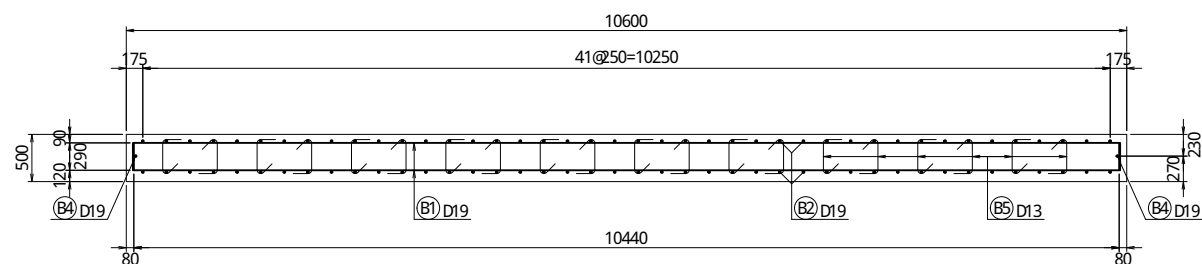
F - F 断面図

年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 基礎構造図(2)		
縮 尺	1/40	図 面 番 号	15
秩父広域市町村圏組合水道局			

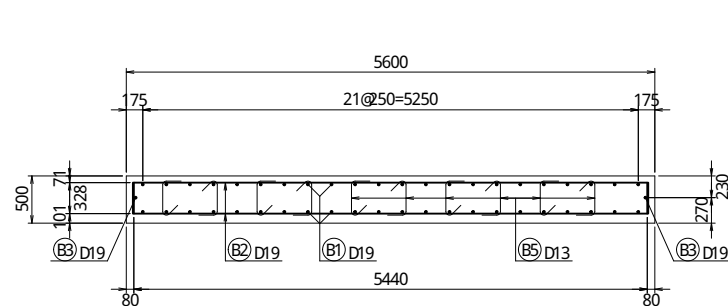
基礎配筋図 S=1/40



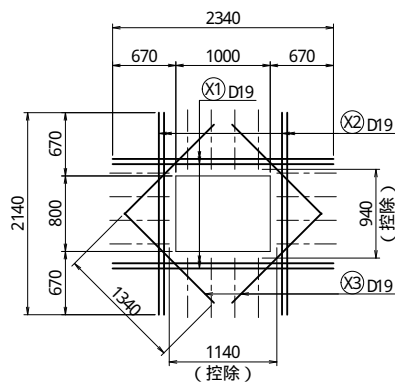
平面配筋図



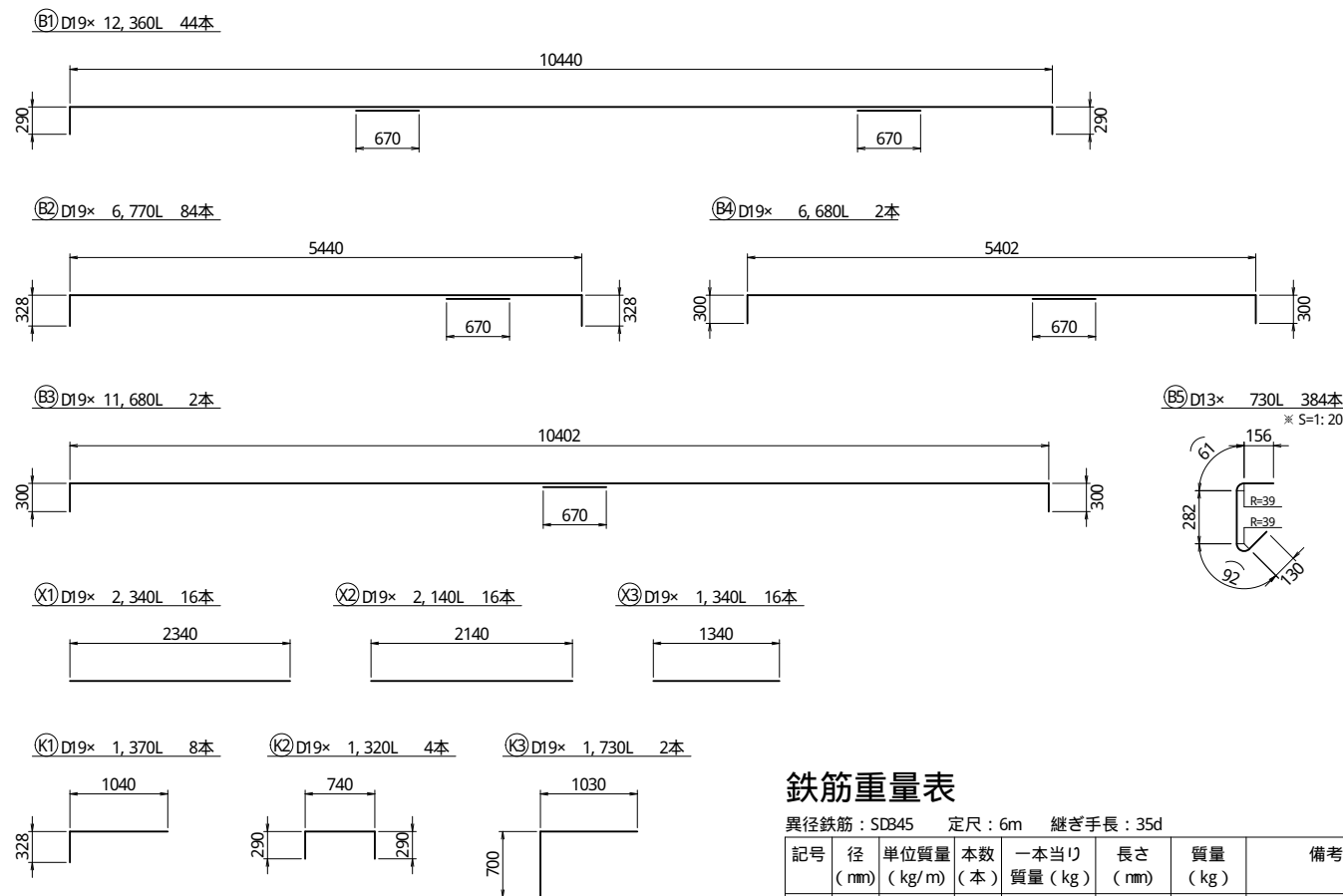
a - a 断面図



b - b 断面図



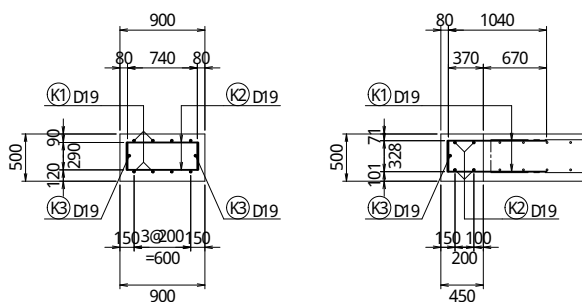
ピット部開口補強筋 (2ヶ所上下 : 4組)



鉄筋重量表

異径鉄筋 : SD845 定尺 : 6m 継ぎ手長 : 35d							
記号	径 (mm)	単位質量 (kg/m)	本数 (本)	一本当り質量 (kg)	長さ (mm)	質量 (kg)	備考
B1	D19	2.250	44	27.810	12,360	1224	基礎版部
B2	D19	2.250	84	15.233	6,770	1280	"
B3	D19	2.250	2	26.280	11,680	53	"
B4	D19	2.250	2	15.030	6,680	30	"
B5	D13	0.995	384	0.726	730	279	せん断補強筋
控除	D19	2.250	-16	2.565	1,140	-41	ビット部上端筋
控除	D19	2.250	-16	2.115	940	-34	"
X1	D19	2.250	16	5.265	2,340	84	ビット部開口補強
X2	D19	2.250	16	4.815	2,140	77	"
X3	D19	2.250	16	3.015	1,340	48	"
K1	D19	2.250	8	3.083	1,370	25	仕切弁基礎部
K2	D19	2.250	4	2.970	1,320	12	"
K3	D19	2.250	2	3.893	1,730	8	"
						SD845 D19 2,766 kg	
						SD845 D13 279 kg	
						合計 3,045 kg	

仕切弁基礎平面配筋図



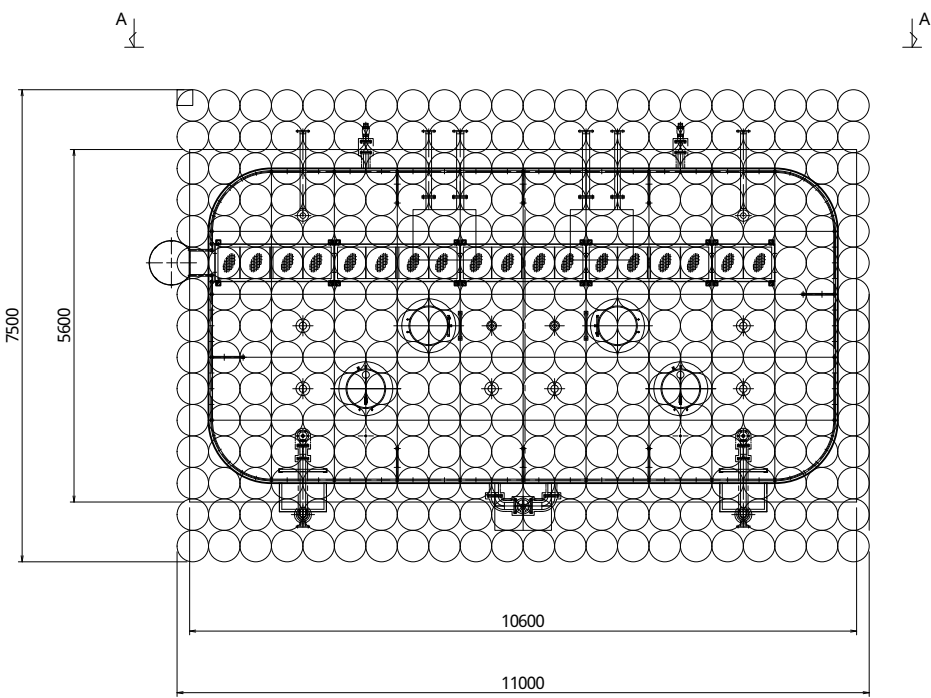
c - c 断面図

d - d 断面図

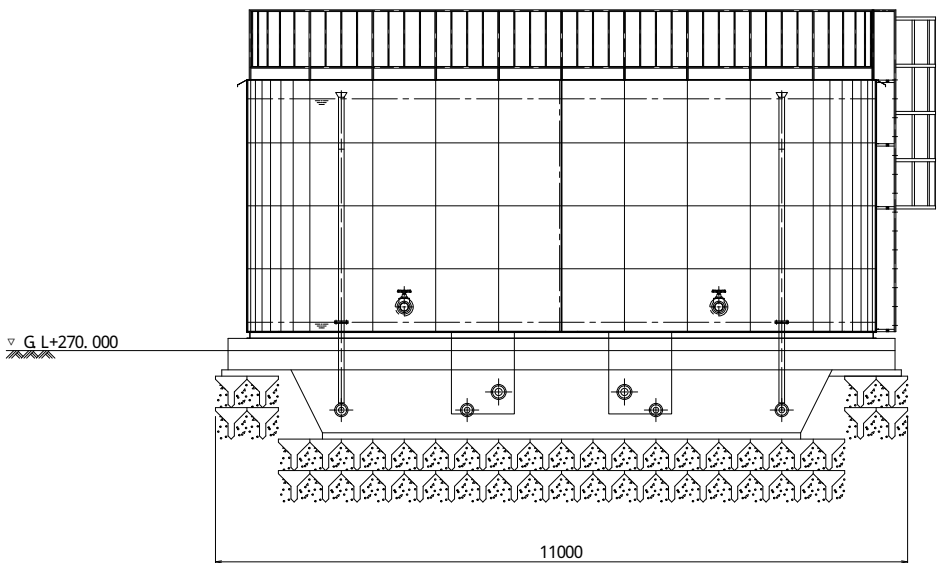
年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 基礎配筋図		
縮尺	1/40	図番	16
秩父広域市町村圏組合水道局			

コマ基礎図 S=1: 60

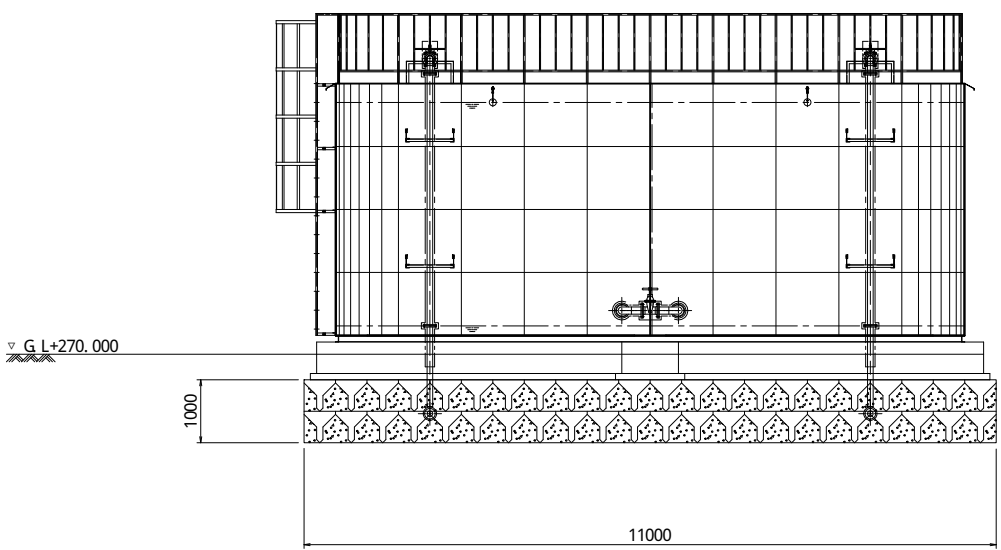
本体平面図



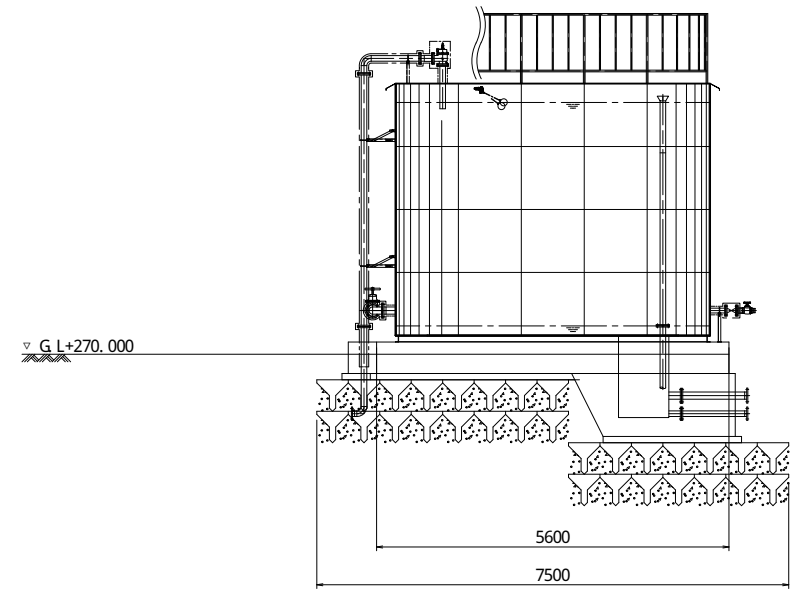
A - A 矢視図



本体立面図

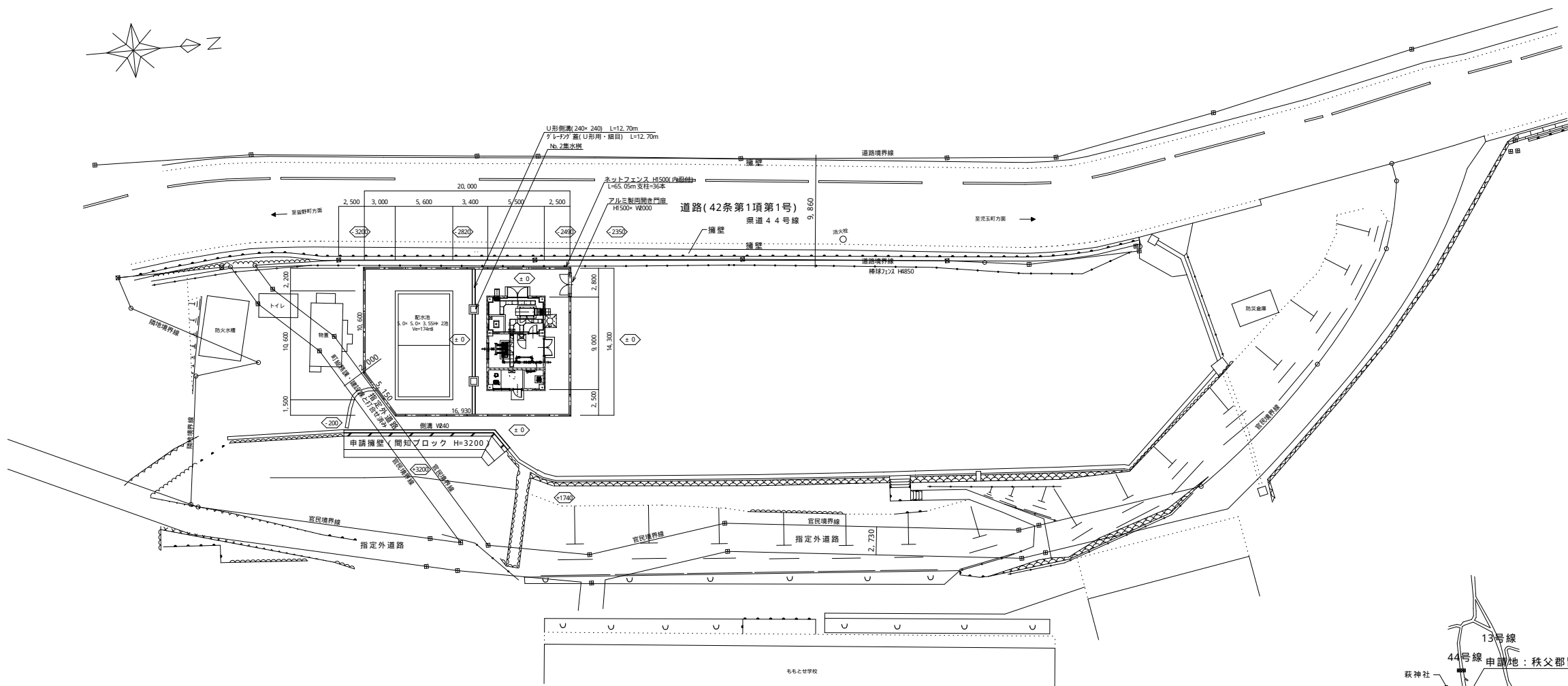


本体側面図

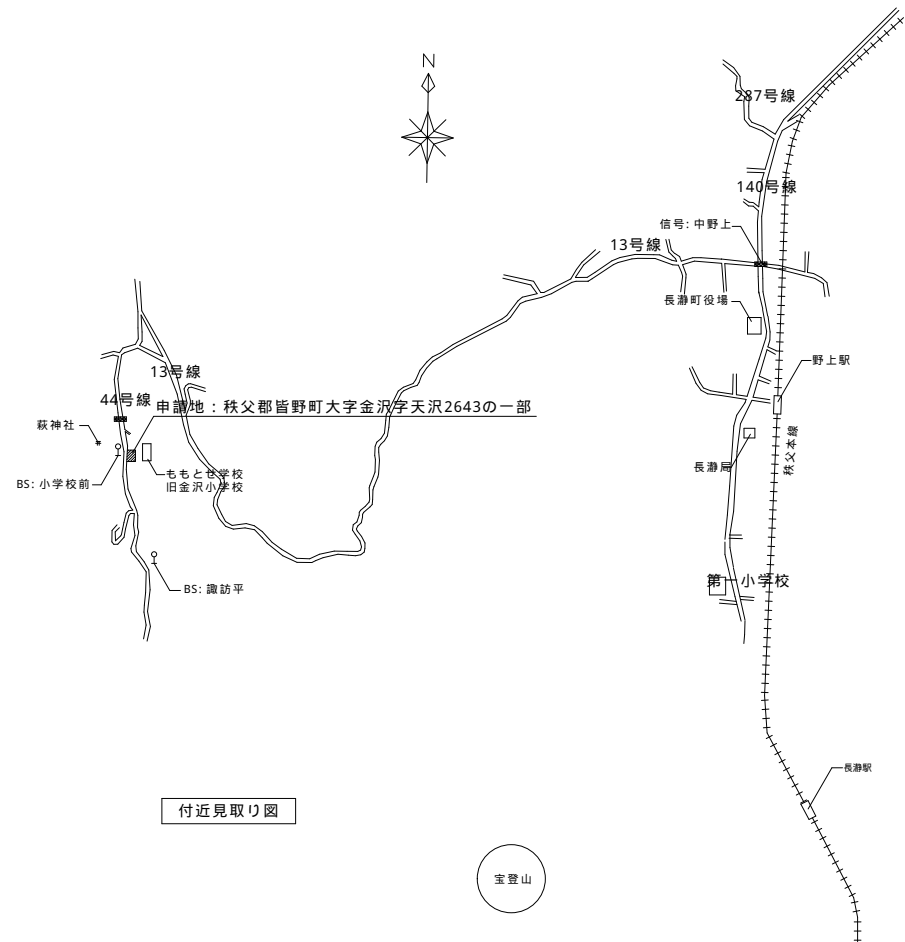


※ コマ基礎の施工においては設計担当のトップベース工法
施工管理技士の施工指導と立ち合い確認を行うこと。

年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配水池 コマ基礎図		
縮 尺	1/60	図 面 番 号	17
秩父広域市町村圏組合水道局			

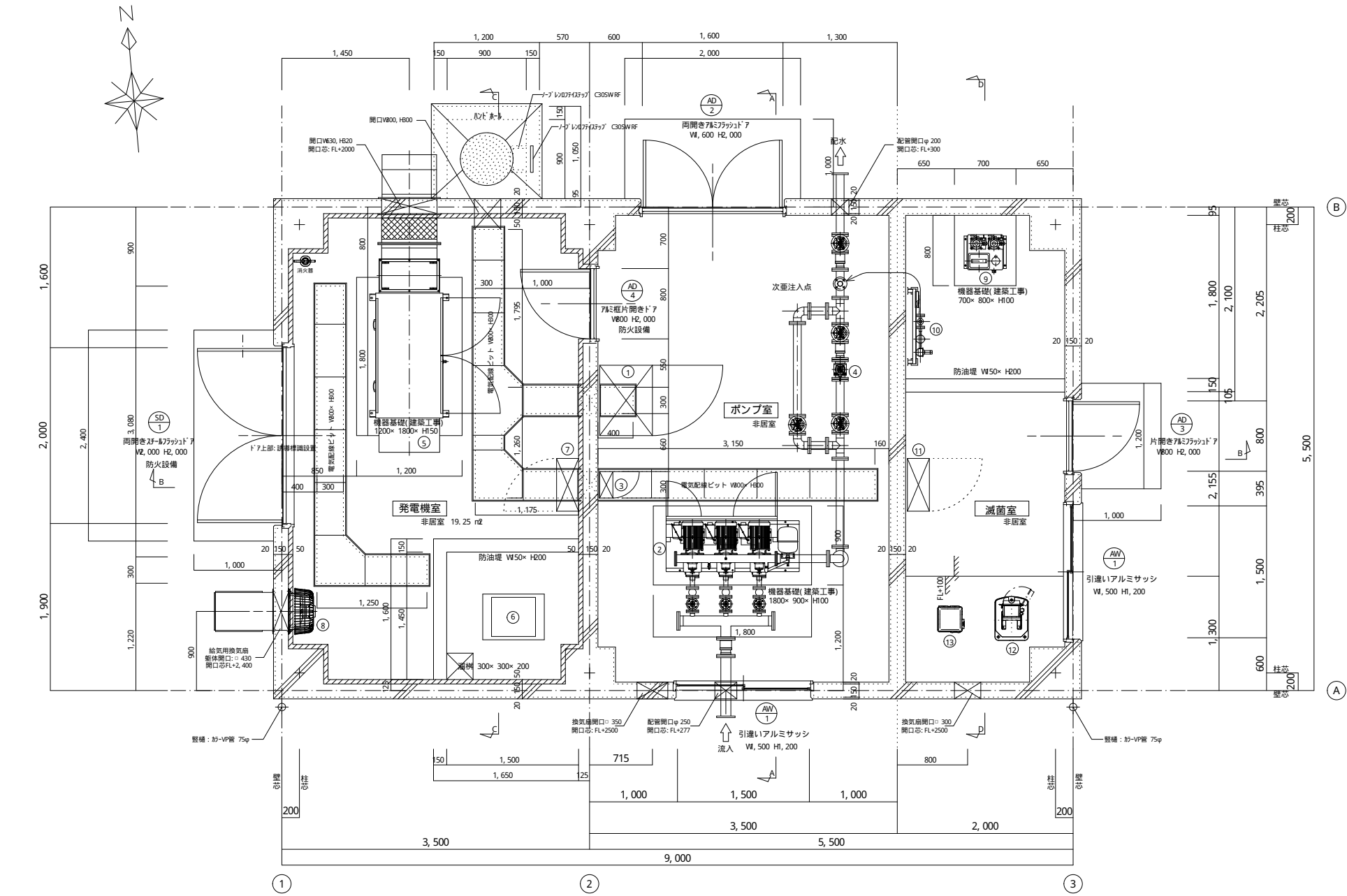


配置図 A1: S=1/250



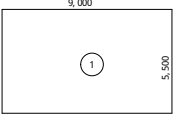
付近見取り図

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 配置図・付近見取り図		
縮 尺	1/250	図 面 番 号	18
秩父広域市町村圏組合水道局			



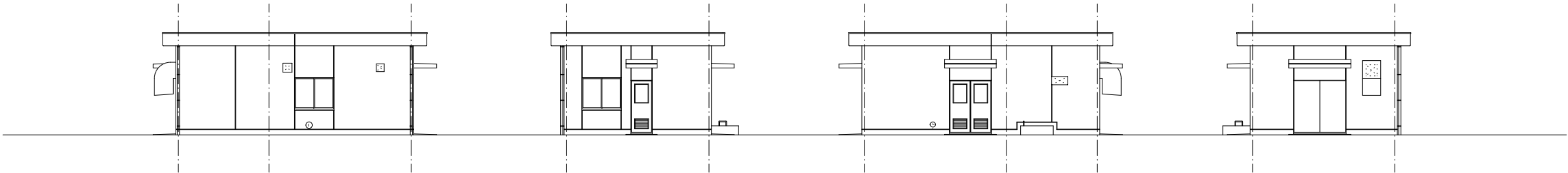
平面詳細図 A1: S=1/ 30

番号	盤名称	備考	概算重量
①	計装盤		300kg
②	給水ユニット		静荷重660kg 動荷重810kg
③	電灯分電盤		20kg
④	配水流量計		20kg
⑤	非常用発電機	39KVA	静荷重772kg 動荷重926kg
⑥	燃料タンク	95L(軽油)	205kg(軽油含む)
⑦	換気扇盤		40kg
⑧	給気換気扇		30kg
⑨	次亜貯留槽	50L(次亜塩素酸)	80kg(ポンプ、次亜含む)
⑩	次亜注入パネルユニット		15kg
⑪	次亜注入制御盤		60kg
⑫	流入残塩計		30kg
⑬	サンプリングポンプ		35kg



求積図 A1: S=1/200

建築・床面積算定		
①	9.00 X 5.50	49.500
合計		49.500
		49.50 m ²



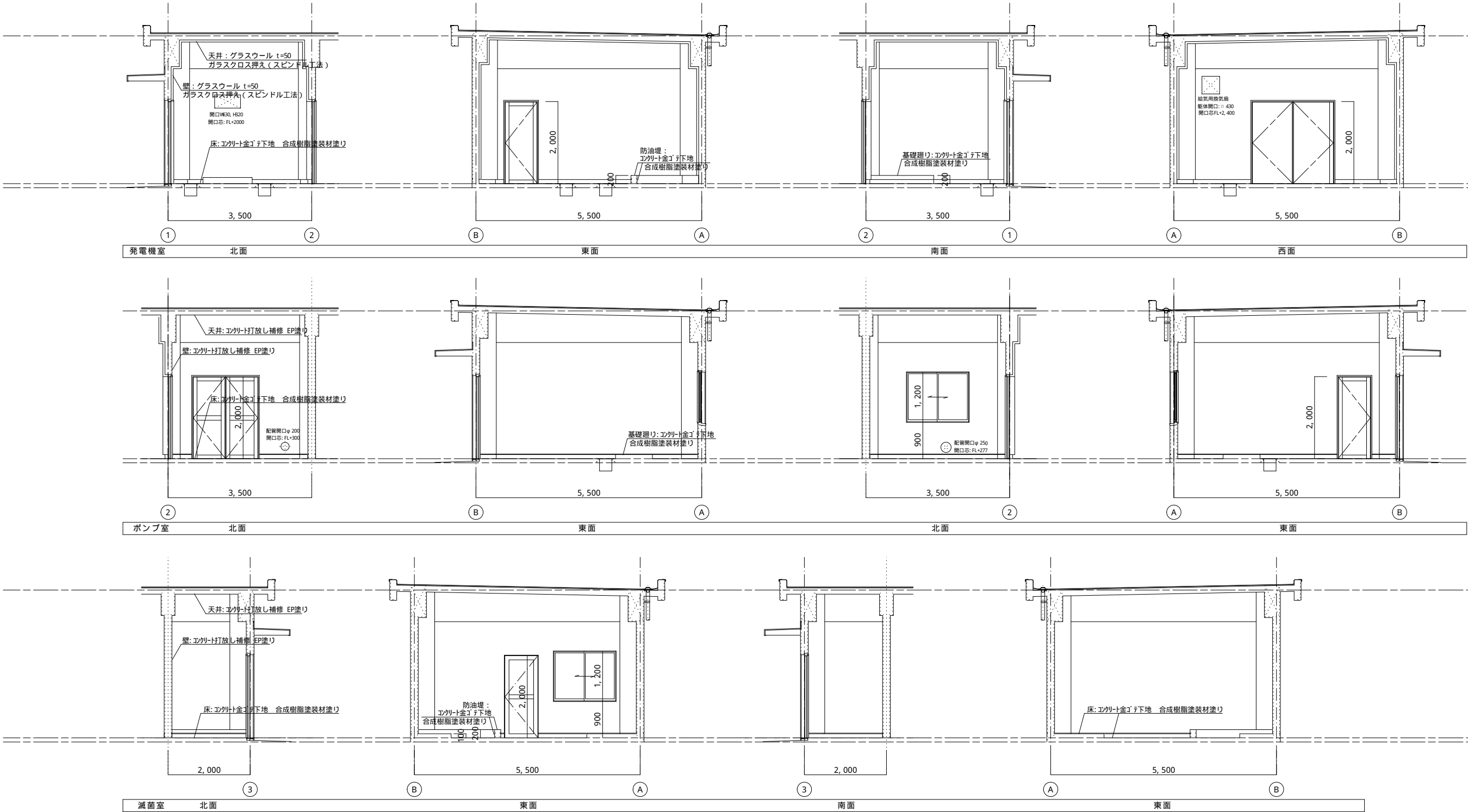
南側立面図 A1: S=1/100

東側立面図 A1: S=1/100

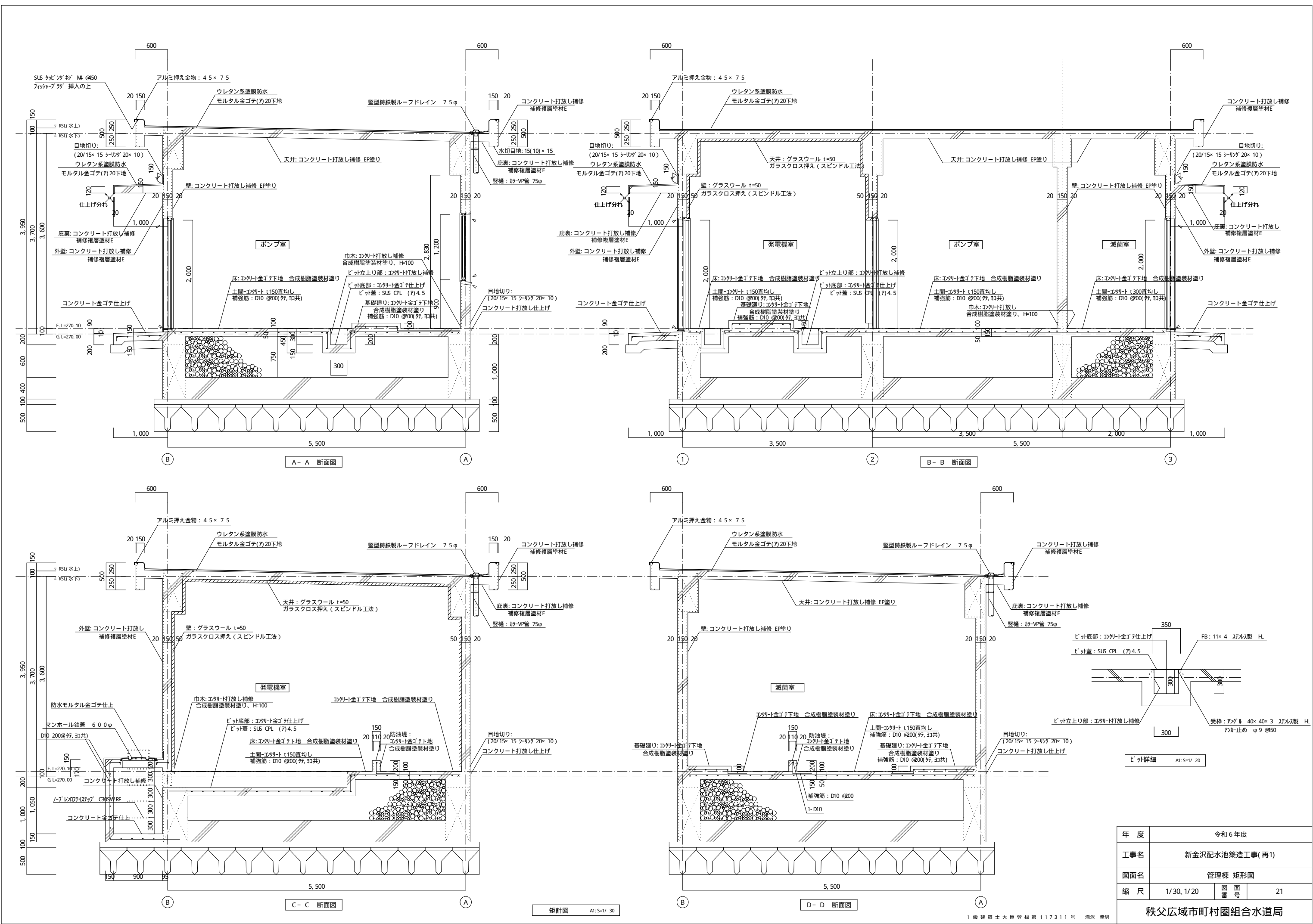
北側立面図 A1: S=1/100

西側立面図 A1: S=1/100

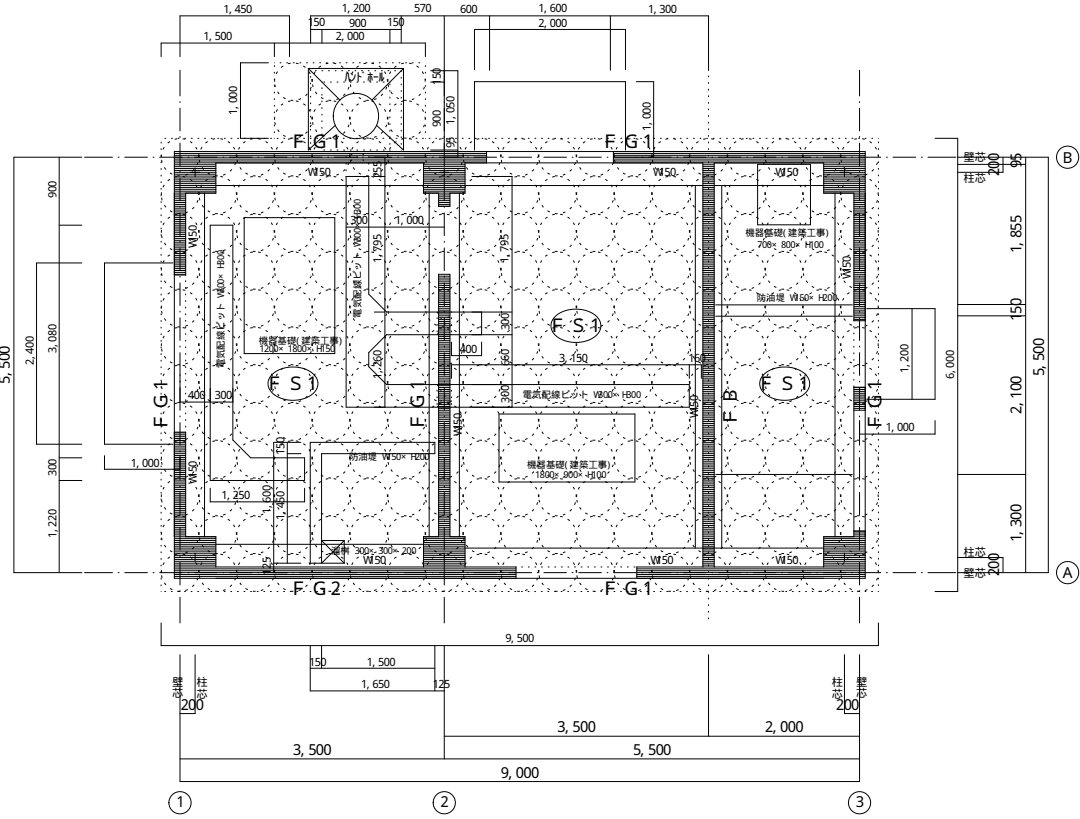
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 平面図・立面図・求積図		
縮 尺	1/200、1/100、1/30	図 面 番 号	19
秩父広域市町村圏組合水道局			



年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 展開図		
縮 尺	1/50	図 面 番 号	20
秩父広域市町村圏組合水道局			

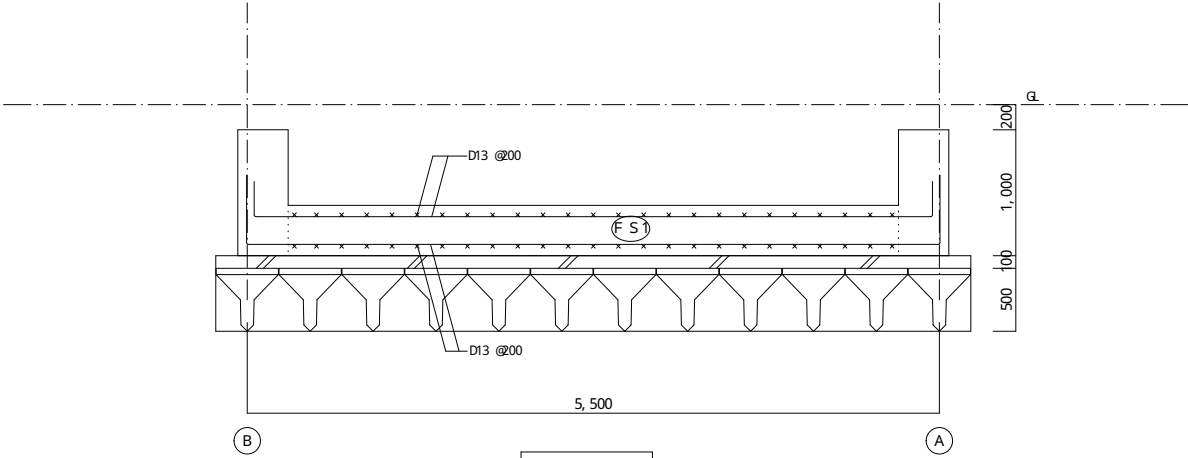


年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 矩形図		
縮尺	1/30, 1/20	図番	21
秩父広域市町村圏組合水道局			

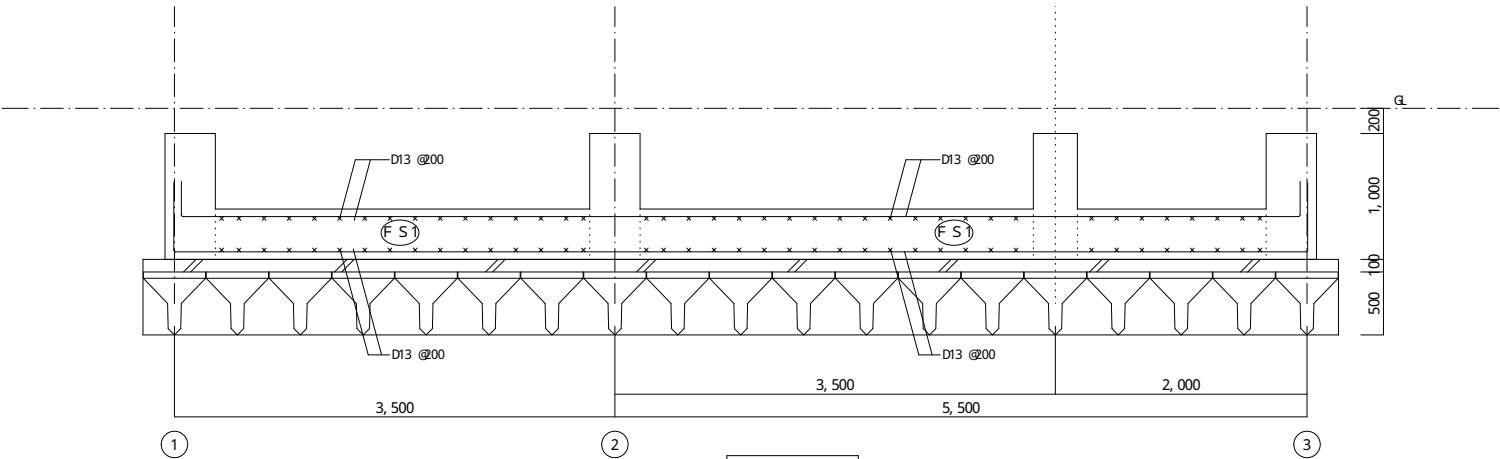


基礎伏図 A1: S=1/ 50

コマ基礎 500型(1層)



A-A 断面図

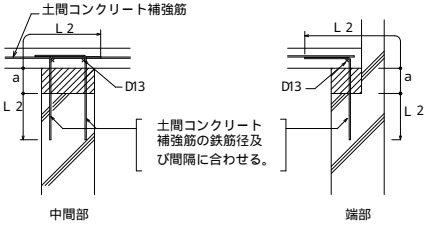


B-B 断面図

ベタ基礎詳細図 A1: S=1/ 30

地中梁リスト A1: S=1/ 30					
記 号	F G 1	F G 2		F B	
位 置	全断面	全断面		全断面	
形 状	400×1000	450×1000		350×1000	
断 面					
上端筋	4- D 2 2	5- D 2 2		4- D 2 2	
下端筋	4- D 2 2	5- D 2 2		4- D 2 2	
S T	□ - D 1 3 @ 2 0 0	□ - D 1 3 @ 2 0 0		□ - D 1 0 @ 2 0 0	

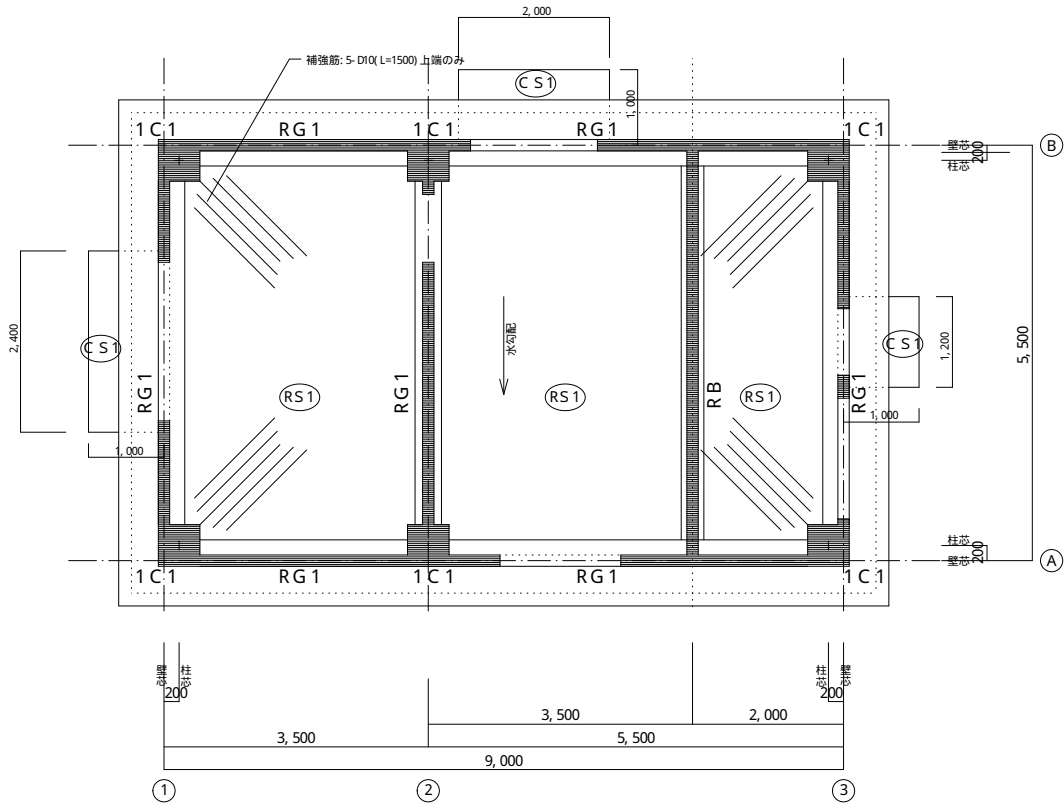
特記事項：腰筋 4-D 1 0 巾止め筋 D 1 0-1 0 0 0 @ 以下



土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋 A1: S=1/ 30

ベタ基礎配筋リスト				
符 号	版 厚	位 置	短辺方向	長辺方向
			全 域	全 域
F S 1	400	上端筋	D13 @200	D13 @200
		下端筋	D13 @200	D13 @200

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 基礎図		
縮 尺	1/50, 1/30	図 面 番 号	22
秩父広域市町村圏組合水道局			



梁伏図 A1: S=1/ 50

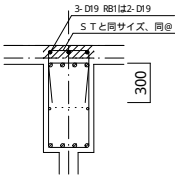
スラブ配筋リスト				
符 号	版 厚	位 置	短辺方向	長辺方向
			全 域	全 域
RS 1	150	上端筋	D13 @200	D13 @200
		下端筋	D10 @200	D10 @200
RC S 1	120～150	上端筋	D10 @200	D10 @200
		下端筋	D10 @200	D10 @200
土間	150	補強筋	D10 @200	D10 @200

柱リスト A1: S=1/ 30	
記 号	1C1
	5 5 0 × 5 5 0
B 階	
主 筋	1 0 - D 1 9
HOOP	□ - D 1 0 @ 1 0 0
D . HOOP	+ - D 1 0 @ 5 0 0

壁リスト A1: S=1/ 30		
記 号	W 1 5 0	
断 面		
縦 筋	D13-@50	
横 筋	D13-@50	
巾止め筋		
開口補強筋(縦・横)	2 - D 1 3 一部: 1 - D 1 3	
開口補強筋(斜め)	2 - D 1 3 一部: 1 - D 1 3	

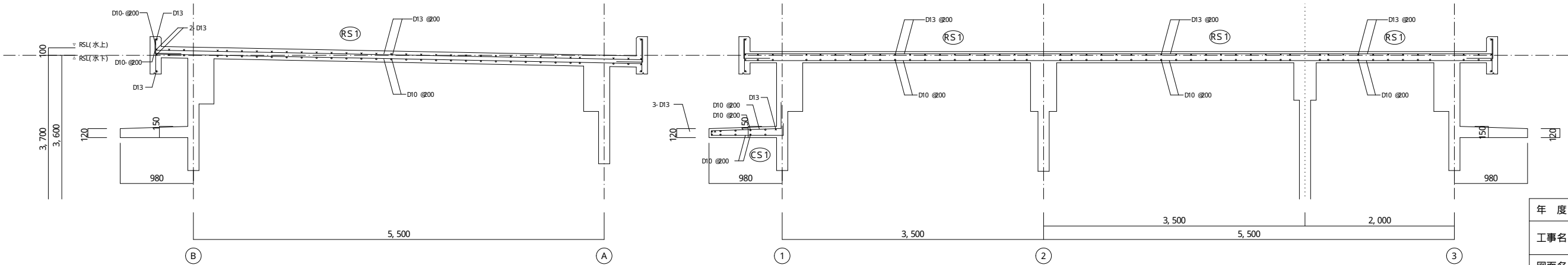
大梁 リスト A1: S=1/ 30				
記 号	RG1	RB		
位 置	全断面	全断面		
形 状	3 5 0 × 7 5 0	3 0 0 × 6 0 0		
R 階				
上端筋	3 - D 2 2	3 - D 2 2		
下端筋	3 - D 2 2	3 - D 2 2		
S T	□ - D 1 0 @ 2 0 0	□ - D 1 0 @ 2 0 0		

特記事項：腹筋 2 - D 1 0 巾止め筋 D 1 0 - 8 0 0 @ 以下



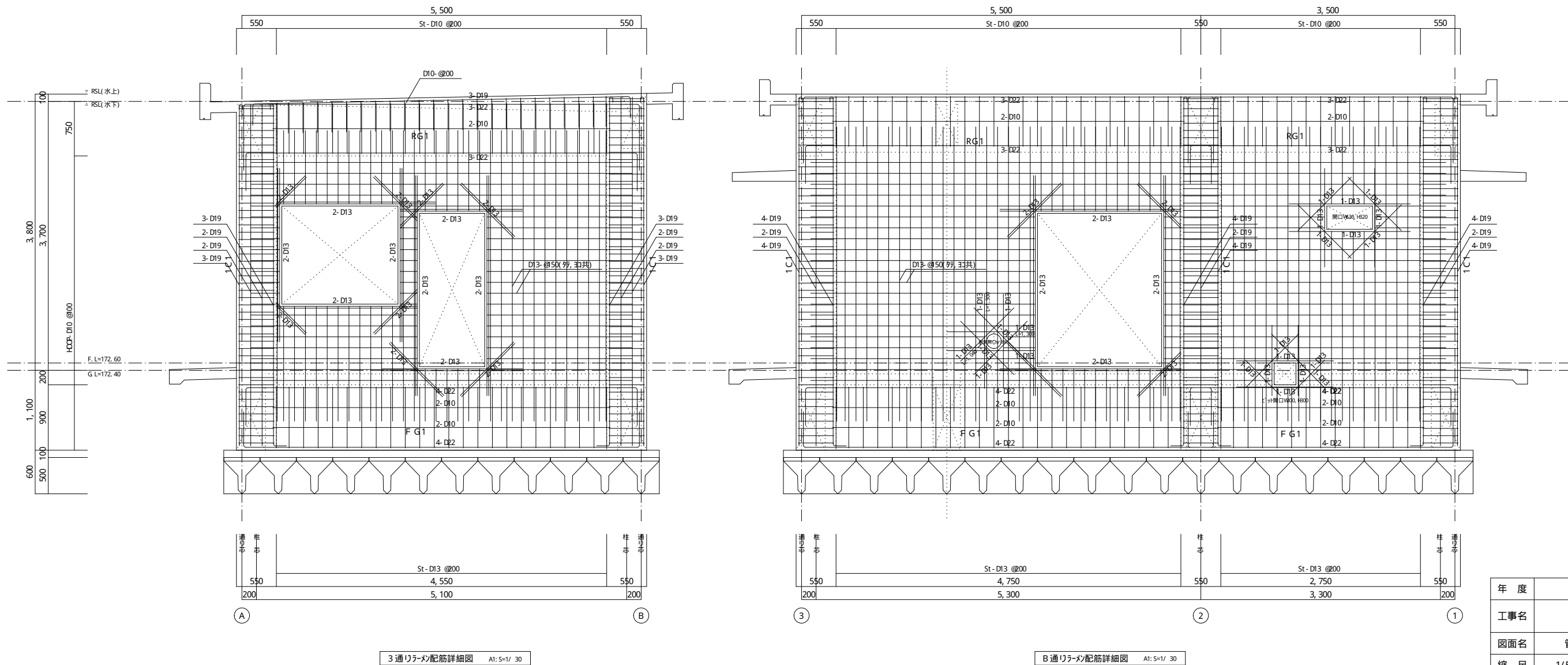
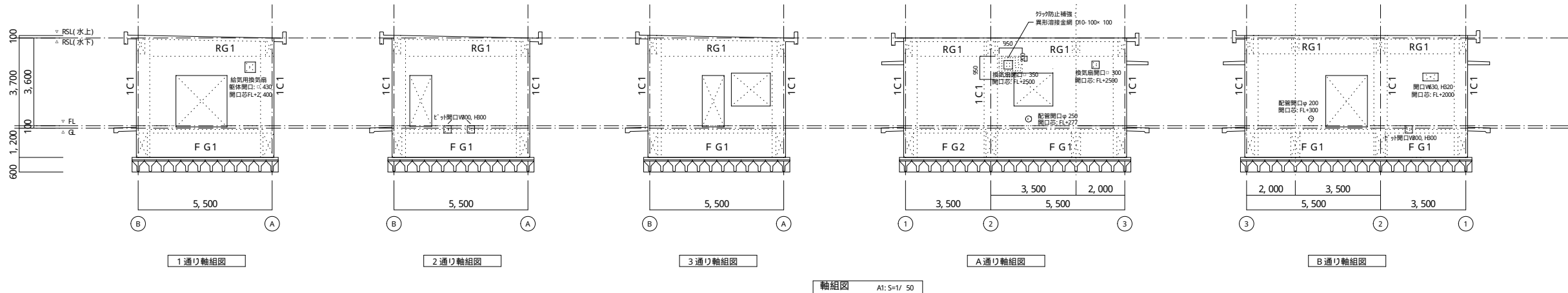
梁上端フカシ詳細 A1: S=1/ 30

特記事項：仕様規定による設計に付き、梁の定着は40d、壁の継手は40dとする。



スラブ配筋詳細図 A1: S=1/ 30

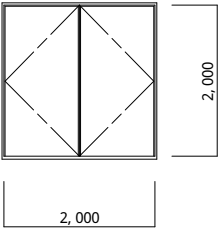
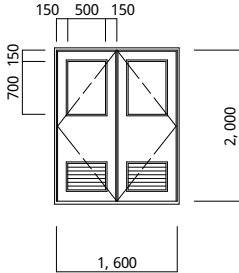
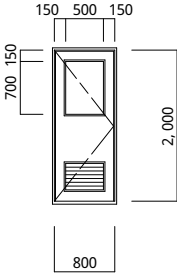
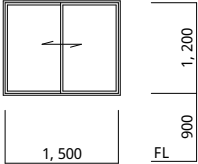
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 梁伏図・柱、梁、壁リスト、スラブ配筋詳細図		
縮 尺	1/50, 1/30	図 番	23
秩父広域市町村圏組合水道局			

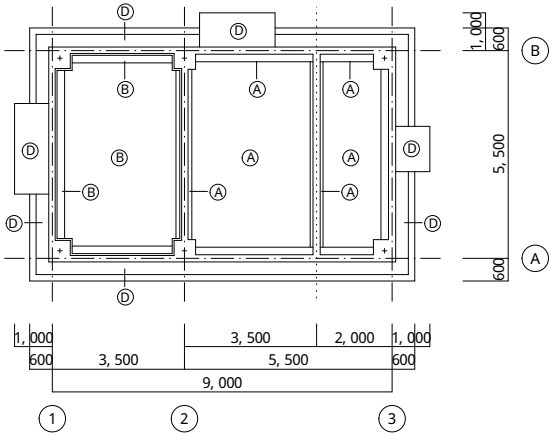


年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 軸組図、ラーメン配筋詳細図		
縮 尺	1/50、1/30	図 面 番 号	24
秩父広域市町村圏組合水道局			

外 部 仕 上 表			
場 所	仕 上	場 所	仕 上
屋 根	モルタル金ゴテ(7)20下地ウレタン系塗膜防水 X 2 工法	ハンドホール	マンホール鉄蓋 6 0 0 φ
バラベツト	コンクリート打放し補修 複層塗材E (防水型)	樋	縦樋：加-VP管 75φ 堅型鑄鉄製ルーフドレイン 75φ
軒 裏	コンクリート打放し補修 複層塗材E (防水型)		
外 壁	コンクリート打放し補修 複層塗材E (防水型) 縦、横目地切り (シーリング納め)		
庇	ウレタン系塗膜防水 モルタル金ゴテ(7)20下地 庇裏：コンクリート打放し補修 複層塗材E (防水型)		
開 口 部	アルミサッシ (カラー)、アルミドア(カラー)、スチールドア、サッシ廻りシーリング 10× 10		
出入口床	コンクリート金ゴテ仕上		
根 廻 り	コンクリート打放し 目地切り (20/15× 15 シーリング 20× 10)		

内 部 仕 上 表									
室 名	床		巾 木		腰 ・ 壁		天 井		備 考
	仕 上		仕 上		仕 上		仕 上		
発電機室	コ-クリ-ト金ゴテ下地 合成樹脂塗装材塗り		コ-クリ-ト打放し補修合成樹脂塗装材塗り		100	グラスウール t=50 ガラスクロス押え（スピンドル工法）		グラスウール t=50 ガラスクロス押え（スピンドル工法）	ビット 防油堤：H 2 0 0 発電機基礎：1 2 0 0 × 1 8 0 0 × H：F L + 1 5 0
	土間-コ-クリ-ト t150直均し 補強筋：D10 @200(併, 33共)					柱型：グラスウール t=50 ガラスクロス押え（スピンドル工法）		梁型：グラスウール t=50 ガラスクロス押え（スピンドル工法）	
ポンプ室	コ-クリ-ト金ゴテ下地 合成樹脂塗装材塗り		コ-クリ-ト打放し補修合成樹脂塗装材塗り		100	コンクリート打放し補修E P塗り		コンクリート打放し補修E P塗り	ビット
	土間-コ-クリ-ト t150直均し 補強筋：D10 @200(併, 33共)					柱型：コンクリート打放し補修E P塗り			
滅菌室	コ-クリ-ト金ゴテ下地 合成樹脂塗装材塗り		コ-クリ-ト打放し補修合成樹脂塗装材塗り		100	コンクリート打放し補修E P塗り		コンクリート打放し補修E P塗り	防油堤：H 2 0 0 機械基礎：7 0 0 × 8 0 0 × H：F L + 1 0 0 機械基礎：1 8 1 0 × 1 2 0 5 × H：F L + 1 0 0
	土間-コ-クリ-ト t150直均し 補強筋：D10 @200(併, 33共)					柱型：コンクリート打放し補修E P塗り			

建具表					S=1/ 50(A1) S=1/ 100(A1)
記 号	1 SD	法2条第九号の二〇に規定する防火戸に準じる	2 AD	3 AD	4 AD 法2条第九号の二〇に規定する防火戸に準じる
姿 図					
箇 所	発電機室		ポンプ室		減菌室
型 式	両開きスチールフラッシュドア(断熱タイプ)		両開きアルミフラッシュドア		片開きアルミフラッシュドア
数 量	1		1		1
見 込	1 3 0		7 0		7 0
材 質	スチール t=0.8		カラー		カラー
仕 上	D P 塗装 2級		メーカー仕様 ｶﾞﾗｽ対面積 0.3㎡以上、開口率: 35%		メーカー仕様 ｶﾞﾗｽ対面積 0.17㎡以上、開口率: 35%
硝 子	FW t 6 . 8		FW t 6 . 8		FW t 6 . 8
其の他	重量丁番, ドアクローザー, フランス落し, グレモン錠, ステンレス下枠他一式		丁番, ドアクローザー, シリンダー本錠錠, レバーハンドル ステンレス下枠, アルミ額縁他一式		丁番, ドアクローザー, シリンダー本錠錠, レバーハンドル ステンレス下枠, アルミ額縁他一式
記 号	1 AW				
姿 図					
箇 所	ポンプ室・減菌室				
型 式	引違いアルミサッシ (断熱タイプ H- 1, T- 1)				
数 量	2				
見 込	7 0				
材 質	カラー				
仕 上	メーカー仕様				
硝 子	F G (7) 4				
其の他	アルミ水切り、アルミ額縁, 他一式				



天井伏図 A1: S=1/ 100

天井仕上表	
記号	天井仕上げ(内部)
①	コンクリート打放し補修E P 塗り
②	ｸﾞﾗｽｸﾛｽ t=50 ｸﾞﾗｽｸﾛｽ押え(ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙ工法)
③	梁型: ｸﾞﾗｽｸﾛｽ t=50 ｸﾞﾗｽｸﾛｽ押え(ｽﾋﾟﾝﾄﾞﾙ工法)
④	
⑤	
記号	天井仕上げ(外部)
①	コンクリート打放し補修 複層塗材E 防水型
②	

○消防法, 無窓階の検討
1階 49.50 ㎡ / 30 = 1.65 ㎡(必要面積)
1/ AW
W H
1.50× 1.20× 2= 3.60 > 1.65 OK

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 仕上げ表・建具表、天井伏図		
縮 尺	1/ 100、1/ 50	図 面 番 号	25
秩父広域市町村圏組合水道局			

PW : 納入磨板ガラス
FW : 納入型板ガラス
SG : 透明ガラス
FG : 型板ガラス

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

※ 修正箇所は下線を引くこと

１．一般事項

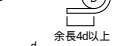
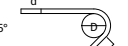
（１）構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

（２）記号

d・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値（径） D・・・部材の成、又は鉄筋内法直径
@・・・間隔 r・・・半径 C・・・中心線 o・・・部分間の内法距離 h o・・・部材間の内法高さ
ST・・・あばら筋 HDP・・・帯筋 S, HDP・・・補強帯筋

２．鉄筋加工

（１）鉄筋の折り曲げ加工

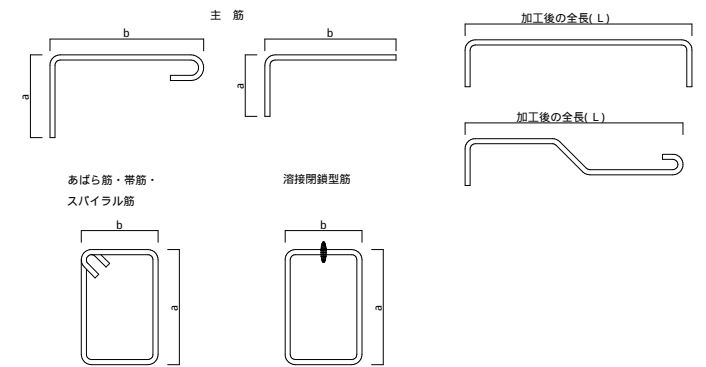
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295 SD845	D16以下	3d以上
	135°		D19～D41	4d以上
	90°		SD890	5d以上
	90°	SD490	D25以下	6d以上
	90°		D29～D41	

- [注] （１）dは呼び名に用いた数値とする。
 （２）スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
 （３）片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
 （４）スラブ筋、壁筋には、溶接金鋼を除いて丸鋼を使用しない。
 （５）折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。
 （６）SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事監理者の承認を得る。

（２）加工寸法の許容差

項 目		符 号	許 容 差
各加工寸法 ⁽¹⁾	主 筋	D25以下 D29以上D41以下	a, b a, b
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5
	加工後の全長	L	± 20

[注] （１）各加工寸法及び加工後の全長の測り方を下図に示す。



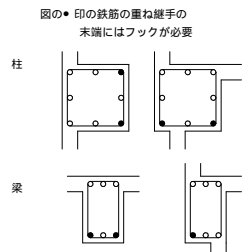
（３）鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



（４）鉄筋のフック

- a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
a. あばら筋、帯筋、および幅止め筋
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分および下端の両側にある場合の鉄筋（右図参照）
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所

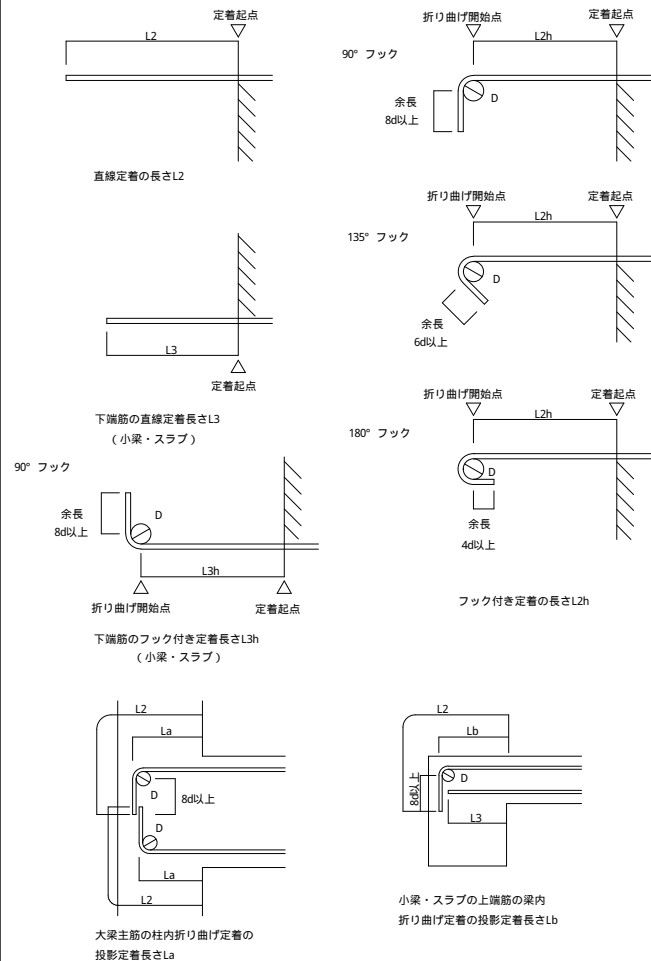


（５）定着長さ

（軽量コンクリートでは5dを加算する。）

鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	定着の長さ					
		一 般				小梁下端筋	スラブ下端筋
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La ⁽³⁾	Lb		
SD295	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d		
	24～27	30d	20d	15d	15d		
	30～36	30d	20d	15d	15d		
	39～45	25d	15d	15d	15d		
	48～60	25d	15d	15d	15d		
SD845	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	20d	20d		
	24～27	35d	25d	20d	15d		
	30～36	30d	20d	15d	15d		
	39～45	30d	20d	15d	15d		
	48～60	25d	15d	15d	15d		
SD890	21	40d	30d	20d	20d	20d	10d かつ 150以上
	24～27	40d	30d	20d	20d		
	30～36	35d	25d	20d	15d		
	39～45	35d	25d	15d	15d		
	48～60	30d	20d	15d	15d		
SD490	24～27	45d	35d	25d	—	—	—
	30～36	40d	30d	25d	—		
	39～45	40d	30d	20d	—		
	48～60	35d	25d	20d	—		

- [注] （１）フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
 （２）フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
 （３）梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL2以上とするともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいりの3/4倍以上とする。
 （４）耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。



（６）継手

■ 重ね継手 （軽量コンクリートでは5dを加算する。）

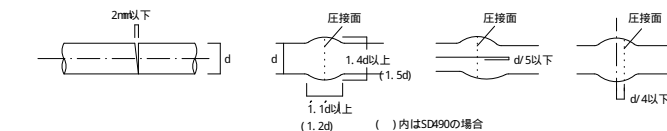
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
	48～60	30d	20d
SD845	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
	48～60	30d	20d
SD890	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
	48～60	35d	25d
	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
SD490	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d

- [注] （１）表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
 （２）直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
 （３）フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

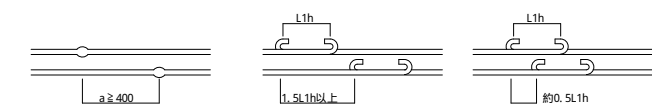
■ 継手に関する注意点

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状（平成12年建設省告示1463号下図のほか、折れ曲がり、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠陥がないもの）



・圧接継手

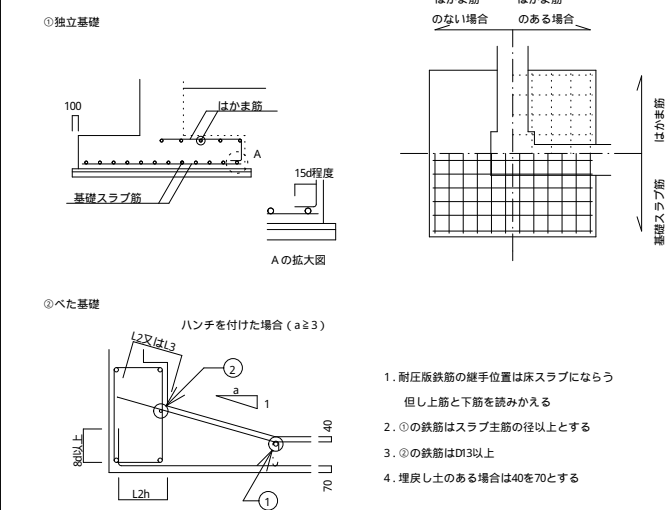


- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監理者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

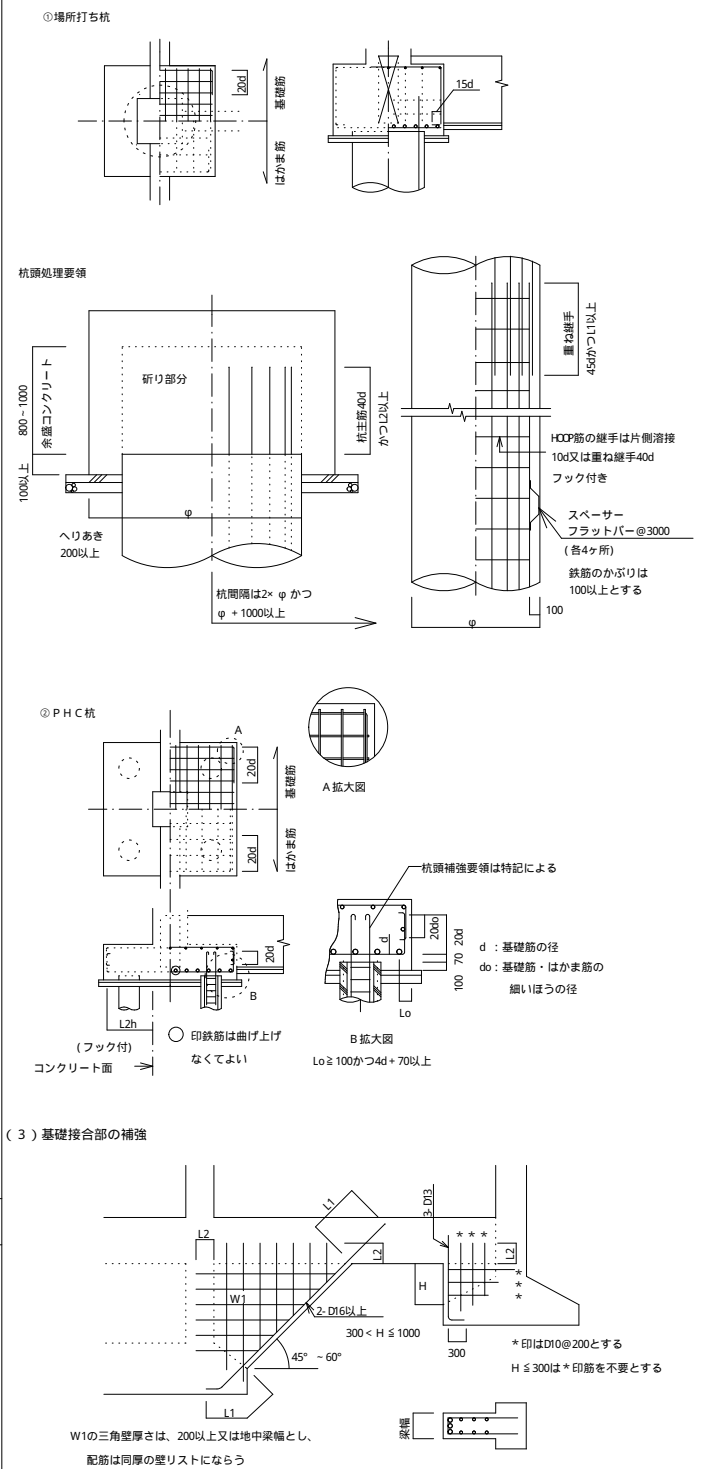
３．杭・基礎

（配筋については地震力等の水平力等を考慮して別途検討すること）

（１）直接基礎



（２）杭基礎



年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)		
縮 尺	Free	図 面 番 号	26
秩父広域市町村圏組合水道局			

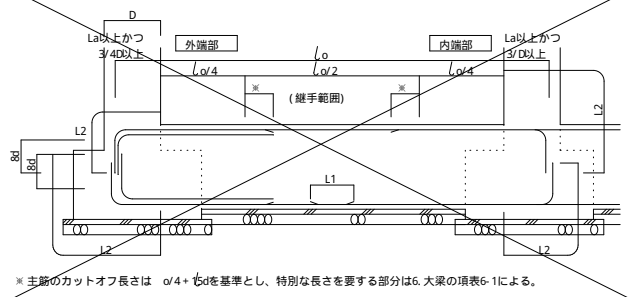
鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

4. 地中梁

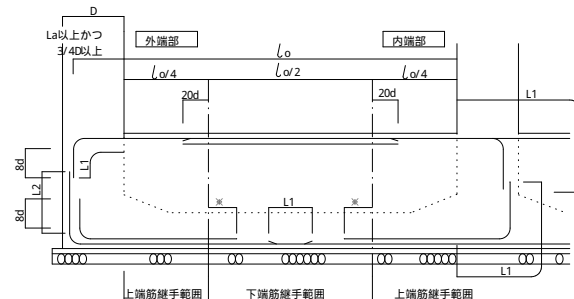
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)

(長期荷重が支配的な場合は継手は6. (2) 大梁継手位置とする。)



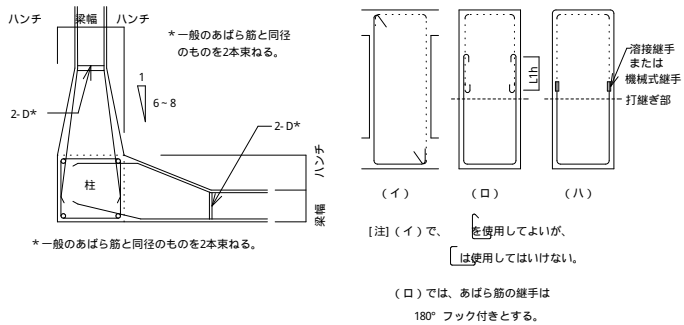
※主筋のカットオフ長さは $\alpha/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項表6-1による。

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

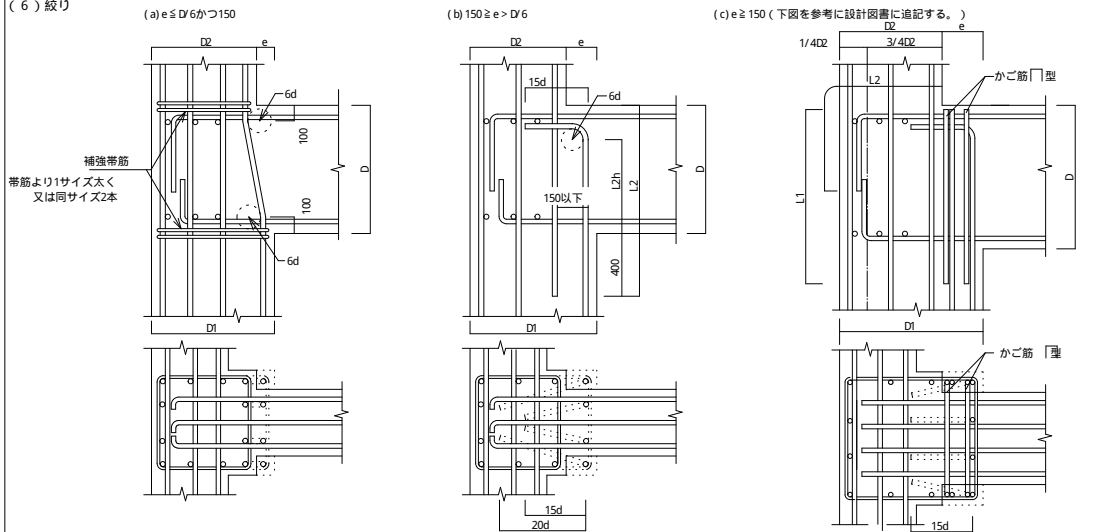


※主筋のカットオフ長さは $\alpha/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6. 大梁の項表6-1による。

(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

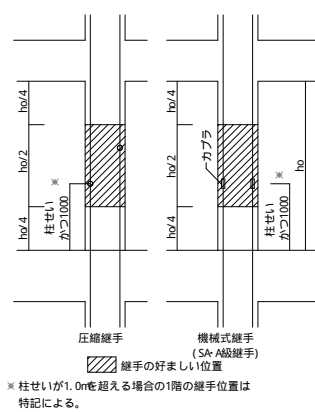


(6) 絞リ



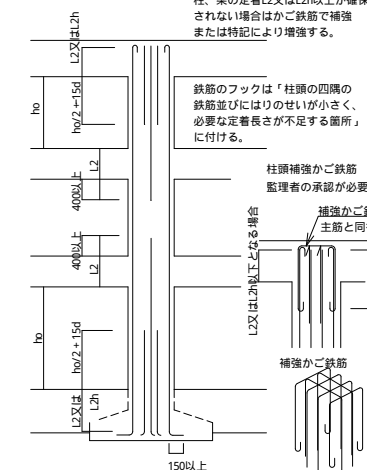
5. 柱

(1) 柱主筋の継手位置



※柱せいが1.0mを超える場合の1階の継手位置は特記による。

(2) 柱主筋の定着



柱、梁の定着L2又はL2h以上が確保されない場合はかご鉄筋で補強または特記により増強する。

鉄筋のフックは「柱頭の四隅の鉄筋並びにはりせいのせいが小さく、必要な定着長さが不足する箇所」に付ける。

柱頭補強かご鉄筋 監理者の承認が必要

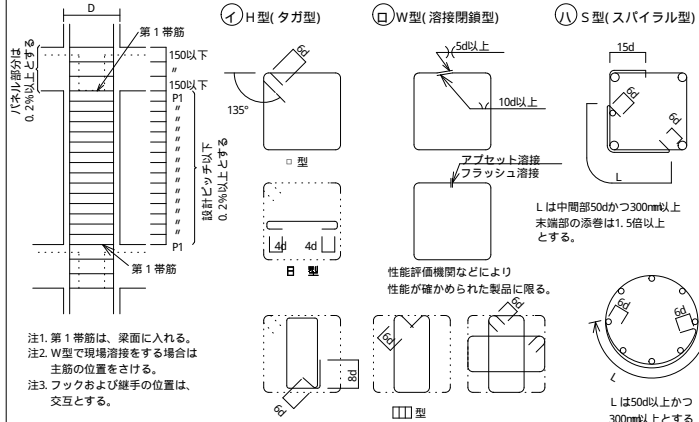
補強かご鉄筋 主筋と同径

L2又はL2h以上となる場合

L2又はL2h以上

150以上

(3) 帯筋

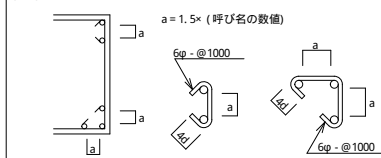


注1. 第1帯筋は、梁面に入れる。
注2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
注3. フックおよび継手の位置は、交互とする。

性能評価機関などにより性能が確かめられた製品に限る。

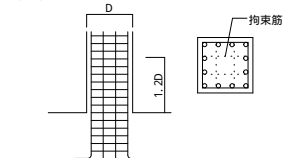
Lは中間部50dかつ300mm以上
末端部の添巻は1.5倍以上とする。

(4) 寄せ筋の保持



a = 1.5 × (呼び名の数値)

(5) 柱脚部の補強

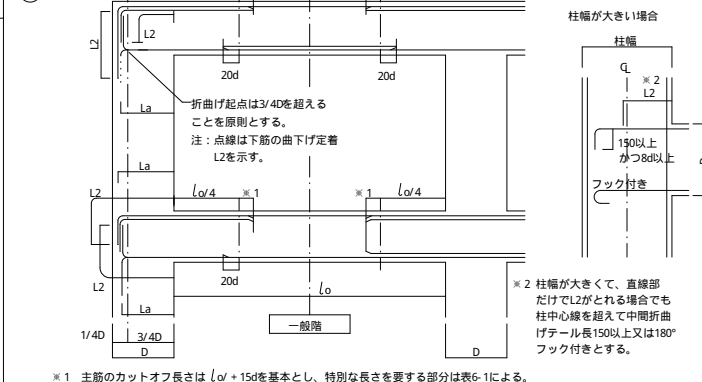


1階柱脚の主筋は梁上から柱せいの1.2倍の範囲を拘束筋で拘束する。
拘束筋は以下による。
□ 帯筋と同径・同ピッチ、× Y 2巻づつ
□ 図示による

6. 大梁

(1) 定着

① 一般



※1 主筋のカットオフ長さは $\alpha/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は表6-1による。

② ハンチがある場合

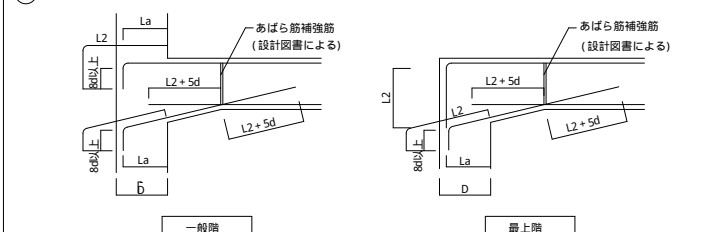
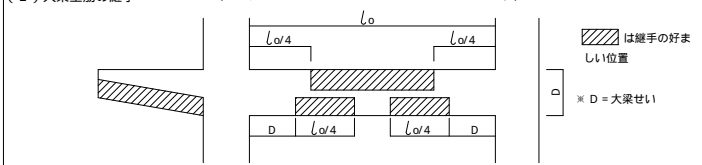


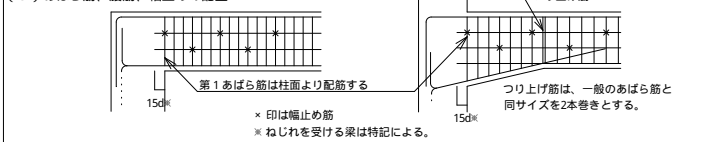
表6-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)			
部材名	$\alpha/4$ に加える長さ	部材名	$\alpha/4$ に加える長さ

(2) 大梁主筋の継手

(S4級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による。)

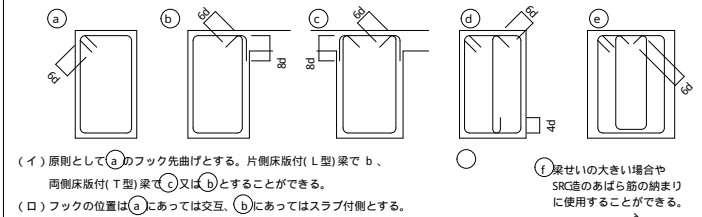


(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



(4) あばら筋の型

(注、床版がない場合は135°以上のフックとする)

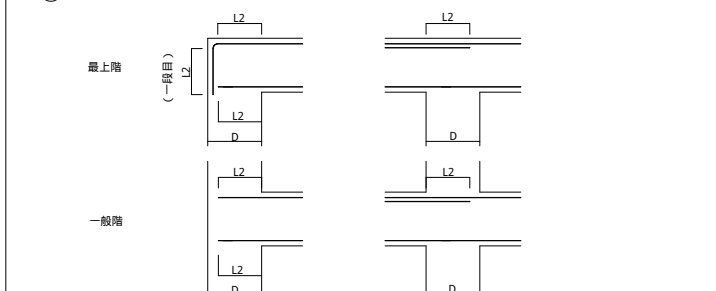


(5) 幅止め筋の本数、加工

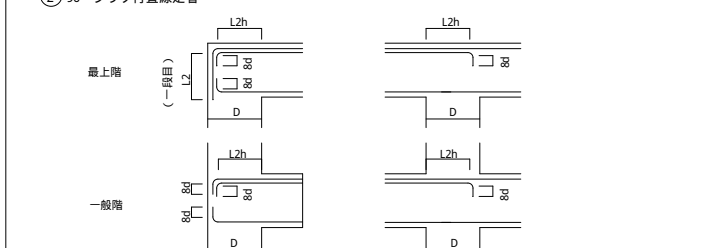
幅止め筋	D < 600 不要		幅止め筋	加工
	600 ≤ D < 900	2-D10 1段		
腹筋	900 ≤ D < 1200	4-D10 2段	幅止め筋	加工
	1200 ≤ D	D10@300以内		
幅止め筋	D ≥ 1200	D13@300以内	幅止め筋	加工
	D10@1000以内で割り付ける			

(6) 梁主筋の定着

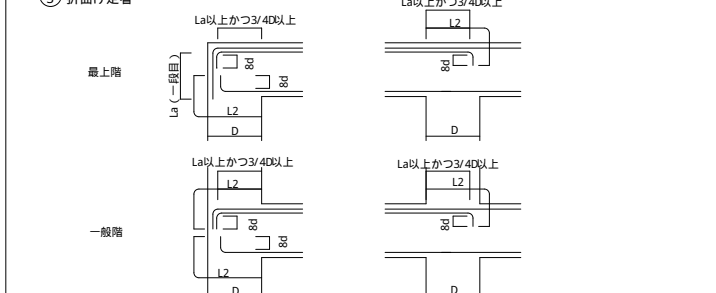
① 直接定着



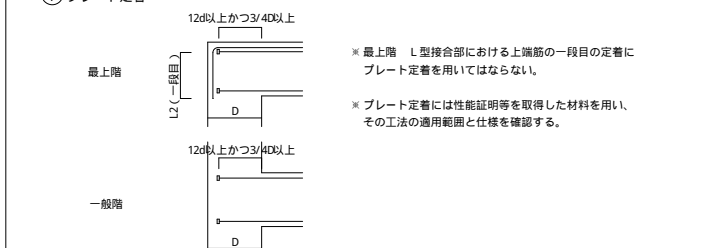
② 90° フック付直線定着



③ 折曲げ定着



④ プレート定着



年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)		
縮 尺	Free	図 番	27
秩父広域市町村圏組合水道局			

構造設計特記仕様 1

・修正箇所は下線引くと
適用は■ 印を記入する。

4. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

有 (敷地内 □ 近隣)		無 (調査計画 □ 有 □ 無)				
調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	
ボーリング調査	○		静的貫入試験		標準貫入試験	○
水平地盤反力係数の測定			土質試験		物理探査	
試験堀(支持層の確認)			平板載荷試験		液化判定	
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験		P S 検層	

注) 上記表中の資料が有るもの、調査計画が有るものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成

		(基礎・杭の位置を明記すること)										
深度	土質	N 値	標準貫入試験									
	GL ▽		10	20	30	40	50	60	○調査番地			
									○位置図			
									○支持地盤、地層及び深さに についてのコメント			
									○孔内水位 GL- m			
									○近隣データの調査番地と 設計番地とは約 mの距離がある			
									○備考 (土質試験の内容等)			

注) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長さ、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。

5. 地業工事

(1) 直接基礎

■ べた基礎 ■ 布基礎 ■ 独立基礎 試験堀 ○ 有 ○ 無
深さ GL- 1.80 m 支持層: 盛土・粘性土層 長期許容支持力 88.18kN/m² 載荷試験 ○ 有 ○ 無

(2) 地盤改良

○ 浅層混合処理工法 ○ 深層混合処理工法 ■ トップベース工法
深さ GL- 1.80 m 長期許容支持力 88.137kN/m² 載荷試験 ○ 有 ○ 無
注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針: 日本建築センター2018」を参考とする

(3) 杭基礎

○ 支持層の想定深度分布図を作成し、杭と支持層の関係を確認する。
○ 施工計画書に施工時における試験杭と本杭の支持層の確認方法を明記する。
○ 支持層の確認結果を施工結果報告書にまとめる。

杭 種	材 料	施工法	備 考
○ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートFc スランプ セメント量 単位水量 kg/m ³ kg/m ³	○ オールケーシング ○ リバースサーキュレーション ○ アースドリル ○ 拡張杭 ○ 拡張・拡張杭 ○ 鋼管補強杭 ○ 深礎 ○ 圧入 ○ 機械掘	第 年 月 日 認定

既成杭・杭種	種 類	材 料	施工法	備 考
○ PRC	○ I 種 ○ II 種 ○ III 種	鋼材○	○ 埋め込み	第 年 月 日 認定
○ PHC	○ A 種 ○ B 種 ○ C 種	鋼材○	○ 打ち込み	
○ 鋼管		コンクリート○ FC85		
○ SC		コンクリート○ FC105		

杭仕様 ○ 施工計画書承認 ○ 杭施工結果報告書

試験杭 (○ 有・○ 無)	設計支持力(kN)	杭の先端の深さ(m)	本数	特記事項

6. 鉄骨工事

(施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

- 日本建築学会「JAS56 2018年版」、「鉄骨精度検査基準」、「鉄骨工事技術指針」
- 一社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
- 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監督者の承認を必要とするもの

- 製作工場
- 製作要領書
- 工作図
- 施工計画書
- 認定工場 (大臣認定 M グレード以上)
- 材料規格証明書※、または試験成績書
- 鋼材
- 高力ボルト
- 特殊ボルト
- 鋼付スタッド
- ※一社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
- 社内検査表

(3) 工事監督者が行う検査項目

- (○ 印以外の項目の検査結果については、工事監督者に報告すること)
- 現寸検査
- 組立・開先検査
- 製品検査
- 建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

- 平成12年建設省告示第1464号二号イ、ロ
- 鉄骨造等の建築物の工事に關する東京都取扱要領
- 日本建築学会「溶接工作規程、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII」
- 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

- 溶接部の検査 (検査結果は工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備 考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監督者	
□ 完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	100%	30%	承認	※ 平成12年建設省告示 第1464号第二号による (目視及び計測)
	超音波探傷検査	100%	30%	承認	
	内質 検査 (注) ト 硬さ試験				
	示温塗料塗布				
	マクロ試験・その他				
□ 隅肉溶接	外観検査 (※)	100%	30%	承認	(注) 東京都の要綱に 基づき必要となる建築 物の場合に実施する
第三者検査機関名		未定 (都知事登録 号)			
第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した 検査会社をいう。					

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対策を建築主事等に報告すること

- 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)
- 軸力導入試験
- 要 ○ 否 高力ボルトすべり係数試験
- 要 ○ 否
- 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共同等の異常が無いことを確認する。
- トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の厚表面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、○ JIS K5621、○ JIS K5625、○ JIS K5624、(フォスター F☆☆☆☆) を使用し、2回塗り を標準とするが、実情に応じて決定すること。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

建築設備の構造安全性などに関する規定の確認 ※ 設計が該当する場合には、■ 印を記入する。

- 令第129条の2の3の事項
- 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
- 建築設備 (昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
- 屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これに類するもの (以下「屋上水櫃等」という) は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
- 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は、鉄製の支を設けたものを除き、90cm以下とする。
- 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とする。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備 * を除く) は、
- 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
- 建築物の部分を通ずる配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
- 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等、有効な損傷防止のための措置を講ずること。
- 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水櫃等については、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
- 給湯設備 * は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
- 満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
- * 「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水櫃等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。
- 必要に応じて記録試験を撮り保管すること。
- 既設部の床高等を測定し、監督者へ報告すること。

1. 本仕様の適用範囲

(1) 本仕様の適用範囲

本特記仕様および配筋標準図は、設計基準強度が18N/m²以上60N/m²以下のコンクリートと、JIS G3112に規定するSD295、SD345、SD390およびSD490の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが60m以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建築物の設計及び工事に適用する。

(2) 仕様書等の優先順位

- 設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
- ① 特記仕様
- ② 設計図 (状況、軸組図、部材リスト、詳細図など)
- ③ 標準図 (鉄筋コンクリート構造配筋標準図など)
- ④ 建築工事標準仕様書・同解説 (日本建築学会) 等

2. 建築物の構造内容

(1) 建築場所

秋父郡皆野町大字金沢字天沢2643の一部

(2) 構造種別

- 新築
- 増築
- 改築

(3) 構造設計一般建築士の関与

- 必要
- 必要としない
- 法第20条第二号 (○ RC造高さ20m超え ○ S造4階建以上 ○ その他)

(4) 階数

地下 0階 地上 1階 塔屋 0階

(5) 構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
■ 鉄筋コンクリート造 (RC)	基礎、1階	○ 免震建物
○ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)		○ 制震建物
○ 鉄骨造 (S)		○ 塔状建物

(6) 主要用途

- 事務所
- 共同住宅
- 病院
- 店舗
- 倉庫
- 水道施設

(7) 屋上付属物

- キュービクル KN
- 高架水槽 KN
- 広告塔 KN
- 太陽光発電設備

(8) 設計荷重

(a) 主な積載荷重 (N/m ²)			
室 名	床 用	架構用	地盤用
屋根	900	650	300
庇	900	650	300

(b) 1次設計用地震力
Ca=0.2 Z=1.0 R_e=1.0 W₀(地下) =

(c) 風荷重
地表面相度区分: III 基準風速V₀=30m/sec

(d) 雪荷重
■ 垂直積雪量 42cm ■ 設計用雪荷重 840N/m²

(e) 特殊の荷重及び仕上材
○ エレベーター KN 基 ○ 受水槽 KN ○ エスカレーター

(9) 構造計算ルート

X 方向 : 仕様規定 Y 方向 : 仕様規定

(10) 一次設計時用層間変形角

X 方向 1/ rad Y 方向 1/ rad

(11) 付帯工事

- 門扉
- 塙壁
- 駐輪場
- 機械式駐車場

(12) 特定天井

- 有
- 無

(13) 屋根、床、壁

材 料	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
ALC (JIS A5416)	厚	○ 壁 ○ 床版	○ スライド ○ ボルト止め
押出し成形セメント版			○ ロッキング
○ ハーフPca版	厚	○ 壁 ○ 床版	
折版	H	○ 屋根	
特殊デッキプレート 大臣認定 ()	型式 厚	○ 屋根 ○ 床版	○ Q.デッキ

年 度 令和6年度

工事名 新金沢配水池築造工事(再1)

図面名 管理棟 構造設計特記仕様(1)

縮 尺 Free 図 面 番 号 29

秋父広域市町村圏組合水道局

構造設計特記仕様 2

※ 修正箇所は下線を引くこと
適用は■ 印を記入する。

9 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

鉄筋コンクリート工事の施工に関しては記載無きは、J A555 2018による。

(a) コンクリートの仕様

本仕様書では、J A555に規定する普通骨材を用いた一般仕様のコンクリートを「普通コンクリート」と定義し、表9.1に示す様に設計基準強度が36N/mm²以下のコクリートについてはJ A555の3節～11節を適用し、36N/mm²を超えるコンクリートについてはJ A555の17節（高強度コンクリート）を適用する。また、設計基準強度もしくは品質基準強度と構造体強度補正値から定める調査管理強度以上とし、発注するレディーミクストコンクリートの呼び強度が表9.2に示すJ15規格外となる場合は、法第37条の大臣認定を受けた製品を用いる必要がある。

軽量コンクリートについてはJ A555の14節によること。

表9.1 コンクリート圧縮強度(N/mm ²)に応じた仕様書の使い分け												
設計基準強度 Fc	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51
J A555での区分	普通コンクリート						高強度コンクリート					

表9.2 レディーミクストコンクリートのJ15規格品												
調査管理強度(N/mm ²)	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51
呼び強度(J15規格外)	18	21	24	27	30	33	36	39	42	45	48	51

※ 印は規格外

(b) 品質と施工

- 構造体の計画供用期間の級は特記による。特記が無い場合は標準とする。
 - 標準 □ 長期 □ 超長期
 - (本仕様書では計画供用期間の級は、「短期」を想定していない。)
- コンクリートはJIS A 5308（レディーミクストコンクリート）に適合するJ15認証工場の製品とする。
- 設計基準強度が36N/mm²を超えるコンクリートを扱うレディーミクストコンクリート工場は、「高強度コンクリート」の製品認証を受けているが、建築基準法第37条第二号によって国土交通大臣が指定建築材料として認定した高強度コンクリートの製造工場とする。
- レディーミクストコンクリート工場および高強度コンクリートを打設する施工現場には、コンクリート主任技士またはコンクリート技士、あるいはこれらと同等以上の知識経験を有すると認められる技術者が常駐していなければならない。
- 施工者は、工事に先立ち、コンクリートの調査・製造計画、施工計画・品質管理計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの流動性は、スランプまたはスランプフローで表し、設計基準強度が36N/mm²以下33N/mm²以上の場合スランプ21cm以下、33N/mm²未満の場合スランプ18cm以下とし設計基準強度が36N/mm²超45N/mm²未満の場合はスランプ21cm以下またはスランプフロー50cm以下、設計基準強度が45N/mm²以上の場合はスランプ23cm以下またはスランプフロー60cm以下とし、特記による。
- コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.3kg/m³以下とする。
- コンクリートの乾燥ぜかり打込み終了までの時間は、原則として外気温が25℃未満の時は120分、25℃以上の時は90分とする。
- コンクリート打込み時の自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
- 打継ぎ後は構造的に影響の少ない位置を選び打継ぎ処理を行い、打込み前に十分な水濡しを行う。
- コンクリート打込み中、及び、打込み後5日間はコンクリートの温度が2度を下回らないようにし、セメントの種類に応じて湿潤養生する。

(c) 調査および構造体コンクリート強度

- コンクリートの強度を求める強度試験は、JIS A1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）もしくはJIS A1107（コンクリートからのコアの採取方法）による。
- i) 高強度コンクリート
 - 調査強度を定めるための基準とする材料は、特記による。特記のない場合は28日とする。
 - 構造体コンクリート強度を保証する材料は、特記による。特記がない場合は91日とする。
 - 構造体コンクリート強度は、次の①または②を満足するものとする。
 - ①標準養生した供試体による場合、調査強度を定めるための基準とする材料において調査管理強度以上とする。
 - ②構造体温度養生した供試体による場合、構造体コンクリート強度を保証する材料において設計基準強度に3N/mm²加えた値以上とする。
 - 調査管理強度は、以下による。
$$H F m = F c + r s n \quad (N / m m ^ 2)$$
$$H F m : \text{高強度コンクリートの調査管理強度} \quad (N / m m ^ 2)$$
$$F c : \text{コンクリートの設計基準強度} \quad (N / m m ^ 2)$$
$$r s n : \text{高強度コクリートの構造体強度補正値} J 1555による。$$
$$H F \geq 0.85 H F m - 3 \sigma \quad H \quad (N / m m ^ 2)$$
$$H F : \text{高強度コンクリートの調査強度} \quad (N / m m ^ 2)$$
$$\sigma \quad H : \text{高強度コンクリートの圧縮強度の標準偏差値} (N / m m ^ 2) \text{で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、} 0.1 (F c + r s n) \text{とする。}$$

ii) 普通コンクリート

- 調査を定めるための基準とする材料は、原則として28日とする。
- 構造体コンクリート強度は表9.3を満足すれば合格とする。

表9.3 構造体コンクリートの圧縮強度の判定基準

供試体の養生方法	試験材料 (1)	判定基準
標準養生 (2)	28日	X ≥ Fm
コ ア	91日	X ≥ Fq

ただし、X：1回の試験における3個の供試体の圧縮強度の平均値 (N/mm²)

Fm: コンクリートの調査管理強度 (N/mm²)

Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

[注] (1) 早い材料において試験を行い、合否判定基準を満たした場合は、合格とする。

(2) 工事監理者の承認を得て、供試体成型後、翌日までは20± 10℃の日光および風が直接当たらない

箇所を、乾燥しないように養生して保管することができる。

* 標準養生供試体の代わりにあらかじめ準備した現場水中養生供試体によることができる。

その場合の判定基準は材齢28日までの平均気温が20℃以上の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値が調査管理強度以上であり、平均気温が20℃未満の場合は、3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

* コア供試体からあらかじめ準備した現場かんばん養生供試体によることができる。

その場合の判定基準は材齢28日を超え91日以内のn日において3個の供試体の圧縮強度の平均値から3N/mm²を減じた値が品質基準強度以上であれば合格とする。

- 調査管理強度は、以下による。

Fm= Fq + rsn (N/mm²)

Fm: コンクリートの調査管理強度 (N/mm²)

Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)

rsn: 標準養生した供試体の材齢n日における圧縮強度と構造体コンクリートのn日における圧縮強度の差による構造体強度補正値 (N/mm²)

- 調査強度は標準養生した供試体の材齢n日における圧縮強度で表すものとし、下記の両式を満足するように定める。調査強度を定める材齢n日は、原則として28日とする。

$F \geq F m - 1.7 \sigma \quad (N / m m ^ 2)$

$F \geq 0.85 F m - 3 \sigma \quad (N / m m ^ 2)$

F: コンクリートの調査強度 (N/mm²)

σ：使用するコンクリートの圧縮強度の標準偏差値 (N/mm²) で、レディーミクストコンクリート工場の実績による。実績がない場合は、2.5N/mm²、または0.1Fnの大きい方の値とする。

(d) 検査

- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として（一財）国土開発技術センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し、工事監理者の承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- スランプの許容差は普通コンクリートの場合、スランプが8cm以上18cm以下の場合± 2.5cm 21cmの場合± 1.5cm、呼び強度27以上で高性能AE減水剤を使用する場合は± 2cm) とする。高強度コンクリートの場合は、スランプが18cm以下の場合± 2.5cm 21cm以上の場合± 2cmとし、スランプフローの許容差は、目標スランプフローが50cm以下の時は± 7.5cm 50cmを超える時は± 10cmとする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度試験は、普通コンクリートでは標準養生を行った供試体を用いて材齢28日で行い、1回の試験は、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとの3個の供試体を用いて行う。3回の試験で1検査ロットを構成する。高強度コクリートでは、打込み日かつ300m³ごとに検査ロットを構成して行う。1検査ロットにおける試験回数は3回とする。検査は適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体による試験結果を用いて行う。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生とする。
- 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は普通コンクリートでは、打込み区ごと、打込み日ごと、かつ150m³またはその端数ごとに1回行う。1回の試験には適当な間隔をおいた3台の運搬車から1個ずつ採取した合計3個の供試体を用いる。高強度コンクリートでは打込み日、打込み区かつ300m³ごとに行う。検査には適当な間隔をあけた任意の3台のトラックアジテータから採取した合計9個の供試体を用いる。検査に用いる供試体の養生方法は標準養生または構造体温度養生とする。
- 使用するコンクリートの圧縮強度の判定は、J A555による。構造体コンクリートの圧縮強度の判定は、(c) 調査および構造体コンクリート強度による。
- コンクリートの試験は、「建築物の工事における試験および検査に関する東京都取扱い要綱」第4条の試験検査機関で行うこと。

試験・検査機関名

（都知事登録 号）

代行業者名

（登録番号 号）

代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(2) 鉄筋

(a) 施工

- 鉄筋はJIS G3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）に適合するものを用いる。溶接金網および鉄筋格子は、J15 G351（溶接金網および鉄筋格子）に適合するものを用いる。
- 高強度せん断補強筋は、技術評価を取得し、建築基準法第37条の材料認定を受けたものを用いる。
- 鉄筋の加工寸法、形状、鉄筋の諸寸位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)～(3)」による。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手、機械式継手または溶接継手によることとし、鉄筋径と使用箇所を定め特記による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級				鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1) 以外の部位 (注)				
		A級	B級	SA級		
■ 重ね継手	標準図による				D16以下	壁筋等
■ 圧接継手	■ 告示1463号第2項各号	□			D19以上	柱・梁主筋等
□ 溶接継手	□ 告示1463号第3項各号	□	□			
□ 機械式継手	□ 告示1463号第4項各号	□	□	□		

[注] (1) 以外の部位の設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2020）」によって検討した部材の条件・仕様によること。

- 機械式継手および圧接継手および溶接継手は(公社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。
- ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け・覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。
- 圧接接量資格者は、(公社)日本鉄筋継手協会によって認証された技術適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。
- 機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書等を取得した定着金物を用いる。

(b) 検査

- i) 鉄筋の種類・径の検査
- 鉄筋搬入時に鉄筋の種類と径をミルシート、ロールマーク、結束ごとの表示で確認し、必要に応じて径は計測する。
- ii) 配筋の検査
- 鉄筋の数量、材質、加工形状、間隔、継手と定着の位置と長さ、カットオフ長さ等を目視、又は計測で確認する。
- iii) 鉄筋継手部の検査
- 各継手工法ごとの検査は平12建造1463号による他、4 具体的な検査方法は、(公社)日本鉄筋継手協会仕様書を参照のこと。

表9.5 鉄筋継手部の検査（検査結果は工事監理者に報告すること）

鉄筋継手工法	検査の種類	検査数量	試験方向
圧接継手	■ 外観検査	全数※	目視又は計測
	■ 超音波探傷検査	按取り1検査ロット当たり 30箇所	JIS Z3062: 2014による
	□ 引張試験による検査	按取り1検査ロット当たり ()箇所又は()%	JIS Z3120: 2014による
溶接継手	□ 外観検査	全数※	目視又は計測
	□ 超音波探傷検査	按取り1検査ロット当たり ()箇所又は()%	J 95 0005: 2017による
	□ 引張試験による検査	按取り1検査ロット当たり ()箇所又は()%	JIS Z2241: 2011による
機械式継手	□ 外観検査	全数※	
	□ 超音波探傷検査	按取り1検査ロット当たり ()箇所又は()%	J 95 0003: 2017による
	□ 引張試験による検査	按取り1検査ロット当たり ()箇所又は()%	JIS Z2241: 2011による

注1 按取り1検査ロットは、同一作業班が同一日に作業した継手箇所で200箇所程度とする。

注2 ガス圧接部の検査は超音波探傷検査によって行う場合、数ロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は超音波探傷試験に合格した部位から按取った3本以上とする。

※ 外観検査の実施は次による。（必要に応じて測定器具等の検査機器を用いること）

	自主検査	受入検査		工事監理者	備 考
		検査機関	施工者		
■ 全数	全数		全数	承認	
□ 全数	超音波探傷又は超音波測定検査実施部位	検査機関による検査部位以外		()	
□ 全数	-	全数			
□ 全数	抜き取り1検査ロット当たり()箇所又は() %	()	()	()	

- 引張試験を行う試験機関、非破壊試験を行う検査機関は、建築主、工事監理者、又は施工者が自ら契約した機関とする。
- 試験機関は、「建築物の工事における試験及び検査における東京都取扱い要綱」第4条の試験機関、検査機関は同要領第8条の検査機関とする。

（都知事登録 号）
（都知事登録 号）

(3) かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、表9.7に規定する設計かぶり厚さを10mmを減じた値とする。
- 設計かぶり厚さは、コンクリート打込み時の変形・移動などを考慮して、最小かぶり厚さが確保されるように、部位・部材ごとに定めるものとし、表9.7b以上の値とする。

表9.7 設計かぶり厚さ（単位：mm）

構造体の計画供用期間の級		標準・長期			
部材の種類		屋 内	屋 外 (2)	屋 内	屋 外 (2)
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	50	40	50
	床スラブ・屋根スラブ	30	40	40	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	40	40	50
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 (1)	30	40	(30)	(40)
直接土に接する柱・梁・壁・床および基礎の立上り部分、擁壁の壁部分		50			
基礎、擁壁の基礎・底盤		70			

[注] (1) 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じで定める。

(2) 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋外側では設計かぶり厚さを10mm減じることができる。

- 完成した構造体の各部位における最外側鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- コンクリート構造体に誘発目地・施工目地などを設ける場合は、建築基準法施行令第79条に規定する数値を満足し、構造耐力上必要な断面寸法を確保し、防水上および耐久性上有効な措置を講じなければ上記によらなくても良い。

(4) 型枠

- 型枠および支保工の存置期間は、下記による。

表9.8 型枠存置日数 昭和46年建設省告示第110号（最終改正：令和元年国土交通省告示第203号）

種 別	部 位	せき板		スラブ下、梁下		スラブ下		梁 下	
		基礎、梁側、柱、壁		早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント
セメントの種類	セメントの種類	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント	早強ボルトランドセメント	普通ボルトランドセメント
		高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種
存置期間の平均気温	存置期間の平均気温	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種

コンクリートの材令（日）	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28

コンクリートの圧縮強度	※ 5.0N/mm ²	設計基準強度の50%	設計基準強度の85%	100%
-------------	------------------------	------------	------------	------

※ J A555では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあつては5N/mm²以上、長期及び超長期の場合は10N/mm²以上、または高強度コンクリートの場合は10N/mm²以上。

注1 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。

注2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の場合も原則として行わない。

注3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注5 支柱の盛替えは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。

注6 直上階に著しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛替えを行わないこと。

注7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟 構造設計特記仕様(2)		
縮 尺	Free	図 面 番 号	30
秩父広域市町村圏組合水道局			

新金沢配水池 築造

工事設計図

令和 年 月(金 校)

仕 様 書

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所

秩父郡皆野町大字金沢字天沢2643の一部

2. 敷地面積

29,958.33㎡

3. 工事種目

新金沢配水池 ポンプ室棟 R C造平屋建て 建築面積 : 49.50㎡
1階床面積: 49.50㎡

4. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち _____の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

2 仮設工事	工事範囲すべて
3 土工	
4 地盤工事	
5 鉄筋工事	
6 コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル ・押出成形セメント板工事	
9 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工	
13 屋根及びとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
17 カーテンウォール工事	
18 塗装工事	
19 内装工事	
20 ユニット及びその他の工事	

Ⅱ 建築工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下「標仕」という。）による。

2. 特記仕様

(1)項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と○印の付いた場合は、ともに適用する。
(3)特記事項に記載の()内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4)特記事項に記載の(別-)は、標仕の「別図 各部配筋」の当該項目又は当該表を示す。
(5)特記事項に記載の(別2-)は、標仕の「別図2 ボルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の当該項目を示す。
(6) [G]印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。

Ⅲ 一般共通事項

① ①適用基準等

・建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 平成17年版）
・工事写真の撮り方（改訂第2版）建築編（建設大臣官房官庁営繕部監修）
・建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成18年版）
・

② ②工事実績情報の登録

※適用する

③ ③品質計画等

・建築基準法に基づく風圧区分等が必要とする場合は次による。
※風速 V0 = (30) m/s （平12建造第1454号第2）
※地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ
・積雪区分 平12建造第1455号 別表()
・

④ ④電気保安技術者

工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。
○要 ・不要

⑤ ⑤施工条件

下記以外は現場説明書による。
・工事用車両の駐車場 ※図示 ○ 現場説明書による
・資機材置場 ※図示 ○ 現場説明書による
・建設発生土仮置場 ※図示 ○ 現場説明書による
・ ※図示 ・

⑥ ⑥発生材の処理等

※現場説明書による ・構外搬出適切処理

⑦ ⑦環境への配慮

化学物質を放散させる建築材料等
本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図面に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。
（1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
（2）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
（3）接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難燃発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
（4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
（5）（1）、（3）及び（4）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図面に定める「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。

ホルムアルデヒド放散量	該当する材料
規制対象外	① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 接着剤等不使用 b. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
第三種	① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品

⑧ ⑧材料の品質等

本工事に使用する材料は、設計図面に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASのマーク表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとする。
（1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること
（2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
（3）安定的な供給が可能であること
（4）法令等で定める許可、認可、認定、免許等取得していること
（5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
（6）販売、保守等の営業体制が整えられていること
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図面に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会等）が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りではない。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

⑨ ⑨特別な材料の工法

標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑩ 技能士

適用工事種別

機能検定作業

(1.5.2)

仮設工事 ・とび作業

鉄筋工事 ○鉄筋組立作業

コンクリート工事 ○置枠工事作業 ○コンクリート圧送工事作業

鉄骨工事 ・構造物鉄工作業 ・とび作業

コンクリートブロック ・コンクリートブロック工事作業

・ALCパネル ・エーエルシーパネル工事作業

押出成形セメント板工事

防水工事 ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業
・合成ゴム系シート防水工事作業
・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業
・シーリング防水工事作業
・改質アスファルトシートーチ工法防水工事作業
・FRP防水工事作業

石工事 ・石張り作業

タイル工事 ・タイル張り作業

木工事 ・大工工事作業

屋根及びとい工事 ・内外装板金作業 ・スレート工事作業

金属工事 ・鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業

左官工事 ・左官作業

建具工事 ・ビル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業
・自動ドア施工作業

カーテンウォール工事 ・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ工事作業
・ガラス工事作業

塗装工事 ・建築塗装作業

内装工事 ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業
・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業

排水工事 ・建築配管作業

舗装工事 ・溶融ペイントハンドマーカ-工事作業
・加熱ペイントマシンマーカ-工事作業

植栽工事 ・造園工事作業

11 化学物質の濃度測定

(1.5.9)

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告する。
測定はパッシブ型採取機器により行う。
着工前の測定 ※行わない ・行う
測定対象室 ・図示 ・
測定箇所数 ・図示 ・
報告の様式等については、現場説明書による。

⑪ 完成時の提出図書

(1.7.1-3)（表1.7.1）

※完成図 提出部数 ※各2部 ・部（A3版第二原因及び電子媒体（CD-R））
※施工計画書 提出部数 ※1部 ・部
※施工図 提出部数 ※1部 ・部
※保全に関する資料 提出部数 ※2部 ・部

⑫ 完成写真

次のものを監督職員に提出する。ただし、原稿は撮影業者の保管とする。
分類・規格 撮影箇所数 提出部数 原稿の大きさ（mm）
○カラー ※キャビネ板 外部（ ）内部（ ）※2 ・ ※100×125以上
・ 外観正面（※1 ・ ）※5 ・
・カラー四切木製パネル 外部（ ）内部（ ）※2 ・
・カラー半切木製パネル 外部（ ）内部（ ）※2 ・
・電子データ 外部（ ）内部（ ）※2 ・ ※500画素以上
撮影業者は、建築完成写真撮影の実績がある者で、監督職員が承諾する者とする。
電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出する。
詳細は現場説明書による
設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
※図示 ・

⑬ 設備工事との取合い

⑭ 設計 G L

② 仮設工事

① 監督職員事務所

規模及び仕上げの程度は現場説明書による。

(2.3.1)

② 工事用水

構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる（※有償 ○無償）

(2.3.1)

③ 工事用電力

構内既存の施設 ※利用できない ○利用できる（※有償 ○無償）

(2.3.1)

3 土工

① 埋戻し及び盛土

種別 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種

(3.2.3)（表3.2.1）

② 建設発生土の処理

※現場説明書による ・構外搬出適切処理
・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に敷均し

(3.2.5)

4 地盤工事

1 既製コンクリート杭地盤

種類 ※通心力高強度プレストレストコンクリートく（PHC杭）

(4.3.2)

寸法及び継手

試験杭 杭径（mm） 杭長（m）及び種別 継手数 セット数 備考

本杭

先端部形状 ※開放形 ・閉せく平たん形

(4.3.2)

杭の継手 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手を
使用してもよい。

(4.3.6)

杭頭の処理 ※切断しない ・

(4.3.7)

施工法

・特定埋込杭工法
・平13国交告第1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法
・平13国交告第1113号第6による支持力算定式でα=()、β=()、γ=()
を採用できる工法
工法 ・プレボーリング拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法
杭周固定液 ・使用する ・使用しない

(4.3.3～5)

2 場所打ちコンクリート杭地盤

鉄筋の種類 S値鉄筋工事1鉄筋による

(4.5.3)

セメントの種類 高炉セメントB種 [G]

(4.5.3)

コンクリートの種別及び設計基準強度 ()種、かつ、()N/mm²以上

(4.5.3)（表4.5.1）

掘削工法 ・アースドリル工法（安定液使用 ・無水掘削）
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張り ・行う ・行わない）
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・拡底杭工法（安定液使用 ・ ）
・

(4.5.4.5)

孔壁測定 ・行う（ ） ・行わない

(4.5.4.5)

材料 ※再生クラッシュラン [G] ・切込砂利及び切込砕石

(4.6.2)

施工箇所 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）

(4.6.5)

○図示による

⑤ 鉄筋工事

① 鉄筋

鉄筋の種類 (5.2.1)（表5.2.1）

種類の記号 呼び名（mm）

○SD395A ※D16以下 ・

○SD345 ※D19以上 ・

・

・

2 溶接金網

網目の形状、寸法等 (5.2.2)

網目の形状、寸法等（縦×横）（mm） 鉄線の径又は呼び名（mm） 規 格
※100×100 ※6.0 JIS G 3551による
・ ・

③ 鉄筋の継手及び定着

継手方法等 (5.3.4)（5.4.1）（5.5.1）

部 位 継手方法 呼び名（mm）
柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・機械式継手
その他の鉄筋（ ） ※重ね継手 ・

鉄筋の重ね継手の長さ (5.3.4)
※鉄筋の重ね継手の長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示）
・

鉄筋の定着長さ (5.3.4)
※鉄筋の定着長さは、建築基準法施行令第73条による。（図示）
・

④ 鉄筋のかぶり厚さ

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地底から算定する。
・耐久性上不利な箇所での鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

(5.3.5)（表5.3.6）

施工箇所	標仕表5.3.6の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び庇等の外気に接する打放し面	※10 ○0
・	

5 既製コンクリート杭の杭頭補強

補強種別 ・A形 ・B形 ※図示

(別-1.1)

6 最上階柱頭補強

※図示

(別-2.1)

⑦ 帯筋

組立の形の種別 ※H形（□口は除く） ・

(別-2.2)

⑧ 壁開口部の補強

一般壁 ・A形 ・B形 ・図示

(別-4.2)（別-表4.3.4）

⑨ 梁貫通孔の補強

耐震壁 ※図示
補強形式 ※H形 ・M形 ・M形
配筋種別 ※図示

(別-7.1)（別-表7.1-3）

10 機械吊上げ用フック

・A種（ ）箇所 ・B種（ ）箇所 ・C種（ ）箇所

(別-7.3)

⑪ 圧接完了後の試験

抜取試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験

(5.4.9)

年 度

令和6年度

工事名

新金沢配水池築造工事(再1)

図面名

管理棟 構造設計特記仕様(1)

縮 尺

Free 図 面 番 号 31

秩父広域市町村圏組合水道局

⑥
コンクリートの強度

①
鉄骨工

普通コンクリートの設計基準強度 (6.1.4)

設計基準強度F _c (N/mm ²)	適用箇所
○24	建物躯体・土間
・21	
○18	捨てコンクリート
・15	
・12	
・9	
・6	
・3	
・0	

軽量コンクリートの設計基準強度等 (6.1.4) (6.11.1) (表6.11.1) (6.11.3)

設計基準強度F _c (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種 別	適用箇所
・21		・1種	・2種
・18		・1種	・2種
・15		・1種	・2種
・12		・1種	・2種
・9		・1種	・2種
・6		・1種	・2種
・3		・1種	・2種
・0		・1種	・2種

類別 ※ I 類 ・ II 類 (6.1.5) (6.4.1.2) (表6.1.1)

スランブ

スランブ (cm)	適用箇所
※ 18	
・	

工作物のスランブ 15又は18cm

④
コンクリートの仕上り

部材の位置及び断面寸法の許容差 (6.2.5) (表6.2.2)

※ 標仕6.2.2による

・ (適用箇所：)

合板せき板を用いるコンクリートの打設し仕上げ (6.2.5) (表6.2.3) (6.9.3)

種 別	適用箇所
・ A種	
・ B種	
・ C種	

仕上りの平たんさ (6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)

※ 標仕6.2.4による

・ (適用箇所：)

⑤
セメント

セメントの種類 (6.3.2) (6.13.2) (6.16.2) (表6.3.1)

種 類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外のすべて
・高炉セメントB種 [G]	1FLより下部 (立上り部含む)
・フライアッシュセメントB種 [G]	

普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で352 J/g以下、かつ、28日目で402 J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

⑥
骨材

編み材及び混合編み材 (6.3.3)

・フェロニッケル系スラグ編み材 [G] 使用部位 ()

・銅系スラグ編み材 [G] 使用部位 ()

・電気炉酸化スラグ編み材 [G] 使用部位 ()

砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A・B (6.3.3)

砕石及びひ砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※ A・B (6.3.3)

⑦
混和材料

種類 ※ 混和剤 ・混和剤 (6.3.5)

混和材料の使用量 ※ 標仕6.4.8(a),(b),(c)による (6.4.8)

・

8 無筋コンクリート

設計基準強度等 (6.14.1～3)

種 類	設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (cm)	骨材材の最大寸法 (mm)	適用箇所
※ 普通コンクリート	※ 18	※ 15又は18	※ 25	
・軽量コンクリート	・	・	・20	

セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種・高炉セメントB種 [G] 捨コンクリート)

⑧
コンクリート躯体表面の処理

外装タイルあと張り面の躯体表面の処理 (6.9.3.4)

MR工法を行う場合は、せき板面にMR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上り面凹凸状態とする。

目荒し工法 (高圧水洗) を行う場合は、水圧50N/mm²以上、かつ、2.5分/m²以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。 (15.2.4)

コンクリートの増打ち厚さ ※ 20mm ・

※ 施工範囲は図示による。

10 断熱材兼用型枠

適用及び適用箇所は、19章内装工事10断熱材による。 (6.9.4)

1 鉄骨製作工場 (7.1.3)

※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株) 日本鉄骨評価センター又は (社) 全国鋼構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める () グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場

・監督職員の承諾する工場

2 入熱、バス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※ 鉄骨溶接基準図による ・

適用箇所 ※ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部 ・図示 ()

3 施工管理技術者

※ 適用する ・適用しない (7.1.3.4)

4 鋼材

鋼材の材質等 (7.2.1) (表7.2.1) (7.2.4)

種類の記号	適用箇所	規格等
		※ JISによる ・
		※ JISによる ・
		※ JISによる ・
		※ JISによる ・
		※ JISによる ・
		※ JISによる ・

5 高力ボルト

ボルトの区分 (7.2.2)

※ トルシア形高力ボルト

・JIS形高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2) (別2-1.1～1.3)

※ (別2-1.1～1.3) による ・

すべり係数試験 (7.4.2)

※ 行わない ・行う (試験方法等：)

6 溶融亜めっき高力ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.2) (7.3.2) (別2-1.1～1.3)

※ (別2-1.1～1.3) による ・

摩擦面の処理 (7.12.4)

※ プラスト処理 (表面粗度50μ mφ以上)

・りん酸塩処理

すべり耐力等の確認方法 ※ すべり耐力試験方法等 ・図示

7 普通ボルト

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.3) (7.3.2) (別2-1.1～1.3)

※ (別2-1.1～1.3) による ・

8 鉄骨工作班組

・行う ・行わない (7.3.10)

9 溶接接合

開先の形状 ※ 鉄骨溶接基準図による ・ (7.6.4) (別2-3.1～3.4)

鋼製エンドタブの切除する部分 ※ 図示 (7.6.7)

スラップの形状 ※ 鉄骨溶接基準図による ・ (7.6.7)

10 溶接部の試験

超音波探傷試験 ※ 行う ・行わない (7.6.11) (表7.6.2～4)

工場溶接の場合 AQL (％) ※ 4.0 ・2.5

部	※ すべて	・	・	・
検査水準	※ 第6水準	・	・	・

工事現場溶接の場合 AQL (％) ※ 4.0 ・2.5

放射線透過試験 ※ 行わない ・行う (7.6.11)

マクロ試験 (エンドタブ使用) ※ 行わない ・行う (7.6.11)

11 スタッ
(頭付きスタッド JIS B 1198)

呼び名等

呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

12 錆止め塗装

耐火被覆材の接着する面の塗装 (7.8.3)

・行う (※ JIS K 5674 ・) ※ 行わない

13 耐火被覆

種別等 (7.9.2～7)

種 別	所要性能及び適用箇所
・耐火材	・乾式吹付けロックウール
吹付け	・半乾式吹付けロックウール
	・湿式吹付けロックウール
	・
・耐火板張り	
・耐火材巻付け	
・ラス張りモルタル塗り	
・	

耐火被覆面への錆止め塗装 ・行わない ・行う (適用箇所：)

14 アンカーボルトの保持及び埋込み工法

種別 (7.10.3) (表7.10.1)

・構造用アンカーボルト (※ 図示 ・)

・建方用アンカーボルト (・A種 ※ B種 ・C種)

15 柱底均しモルタルの工法

種別 ※ A種 ・B種 (7.10.3) (表7.10.2)

無収縮モルタルの材料及び割合 (7.2.9)

混和材	セメント系 (酸化カルシウム、カルシウムサルファルミネート等) によって膨張する性質を利用するもの) とする。
セメント	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) による普通又は早強ポルトランドセメントとする。
砂	(社) 土木学会「コンクリート標準示方書」に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。
配合比	(各重量比) (セメント+混和材)：砂＝1：1

無収縮モルタルの品質及び試験方法 (表7.2.6)

コンシステンシー	J 10 による落下時間
	練混ぜ完了から3分以内の値 8±2秒
ブリーディング	練混ぜ2時間後のブリーディング率 2.0%以下
凝結時間	凝結開始時間 1時間以上
	終結時間 10時間以内
無収縮性	材齢7日 収縮しないこと
圧縮強度	材齢3日 25.0 N/mm ² 以上
	材齢28日 45.0 N/mm ² 以上
付着強度	材齢28日 3.0 N/mm ² 以上
塩化物質	0.30kg/m ³ 以下
試験方法	(1) 日本道路公開規格 J 16 312-1999 (無収縮モルタル品質管理試験方法) による。 (2) 塩化物質は、JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) の9.6塩化物含有量の試験方法による。

1 補強コンクリートブロック造

2 コンクリートブロック

縦壁及び隅

3 A L Cパネル

4 押出成形セメント板 (ECP)

1 アスファルト防水

防水層の種類 (9.2.2.3) (表9.2.3～8)

種 類	種 別	施工箇所
屋根保護防水	・A-1 ・A-2	
	・B-1 ・B-2	
	・AI-1 ・AI-2	
	・BI-1 ・BI-2	
屋根露出防水	・D-1 ・D-2	
	・E-1 ・E-2	
屋内防水	(保護層は図示による)	

アスファルトの種類 ※ 3種 ・4種 (9.2.2)

断熱工法の断熱材 (9.2.2)

※ 押出法ポリスチレンフォーム3種bスキン層付き [G] 厚さ (mm) ※ 25 ・

厚さ (mm) ・

立上り部の保護材 (9.2.2)

・乾式保護材 ※ 押出成形セメント板 (厚さ15mm) ・

・れんが ※ JIS R 1250によるもの

・市販品のれんが又は市販品のれんが形コンクリートブロック (見え隠れ部分)

・コンクリート

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種類 (9.3.2～4) (表9.3.1)

種 別	厚さ (mm)	施工箇所
・AS-1		
・AS-2		

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種類 (9.4.2.3) (表9.4.1)

種 別	厚さ (mm)	施工箇所	仕上塗料塗り	使用分類
・S- F1	※ 1.2 ・		・シルバー ・カラー	※ 非歩行
・S- F2	※ 2.0 ・		・シルバー ・カラー	
・S- M	※ 1.5 ・		・シルバー ・カラー	
・S- M2	※ 1.5 ・			
・S- M3	※ 1.2 ・			

防水層の種類 (9.5.2.3) (表9.5.1.2)

種 別	施工箇所	備 考
・X- 1		仕上塗料塗り
○X- 2		・シルバー ・カラー
・Y- 1	※ 地下外壁防水 ・	Y- 2工法の保護シート
・Y- 2	※ 屋内防水 ・	※ 適用する ・適用しない

5 脱気装置

脱気装置の種類等 (9.2.3) (9.5.3)

防水種別	種 類	材 質	設置数量
D- 1	※ ルーフィング類製造所の仕様による	※ ルーフィング類製造所の仕様による	※ ルーフィング類製造所の仕様による
D- 2	・	・	・
X- 1	・平場部脱気型	・δ 11Fln樹脂 ・ABS樹脂	() m ² 当たり1箇所
	・立上り部脱気型	・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂	() m ² 当たり1箇所

⑥
シーリング

シーリング材の種類 ※ 下表以外は、標仕9.7.1による (9.6.2) (表9.6.1)

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
外壁取合い	ポリサルファイド系
サッシ廻り	ポリサルファイド系

接着性試験 ※ 簡易接着性試験 (9.6.5)

・引張接着性試験 (部位：)

1 石材

2 壁の石張り工法

3 床及び階段の石張り

天然石 (10.2.1) (表10.2.1.2)

施工箇所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	表面仕上げの種類

テラゾ

種石の種類 ※ 大理石 ・

表面仕上げ ※ 本磨き ・

形状・寸法 ※ 図示

外壁石張り (10.3.2.3) (10.5.2.3)

工法

・外壁湿式工法 (※ 流し筋工法 ・)

・乾式工法

石裏面処理 ・行う (・小口共)

裏打ち処理 ・行う

ドレンパイプ ※ ステンレスSUS304 ・

内壁石張り (10.4.2.3) (10.5.2.3)

工法

・内壁空積工法 (※ あと施工アンカー横筋流し工法 ・あと施工アンカー工法)

・乾式工法

石裏面処理 ・行う (・小口共)

裏打ち処理 ・行う

床石張りの裏面処理 ・行う (10.6.2)

階段石張りの裏面処理 ・行う (10.6.3)

屋内のワックス掛け ・行う (10.1.5)

1 タイル

2 張付け用材料

3 あと張り工法

4 型枠先付け工法

タイルの種類 (11.2.1)

施工箇所	形状寸法 (mm)	うわぐすり	吸水率	耐凍害性	役物	色	再生材の	備考
		無ゆづり	I II III	ありなし	ありなし	標準	特注	適用 [G]
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・		

表面仕上げの程度	・A種 ・B種 ・C種	(12.1.4) (表12.1.1)						
現場搬入時の木材の含水率	※A種 ・B種	(12.2.1) (表12.2.1)						
保存処理木材	・使用する（使用箇所： ）	(12.2.1)						
構造材及び下地材の品質の基準	※標仕12.2.1(b)(4)による	(12.2.1)						
造作材の材面の品質の基準	※A種 ・B種	(12.2.1) (表12.2.2)						
代用樹種を使用しない箇所	()	(12.2.1) (表12.2.3)						
集材材及び単板積層材のホルムアルデヒド放数量	※規制対象外 ・第三種	(12.2.2)						
構造用集成材 (12.2.2)								
施工箇所	品 名	強度等級	材面の品質	接着性能	樹種名	寸法 (mm)		
			・1種 ※2種 ・3種	・使用環境A ・使用環境B ・使用環境C				
構造用単板積層材 (12.2.2)								
施工箇所	接着性能	曲げ性能	樹種名	寸法 (mm)				
	・使用環境1 ・使用環境2							
造作用集成材 (12.2.2)								
施工箇所	樹種名	見付け材面の品質	寸法 (mm)					
		※1等 ・2等						
化粧ばり造作用集成材 (12.2.2)								
施工箇所	心材の樹種名	化粧薄板の樹種名	化粧薄板の厚さ (mm)	見付け材面の品質	寸法 (mm)			
				※1等 ・2等				
単板積層材 (12.2.2)								
施工箇所	表面の品質	防虫処理	寸法 (mm)					
	※天然木化粧加工 ・塗装加工 ・化粧加工しない (・1等・2等・3等)	・する ・しない						
※ 接着剤に含まれる可塑剤は、難燃性のものとする。 (12.2.6)								
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂（以下「ユリア樹脂等」という）又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放数量 (12.2.6)								
※ 規制対象外 ・第三種 (12.2.6)								
防腐処理 ・行う (※標仕12.2.8(C)による ・図示 (12.2.8)								
防蟻処理 ・行う (※図示 ・ (12.2.9)								
防腐、防蟻処理剤の種類及び品質 (12.2.8)								
表面処理用木材保存剤 (防腐・防蟻剤) は監督職員の承諾するものとする。 (12.2.3)								
合板のホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外 ・第三種 (12.2.3)								
普通合板 (12.2.3) (19.7.2)								
施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	その他の処理		
(床)	5.5		※1類 ・2類	広葉樹 ・1等 ※2等 針葉樹 ※C・D	・する ・しない	・難燃処理		
(壁、天井)		・ラワン ・しな	・1類 ・2類		・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理		
構造用合板 (12.2.3)								
施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理		
(床、屋根)			・特類 ※1類	・1級 ※2級	※C・D ・	・する ・しない		
天然木化粧合板 (19.7.2)								
施工箇所	厚さ (mm)	化粧板の樹種名	接着の程度	防虫処理	その他の処理			
(壁、天井)	・3.2 ※4.2 ・6.0	・なら ・しおじ	・1類 ・2類	・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理			
特殊加工化粧合板 (19.7.2)								
施工箇所	厚さ (mm)	化粧加工の方法	表面性能	加工面	接着の程度	防虫処理	その他の処理	
(壁、天井)	※4.0 ・	・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・F ・FW ・W ・SW	・表面 ・両面	・1類 ・2類	・する ・しない	難燃処理 ・防炎処理	

1 長尺金属板葺	(13.2.2.3) (表13.2.1)				
屋根葺形式		長尺金属板の種類		板厚 (mm)	
・横葺 ・心木なし瓦棒葺 ・立平葺 ・		※ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めつき 銅板及び銅帯 (CQ.CCR- 20- AZ150)		・ 0.4 ・	
屋根葺工法 ※ 図示					
下葺材料 ※ アスファルトルーフィング940					
2 折板葺	(13.3.2.3) (表13.2.1)				
形 式	形状 (mm)	材料 (規格等)	軒先面戸板	断熱材	耐火性能
※ 重ね形 ・ はざ締め形 ・ かん合形	山高 () 山ピッチ () 板厚 ※ 0.6 ・ 0.8	※ 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めつき銅板及び銅帯 (CQ.CCR- 20- AZ150)	※ あり ・ なし	※ あり 種別 () 厚さ ()mm 防火性能 ()時間 ・ なし	※ 30分 ・ なし
③ とい	この材質 ※ 配管用銅管 (○)P ・ RF-VP (○) (表13.5.1)				
銅管製の防露巻き (表13.5.4.5)					
※ 行う (施工箇所 ※ 標仕表13.5.5による)					
防露材のホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外 ・ 第三種					
この開口 ※ あり (図示) ・ なし					
ルーフドレン (表13.5.1)					
種 別		施工箇所			
・ ろく屋根用 (・ たて形 ・ 横形)					
・ バルコニー中継用					
・ バルコニー用					
4 日本瓦葺	材料 粘土瓦 ・ 釉薬瓦 ・ いぶし瓦 セメント瓦 ・ 和形 ・ 洋形 ・ 平形				
1 ステンレスの表面仕上げ	(14.2.1)				
種 類		施工箇所			
※ HL程度 ・ Nb.2B程度 ・ 鏡面 ・		下記以外の見え取りすべて			
② アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	(14.2.2) (表14.2.1)				
種 別		施工箇所			
○B-1種 (黒着色) ・ B-2種 (・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー) ・					
③ 鉄鋼の亜鉛めっき	(14.2.3) (表14.2.2)				
表面処理方法		種 別	施工箇所		
溶融亜鉛めっき		・ A種			
		・ B種			
		○C種			
電気亜鉛めっき		・ D種			
		・ E種			
		・ F種			
4 軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 (表14.4.1)				
屋外 (・ 19形 ※ 25形) 屋内 (※ 19形 ・ 25形)					
屋外の軒天井、ピロティ天井等 (表14.4.3.4)					
野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※ 図示 ・					
野縁の間隔 ※ 図示 ・					
耐風圧性を考慮した補強 ※ 図示 ・					
天井下地材における耐震性を考慮した補強 (表14.4.4)					
・ 行う (補強箇所 ※ 図示 補強方法 ※ 図示)					
5 軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナーの種類 ※ 標仕表14.5.1による ・ 図示 (表14.5.1)				
スタッドの高さが5mを超える場合 ※ 図示 (表14.5.1)					
6 金属成形板張り	(14.6.2) (表14.2.1)				
形 状	製 法	材 種	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面処理
・ スパンドレル形	・ 押し出し ・ ロール	※ アルミニウム製 ・			・ B-1種 ・ B-2種 () ・
・ パネル形	※ プレス ・				
伸縮調整継手 ※ 設けない ・ 設ける (施工箇所は図示) (表14.6.3)					
(14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1)					
種 類	最小呼称肉厚 (mm)	表面処理	固定間隔	備 考	
・ 250形	1.6	※ A-1又は B-1種	※ 固定方法及び 間隔は図示に よる。	コーナ部、突当り部等の役 物は本体製造所の仕様による。	
・ 300形	1.8				
・ 350形	2.0	・ B-2種 ()			
・ 100形	1.6				
・ 210形	1.6				
(14.2.1) (14.8.2.3) (表14.2.2)					
種 類	材料の種類		表面処理		
手すり	※ ステンレスSUS304		※ HL程度 ・ 鏡面程度 亜鉛めっき 外部 ※ C種 内部 ※ E種 ・		
	・ 鋼				
○タラップ	※ ステンレスSUS304		※ 研磨なし 亜鉛めっき 内外部 ※ C種 ・		
	・ 鋼				
⑧ 手すり及びタラップ					

① モルタル塗り	吸水調整材 (15.2.2)				
性能					
全固形分 (%)	吸水量 (g)	接着強度 (N/mm ²)	界面破壊率 (%)		
表示値± 1.0以内	30分間で1以下	0.98以上	50以下		
均質で有害と認められる異物の混入がないこと。					
防水剤 (防水モルタル塗りの混入剤) (15.2.2)					
防水剤の種類は建築用のモルタルに用いるセメント防水剤とする。 (JIS A 1404による試験)					
混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水性	
セメント重量 の5%以下	JIS R 5201の試験8において 始発 1時間以上 終結 10時間以内	70%以上	95%以下	80%以下 (294.0 kPaの 水圧を1時間 かける)	
安定性、膨張性のひび割れ及びそりがなく。 (JIS R 5201の試験9)					
既製目地材	※ 適用しない ・ 適用する (15.2.2)				
床目地	・ 設ける (工法) ※ 押し目地 ・ (15.2.5)				
床コンクリート 直均し仕上げ	下表以外は標仕6.2.4及び標仕15.3.2による (表6.2.4) (15.3.1.2)				
施工箇所		平たんさ (mm)	備 考		
・ フリーアクセスフロア (パネル構造) 範囲		1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む		
・ フリーアクセスフロア (溝構造) 範囲		3mにつき7以下			
3 セルフレベリング材 塗り (15.4.2) (表15.4.1)					
・ せつこう系 (施工箇所及び厚さ) ※ 仕上による ・ 図示 ・ () ・ セメント系 (施工箇所及び厚さ) ※ 仕上による ・ 図示 ・ ()					
④ 仕上塗材仕上げ	仕上塗材の種類、仕上りの形状等 (15.5.2) (表15.5.1)				
種 別		呼び名	仕上りの形状等		
・ 薄付け仕上塗材		・ 外装薄塗材Si ・ 可とう形外装薄塗材Si ・ 外装薄塗材E ・ 可とう形外装薄塗材E ・ 防水形外装薄塗材E ・ 外装薄塗材S ・ 内装薄塗材C ・ 内装薄塗材L ・ 内装薄塗材Si ・ 内装薄塗材E ・ 内装薄塗材W	・ ・ ・ 砂壁状 ・ 着色骨材砂壁状 ・ 砂壁状 ・ ゆず肌状 ・ さざ波状 ・ 防水形外装薄塗材E ・ ゆず肌状 ・ さざ波形 ・ 凹凸状 砂壁状 ・ ・ ・ ・ 砂壁状じゅらく ・ 京壁状じゅらく		
○ 推層仕上塗材		・ 推層塗材CE ・ 推層塗材Si ○ 推層塗材E ※ 推層塗材RE ・ 可とう形推層塗材CE ・ 推層塗材RS ・ 防水形推層塗材CE ・ 防水形推層塗材E ・ 防水形推層塗材RE ・ 防水形推層塗材RS	・ ゆず肌状 ・ 凸凹処理 ・ 凹凸模様 耐候性 ※ 耐候形3種 ・ 防水型 溶媒 ※ 水系 ・ 溶剤系 樹脂 ※ アクリル系 ・ 外観 ※ つやあり ・ つやなし ・ メタリック 防水形の増塗材 ※ 行う		
・ 軽量骨材仕上塗材		・ 吹付用軽量塗材 ・ こて塗用軽量塗材	砂壁状 平たん状		
建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた仕上塗材のホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 防火材料の指定 ※ 屋内の壁、天井の仕上材は防火材料とする。					
5 ロックウール吹付け	ロックウールのホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 (15.7.2) 接着剤のホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 (15.7.2) 吹付け厚さ (mm) ※ 図示 ・ 25 ・ (15.7.3)				
1 見本の製作等	・ 特殊な建具の仮組 (建具符号 :) (16.1.4)				
2 防犯建物部品	・ 適用する (適用箇所は建具表による) (16.1.6)				
③ アルミニウム製建具	性能等級等 ○ 建具表による (16.2.2) (表16.2.1)				
外部に面する建具					
種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所
・ A種	S- 4	※ A- 3	※ W- 4	※ 70	※ 図示
・ B種	S- 5	・	・	・	
・ C種	S- 6	A- 4	W- 5	100	
防音ドアセット、防音サッシ ・ 適用する 遮音性の等級 () 断熱ドアセット、断熱サッシ ・ 適用する 断熱性の等級 () 耐震ドアセット ・ 適用する 面内変形追随性の等級 () (16.2.4) (表14.2.1)					
表面処理 外部に面する建具 ※ B- 1種 ・ B- 2種 (・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー) 屋内建具 ※ C- 1種 ・ C- 2種 (・ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー)					
網戸 ○ 無し (16.2.3) 防虫網の材質 ※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス製 (SUS316) 形式 ※ 外部可動式 ・ 固定式					
④ 網製建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による (16.3.2) (表16.3.1) 外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による (16.3.2) (表16.2.1)				
5 網製軽量建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による (16.4.2)				

6	ステンレス製建具	簡易気密型ドアセットの適用は建具表による		(16.3.2)	(表16.3.1)		
		外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による		(16.3.2)	(表16.2.1)		
7	木製建具	表面仕上げ	※HL	・鏡面	(16.5.4)		
		曲げ加工	※普通曲げ	・角出し曲げ(補強あり)	(16.5.5)		
		かまち戸の樹種	かまち()	鏡板()	(16.6.2)		
		ふすまの上張り			(表16.6.3)		
⑧	建具用金物	※新鳥の子又はビニル紙程度(押入等の裏面は除く)			・鳥の子		
		建物内部の木製建具に使用する表面材(合板)及び接着剤のホルムアルデヒド放数量			(16.6.2)		
		※規制対象外			・第三種		
		鍵	マスターキー	※製作する	・製作しない	(16.7.4)	
9	自動ドア開閉装置	鍵箱			(16.7.4)		
		市販品					
		形式	・30組用	・60組用	・120組用		
		(16.8.2.3)(表16.8.1-3)					
10	自閉式上り引り戸装置	ドアの種類		センサーの種類			
		※スライディングドア	・マットスイッチ	※光線(反射)スイッチ			
		種類	・SSLD-1	・SSLD-2	・熱線スイッチ	・音波スイッチ	
		・DSL-1	・DSL-2	・光電スイッチ	・電波スイッチ		
11	重量シャッター	・スイングドア	・タッチスイッチ	・押しボタンスイッチ			
		種類	・SVD-1	・SVD-2	・ペダルスイッチ	・多機能便所スイッチ	
		・凍結防止措置(適用箇所は建具表による)				(16.8.3)	
		(16.9.2)					
12	軽量シャッター	材料	※SUS304、アルミニウム製等防錆性能を有するもの	(16.9.2)			
		性能	※標仕表16.9.1による	(16.9.3)(表16.9.1)			
		(16.10.2)					
		シャッターの種類				性 能	
13	オーバーヘッドドア	・一般重量シャッター	耐風圧性能()Nm ²				
		・外壁用防火シャッター	耐風圧性能()Nm ²				
		・屋内用防火シャッター					
		・屋内用防煙シャッター					
14	ガラス	開閉機能	※上部電動式(手動併用)	・上部手動式	(16.10.2)(表16.10.1)		
		危害防止機構	※障害物感知装置(自動閉鎖型)		(16.10.2)		
		一般重量シャッターのシャッターケース	※設ける	・設けない	(16.10.2)		
		開閉形式	※手動式	・上部電動式(手動併用)	(16.11.2)(表16.11.1)		
15	ガラス	スラット	材質	※JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び銅帯)	(16.11.3)		
				又はJIS G 3318(塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び銅帯)			
		形状	※インターロッキング形	・オーバーラッピング形	(16.11.4)		
		ガイドレール等	※鋼板製	・ステンレス製SUS304(厚さ1.5mm)	(表16.11.2)		
16	ガラス	耐風圧性能	()Nm ²				
		(16.12.2.3)					
		セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材質		
		※スチールタイプ	※バランスタイプ	・スタンダード形	※溶融亜鉛めっき鋼板		
17	ガラス	・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	・ステンレス鋼板		
		・ファイバークラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形	(SUS304)		
		・パーチカル形					
		耐風圧性能	()Nm ²				
18	ガラス	板ガラスの種類、厚さ等は建具表による	(16.13.2)				
		・ガラスブロック	(16.13.5)				
		表面形状	呼び寸法(mm)	厚さ(mm)	色 調	防火認定	
		・正方形	・	・	※クリア	・熱線反射	※なし
19	ガラス	・長方形	・	・	・乳白色	・カラー()	・あり
		(16.13.2)(表9.6.1)					
		建具の種類	材 種				
		アルミニウム製	※シーリング材	・ガスケット(FIX部はシーリング材)			
20	ガラス	鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材				
		ステンレス製	※シーリング材				
		防火戸のガラス留め材は、防火戸が建築基準法に基づき定められ又は認定を受けた条件による。					
		板ガラスをはめ込む溝の大きさ					
21	ガラス	(16.13.3)					
		標仕16.13.3以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は(社)日本建築学会					
		JAS 17 ガラス工事「納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員					
		に提出する。					
22	ガラス	-ガラス用フィルム-					
		名 称	種 類	張り面	性能値		
		※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り	・外張り	飛散防止率 DI	
		品質 JIS A 5759による					
23	ガラス	年度	令和6年度				
		工事名	新金沢配水池築造工事(再1)				
		図面名	管理棟 構造設計特記仕様(3)				
		縮 尺	Free	図 面	33		

① 材料

建物内部に使用するコリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放数量
※規制対象外 ・ 第三種
建物内部に使用する塗料の材質 ・ 水系 ・
防火材料 ※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 (18. 1. 3)
・ 次の箇所を除き防火材料とする。 (施工箇所：)

② 素地ごしらえ

亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえの種別 (18. 2. 4) (表 18. 2. 3) (表 18. 3. 4)

種 別	施工部位及び塗料種別
A種	2液形ポリウレタンエナメル塗り、 アクリルシリコン樹脂エナメル塗りの場合
B種	A種、C種以外
C種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合及び鋼製建具等

せつこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別 (18. 2. 7) (表 18. 2. 7)
種別 ・ A種 ・ B種 (施工箇所：)

3 床用塗料塗り

材質 ウレタン樹脂系塗料 (※ 標準色 ・)
仕上種別 ※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ
塗布量 プライマー塗りのうえ主剤2回塗りとし、総塗布量は0. 5kg/㎡以上とする

4 防塵用塗料塗り

材質 水性アクリル系樹脂塗料 (※ 標準色 ・)
仕上種別 コーティング (ローラーばけ塗り)
塗布量 主剤2回塗りとし、総塗布量は0. 25kg/㎡以上とする。

⑨ 内装工事

1 接着剤
(内装工事全般)
紙壁施工用でん粉系接着剤、コリア樹脂等又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放数量
※規制対象外 ・ 第三種
※ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。

2 ビニル床シート、
ビニル床タイル及び
ゴム床タイル張り

ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能
帯電防止 ・ 帯電防止性能評価値 (JIS A 1455) 1. 2以上 ~ 3. 2未満
又は体積電気抵抗値 (JIS A 1454) 1×10⁷~10¹¹程度
耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩耗性試験、
層間はく離強度試験 (発泡層のあるビニル床シートのみ) 及びキャスター性試験
等の試験後、異常がないこと
ビニル床シート

種 類	記号	施工箇所	色 柄	厚さ (mm)	特殊機能
※ 発泡層のないもの	※ NC ・		※ 無地 ・ マーブル柄	※ 2. 5 ・	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重
・ 発泡層のあるもの	・		※ 柄物 ・ 無地	・	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重
・					

工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突付け (施工箇所：)

ビニル床タイル

種 類	記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	厚さ (mm)	特殊機能
・ エポキシ樹脂床タイル (軟質)	CTS		※ 無地 ・ 柄物	・ 300× 300 ・ 450× 450	※ 2. 0 ・	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重
・ エポキシ樹脂床タイル (軟質)	HT		※ 無地 ・	・ 300× 300 ・ 450× 450	※ 2. 0 ・	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重
・ エポキシ樹脂床タイル (軟質)	HT		※ 無地 ・	・ 300× 300 ・ 450× 450	・	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重
・ 重敷きビニル床タイル	HFL		※ 無地 ・	・ 500× 500 ・	・	・ 帯電防止 ・ 耐動荷重

ビニル幅木
材質 ※ 軟質 ・ 硬質
高さ (mm) ※ 60 ・ 75 ・ 100
厚さ (mm) ※ 2. 0 ・
ゴム床タイル
色柄 ()
厚さ (mm) ・ 3. 0 ・ 4. 5 ・ 6. 0 ・ 9. 0
寸法 ()

③ 合成樹脂塗床

種 別	施工箇所	仕上りの種類
・ 弾性ウレタン塗床材		※ 平滑仕上げ ・ 防汚仕上げ ・ つや消し仕上げ
○エポキシ樹脂塗床材		※ 薄膜流し展べ仕上げ t=1. 0~1. 5mm程度 ・ 厚膜流し展べ仕上げ (※ 平滑 ・ 防汚) ・ 樹脂モルタル仕上げ (※ 平滑 ・ 防汚) ・ 防汚仕上げ

コリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放数量
※規制対象外 ・ 第三種
せつこうボード及びその他ボードの厚さ、規格等 (19. 7. 2) (表 19. 7. 1)

種 類	JISの記号	厚さ (mm)、規格等
・ せつこうボード	QB-R	・ 9. 5 (準不燃) ※ 12. 5 (不燃) ・ 15. 0 (不燃)
・ 強化せつこうボード	QB-F	・ 12. 5 (不燃) ・ 15. 0 (不燃)
・ 化粧せつこうボード (木目)	QB-D	12. 5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (※ 胚目 ・ 板目) 専用下地材付き
・ 不燃層付せつこうボード	QB-NC	9. 5 (不燃) 化粧なし (下地張り用) 化粧あり (トラバーチン模様)
・ けい酸カルシウム板	0. 8FK 1. 0FK	タイプ2 (黒石綿) ・ 6 ・ 8 ・
・ ロックウール化粧吸音板	DR	※ フラットタイプ (※ 9 (不燃) ・ 12 ・) ・ 凹凸タイプ (※ 12 (不燃) ・ 15 ・ 19 ・)
・ ロックウール吸音ボード1号	RWB	・ 25 ・
・ ガラス繊維吸音ボード2号32K	GWB	・ 25 (ガラスクロス包) ・
・ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903	による 厚さ1. 2

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (19. 7. 2) (表 9. 6. 1)
※ 適用する ・ 適用しない
天井及び壁に使用する合板は、12層木工事5床張り用合板及びその他の合板による。 (19. 7. 2)
合板類の張付け ・ A種 ・ B種 (19. 7. 3) (表 9. 7. 3)

2 フリーアクセスフロア (20. 2. 2)

施工箇所	構 法	仕上り高 (mm)	適用地震時 水平力	耐荷重性能	表面仕上材	備 考
	・ パネル構法 ・ 溝構法		・ 1. 0G ・ 0. 6G	・ 3, 000N ・ 5, 000N	・ 帯電防止床タイル ・ タイルカーペット	

耐震性能5, 000Nについては、平成元年建設省告示第1322号「耐震型フリーアクセスフロアの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。
表面仕上材の品質、性能は、標仕19章による。
構成材の材質 ・ アルミニウム製 ・ 鋼製 ・
スロープ及びボーダー ※ 製造所の仕様による ・ 図示
配線用取出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ※ 20 ~ 30% ・
配線取出し開口 ※ パネル1枚につき40× 80 (mm) 程度の開口1箇所以上 ・ 図示
空調用吹出し (吸込み) パネル
※ なし
・ あり (※ 固定式 ・ 可変式) ; 施工箇所 (※ 図示 ・)
コンセント等の取付け対応 ※ 製造所の仕様による (コンセント本体は別途設備工事)
コンセントの箇所数 ※ 図示
ローリングロード性能 ※ 適用する ・ 適用しない

2 可動間仕切

3 移動間仕切

4 トイレブース

5 階段滑り止め

6 階段手すり

7 黒板及び
ホワイトボード

8 鏡

⑨ 表示

10 煙突ライニング (20. 2. 11)

・ 煙突用成形ライニング材 適用安全使用温度 ・ 400℃ ・ 650℃ ・ ・ キャスタブル耐火材 工法 ※ こて押入 ・ 適用安全使用温度 ※ 400℃ ・	
--	--

20. 2. 12)

形 式	種 類	スラットの材質	スラットの幅 (mm)	施工箇所
※ 横形 ・ 操作棒式	※ キヤ式 ・ コード式 ・	※ アルミニウム合金製 ・	※ 25 ・	
・ 縦形 ・ 1本操作コード ※ 2本操作コード	・ アルミスラット ・ クロススラット		・ 80 ・ 100	

11 ブラインド

12 ロールスクリーン

13 カーテン

14 カーテンレール

15 ブラインドボックス
及び
カーテンボックス

16 天井点検口

17 床点検口

18 防煙重れ壁

19 視覚障害者用
床タイル
(誘導用及び
注意喚起用床材)

20 くつふきマット

21 流し台ユニット

22 洗面カウンター

23 収納家具

24 鋼製書架及び物品棚

25 屋内掲示板

26 屋外掲示板

27 耐震スリット

方 向	タイプ	耐火性能	防水性能
・ 垂直方向	※ 完全 (金貫通型) スリット	・ 耐火型	・ あり
・ 水平方向	・	・ 非耐火型	・ なし

目 地	内 壁	外 壁
目地材	シーリング材 (見え掛りのみ)	シーリング材 (内外共)
目地寸法 (mm)	※ 幅20× 深さ10 ・	※ 幅20× 深さ10 ・

材質 ・ アルミ ・ ステンレス
クリアランス (mm)
耐火性能
防水型 ・ アルミ ・ ステンレス ・ 50 ・ 100 ・ 150 ・ ・ あり () ・ なし ※ 外部 適用する ※ 内部 適用しない |

28 エキスパンション
・ ジョイント金物

29 止水板

30 旗竿

31 旗竿受金物

32 車止め支柱

33 フェンス

34 敷地境界石標

27 耐震スリット

材 種	操作方式	遮光性能	寸法 (mm)	施工箇所	備 考
※ ポリエステル ・ 綿 ・	・ 電動式 ・ スプリング式 ・ チェーン式	・ 1級 ・ 2級 ・ 3級 ・	・ 図示		防火性能 ※ あり

形 式	開閉操作	ひだの種類	施工箇所	備 考
・ シングル ・ ダブル	・ 片引き ・ 引分け	・ フランスひだ ・ フランスひだ ・ 箱ひだ・ つまひだ ・ プレーンひだ・ 片ひだ		
		・		(暗幕)
		・		

材質 ※ アルミニウム製 ・ ステンレス製
形式 ・ 片引き ・ 引分け (※ 暗幕用は300mm以上の召合せの重ね掛けとする)
形状 ・ C形 ・ D形 ・ I形 20. 2. 14) | 材 種 | 寸 法 | 形 式 | 外 枠 | 内 枠 | |----------------|-------------------------------|-------------------------|----------------------------|-------------------------------| | ※ アルミニウム製
・ | ・ 450× 450
・ 600× 600
・ | ・ 一般形
・ 密閉形
・ 密閉形 | ・ 屋内外用
・ 屋内用
・ 目地タイプ | ・ 縫縁タイプ
・ 縫縁タイプ
・ 目地タイプ | | 材 種 | 寸 法 | 形 式 | |--|-------------------------------|---------------------------| | ※ アルミニウム製
・ ステンレス製
・ 鋼製
・ 鋳鉄製 | ・ 450× 450
・ 600× 600
・ | ・ 一般形
・ 密閉形
・ 結露防止形 | ・ 固定式 材 質 ※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス | 20. 2. 14) | 材 質 | 厚さ (mm) | 高さ (mm) | 備 考 | |----------------------------|-------------|------------|---------| | ※ 網入り磨き板ガラス
・ 線入り磨き板ガラス | ※ 6. 8
・ | ※ 500
・ | アルミ製枠付き | ・ 可動式 種 類 ・ 垂直降下式 (巻取り型) ・ 回転降下式 | 20. 2. 2) | 施工箇所 | 種 類 | 寸法 (mm) | 厚さ (mm) | |------|----------|---------------|--------------| | | ※ 塩化ビニル製 | ※ 300× 300 ・ | ※ 7. 0 ・ | | 屋内 | | ・ レジンコンクリート製 | ※ 300× 300 ・ | | | | ・ 磁器又はせつ器質タイル | ※ 300× 300 ・ | | 屋外 | | ※ レジンコンクリート製 | 300× 300 | | | | ・ 磁器又はせつ器質タイル | 300× 300 | ブロックパターンはJIS T 9251による。 | 20. 2. 2) | 材 種 | 受 枠 | 備 考 | |---|--|-----| | ・ 塩化ビニル又はゴム製
・ 硬質アルミニウム合金製
・ ステンレス鋼 (SUS304) 製
・ | ・ ステンレス鋼 (SUS304)
・ 硬質アルミニウム合金
・ | | | 種 類 | 寸法 (L = mm) | 適用内容 | 規格・品質等 | |--------|----------------------|--------------|---------------------------| | ・ 流し台 | ※ 1200 ・ 1500 ・ 1800 | トラップ付き | ※ 優良住宅部品 (セクショナルキッチンⅠ型) | | ・ コンロ台 | ※ 600 ・ 700 ・ | バックガード ※ あり | ・ | | ・ 吊戸棚 | ※ 1200 ・ 900 ・ 600 | | ・ | | ・ 水切棚 | ※ 1200 ・ 900 | ステンレス製 ※ 1段式 | ※ 市販品 | 材質 ・ 奥行 (mm) ・ 約450 ・ 約600 材質 ・ 形状・寸法 ※ 図示 合板、集成材、MF、パーティクルボード等のホルムアルデヒド放数量 ※ 規制対象外 ・ 第三種 | 20. 2. 2) (19. 7. 2) |

24 鋼製書架及び物品棚

25 屋内掲示板

26 屋外掲示板

27 耐震スリット

種 類	規格等	耐荷重による種類
・ 鋼製書架	JIS S 1039による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種
・ 鋼製物品棚		・ 4種 ・ 5種 ・ 6種

枠の材質 ※ アルミニウム製
表面の材質 ※ 塩ビ発泡シート張り ・

28 エキスパンション
・ ジョイント金物

29 止水板

30 旗竿

31 旗竿受金物

32 車止め支柱

33 フェンス

34 敷地境界石標

年 度

令和 6 年度

工事名

新金沢配水池築造工事 (再1)

図面名

管理棟 構造設計特記仕様 (4)

縮 尺

Free

図 面

34

施 工 仕 様 書 ・ 地 業 工 事

地 業 名 称 ト ッ プ ベ ー ス 工 法

1 . 設 計 条 件

設計荷重	計算書による	地質	報告書による
地質調査			

2 . 材 料

2-1 コマ型ブロック 構造物基礎として用いるコマ型ブロック 500型。

□ 500型

個数 110 基 (500型 連結型)
面積 82.5 m²

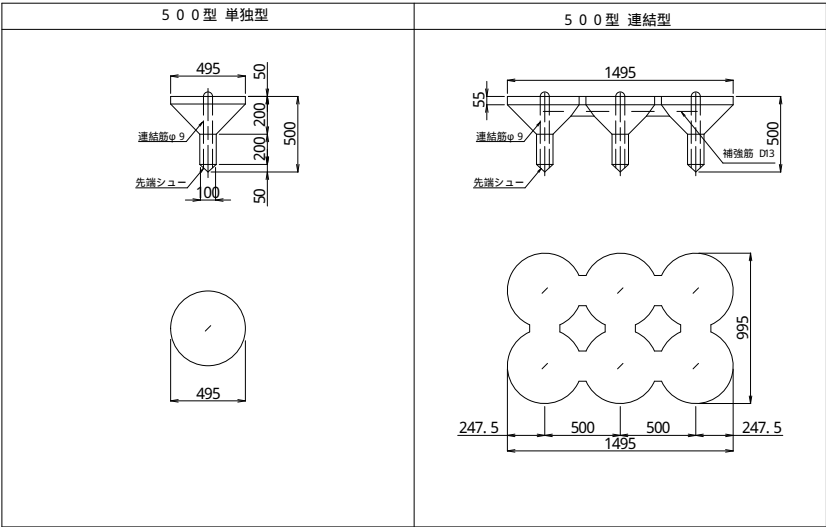


図2-1 コマ型ブロックの形状寸法

連結筋： コマ型ブロックを吊上げるために上面に突起した円弧状の鉄筋

仕様鉄筋径	コマ型ブロック 500型	φ 9mm
-------	-----------------	----------

補強筋： コマ型ブロックを連結するための上面配筋

仕様鉄筋径	D13mm
-------	-------

2-2 間詰砕石

間詰砕石は、充填締め固めに有利な切り込み砕石40～0mm (C-40) または再生砕石40～0mm (RC-40) 使用する。

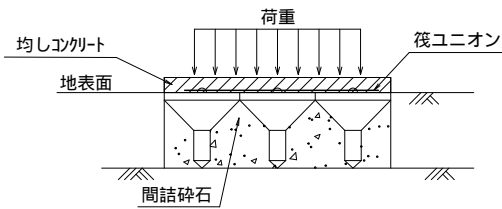
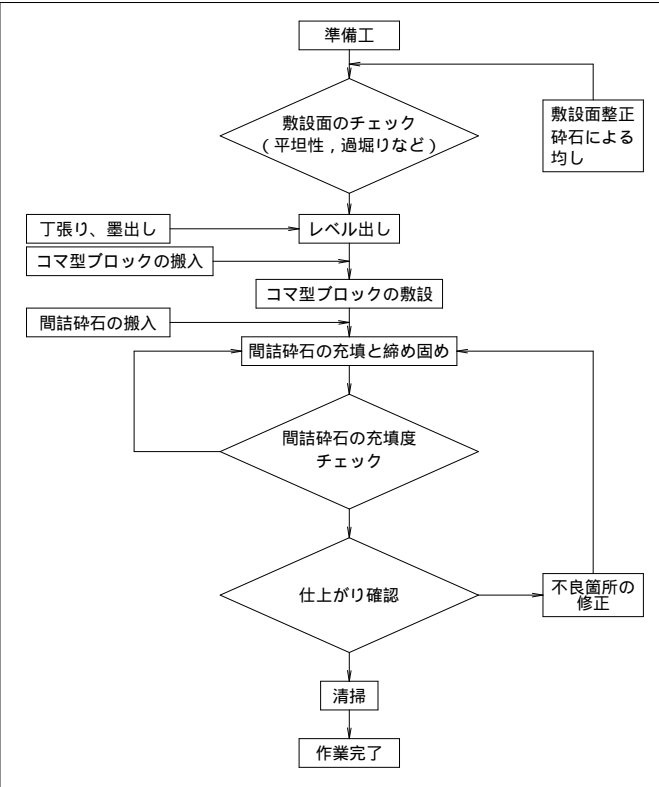


図2-2 敷設断面図

3 . 標準施工法

トップベース工法施工手順フローチャート



3-1 施工手順

(1) 位置設定

丁張りを設置し、正確にレベル出しを行い、コマ型ブロックの設置位置を決定する。

(2) 掘 削

掘削は均しコンクリート下面よりコマ型ブロックの高さを掘削する。
掘削時は床付面が乱れないように平滑に仕上げる。

(3) コマ型ブロックの敷設

コマ型ブロックを垂直にして正確な位置に据え付ける。

(4) 間詰砕石の充填

砕石の充填は十分な密度が得られるようにコマ型ブロックの隙間に投入して締め固める。
締め固めにはバール、電動ピック、バイブレーター、ランマー等の道具を用いる。
円錐下部周辺は砕石の充填が不足とならぬように入念に行う。

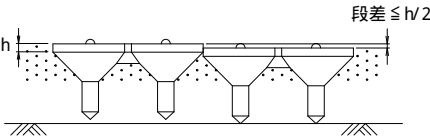


図3-1 隣接するコマ型ブロックの段差の限界

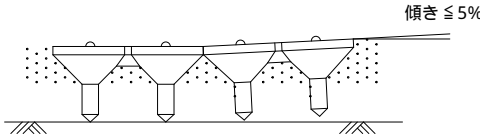


図3-2 隣接するコマ型ブロックの傾きの限界

4 . 屈曲部及び二層施工

4-1 屈曲部の施工においてコマ型ブロックの間隔が空く場合は基礎の形態により組み合わせを考慮してコマ型ブロックを配置して施工する。

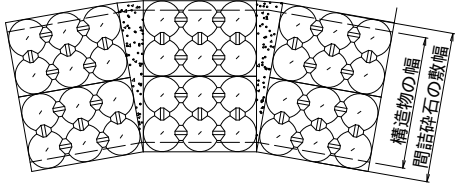


図4-1 割り付け間にコマ型ブロックを敷設する間隔がない場合

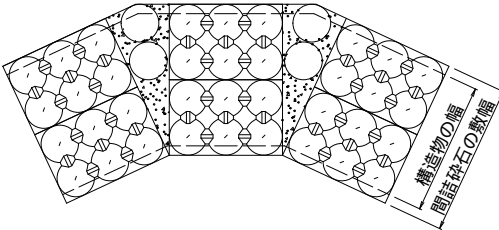
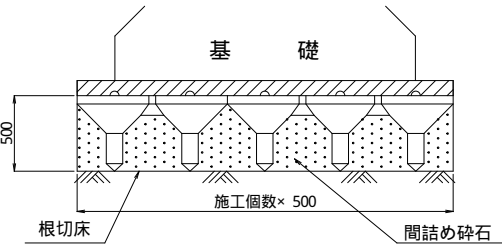


図4-2 割り付け間にコマ型ブロックを敷設する間隔がある場合

4-2 施工断面



4-3 二層工法

二層工法は、下図を参照として施工する。

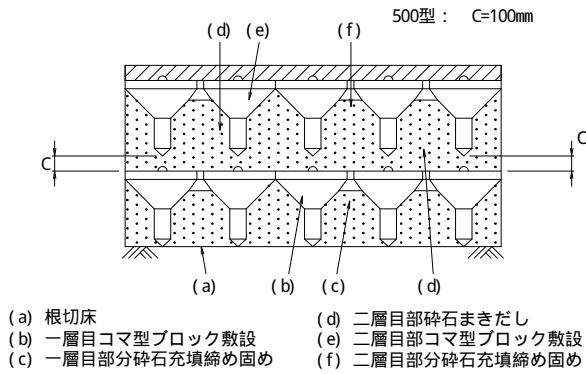
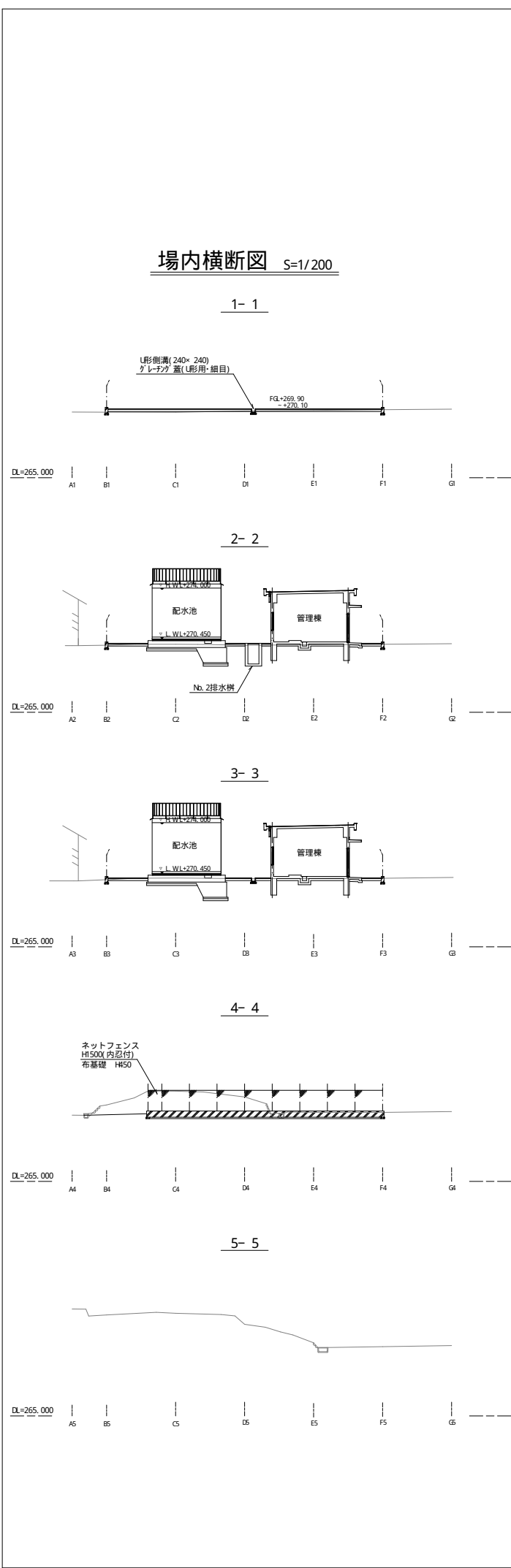


図4-4 コマ型ブロック二層工法の例並びに施工順序

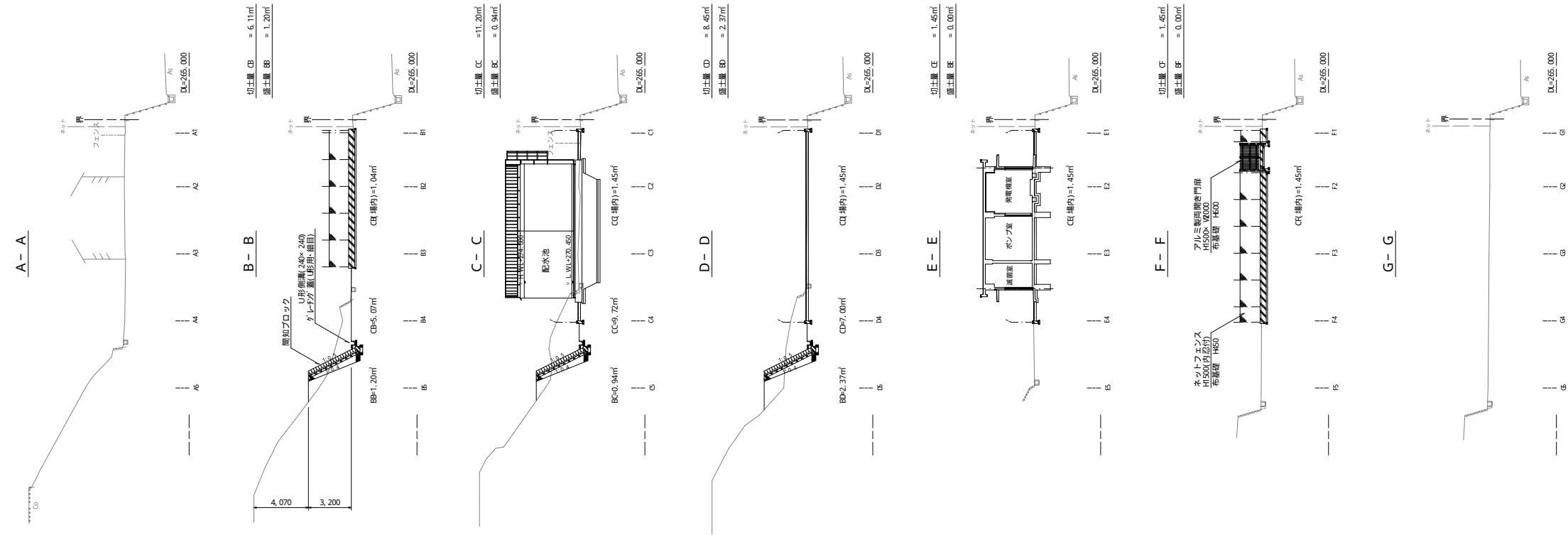
5 . 現 場 確 認

確認方法はトップベース設計施工ガイドラインによる。
当工法の施工においては設計担当のトップベース工法施工管理技士の施工指導と現場確認を行うこと。トップベース工法施工管理技士 第01-030 岩野雅晴

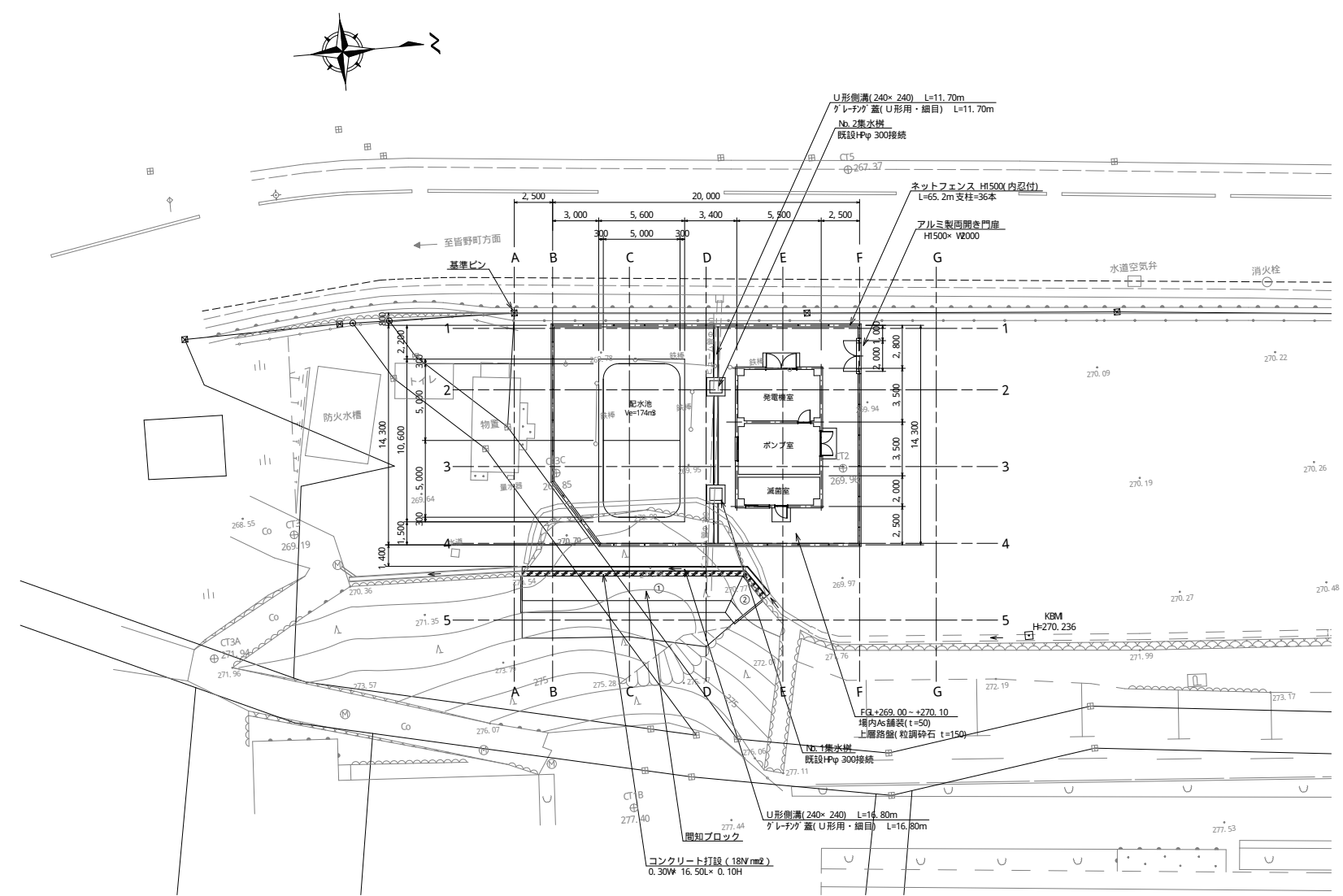
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	コマ基礎施工仕様		
縮 尺	Free	図 面 番 号	35
秩父広域市町村圏組合水道局			



場内縦断面図 S=1/200

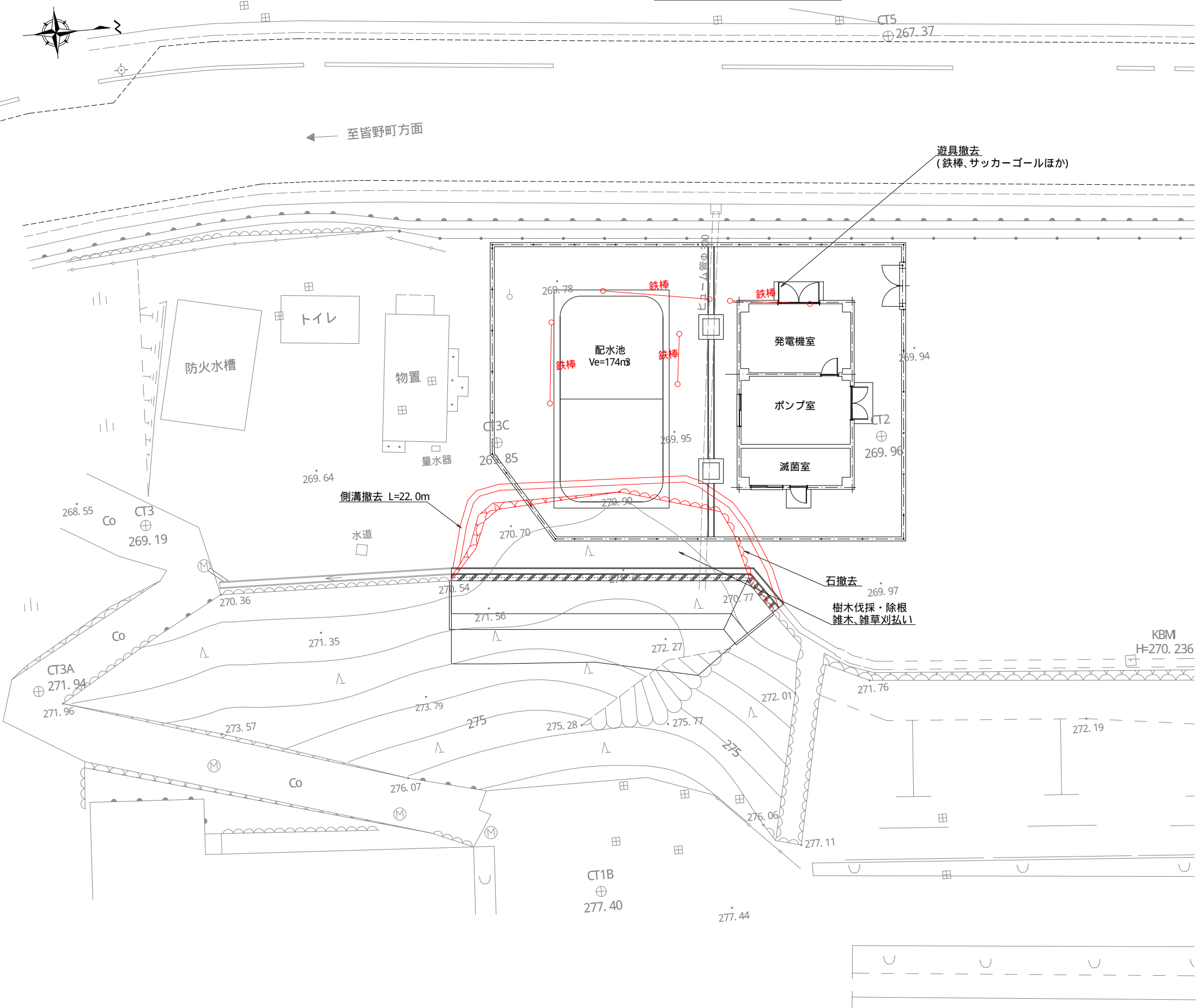


場内配置・整備図 S=1/200

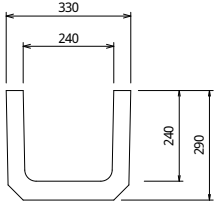


年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	場内配置・整備図・縦横断面図		
縮 尺	1/200	図 面 番 号	36
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内整備図(撤去) S=1/100

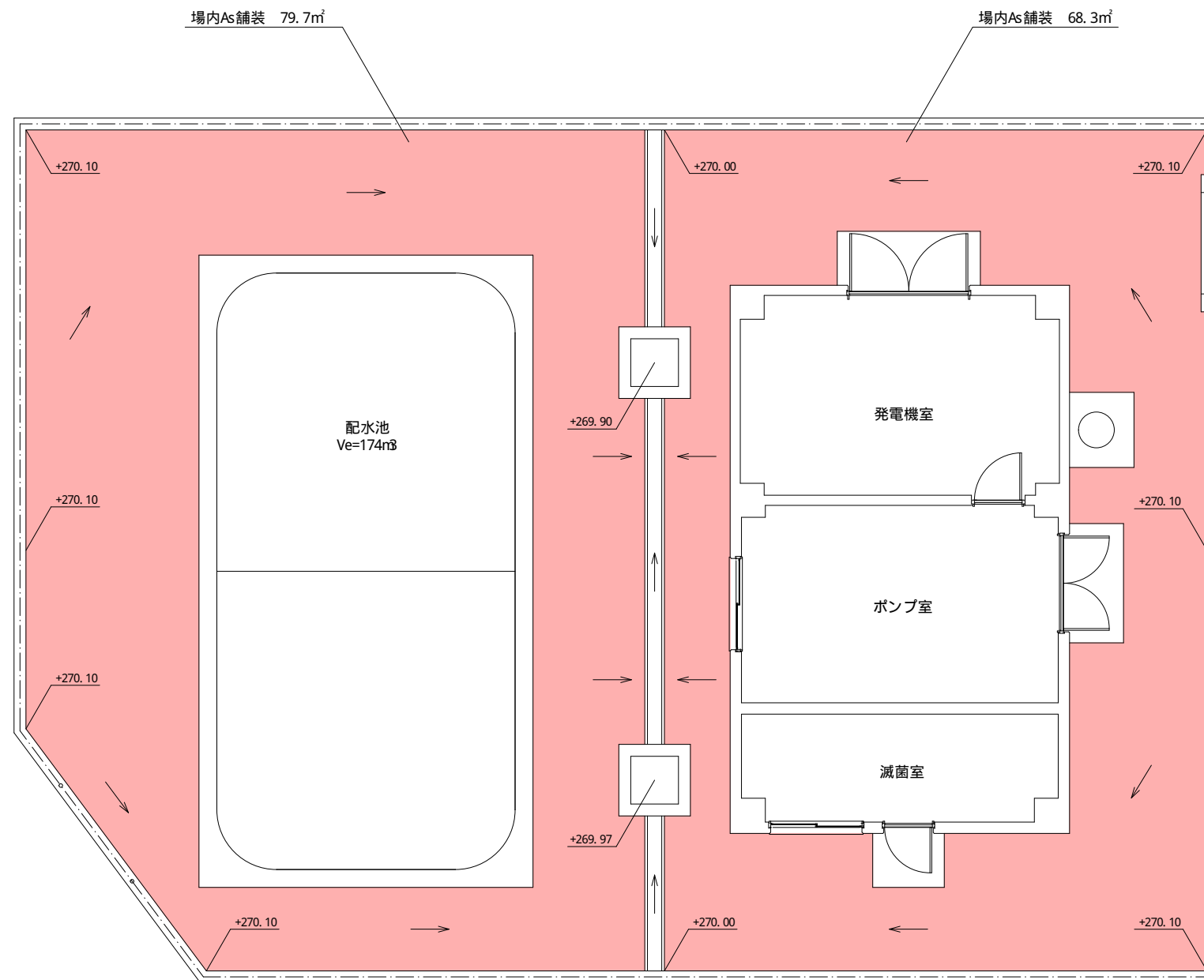


既設側溝撤去詳細図 S=1/10

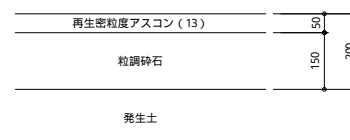


年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	場内整備図(撤去)		
縮 尺	1/100、1/10	図 面 番 号	37
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内舗装求積図 S=Free



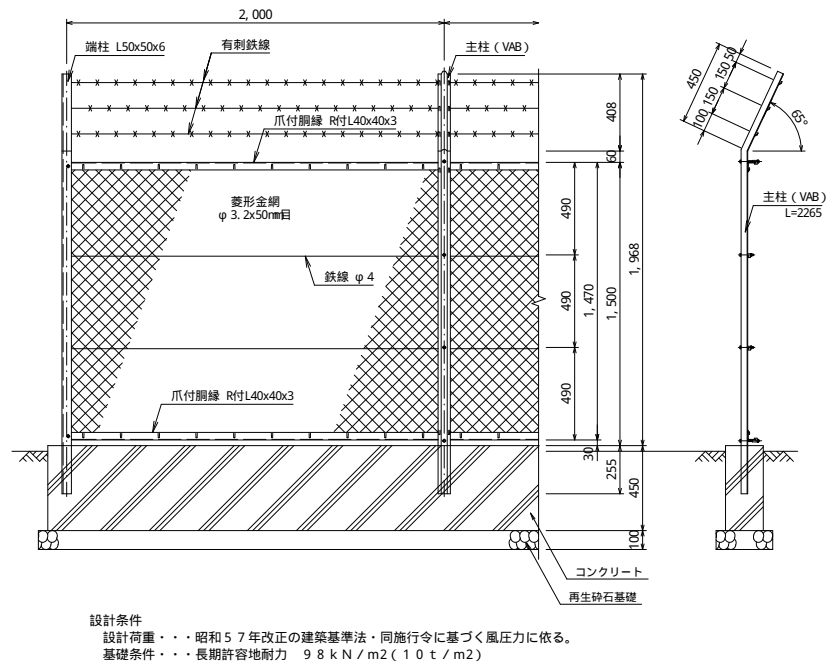
場内舗装標準図 S=1/10



年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	場内舗装求積図		
縮 尺	1/10, Free	図 面 番 号	38
秩父広域市町村圏組合水道局			

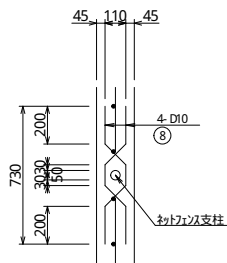
ネットフェンス詳細図

正面図 S=1/20

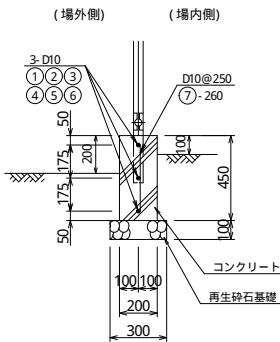


フェンス基礎詳細図 S=1/20

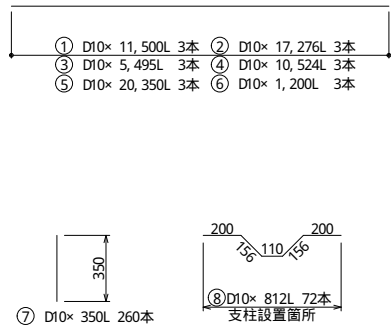
支柱部



布基礎
支柱設置-36



鉄筋加工図



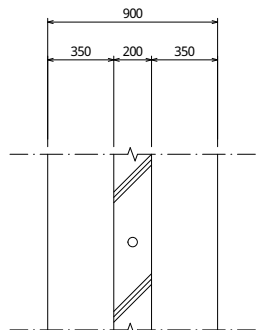
鉄筋重量表

記号	径 (mm)	長さ (mm)	本数 (本)	単位重量 (kg/m)	一本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	備考
1	D10	11,500	3	0.560	6.440	19.3	布基礎
2	D10	17,276	3	0.560	9.675	29.0	〃
3	D10	5,495	3	0.560	3.077	9.2	〃
4	D10	10,524	3	0.560	5.893	17.7	〃
5	D10	20,350	3	0.560	11.396	34.2	〃
6	D10	1,200	3	0.560	0.672	2.0	〃
7	D10	350	257	0.560	0.196	50.4	〃
8	D10	812	144	0.560	0.455	65.5	支柱設置-36

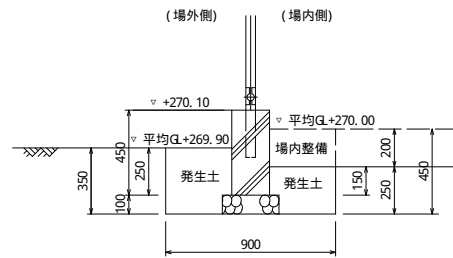
SD295 D10 228 kg

土工図 S=1/20

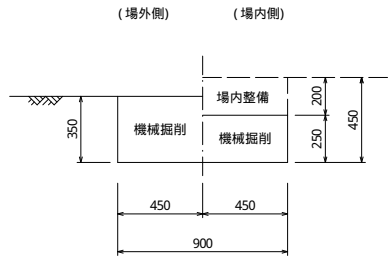
平面図



断面図

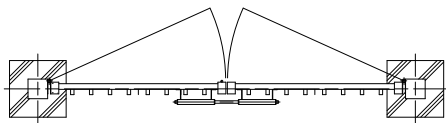


掘削断面図

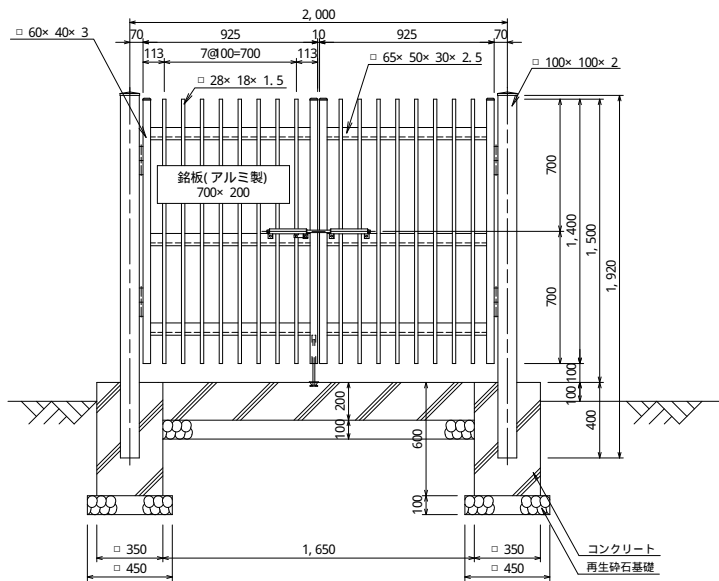


門柱・門扉詳細図

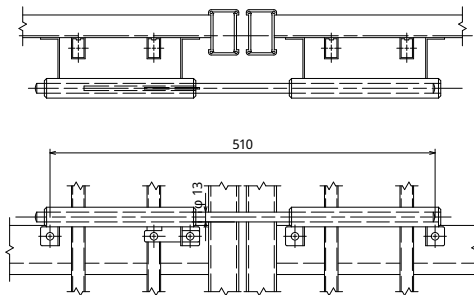
平面図 S=1/20



正面図 S=1/20

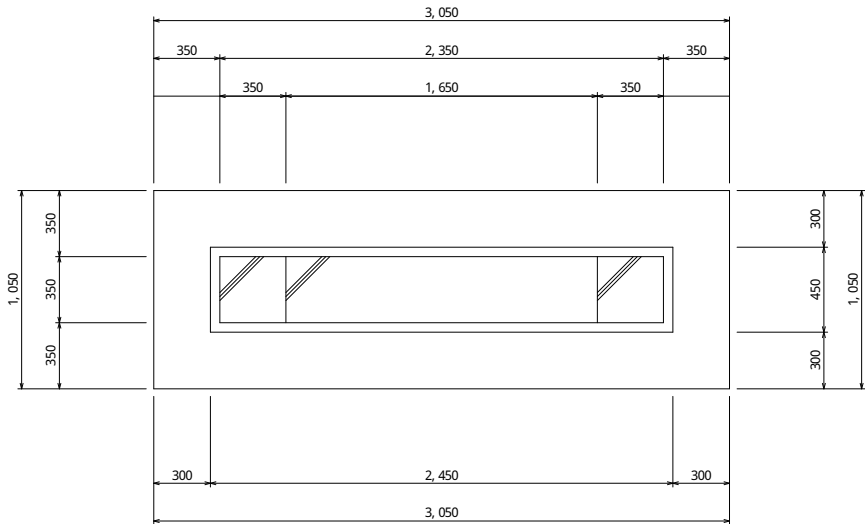


両開きカンヌキ詳細図 S=1/5

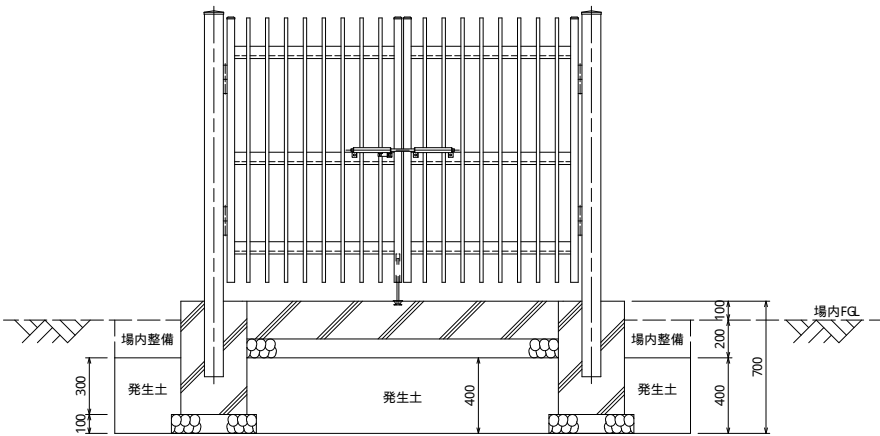


土工図 S=1/20

平面図



断面図



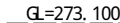
掘削断面図



年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	門柱・門扉詳細図		
縮 尺	1/20, 1/5	図 面 番 号	40
秩父広域市町村圏組合水道局			

標準断面図 $S=1/20$ 

※ 擁壁工指針(H 24)の標準図を参考

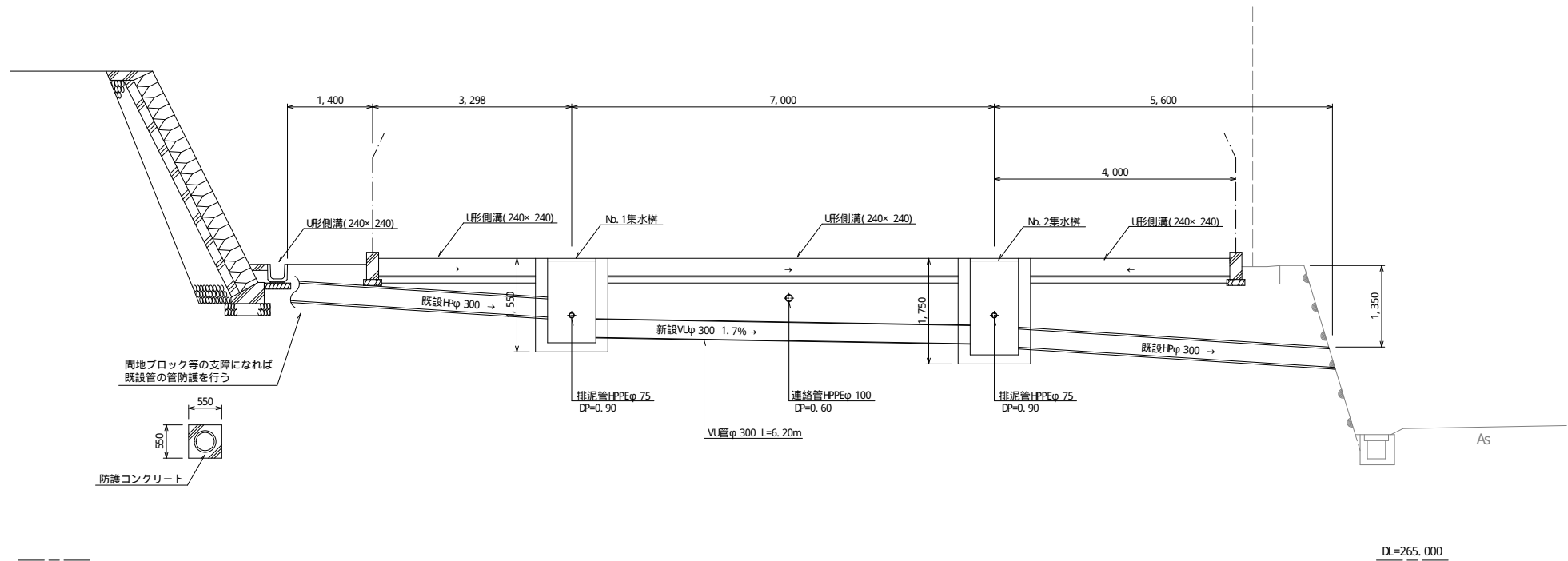
擁壁展開図 $S=1/100$ 

積ブロック工数表

番号	材料表														土工表						
	面積 (㎡)	鋼管Co(㎡)		裏込めCo(㎡)		膨込めCo(㎡)		裏込め材(㎡)		天端Co(㎡)		基礎Co(㎡)		再生砕石基礎 t=0.20 (数量)	床版(㎡)		土層(㎡)				
		1㎡当り	数量	1㎡当り	数量	1㎡当り	数量	1㎡当り	数量	1㎡当り	数量	1㎡当り	数量		1㎡当り	数量	1㎡当り	数量			
①	54.978	0.055	0.798	0.596	8.642	0.22	12.095	1.147	16.632	0.032	0.464	0.136	1.972	0.150	2.175	1.600	23.200	1.080	15.660	0.520	7.540
②	61.632	0.055	0.116	0.596	1.252	0.22	1.463	1.147	2.409	0.032	0.067	0.136	0.286	0.150	0.315	1.600	3.360	1.080	2.668	0.520	1.092
計	6.650		0.914	9.849		13.558		19.041		0.531		2.258		2.490		26.560		17.928		8.632	

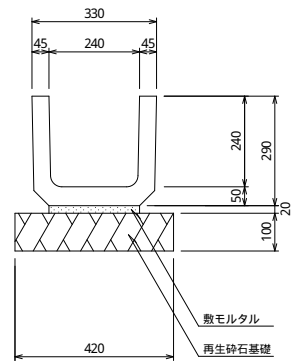
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	擁壁詳細図		
縮 尺	1/100、1/20	図 番 号	41
秩父広域市町村圏組合水道局			

排水詳細図 S=1/50

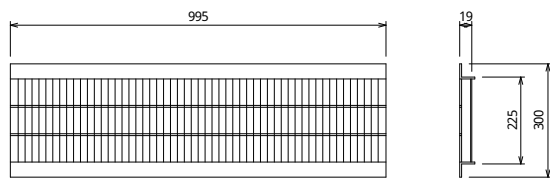


側溝詳細図 S=1/10

L型側溝
B240- H240- L600

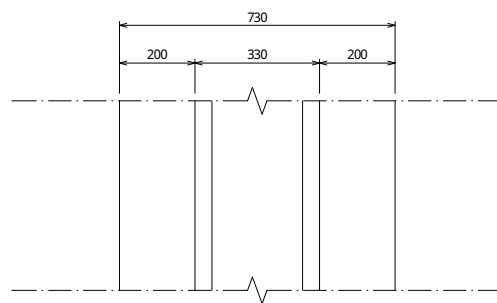


U形用グレーチング 蓋
(歩道用細目)

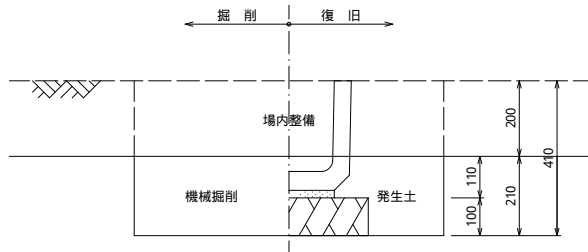


土工図

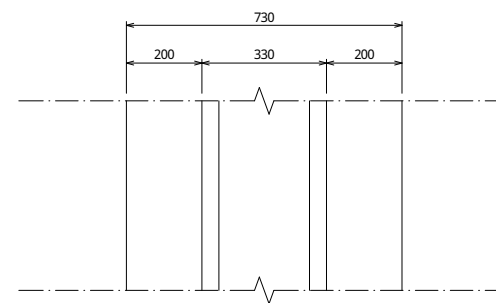
平面図(場内)



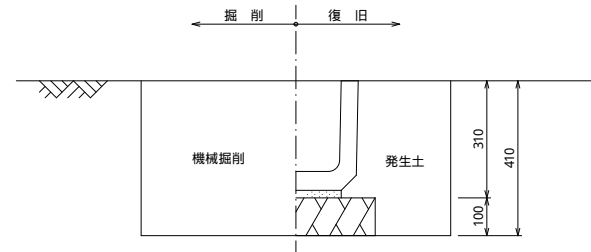
断面図(場内)



平面図(場外)



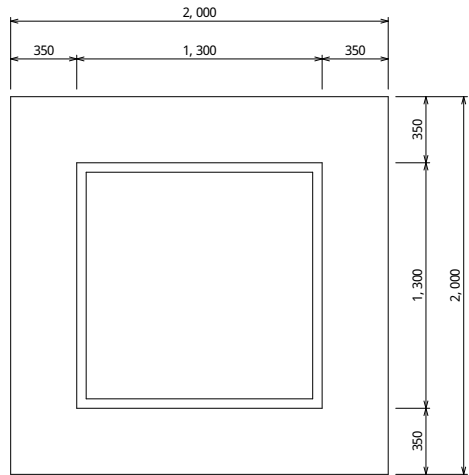
断面図(場外)



年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	排水詳細図、側溝詳細図		
縮 尺	1/50, 1/10	図 面 番 号	42
秩父広域市町村圏組合水道局			

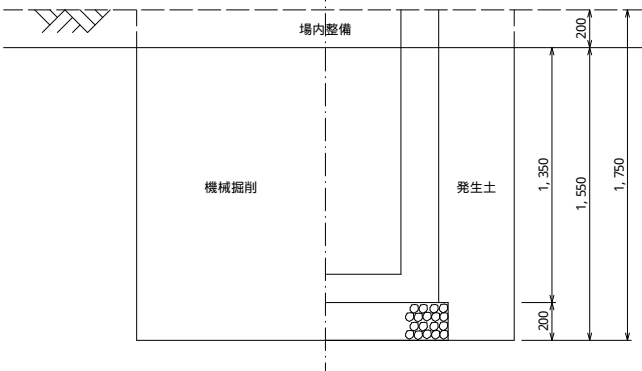
土 工 図

平 面 図



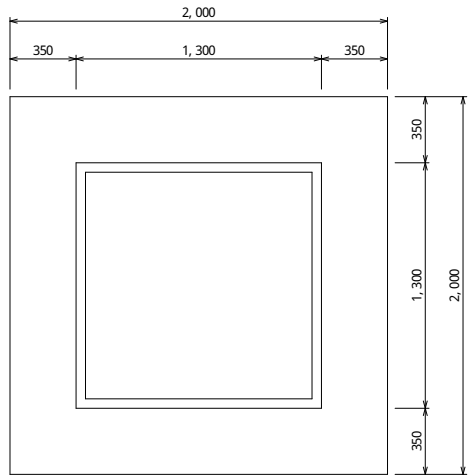
断 面 図

掘 削 復 旧



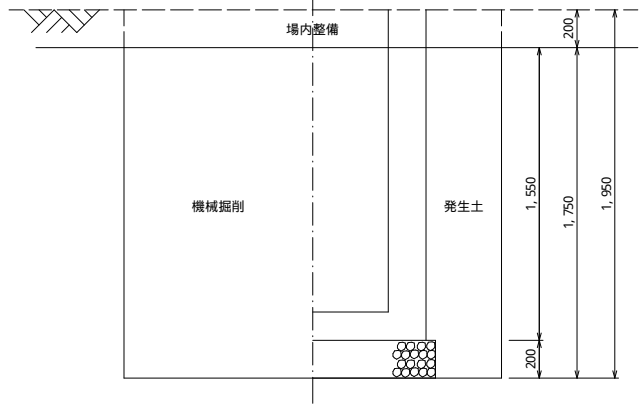
土 工 図

平 面 図

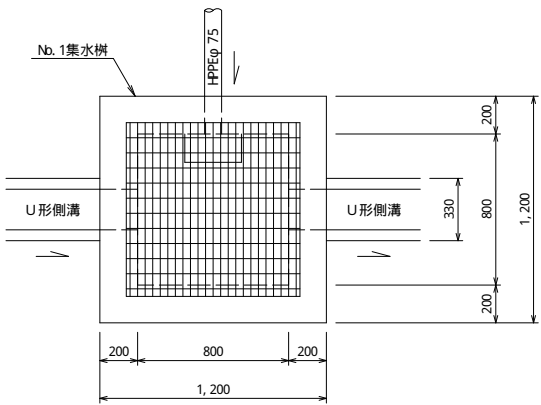


断 面 図

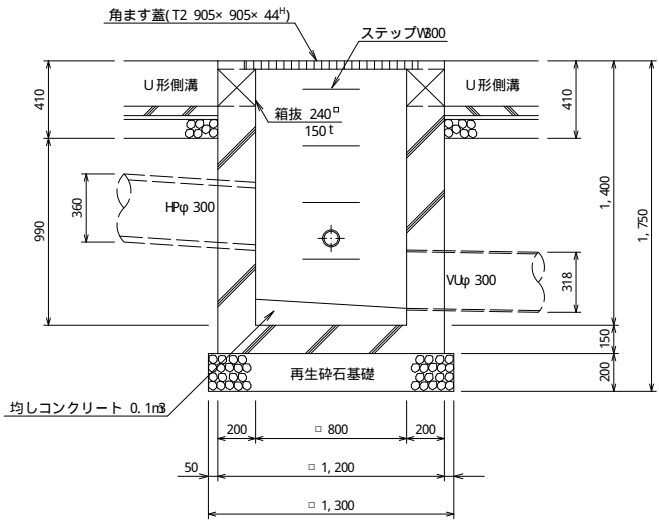
掘 削 復 旧



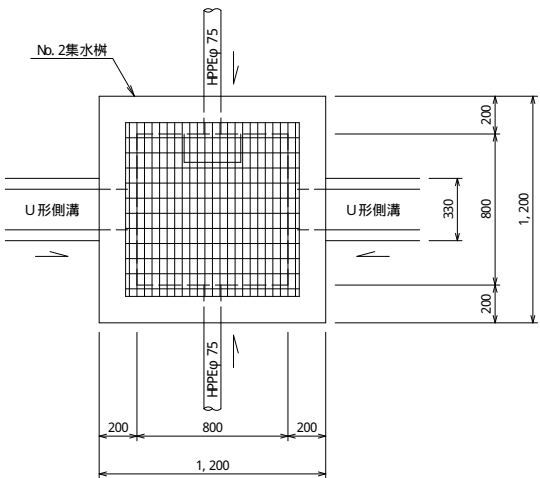
平 面 図



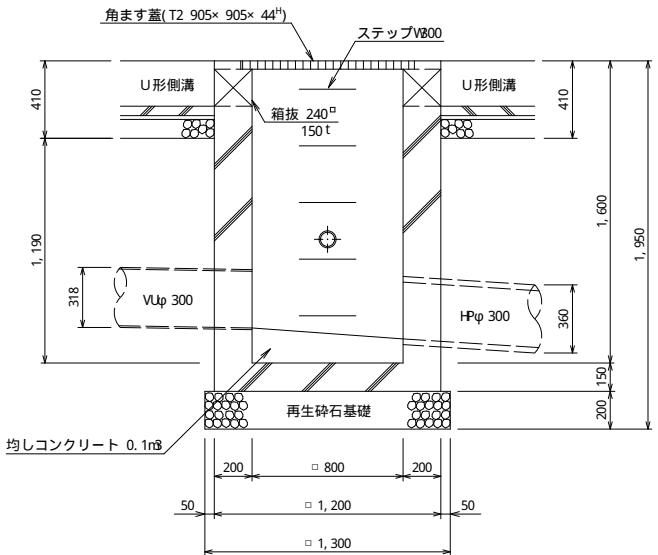
断 面 図



平 面 図

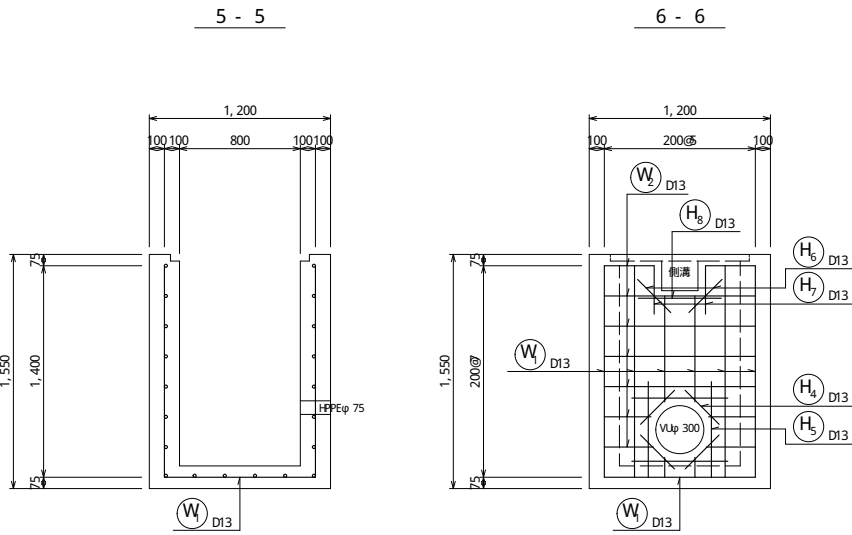
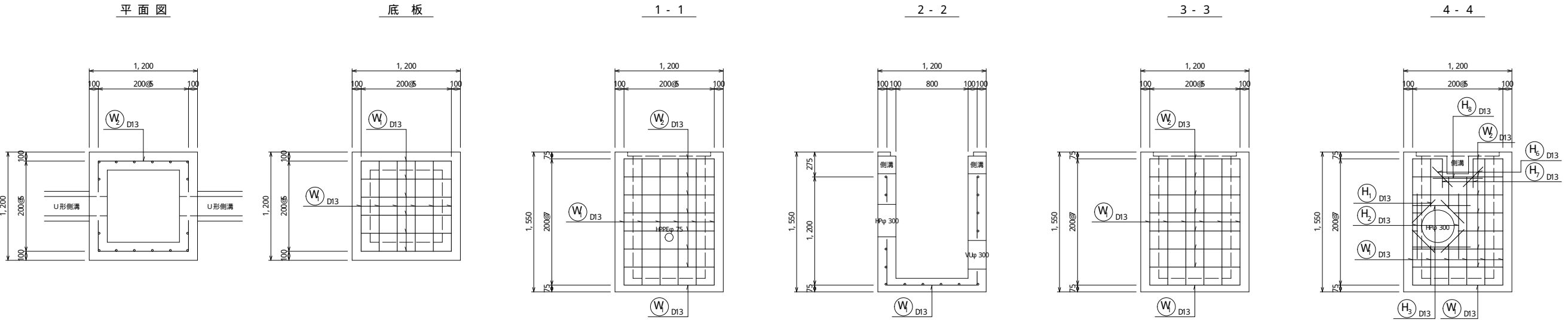


断 面 図

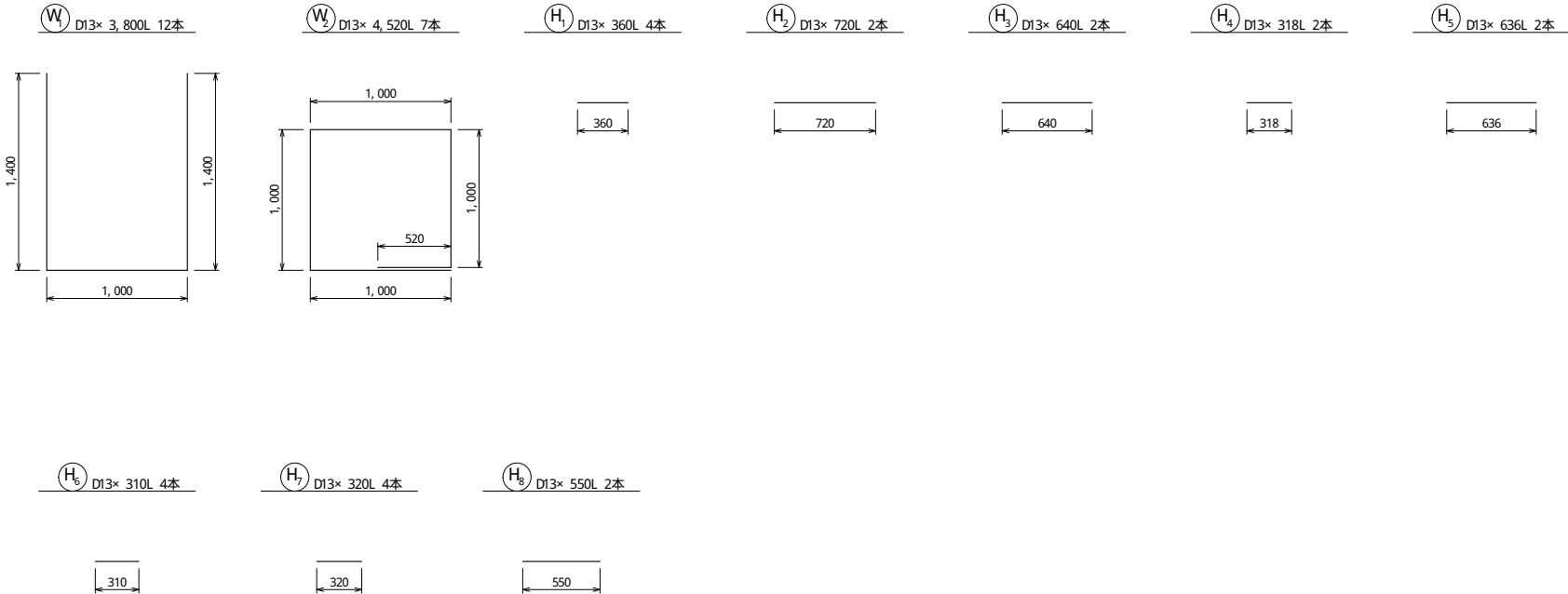
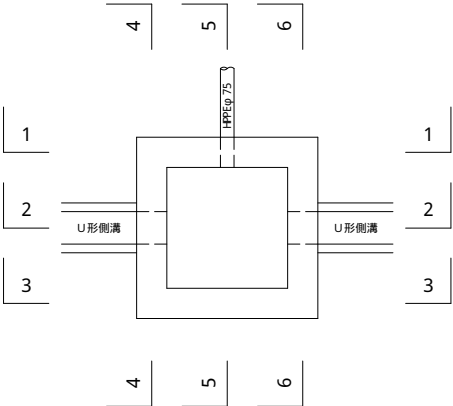


年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	集水桝詳細図		
縮 尺	1/20	図 面 番 号	43
秩父広域市町村圏組合水道局			

Nb. 1集水桧配筋図 S=1: 25



位置図



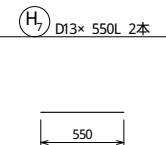
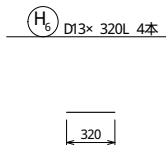
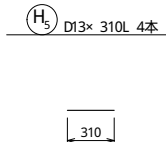
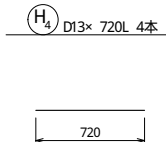
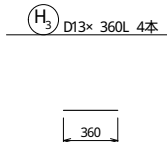
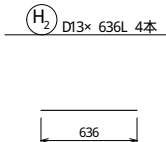
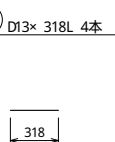
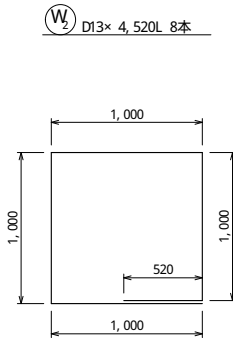
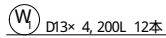
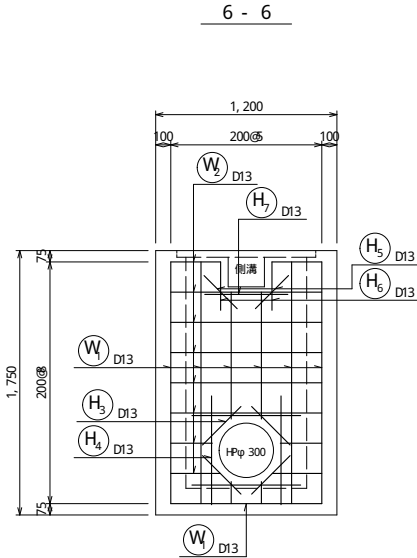
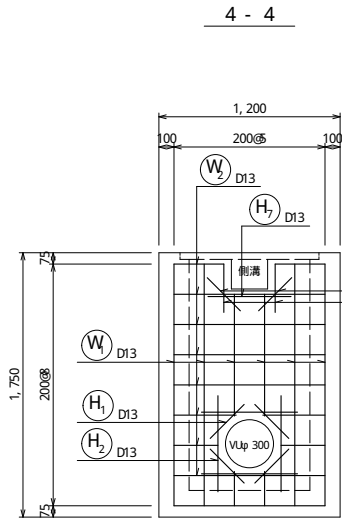
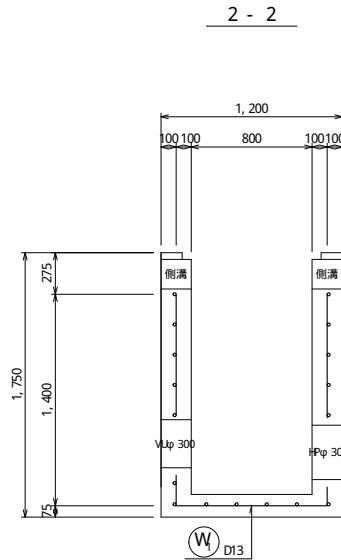
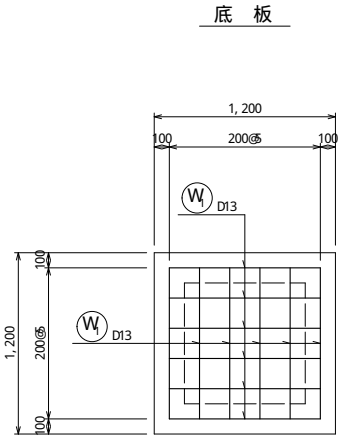
鉄筋重量表

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	備考	記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg/本)	重量 (kg)	備考
W	D13	3,800	12	0.995	3.781	45.4		控除	D13	340	-2	0.995	0.338	-0.7	側溝
	D13	4,520	7	0.995	4.497	31.5		控除	D13	200	-4	0.995	0.199	-0.8	側溝
								控除	D13	352	-1	0.995	0.350	-0.4	HPφ 300
H	D13	360	4	0.995	0.358	0.7	HPφ 300	控除	D13	448	-1	0.995	0.446	-0.4	HPφ 300
	D13	720	2	0.995	0.716	1.4	HPφ 300	控除	D13	431	-1	0.995	0.429	-0.4	HPφ 300
	D13	640	2	0.995	0.637	1.3	HPφ 300	控除	D13	392	-1	0.995	0.390	-0.4	HPφ 300
	D13	318	4	0.995	0.316	1.3	VUp 300	控除	D13	382	-1	0.995	0.380	-0.4	VUp 300
	D13	636	4	0.995	0.633	2.5	VUp 300	控除	D13	349	-1	0.995	0.347	-0.3	VUp 300
	D13	310	4	0.995	0.308	1.2	側溝	控除	D13	367	-2	0.995	0.365	-0.7	VUp 300
	D13	320	4	0.995	0.318	1.3	側溝								
	D13	550	2	0.995	0.547	1.1	側溝								

SD295 D13 84 kg

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	Nb. 1集水桧配筋図		
縮 尺	1/25	図 面 番 号	44
秩父広域市町村圏組合水道局			

No. 2集水枋配筋图 S=1: 25

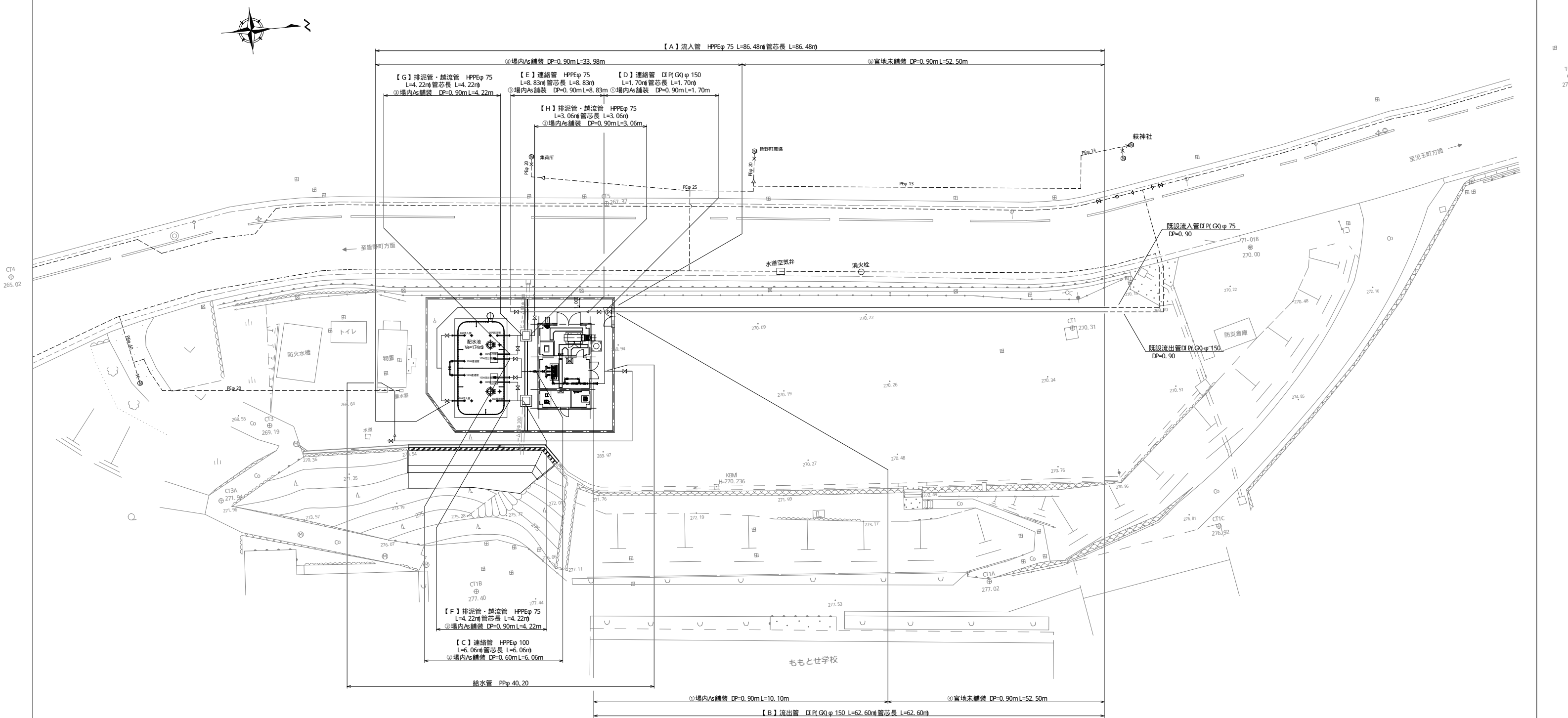


鉄筋重量表

SD295 D13 89 kg

年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水構築工事(再1)		
図面名	No. 2集水樹配筋図		
縮 尺	1/25	図 番 面 号	45
秩父広域市町村圏組合水道局			

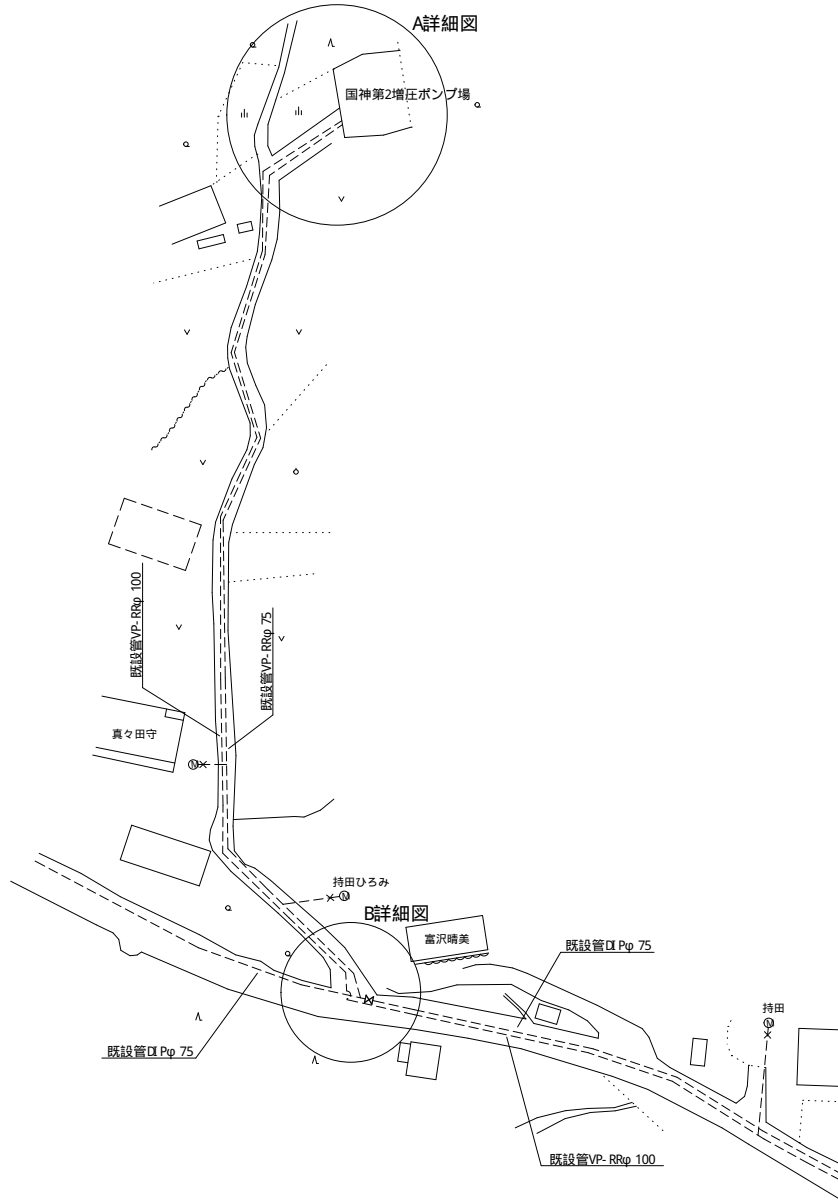
配管平面図 S=1/200



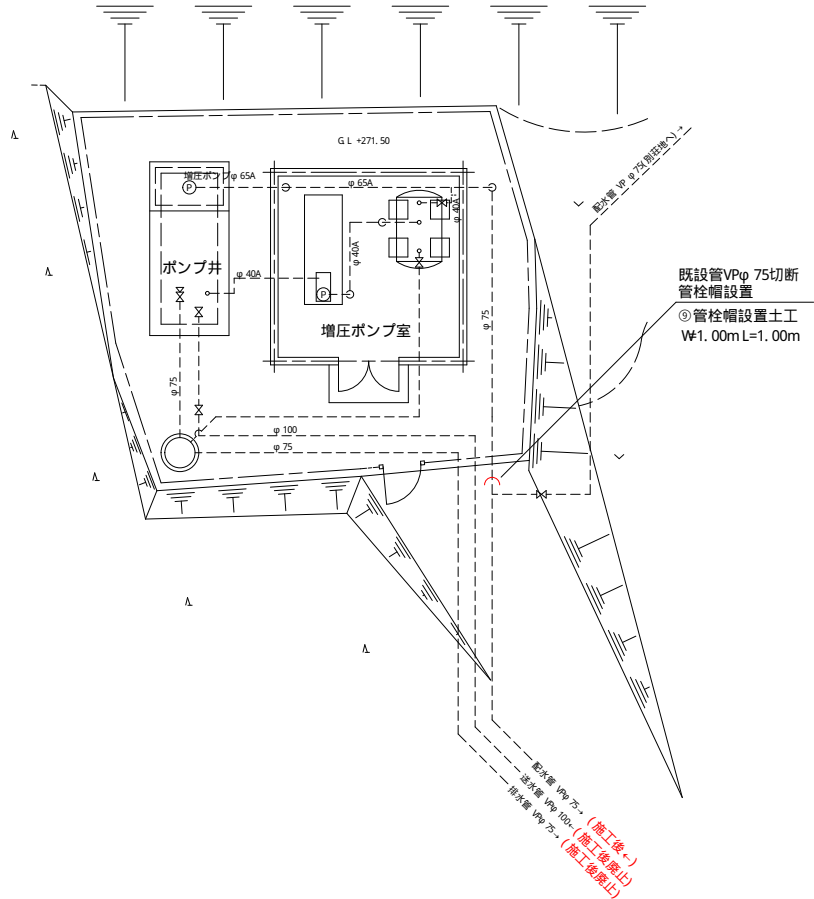
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配管平面図		
縮 尺	1/200	図 面 番 号	46
秩父広域市町村圏組合水道局			



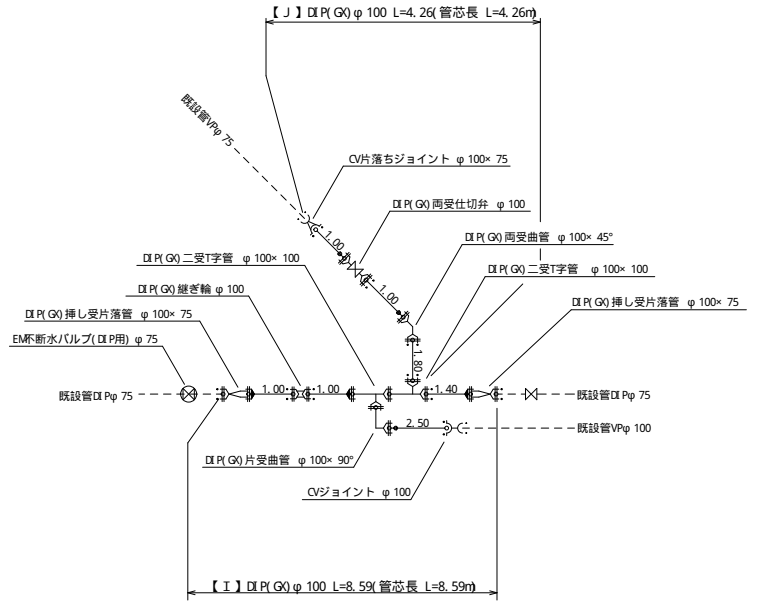
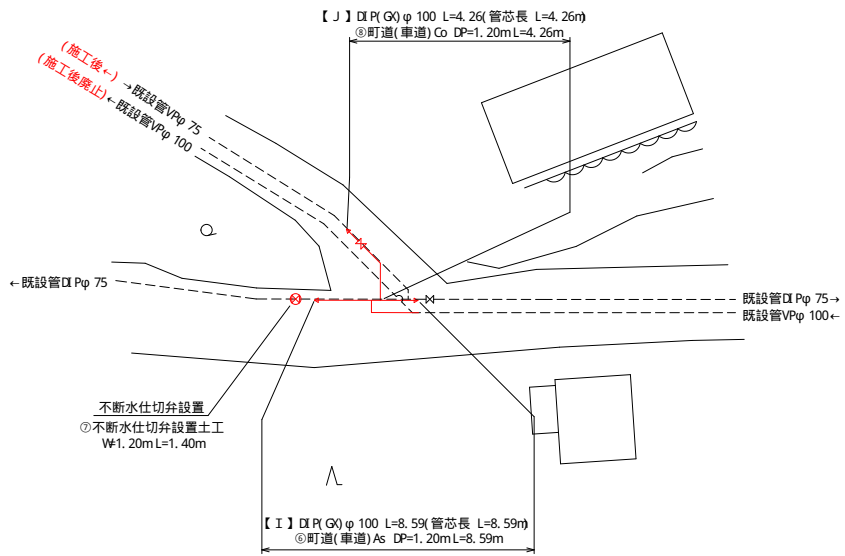
配管平面図 S=1/500



A詳細図 S=1/100

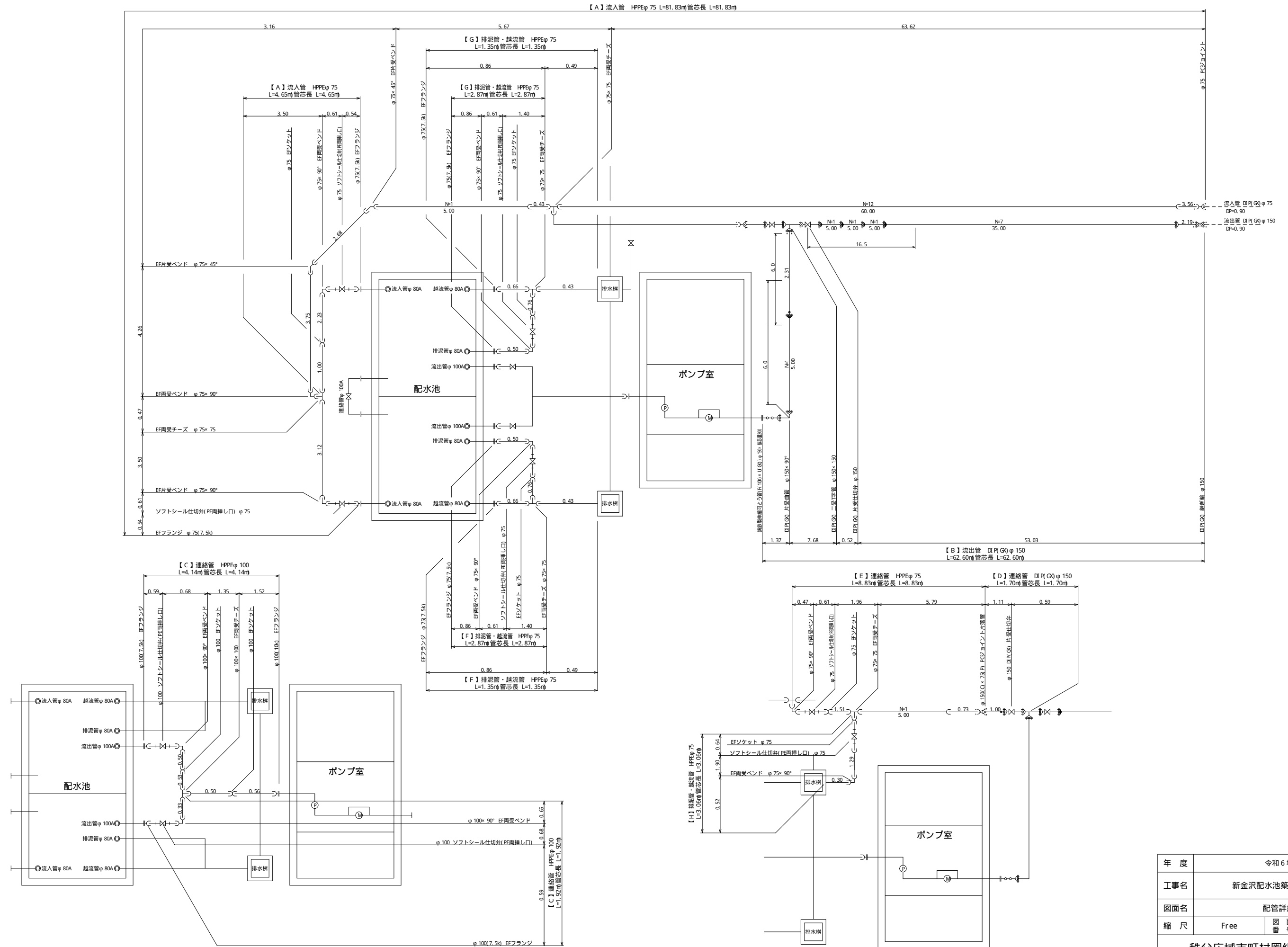


B詳細図 S=1/200



年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	国神第2増圧ポンプ場配管図		
縮 尺	1/500、1/200、1/100	図 番 号	47
秩父広域市町村圏組合水道局			

配管詳細図

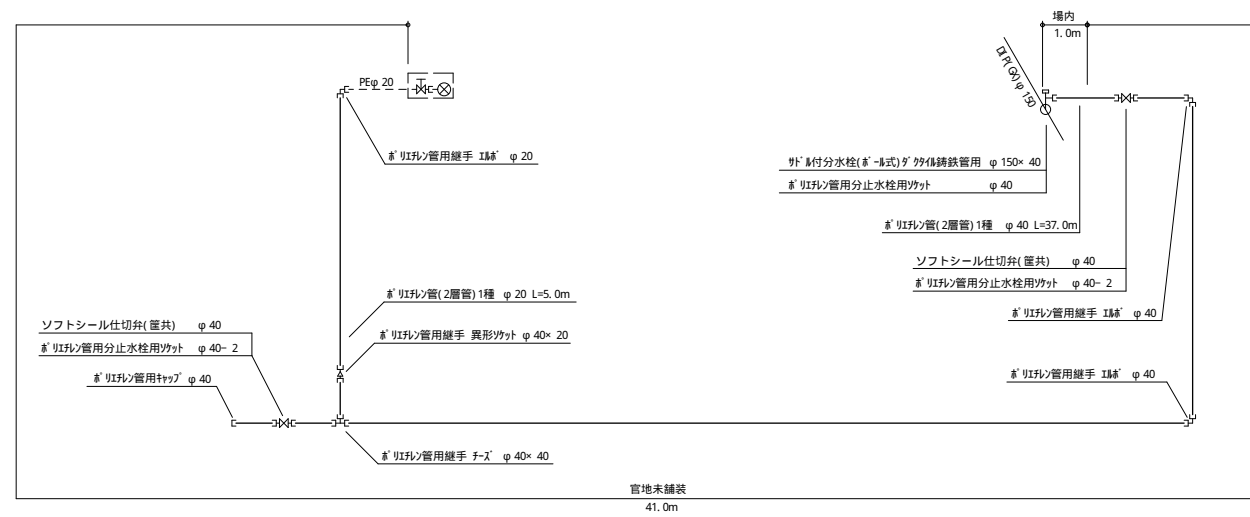


年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配管詳細図		
縮 尺	Free	図 番	48

秩父広域市町村圏組合水道局

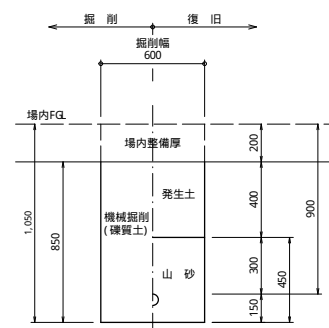
給水管詳細図

① 既設管接続

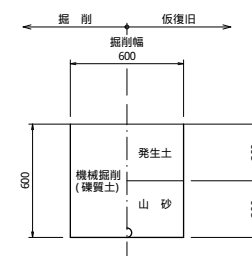


給水管土工断面標準図 $S=1/20$

場内As舗装

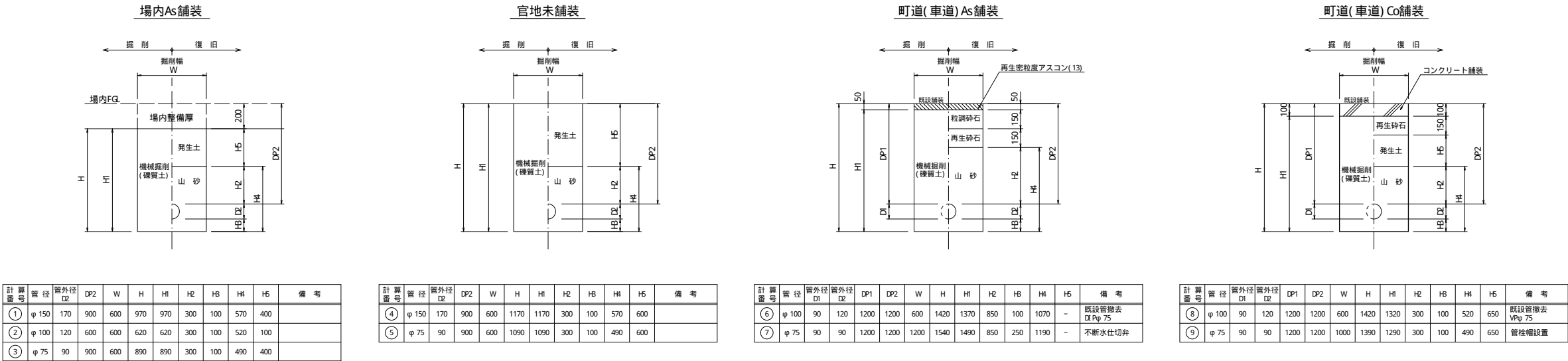


官地未舗装



年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	給水管詳細図		
縮 尺	1/20、Free	図 番 号	49
秋父広域市町村圏組合水道局			

土工断面標準図 S=1/20



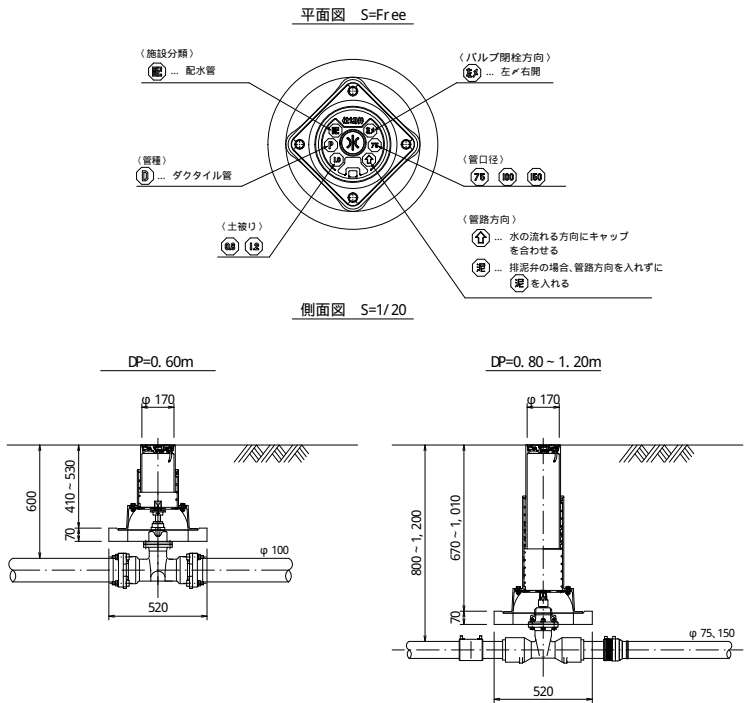
計算番号	管径	管外径D2	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
①	φ 150	170	900	600	970	970	300	100	570	400	
②	φ 100	120	600	600	620	620	300	100	520	100	
③	φ 75	90	900	600	890	890	300	100	490	400	

計算番号	管径	管外径D2	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
④	φ 150	170	900	600	1170	1170	300	100	570	600	
⑤	φ 75	90	900	600	1090	1090	300	100	490	600	

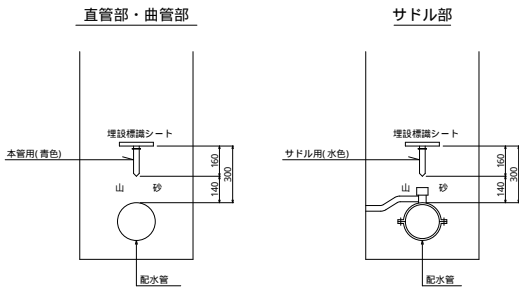
計算番号	管径	管外径D1	管外径D2	DP1	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
⑥	φ 100	90	120	1200	1200	600	1420	1370	850	100	1070	-	既設管撤去φφ 75
⑦	φ 75	90	90	1200	1200	1200	1540	1490	850	250	1190	-	不断水仕切弁

計算番号	管径	管外径D1	管外径D2	DP1	DP2	W	H	H1	H2	H3	H4	H5	備考
⑧	φ 100	90	120	1200	1200	600	1420	1320	300	100	520	650	既設管撤去φφ 75
⑨	φ 75	90	90	1200	1200	1000	1390	1290	300	100	490	650	管栓設置

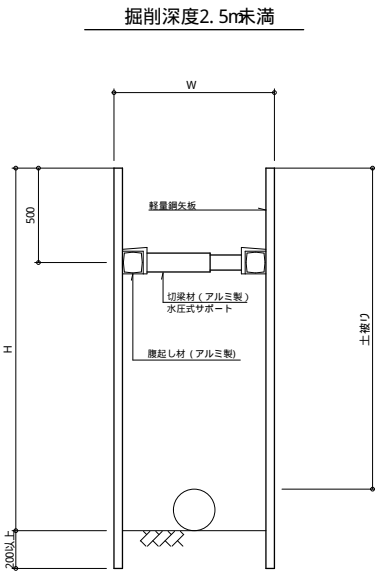
仕切弁筐据付標準図



マーカー設置標準図 S=1/20

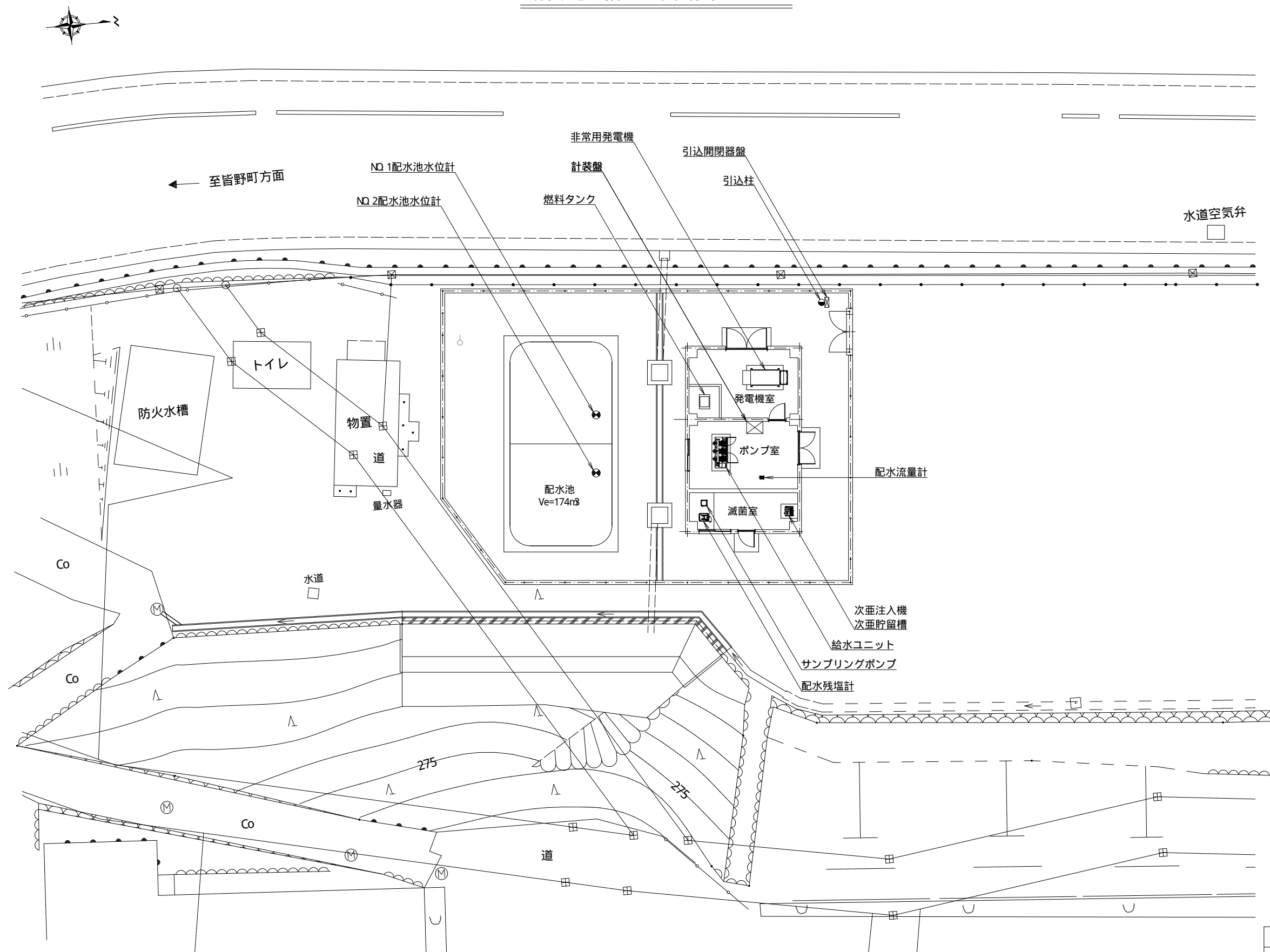


土留工標準断面図 S=1/20



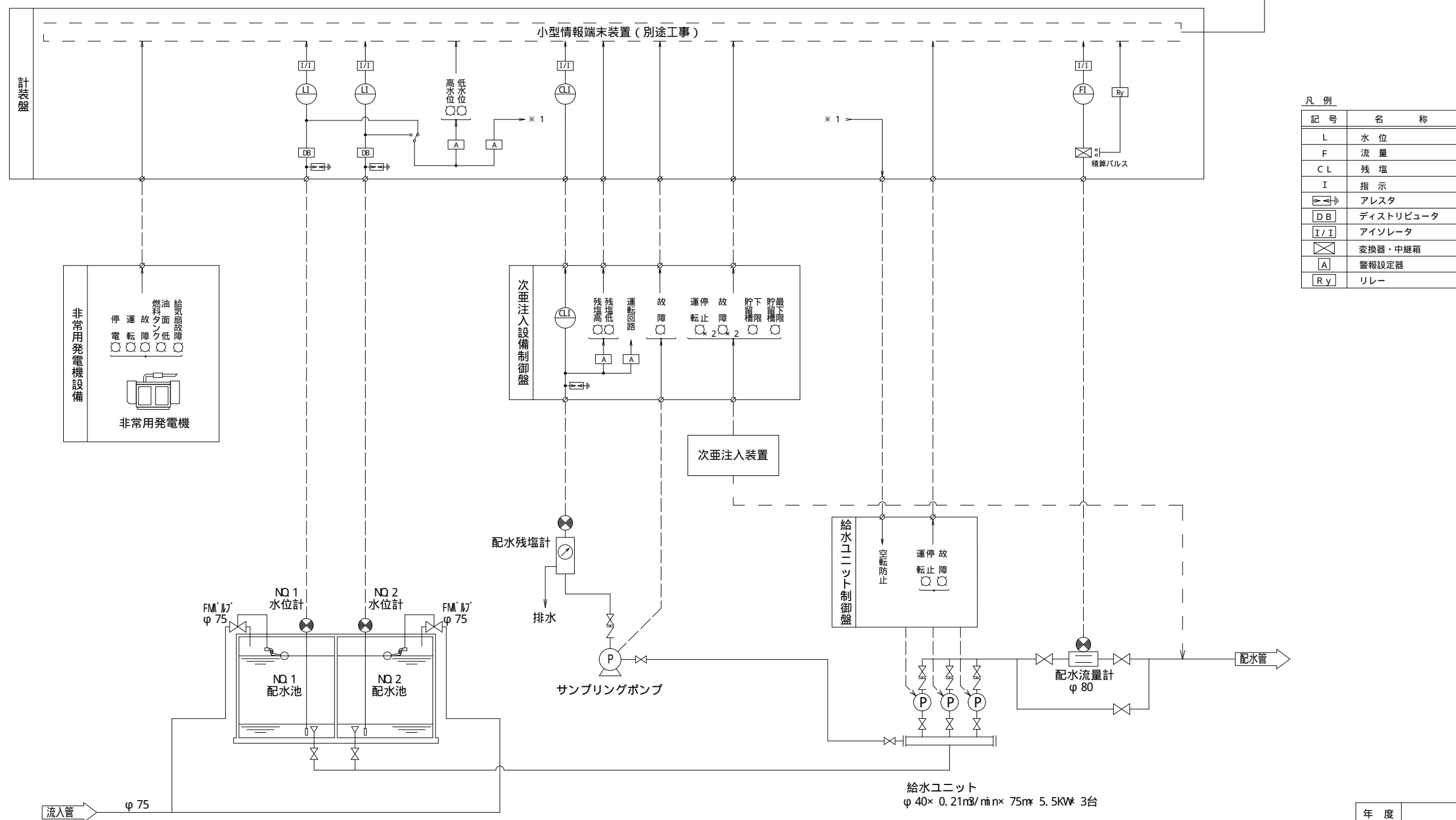
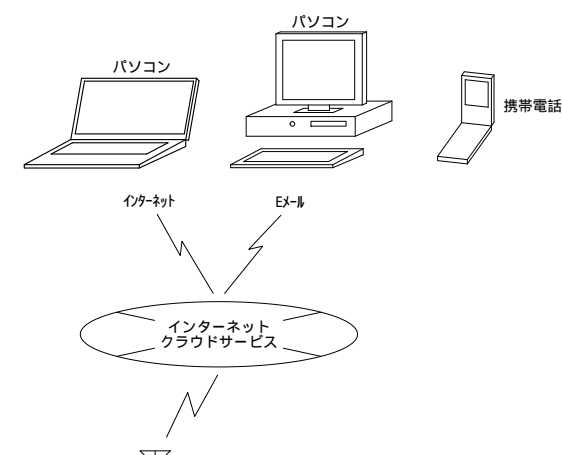
年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	土工断面標準図		
縮尺	1/20	図番	50
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内電気配置平面図 S=1/100



年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	場内電気配置平面図		
縮 尺	1/100	図 面 番 号	51
秩父広域市町村圏組合水道局			

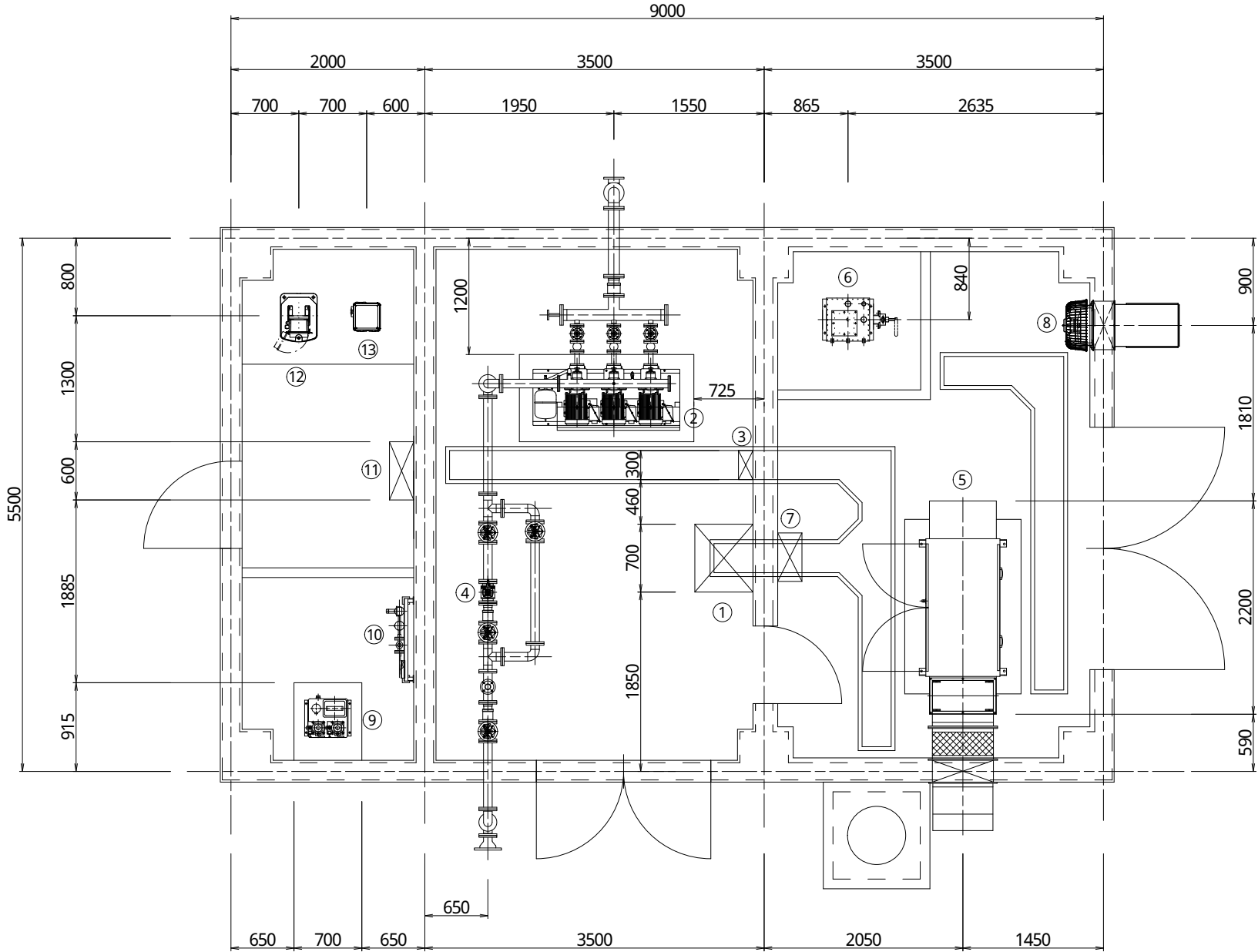
計装フローシート



記 号	名 称
L	水 位
F	流 量
C L	残 塩
I	指 示
	アレスト
	ディストリビュータ
	アイソレータ
	変換器・中継箱
	警報設定器
R y	リレー

年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	計装フローシート		
縮 尺	Free	図 番 面 号	52
秩父広域市町村圏組合水道局			

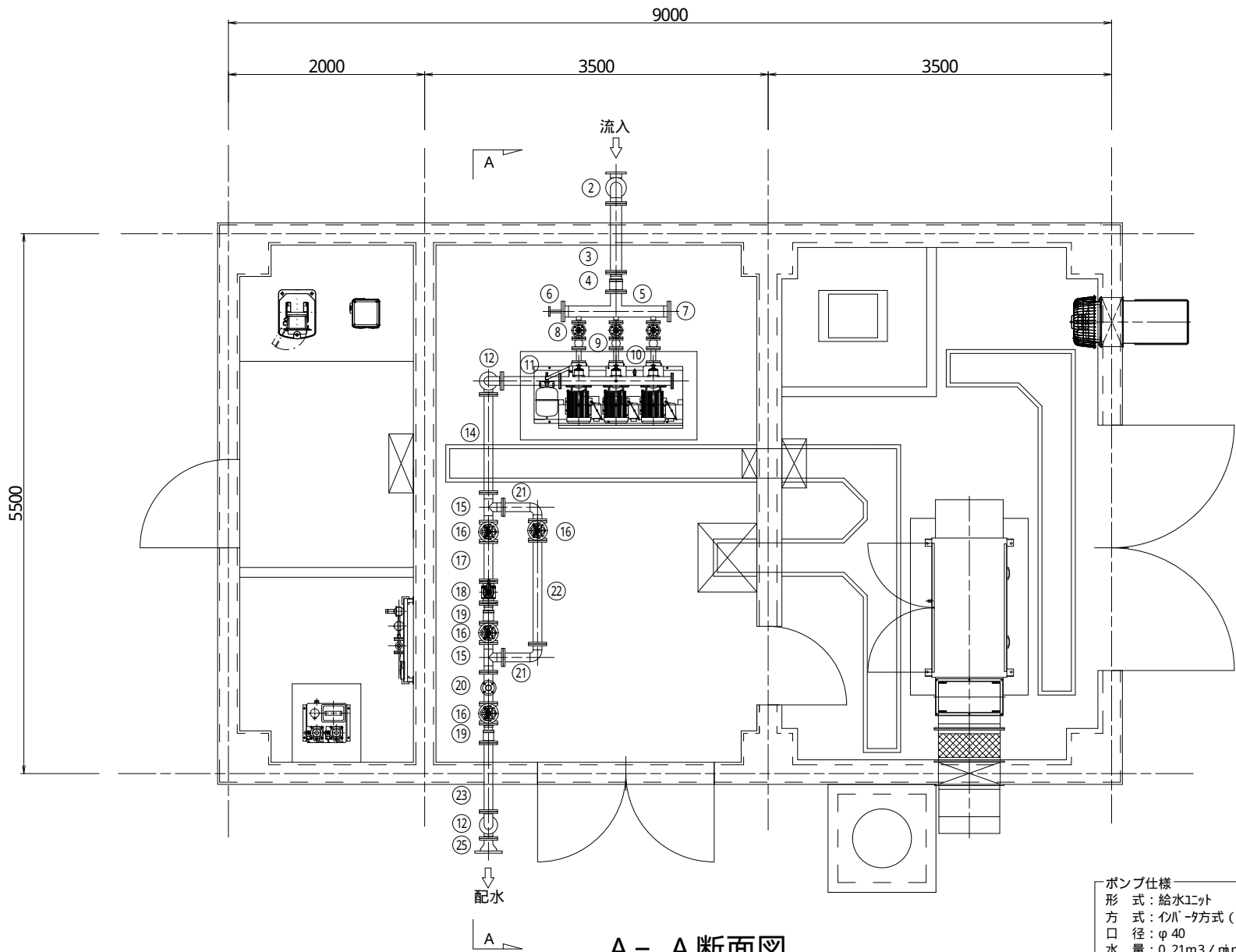
管理棟配置図 S=1/30



番号	盤名称	備考
①	計装盤	
②	給水ユニット	
③	電灯分電盤	
④	配水流量計	
⑤	非常用発電機	39KVA
⑥	燃料タンク	95L
⑦	給気換気扇盤	
⑧	給気換気扇	
⑨	次亜貯留槽	50L
⑩	次亜注入パネルユニット	
⑪	次亜注入設備制御盤	
⑫	配水残塩計	
⑬	サンプリングポンプ	

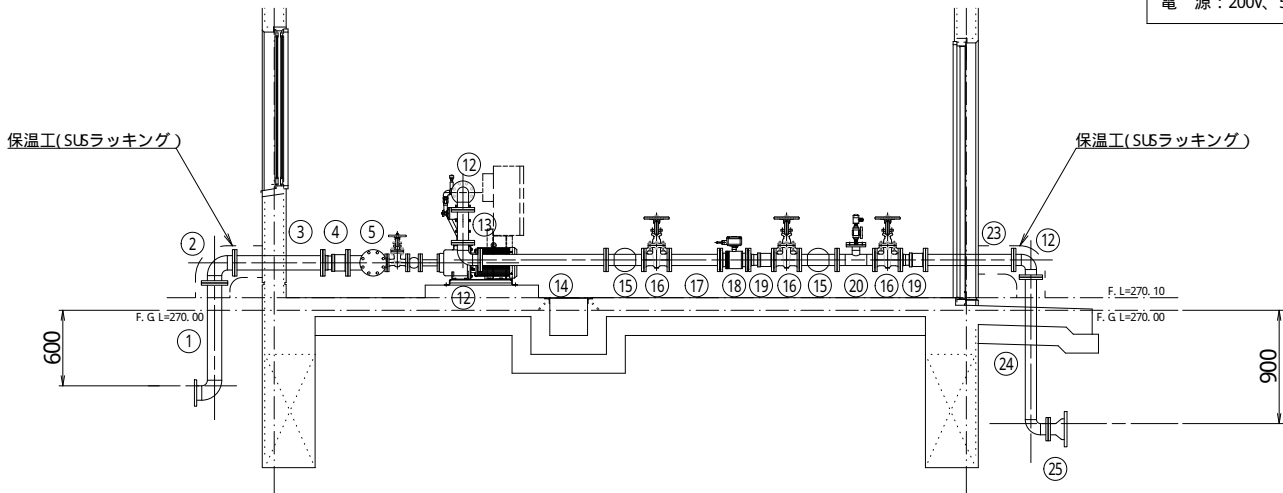
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟配置図		
縮 尺	1/30	図 面 番 号	53
秩父広域市町村圏組合水道局			

平面図



A-A断面図

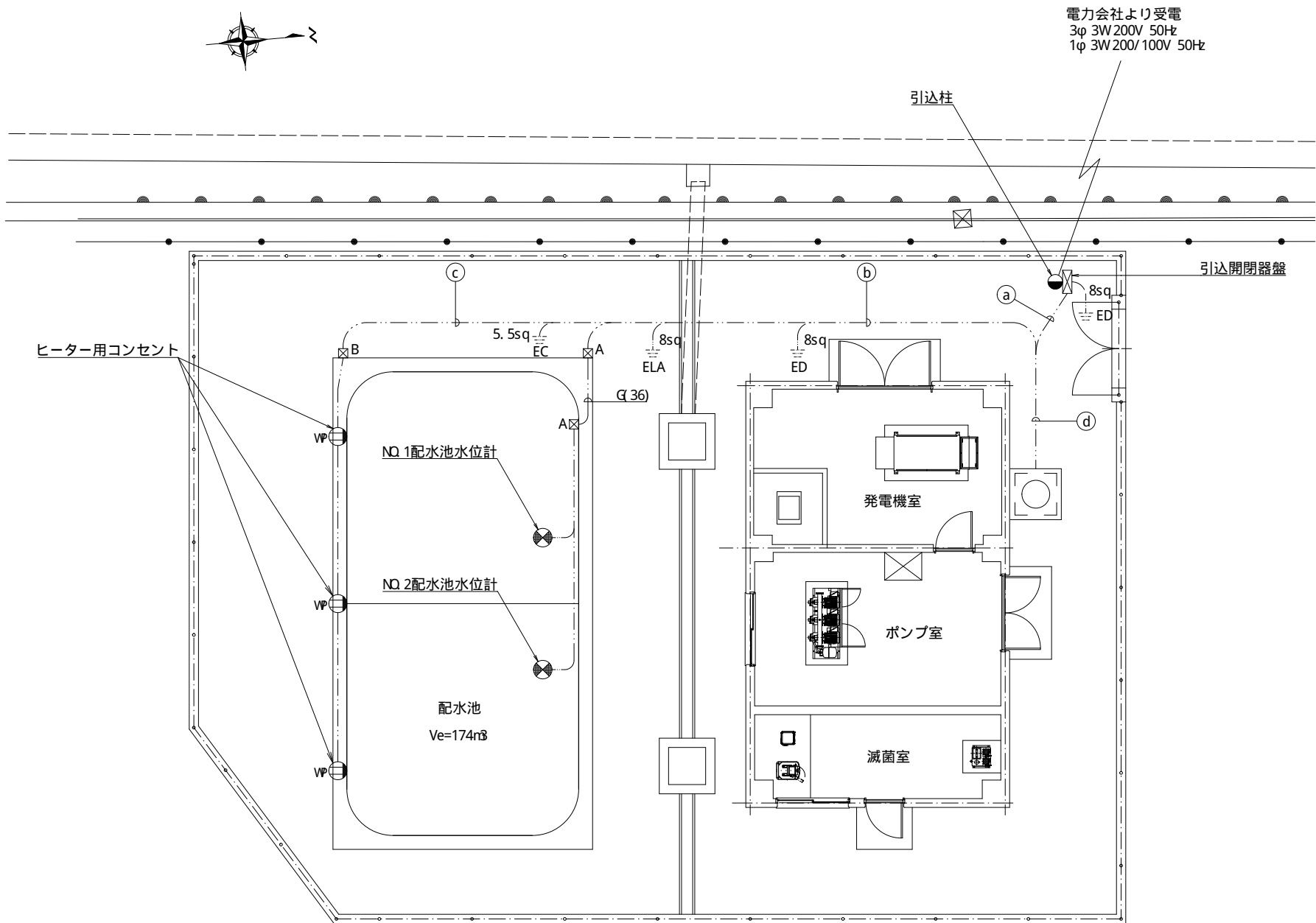
ポンプ仕様
形式：給水ユニット
方式：インバータ方式（3台並列）
口径：φ40
水量：0.21m³/min
揚程：75m
出力：5.5kw×3台
電源：200V、50Hz



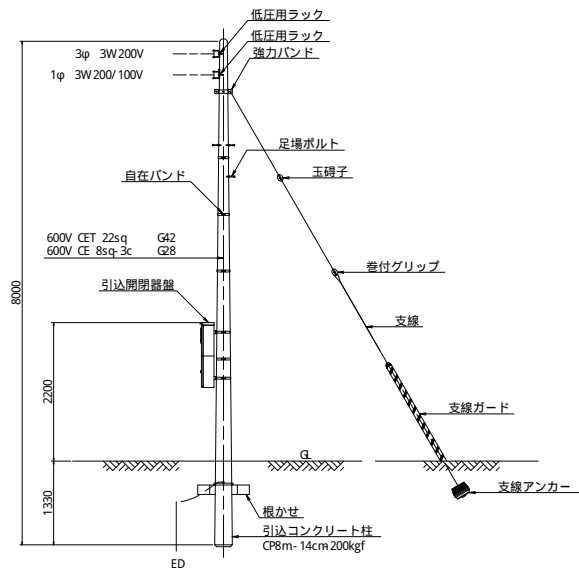
番号	名 称	形 状・寸 法	数量	備 考
①	2 F 曲管	NCP φ 100× 90° × 874L× 160L	1	10Kワランジ
②	2 F 曲管	NCP φ 100× 90° × 160L	1	10Kワランジ
③	2 F 直管	NCP φ 100× 700L	1	10Kワランジ
④	伸縮可撓継手	NCP φ 100× 200L タイロット付	1	10Kワランジ
⑤	ヘッダー管	NCP φ 100× 1080L× 200L× φ 40× 110L	1	10Kワランジ
⑥	閉止フランジ	NCP φ 100 φ 207ワランジ 付	1	10Kワランジ
⑦	閉止フランジ	NCP φ 100	1	10Kワランジ
⑧	仕切弁	SUS φ 40	3	10Kワランジ
⑨	ゴム製フレキシブル継手	φ 40× 100L SUSワランジ	3	10Kワランジ
⑩	2 F 直管	NCP φ 40× 145L	3	10Kワランジ
⑪	2 F 直管	NCP φ 80× 590L	1	10Kワランジ
⑫	2 F 曲管	NCP φ 80× 90° × 137L	3	10Kワランジ
⑬	2 F 直管	NCP φ 80× 260L	1	10Kワランジ
⑭	2 F 直管	NCP φ 80× 1000L	1	10Kワランジ
⑮	3 F T字管	NCP φ 80× 300L× φ 80× 150L	2	10Kワランジ
⑯	仕切弁	NC φ 80	4	10Kワランジ
⑰	2 F 直管	NCP φ 80× 400L	1	10Kワランジ
⑱	配水流量計	電磁式 φ 80× 230L	1	10Kワランジ
⑲	伸縮可撓継手	NCP φ 80× 200L タイロット付	2	10Kワランジ
⑳	3 F T字管	NCP φ 80× 300L× φ 50× 120L	1	10Kワランジ
㉑	2 F 曲管	NCP φ 80× 90° 350L× 137L	2	10Kワランジ
㉒	2 F 直管	NCP φ 80× 1056L	1	10Kワランジ
㉓	2 F 直管	NCP φ 80× 700L	1	10Kワランジ
㉔	2 F 曲管	NCP φ 80× 90° × 1207L× 137L	1	10Kワランジ
㉕	2 F 片落管	NCP φ 150× φ 80× 150L	1	10Kワランジ

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	ポンプ室配管図		
縮 尺	1/30	図 面 番 号	54
秩父広域市町村圏組合水道局			

場内配線図 S=1/60

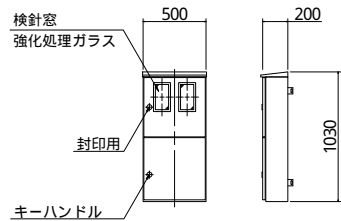


引込コンクリート柱装柱図 Free

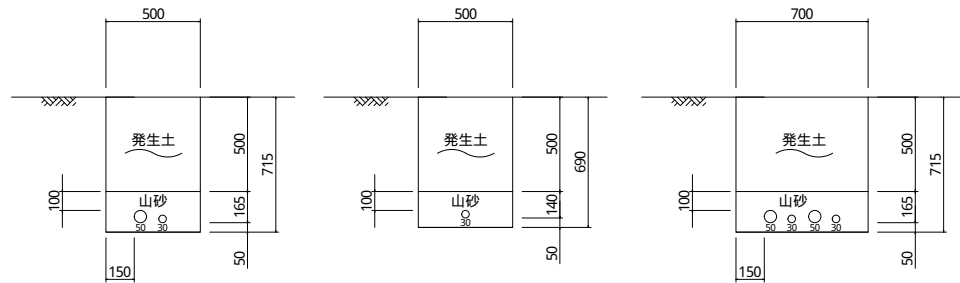


引込開閉器盤姿図 S=1/30

参考図



土工標準図 S=1/20



配線表

配線区間		ケーブル仕様	接地	電線管	備考
発点名称	着点名称				
引込受点	引込開閉器盤	600V EM CET 22sq		G 42	
引込受点	引込開閉器盤	600V EM CE 8sq-3c		G 28	
引込開閉器盤	非常用発電機	600V EM CET 22sq	IE 8sq	G 42	
引込開閉器盤	計装盤	600V EM CE 8sq-3c		G 28	
計装盤	NQ 1配水池水位計	EM CEE- S 2sq-2c	IE 2sq	G 22	
計装盤	NQ 2配水池水位計	EM CEE- S 2sq-2c	IE 2sq	G 22	
計装盤	ヒーター用コンセント	600V EM CE 3.5sq-2c	IE 2sq	G 22	

埋設管一覧表

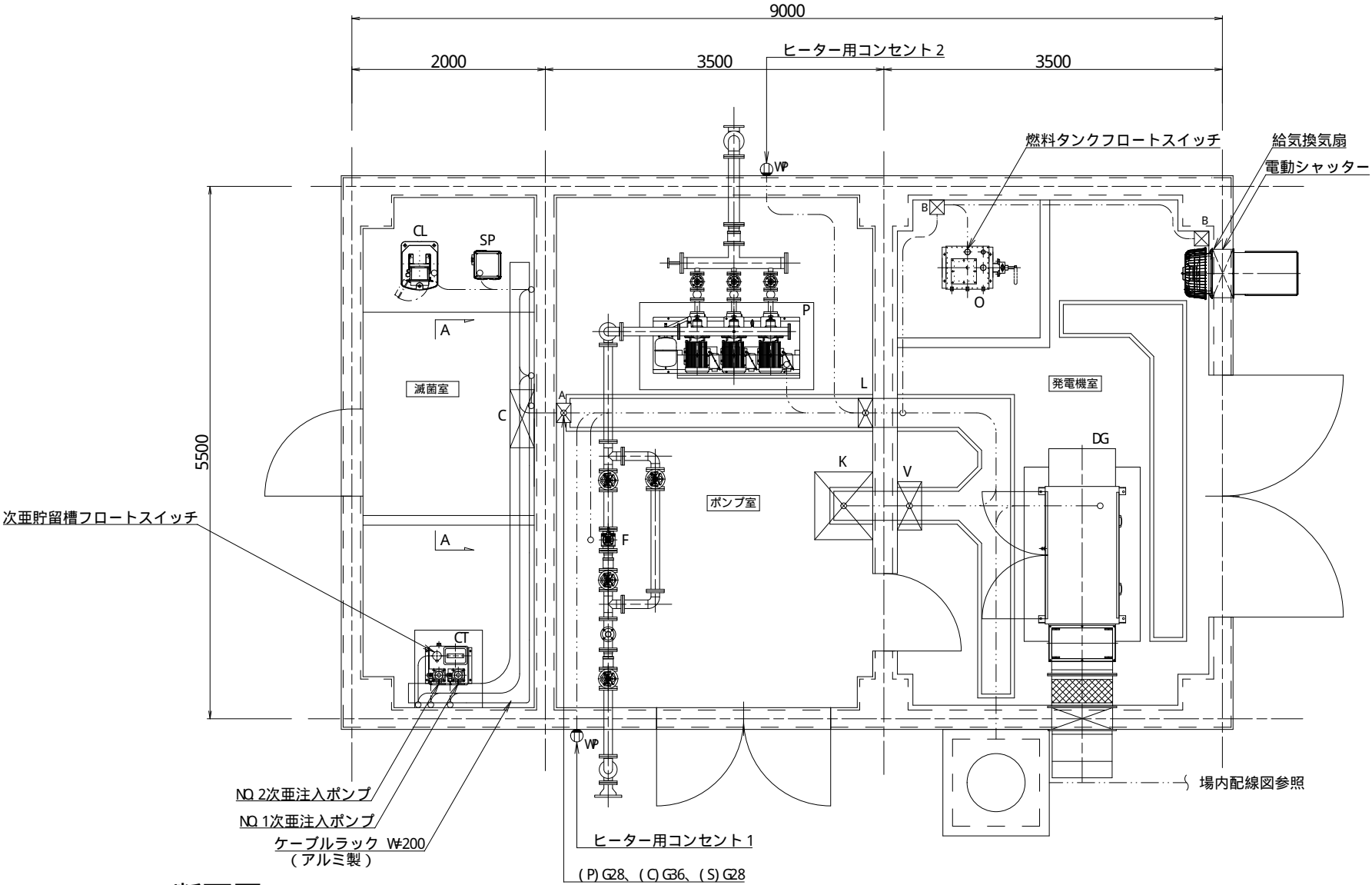
記号	埋設管	用途	備考
(a)	FEP φ 50	低压	
	FEP φ 30	低压	
(b)	FEP φ 30	低压	
	FEP φ 50	計装	
(c)	FEP φ 30	低压	
	FEP φ 50	低压	
(d)	FEP φ 30	低压	
	FEP φ 30	低压	
	FEP φ 50	計装	

凡例

記号	名称	形状・寸法	備考
A	プルボックス	200× 200× 150、SUS・VP	
B	プルボックス	150× 150× 150、SUS・VP	

年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	場内配線図		
縮尺	1/60, 1/30, 1/20, Free	図番	55
秩父広域市町村圏組合水道局			

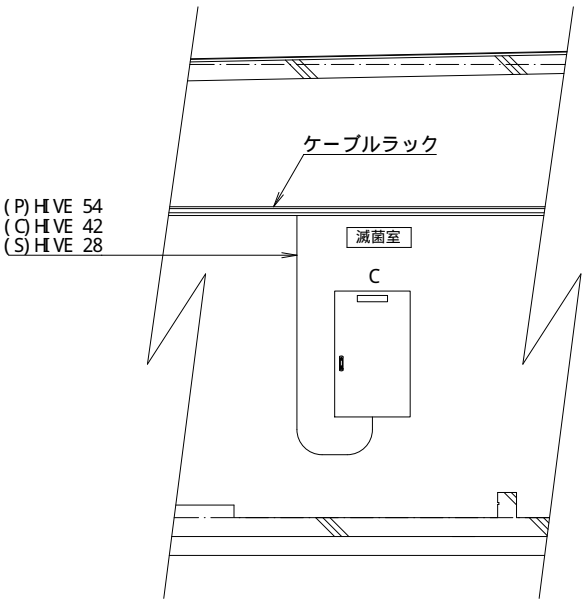
管理棟配線図 S=1/30



番号	名 称	備考
K	計装盤	
P	給水ユニット	
L	電灯分電盤	
F	配水流量計	
DG	非常用発電機	
O	燃料タンク	
V	給気換気扇盤	
CT	次亜貯留槽	
C	次亜注入設備制御盤	
CL	配水残塩計	
SP	サンプリングポンプ	

凡例			
記号	名称	形状・寸法	備 考
A	ブルボックス	200× 200× 150、SUS・VP	
B	ブルボックス	150× 150× 150、SUS・VP	

A - A 断面図 S=1/30

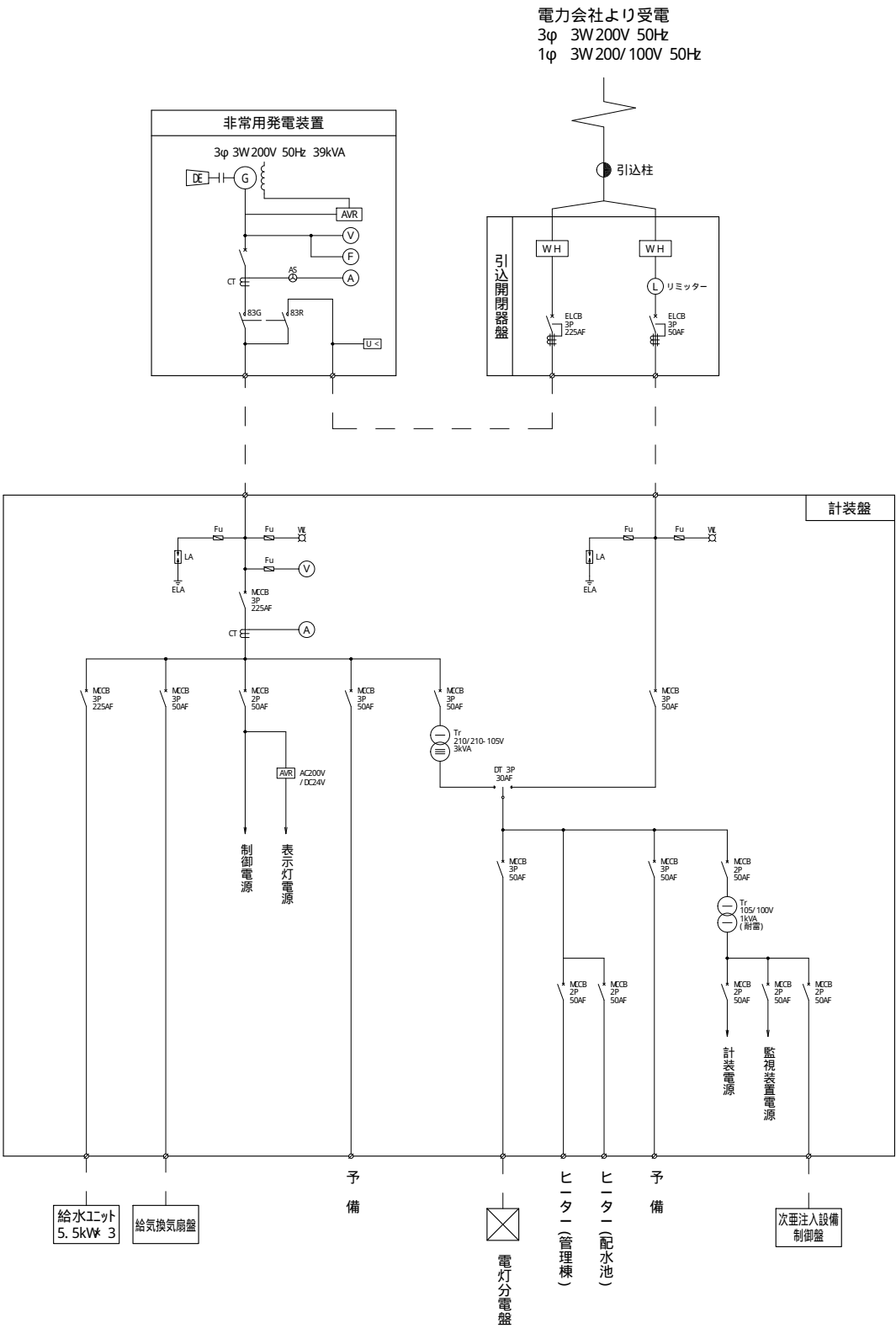


配線表

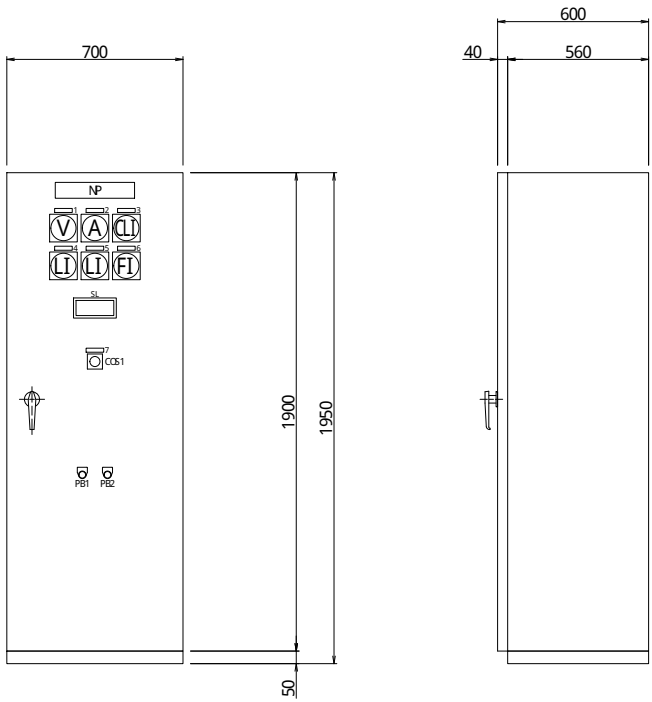
配 線 区 間		ケーブル仕様	接地	電線管	備 考
自	至				
引込開閉器盤	非常用発電機	600V EM CET 22sq		GP 42	3φ 3W200V
非常用発電機	計装盤	600V EM CET 22sq	1E 14sq	GP 42	3φ 3W200V
非常用発電機	計装盤	EM CEE 2sq-5c		GP 28	
引込開閉器盤	計装盤	600V EM CE 8sq-3c		GP 28	1φ 3W200V/100V
計装盤	電灯分電盤	600V EM CE 8sq-3c		GP 28	1φ 3W200V/100V
計装盤	給水ユニット	600V EM CET 22sq	1E 14sq	GP 42	
計装盤	給水ユニット	EM CEE 2sq-5c		GP 28	
計装盤	給気換気扇盤	600V EM CE 3.5sq-3c	1E 2sq	GP 28	
計装盤	給気換気扇盤	EM CEE 2sq-5c		GP 28	
給気換気扇盤	給気換気扇	600V EM CE 3.5sq-3c	1E 2sq	GP 36	
給気換気扇盤	電動シャッター	600V EM CE 2sq-3c			
計装盤	次亜注入設備制御盤	600V EM CE 3.5sq-2c	1E 2sq	GP 28	
計装盤	次亜注入設備制御盤	EM CEE 2sq-15c		GP 36	
計装盤	次亜注入設備制御盤	EM CEE-S 2sq-2c		GP 22	
次亜注入設備制御盤	NO 1次亜注入ポンプ	専用ケーブル	1E 2sq	HVE 22	
次亜注入設備制御盤	NO 2次亜注入ポンプ	専用ケーブル	1E 2sq	HVE 22	
次亜注入設備制御盤	次亜貯留槽フロートスイッチ	EM CEE 2sq-3c		HVE 22	
次亜注入設備制御盤	配水残塩計	600V EM CE 3.5sq-2c	1E 2sq	HVE 22	
次亜注入設備制御盤	配水残塩計	EM CEE-S 2sq-2c		HVE 22	
次亜注入設備制御盤	サンプリングポンプ	600V EM CE 3.5sq-2c	1E 2sq	HVE 22	
配水流量計	計装盤	専用ケーブル	1E 2sq	GP 22	
燃料タンクフロートスイッチ	計装盤	EM CEE 2sq-2c	1E 2sq	GP 22	
計装盤	ヒーター用コンセント1	600V EM CE 3.5sq-2c	1E 2sq	GP 22	
計装盤	ヒーター用コンセント2	600V EM CE 3.5sq-2c	1E 2sq	GP 22	

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟配線図		
縮 尺	1/30	図 面 番 号	56
秩父広域市町村圏組合水道局			

単線結線図 Free



計装盤外形図 S=1/15



正面図

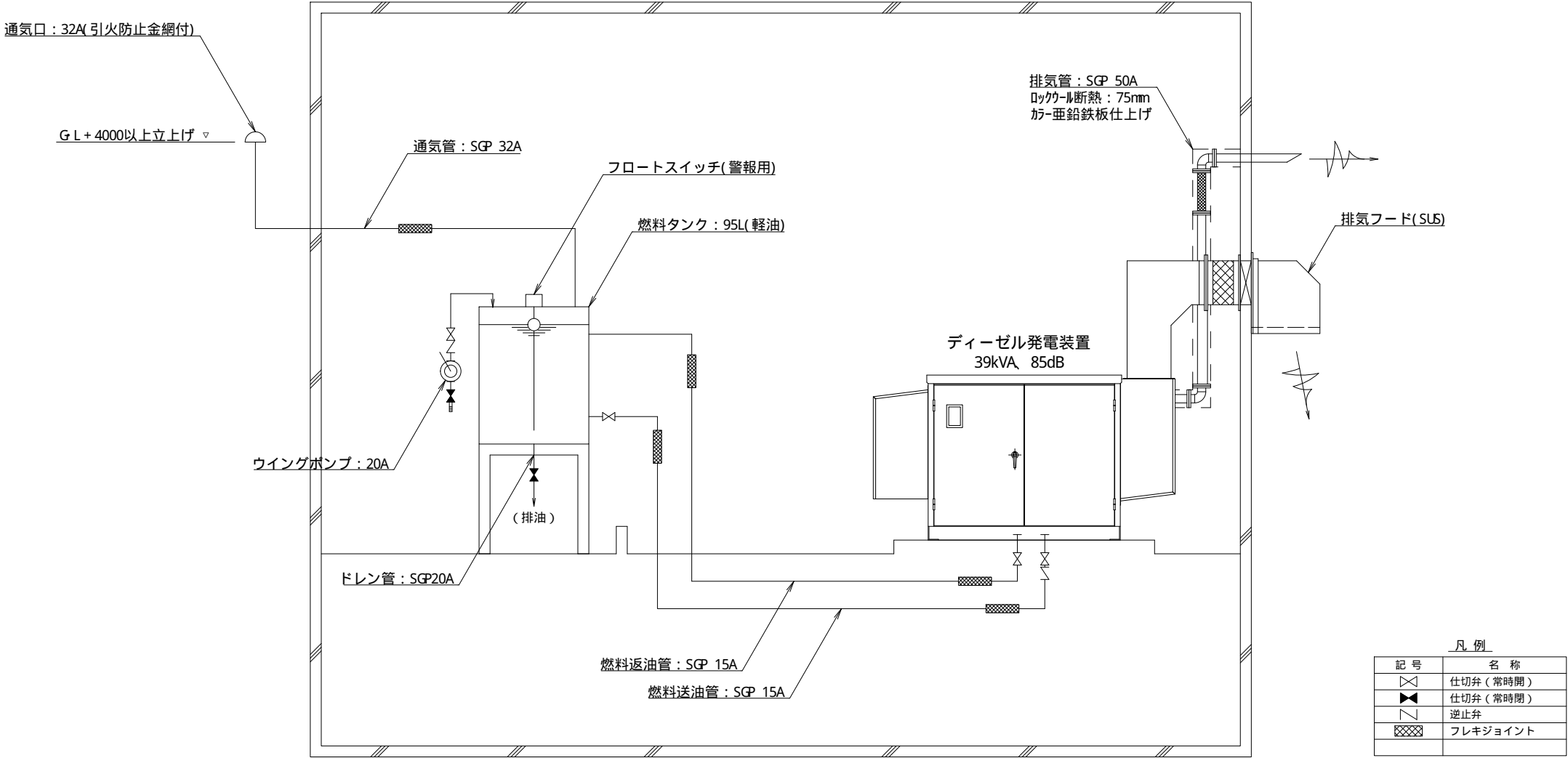
側面図

SL詳細				
200V 電源	施設 停電	配水池 高水位	ヒーター 管理棟	予備
100V 電源	予備	配水池 低水位	ヒーター 配水池	予備

記号	銘板・文字	備考
NP	制御盤	盤名称銘板
1	200V電圧	指示銘板
2	200V電流	"
3	配水池残塩	"
4	NQ 1配水池水位	"
5	NQ 2配水池水位	"
6	配水流量	"
7	水位計切替	"
CS1	水位計切替 / NQ 1- NQ 2	切換開閉器
PB1	表示復帰	押釦開閉器
PB2	ランプテスト	"
SL	集合表示灯	
V	電圧計	
A	電流計	
LI	水位計	
FI	流量計	
CLI	残塩計	

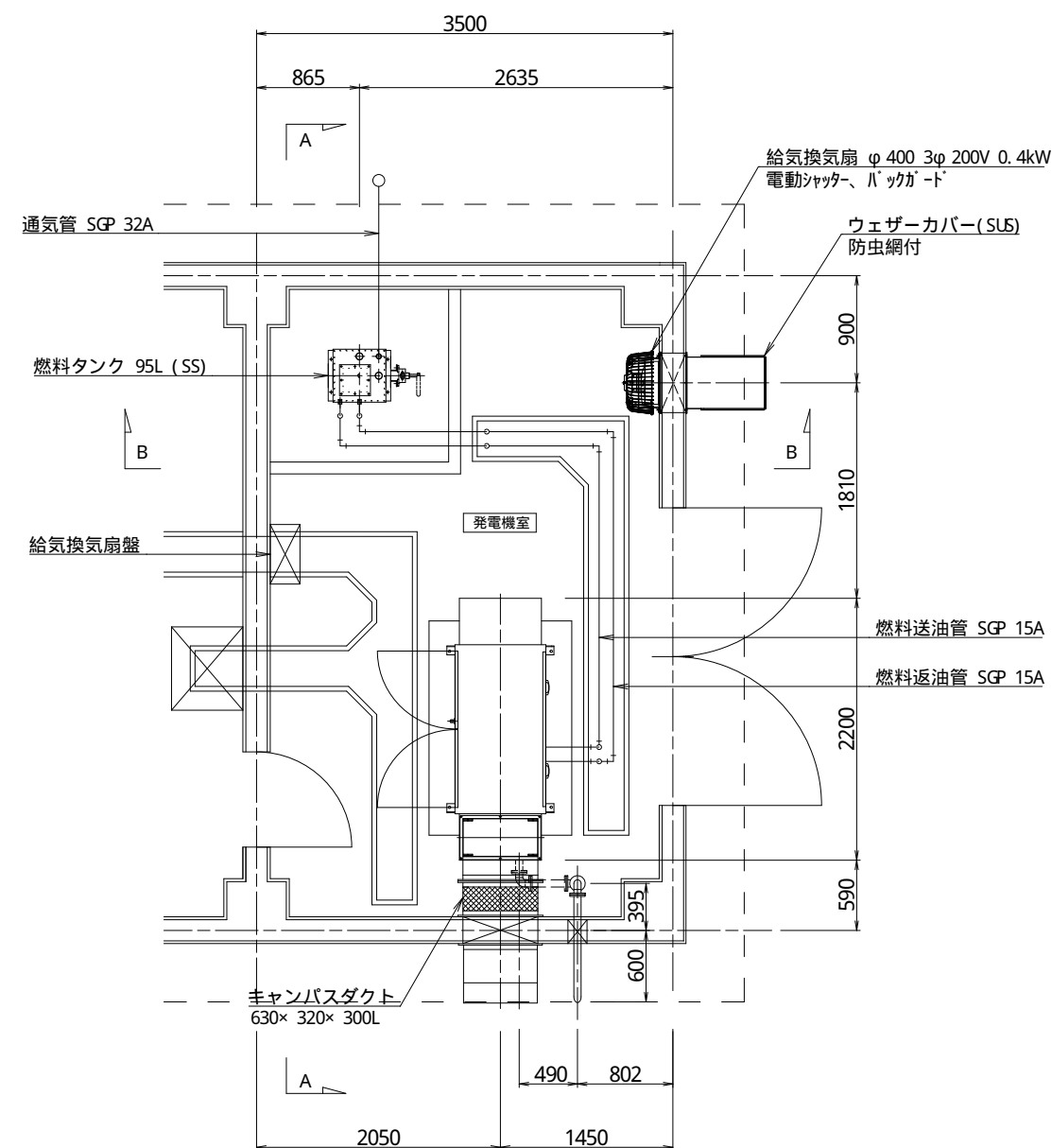
年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	単線結線図・計装盤外形図		
縮尺	1/15, Free	図番	57
秩父広域市町村圏組合水道局			

配管系統図 Free



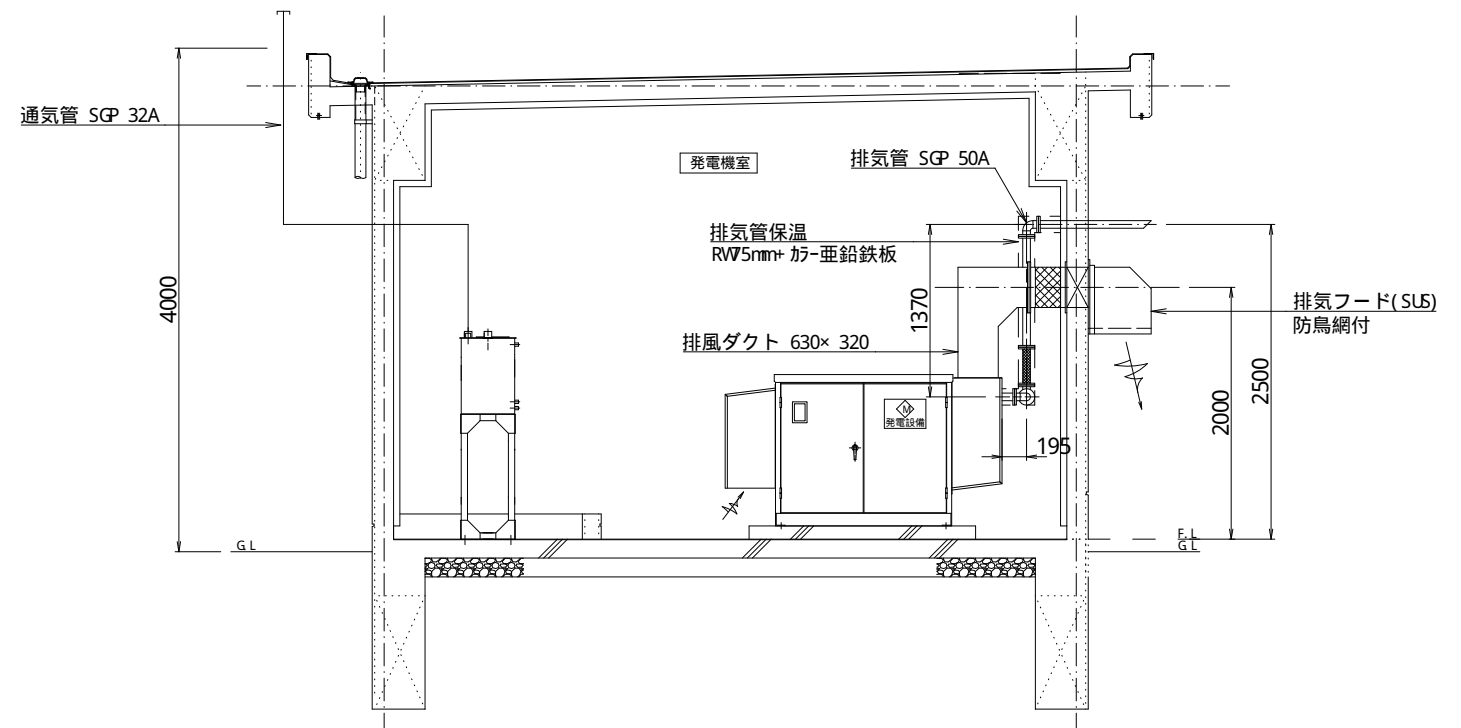
年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	配管系統図		
縮 尺	Free	図 番 号	58
秩父広域市町村圏組合水道局			

平面図

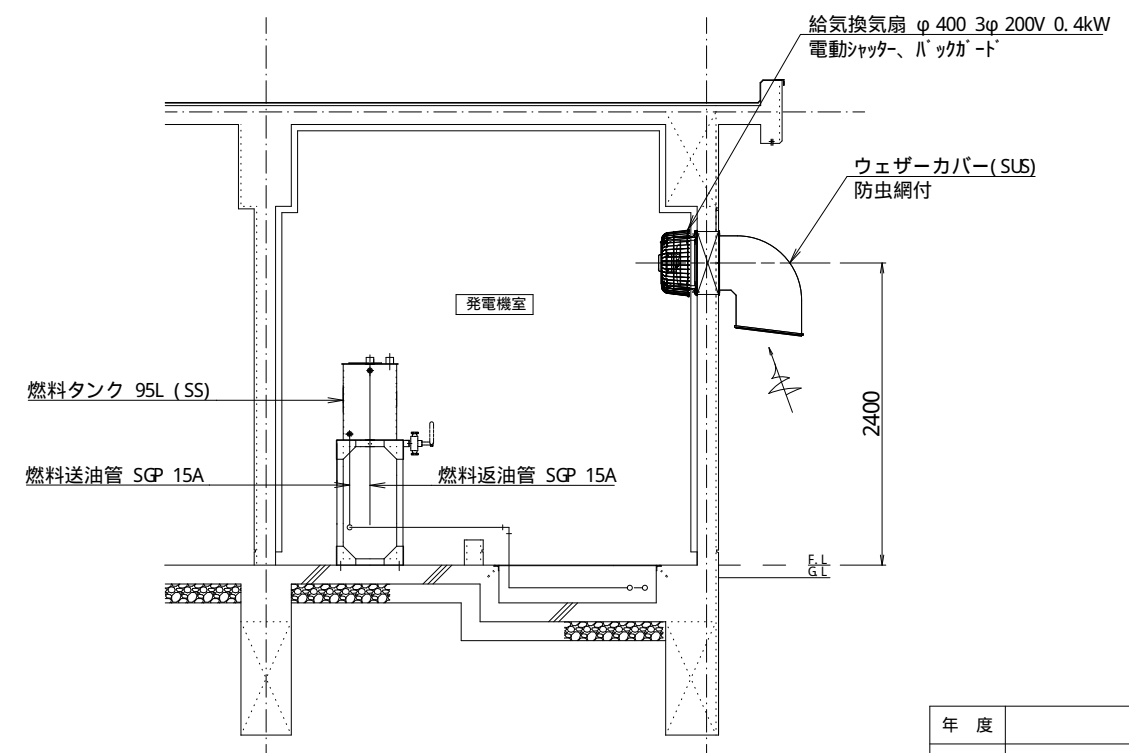


発電機仕様
形式 : パッケージ形ディーゼル発電機
容量 : 39kVA
電圧 : 3φ 200V
周波数 : 50Hz
極数 : 2P

A-A断面図



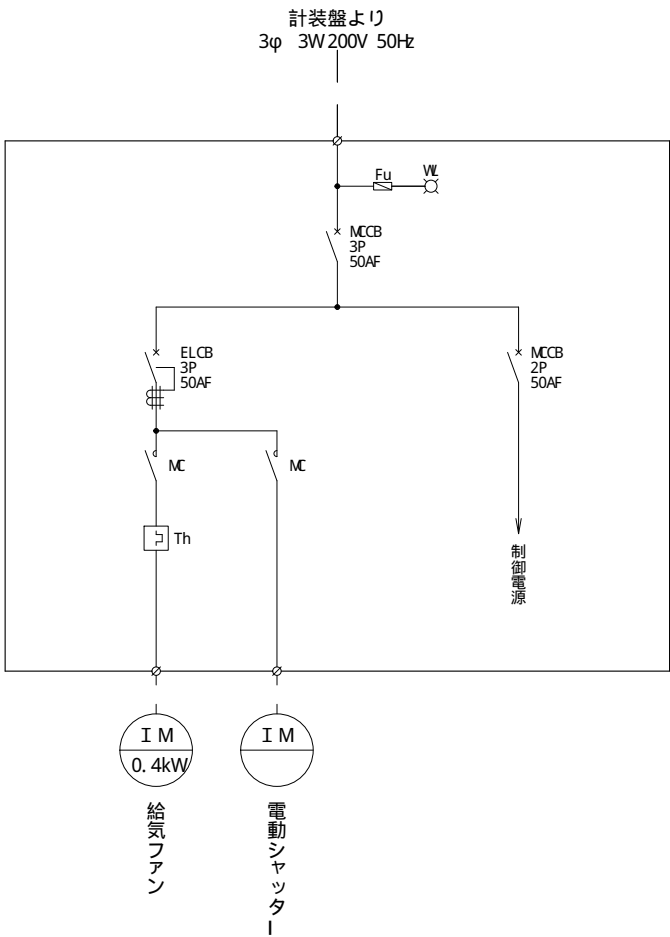
B-B断面図



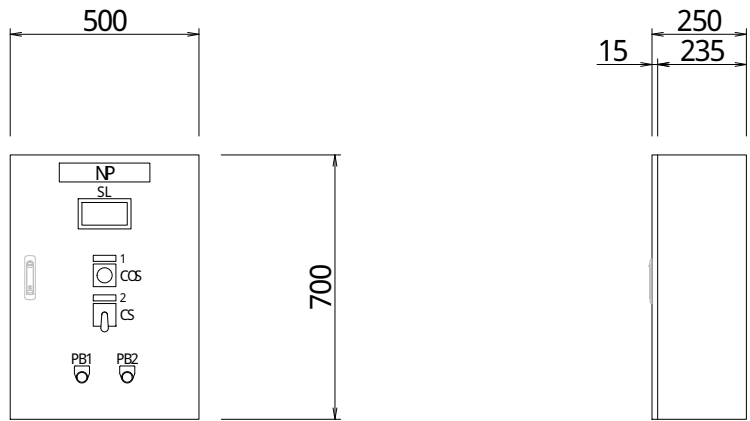
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	非常用発電機設備図		
縮 尺	1/30	図 番 号	59
秩父広域市町村圏組合水道局			

給気換気扇盤詳細図

単線結線図



盤外形図 S=1/10



正面図

側面図

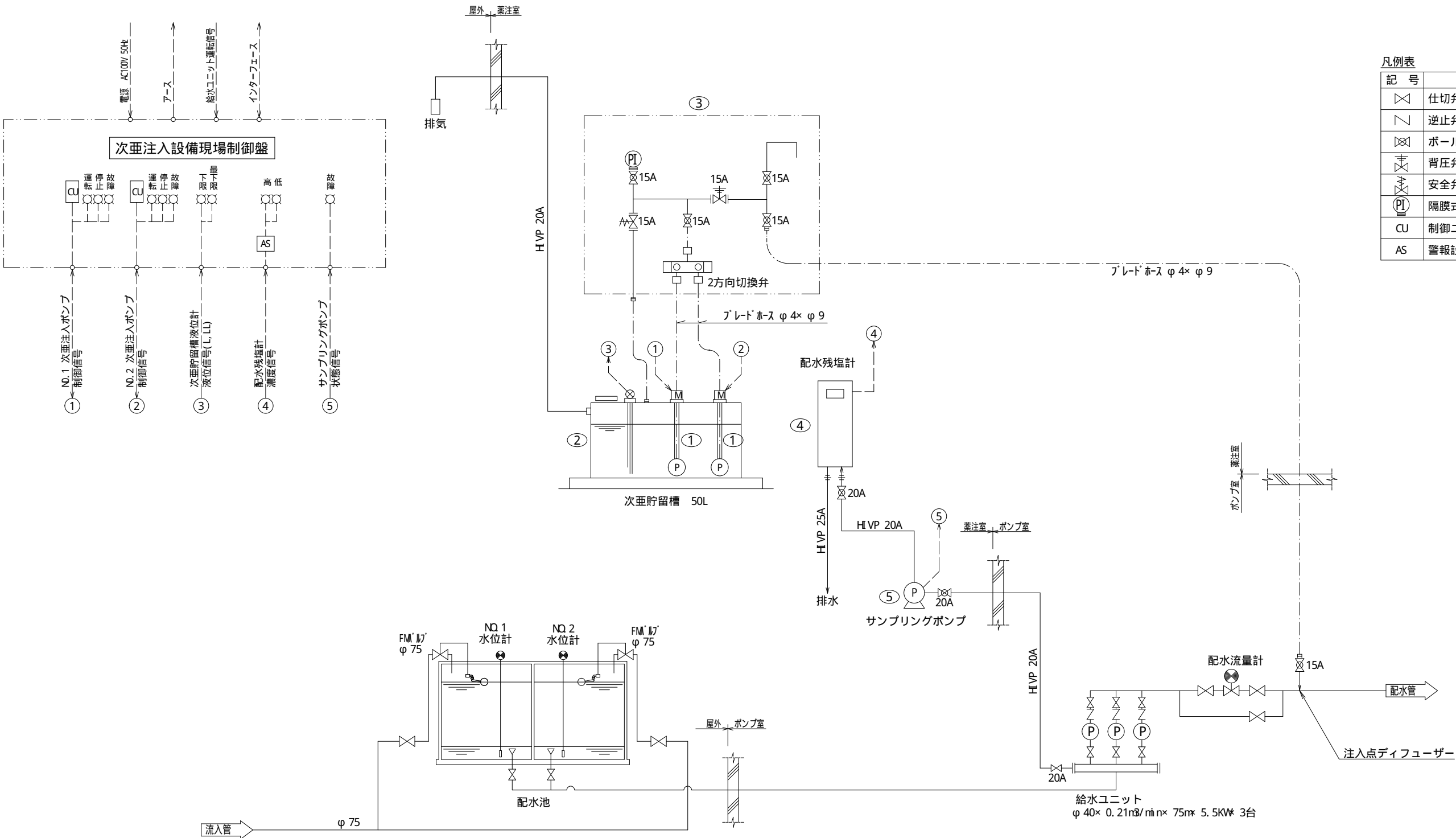
記号	銘 板・文 字	備 考
NP	給気換気扇盤	盤名称銘板
1	切換選択	指示銘板
2	給気ファン	〃
COS	切換選択 / 単独- 連動	切換開閉器
CS	操作選択 / 停止- 運転	操作開閉器
PB1	故障復帰	押釦開閉器
PB2	ランプテスト	〃
SL		集合表示灯

SL詳細

200V 電 源	給気ファン 運 転	給気ファン 故 障	非常用発電機 故 障
	給気ファン 停 止		燃料タンク 油面低

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	給気換気扇盤詳細図		
縮 尺	1/10	図 面 番 号	60
秩父広域市町村圏組合水道局			

次亜注入設備フローシート

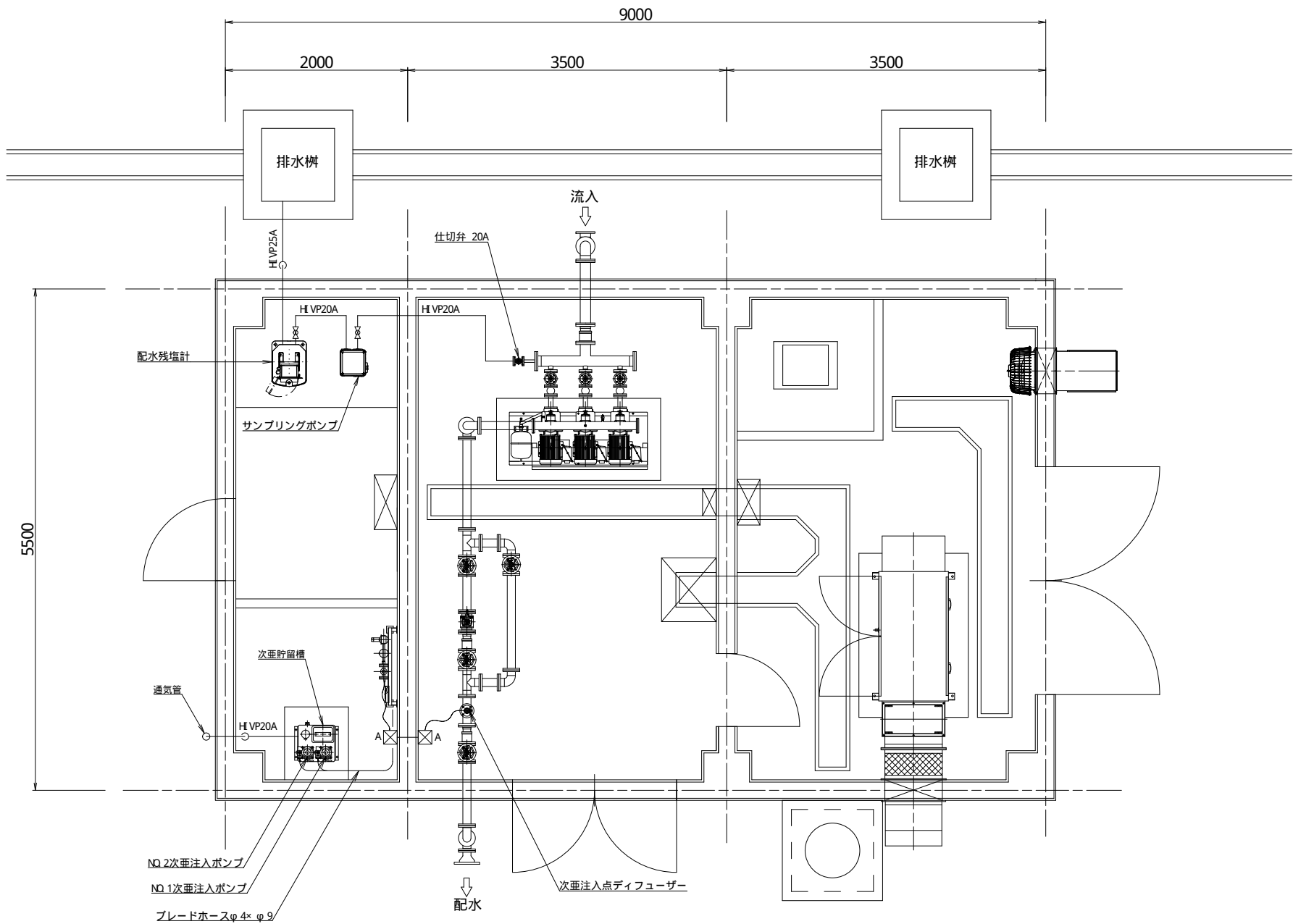


凡例表	
記 号	名 称
	仕切弁
	逆止弁
	ボール弁
	背圧弁
	安全弁
	隔膜式圧力計
CU	制御ユニット
AS	警報設定器

	①	②	③	④	⑤
機器番号					
機器名称	次垂注入ポンプ	次垂貯留槽	次垂注入管ハコエット	配水池残塩計	サンプリングポンプ
型 式	液中型ハコエットストロポンプ	角形密閉タンク		無試験式遊離塩素計	渦巻ポンプ
仕 様	吐出量：0.03～3.3m ³ /min 吐出圧：MAX 1.0MPa	容量 50 L 寸法 400×400×400H 材質 PVC 液位計（チタン製3P）	ハコエット配管ユニット ホコエット（PVC）、背圧弁 圧力計、安全弁含む	測定方式：フラスコ方式 測定範囲：0～3mg/L 電源：AC100V 50Hz	吐水→給水方式 吐出量：15L/min 全揚程：24m 電動機：0.15KW AC100V 50Hz
数 量	2 台	1 槽	1 組	1 台	1 台
備 考	定量注入方式 （イオン交換樹脂方式） 配水残塩増＋給水エント 運転信号により運転停止				

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	次亜注入設備フローシート		
縮 尺	Free	図 面 番 号	61
秩父広域市町村圏組合水道局			

薬注設備配管図 S=1/30

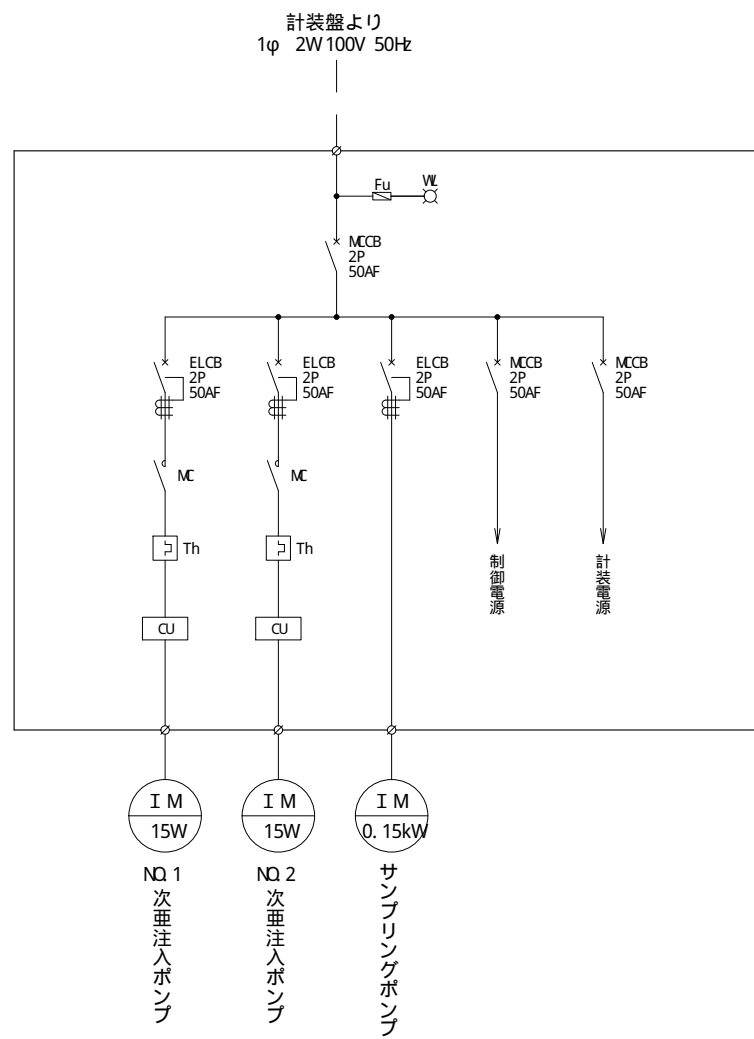


凡例			
記号	名称	形状・寸法	備 考
A	ブルボックス	150× 150× 150、PVC・VP	

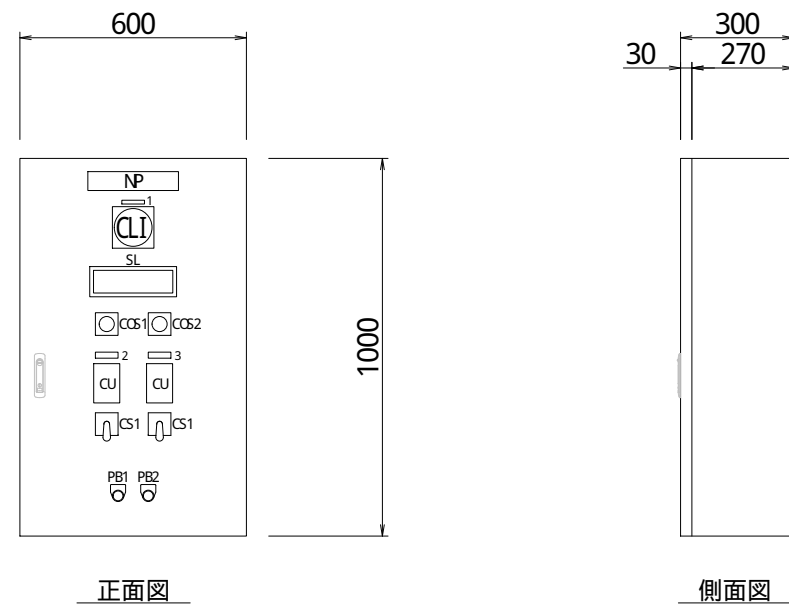
年 度	令和 6 年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	薬注設備配管図		
縮 尺	1/30	図 面 番 号	62
秩父広域市町村圏組合水道局			

次亜注入設備制御盤詳細図

単線結線図



盤外形図 S=1/10

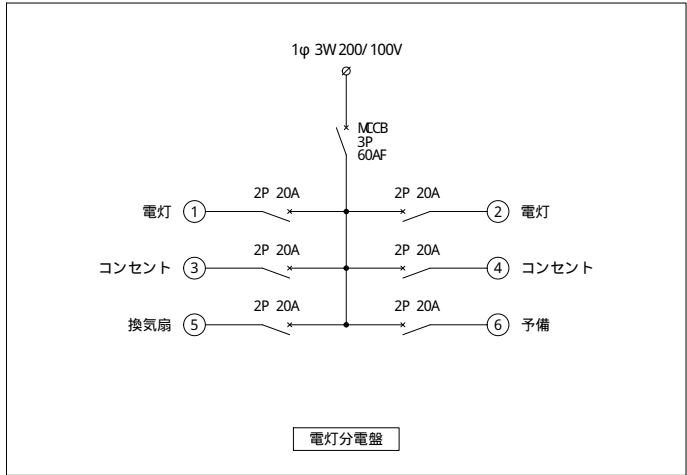
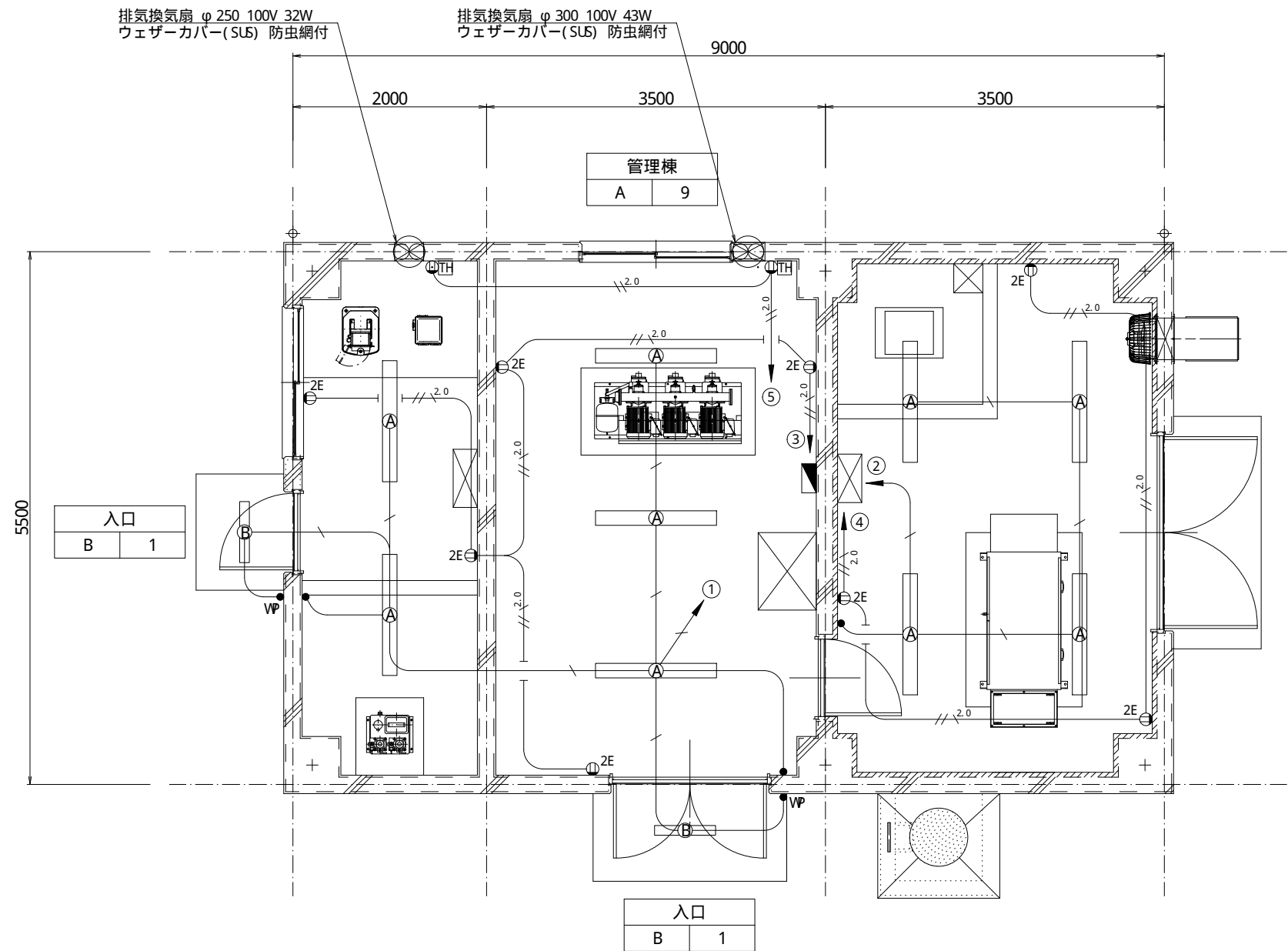


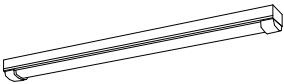
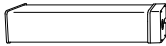
記号	銘板・文字	備考
NP	次亜注入設備制御盤	盤名称銘板
1	流入残塩	指示銘板
2	NQ 1次亜注入ポンプ	"
3	NQ 2次亜注入ポンプ	"
COS1	切換選択 / 手動- 自動	切換開閉器
COS2	切換選択 / NQ 1- 交互- NQ 2	"
CS1	操作選択 / 停止- 運転	操作開閉器
PB1	ランプテスト	押釦開閉器
PB2	故障リセット	"
SL		集合表示灯
CU	次亜注入ポンプコントロールユニット	

SL詳細						
100V 電源	NQ 1 次亜注入ポンプ 停止	NQ 1 次亜注入ポンプ 運転	NQ 1 次亜注入ポンプ 故障	次亜貯留槽 下限	配水残塩 高	サンプリグポンプ 故障
予備	NQ 2 次亜注入ポンプ 停止	NQ 2 次亜注入ポンプ 運転	NQ 2 次亜注入ポンプ 故障	次亜貯留槽 最下限	配水残塩 低	予備

年度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	次亜注入設備制御盤詳細図		
縮尺	1/10	図番	63
秩父広域市町村圏組合水道局			

管理棟電灯コンセント図 S=1/30



照明器具姿図	
A LED直付型40形 笠なし 5200lm 31.9W	B LEDウォールライト 20形 壁付 防湿防雨型 1470lm 14.9W 人感センサー付
	
LSS1MP/RP- 4- 46LE9	パナソニック NNFS21851CLE9 相当品

【 凡 例 】 特記なき記号は下記による。	
	電灯分電盤
●	埋込スイッチ 1P15A× 1
● VP	防水スイッチ 1P15A× 1
Ⓜ	埋込コンセント 2P15A× 1
Ⓜ 2E	埋込コンセント 2P15A× 2
TH	温度スイッチ
—	EMIE 1.6× 2 (PF16)
—	EMIE 1.6× 3(1E) (PF16)
— 2.0	EMIE 2.0× 2 (PF16)
— 2.0	EMIE 2.0× 3(1E) (PF16)

年 度	令和6年度		
工事名	新金沢配水池築造工事(再1)		
図面名	管理棟電灯コンセント図		
縮 尺	1/30	図 面 番 号	64
秩父広域市町村圏組合水道局			